平成 11 年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

西 別 府 祭 祀 遺 跡

2000

埼 玉 県 熊 谷 市 教 育 委 員 会

平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

にしべっぷさいしいせき

西別府祭祀遺跡

2000

埼玉県熊谷市教育委員会

滑石製模造品　人形・馬形・櫛形

滑石製模造品　剣形・有線円板形・有孔円板形・勾玉形

序

私たちの郷土熊谷には、原始・古代の集落跡や中世の館跡等の埋蔵文化財が、数多く分布しています。

こうした埋蔵文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私達の子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、さらに豊かな熊谷市形成のための礎としていかなければならないと考えております。

熊谷市では、緑豊かで、うるおいがあり、安全な快適環境づくりの一環として、別府沼公園の整備を進めてきたところです。しかし、公園用地の南には、西別府祭祀遺跡が所在し、遺跡の一部が公園用地に該当しておりました。遺跡は、昭和38年に確認されて以来、古代の祭祀遺跡として広く知られ、昭和51年に埼玉県教育委員会により、重要遺跡として選定されました。

遺跡の重要性に鑑みて、その取扱いについて熊谷市関係部局と保存に向けて協議を行ってまいりましたが、公園整備上やむを得ず記録保存の方策を講ずることとなりました。

発掘調査では、勾玉・馬形・櫛形などの滑石製模造品や多数の土師器・須恵器製品が出土しており、古代の祭祀遺跡の性格を考える上で重要な成果をあげることができました。

本書が埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行にあたりまして、熊谷市関係部局には文化財保護法の趣旨を尊重され、格別の御理解・御協力を賜りましたことに厚くお礼申しあげます。

平成12年3月

熊谷市教育委員会
教育長　**飯塚誠一郎**

例　言

1　本書は、埼玉県熊谷市大字西別府1566－1番地先他に所在する西別府祭祀遺跡（埼玉県遺跡番号59－1）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、熊谷市別府沼公園修景工事に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。

3　本事業の組織は、第Ⅰ章のとおりである。

4　発掘調査期間は、平成4年11月19日から平成5年3月31日までである。
　整理・報告書作成期間は、平成11年4月1日～平成12年3月31日までである。

5　発掘調査の担当は、熊谷市教育委員会金子正之・吉野　健が行い、本書の執筆・編集は、第Ⅰ章及び、第3章の1を吉野　健が、それ以外は松田　哲が行った。

6　発掘調査における写真撮影は吉野が、遺物の写真撮影は松田が行った。

7　本書にかかる資料は熊谷市教育委員会が保管している。

8　本書の作成にあたり、下記の方々及び機関などからご教示、ご協力を賜った。記して感謝申しあげます。

（敬称略、五十音順）
青木克尚　小林　高　知久裕昭　富田和夫　鳥羽政之　中島広顕　村松　篤
大里郡市町村文化財担当者会　埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課

凡　例

本書における挿図指示は次のとおりである。

1　挿図縮尺は、各挿図中に示してある。

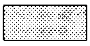
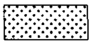
2　挿図中、断面図に添えてある数値は標高を示している。

3　挿図中の遺物の縮尺は、次のとおりである。

　土器…１／３・１／４　砥石…１／４　土錘・滑石製模造品・古銭…１／２

　瓦・石製品…１／６

4　遺物実測図の表現方法は、以下のとおりである。

土師器・断面	白抜き
須恵器・断面	黒塗り
灰釉陶器・断面	
瓦・断面	
黒色処理	
回転糸切り	ɑ
回転ヘラ削り	＼
回転ヘラナデ	﹨

5　挿図中の遺物はすべて観察表にその内容を記してある。計測数値中、（　）が付されるものは推定値を表す。

6　遺物拓影図は、原則として向って左側に外面を示した。なお、内外面両方を示す場合には左側に内面、右側に外面を示した。

7　写真図版の遺物縮尺はすべて任意である。

8　土層及び土器の色調は、『新版標準土色帖第14版』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修、日本色研事業株式会社発行　1994）を参考にした。

目　次

口　絵
序
例　言
凡　例
目　次

Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
1　調査に至る経過 …… 1
2　発掘調査・報告書作成の経過 …… 1
3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織 …… 2
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 3
Ⅲ　遺跡の概要 …… 8
1　調査の方法 …… 8
2　検出された遺構と遺物 …… 8
Ⅳ　遺構と遺物 …… 13
1　7世紀中頃～後半 …… 14
2　7世紀末～8世紀初頭 …… 14
3　8世紀前半～中頃 …… 15
4　8世紀後半～9世紀初頭 …… 16
5　9世紀前半～中頃 …… 17
6　9世紀後半～10世紀初頭 …… 18
7　10世紀前半以降 …… 19
8　土錘 …… 21
9　滑石製模造品 …… 22
10　その他 …… 23
Ⅴ　調査のまとめ …… 88

挿図目次

第１図　埼玉県の地形図 …………………… 3
第２図　周辺遺跡位置図 …………………… 4
第３図　調査地点位置図 …………………… 9
第４図　調査地点地形図 ……………………10
第５図　調査区全測図 ………………………11
第６図　土層断面図 …………………………12
第７図　７世紀中頃～後半・土器出土状況図 …25
第８図　７世紀末～８世紀初頭・土器出土状況図 …26
第９図　８世紀前半～中頃・土器出土状況図 …27
第10図　８世紀後半～９世紀初頭・土器出土状況図 …28
第11図　９世紀前半～中頃・土器出土状況図 …29
第12図　９世紀後半～10世紀初頭・土器出土状況図　30
第13図　10世紀前半以降・土器出土状況図　31
第14図　土錘出土状況図 ……………………32
第15図　滑石製模造品出土状況図 …………33
第16図　滑石製模造品集中地点分布図 ……34
第17図　近世・堰状遺構 ……………………35
第18図　出土土器(１) ………………………36
第19図　出土土器(２) ………………………37
第20図　出土土器(３) ………………………38
第21図　出土土器(４) ………………………39
第22図　出土土器(５) ………………………40
第23図　出土土器(６) ………………………41
第24図　出土土器(７) ………………………42
第25図　出土土器(８) ………………………43
第26図　出土土器(９) ………………………44
第27図　出土土器(10) ………………………45
第28図　出土土器(11) ………………………46
第29図　出土土器(12) ………………………47
第30図　出土土器(13) ………………………48
第31図　出土土器(14)・瓦 …………………49
第32図　土錘(１) ……………………………50
第33図　土錘(２) ……………………………51
第34図　土錘(３) ……………………………52
第35図　土錘(４) ……………………………53
第36図　土錘(５) ……………………………54
第37図　土錘(６)・砥石 ……………………55
第38図　滑石製模造品(１) …………………56
第39図　滑石製模造品(２) …………………57
第40図　滑石製模造品(３) …………………58
第41図　滑石製模造品(４) …………………59
第42図　縄文・弥生・埴輪・陶磁器
　　　　古銭・板碑 …………………………60
第43図　石臼 …………………………………61

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表 …………………… 5
第２表　周辺古墳一覧表 …………………… 6
第３表　土器観察表 …………………………62
第４表　瓦観察表 ……………………………81
第５表　土錘観察表 …………………………81
第６表　砥石観察表 …………………………85
第７表　滑石製模造品観察表 ………………85
第８表　縄文土器観察表 ……………………86
第９表　弥生土器観察表 ……………………86
第10表　埴輪観察表 …………………………86
第11表　陶磁器観察表 ………………………86
第12表　古銭観察表 …………………………87
第13表　板碑観察表 …………………………87
第14表　石臼観察表 …………………………87

図版目次

図版１　発掘調査作業風景
図版２　調査区全景１
　調査区全景２
図版３　Ｃ－２Grid遺物出土状況
　Ｄ－２Grid遺物出土状況
　Ｅ－３Grid遺物出土状況
　Ｆ－４Grid遺物出土状況
図版４　Ｇ・Ｈ－４Grid遺物出土状況
　Ｉ－５・６Grid遺物出土状況
　Ｊ－４・５Grid遺物出土状況
図版５　Ｊ－５・６Grid遺物出土状況
　Ｌ－６Grid遺物出土状況
　Ｌ・Ｍ－６Grid遺物出土状況
図版６　Ｎ－５Grid遺物出土状況
　Ｏ－６・７Grid遺物出土状況
　Ｑ－７Grid遺物出土状況
図版７　Ｒ－７Grid遺物出土状況
　土層断面（ＡＡ'）
　土層断面（ＢＢ'）
図版８　Ｂ－１Grid土器出土状況
　Ｄ－３土器出土状況
　Ｆ－３Grid土器出土状況
　Ｆ－４Grid土器出土状況
　Ｆ－４Grid土器出土状況
　Ｇ－４Grid土器出土状況
　Ｇ－４Grid土器出土状況
　Ｇ－４Grid土器出土状況
図版９　Ｇ－５Grid土器出土状況
　Ｈ－４Grid土器出土状況
　Ｈ－５Grid土器出土状況
　Ｌ－５Grid土器出土状況
　Ｌ－６Grid土器出土状況
　Ｌ－６Grid土器出土状況
　Ｍ－６Grid土器出土状況
　Ｔ－６Grid土器出土状況
図版10　Ｑ－６Grid瓦出土状況
　Ｄ－３Grid滑石製模造品出土状況
　Ｆ－３・４Grid滑石製模造品出土状況
　Ｆ－３Grid滑石製模造品出土状況
　Ｆ－４Grid滑石製模造品出土状況
　Ｆ－４Grid滑石製模造品出土状況
　Ｇ－５Grid滑石製模造品出土状況
　Ｇ－５Grid滑石製模造品出土状況
図版11　第18図１～３・７・11・13・15
　17・18・20
図版12　第18図22・23・25～28・30・31
　第19図34
図版13　第19図35・35墨書・38～41・43
　43墨書・44墨書・48墨書
図版14　第19図49墨書・58墨書・61墨書
　62墨書・65墨書・66墨書
　第20図67～69・69墨書
図版15　第20図70・71墨書・73・75～79
　82・82墨書
図版16　第20図83墨書・94墨書・97
　第21図99～104・102墨書
図版17　第21図106～110・114・117
　第22図134
　第23図139・141
図版18　第23図145・151・153・155・156
　158・160・167・168・170
図版19　第23図171～174・176～181
図版20　第24図184・187・188墨書
　189墨書・190墨書・195
　199・200・200暗文
図版21　第24図202・202暗文・207・207

暗文・208・208暗文・210
210暗文
図版22 第24図211暗文・214・214暗文
215・215暗文
第25図216・217・219～221
図版23 第25図222・222内面・222墨書
225・225墨書・226・226
墨書・227・227墨書・230
図版24 第25図230内面・231・231墨書
232墨書・234～236・237
墨書・238・240
図版25 第25図244～248墨書・249・250
第26図251・253・264墨書
図版26 第26図265～269・271・273～275
279
図版27 第26図280・280墨書・282～284
286～288・288墨書
図版28 第26図290墨書・291墨書・292
墨書
第27図305墨書・306・308・310
311・313・316
図版29 第27図323
第28図329・330・332・334・336
339墨書・341墨書
第29図368墨書・370
図版30 第29図371・379～381・383・385
～387・391・393
図版31 第29図395～397・399・400～402
404・406・407
図版32 第29図408
第30図410・411・413～415・419
423
第31図424・428
図版33 第22図120～133
第31図432～438
図版34 第32図１～37
第33図38～71
第34図72～111
図版35 第35図112～152
第36図153～191
第37図192～209・１・２
図版36 第38図１～11
図版37 第39図12～22
図版38 第40図23～39
図版39 第41図40～58

I　発掘調査の概要

1　調査に至る経過

平成３年８月12日付け熊公園発第210号で、熊谷市公園緑地課から熊谷市教育委員会教育長あてに、熊谷市別府沼公園修景工事予定地における埋蔵文化財の所在及び取扱いについて協議があった。

工事予定地は、県選定重要遺跡「西別府祭祀遺跡（県遺跡番号59－001）」が所在するため、市公園緑地課あてに、当該地内における開発行為は適当でないため、現地の現状保存を行って欲しい。やむを得ず埋蔵文化財に影響を及ぼす工事を実施する場合は、文化財保護法第57条の３の規定により事前に文化庁へ埋蔵文化財発掘通知を提出し、記録保存のための埋蔵文化財の発掘調査を実施する必要がある旨、回答した。

これを受けて、熊谷市長から文化財保護法第57条の３第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知が、平成４年10月９日付け熊公園発第305号で文化庁長官あてに提出された。

市公園緑地課としては、当地域は貴重な自然環境を残す地域であり、この貴重な自然環境を保存すべく総合公園整備をし、都市環境の改善をすることは、今後の都市生活に必要不可欠であると言う見解のもとに申請地の現状変更を是非とも行いたいということであった。

その後も、現状保存の方向で協議を重ねたが、当該地における修景工事に伴うヘドロ除去を実施する箇所に関しては、事前に地下の遺構及び遺物の保存状態を把握するための発掘調査を実施することはやむを得ないものと判断された。

市教育委員会としては、平成４年11月16日付け熊教社発第738号で、埼玉県教育委員会教育長あてに、県選定重要遺跡「西別府祭祀遺跡」における埋蔵文化財の取扱いについての協議を、市公園緑地課との協議経過報告を付して提出した。

この協議に対し、埼玉県教育委員会教育長から教文第920号で、その取扱いについて、事前に記録保存のための発掘調査を実施することもやむを得ないと回答を得た。

さらに、埼玉県教育委員会教育長から教文第３－401号で発掘調査の実施の指示通知があった。そして、熊谷市教育委員会教育長は、文化財保護法第98条の２第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を熊教社発685号で提出した。

発掘調査は、平成４年11月19日から開始した。

2　発掘調査・報告書作成の経過

（1）発掘調査

西別府祭祀遺跡の発掘調査は、平成４年11月19日から平成５年３月31日にかけて行われた。調査面積は、遺跡面積16,000㎡の内公園修景工事によって破壊をうける2,500㎡であった。

事前に現地測量を実施し、平成４年11月19日からトレンチを設定し土層を確認しながら、遺構・遺物確認面まで手掘りで掘り下げ、同時に遺構・遺物の検出作業を行った。その際、多数の遺物と湧水の痕跡、近世の堰状遺構などは確認されたが、本遺跡の主体となる古代の遺構は確認されなかった。そのため、遺物の分布状況を中心に記録をとることとした。

発掘調査は平成５年３月31日にはすべて終了し、その後埋め戻し作業を行い現状に復した。

（２）整理・報告書作成作業

整理・報告書作成作業は、平成11年４月１日から平成12年３月31日までの期間で実施された。

作業はまず遺物の洗浄・注記・復元を行い、そして発掘現場にて実測した図面の整理、遺物の実測作業、遺構・遺物図面のトレース作業、遺構・遺物図版組み等を順次行っていった。そして12月より遺物の写真撮影、原稿執筆、割付をし、２月には印刷業者を決定、２～３月の校正を経て本書の印刷を完了し、報告書を刊行した。

3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者　熊谷市教育委員会

（１）発掘調査（平成４年度）

教育長	関根幸夫
教育次長	大久保道夫
社会教育課長	坂巻　篤
課長補佐	翠田晴夫
係長	金子正之
主事	権田宣行
主事	吉野　健

（２）整理・報告書刊行（平成11年度）

教育長	飯塚誠一郎
教育次長	坂巻　篤
社会教育課長	氏家保男
副参事	浅野晴樹
課長補佐	北　俊明
主幹兼係長	金子正之
主任	寺社下　博
主任	渡邉　操
主任	吉野　健
主事	松田　哲
発掘調査員	小林貴郎
発掘調査員	市川康弘
発掘調査員	越前谷　理

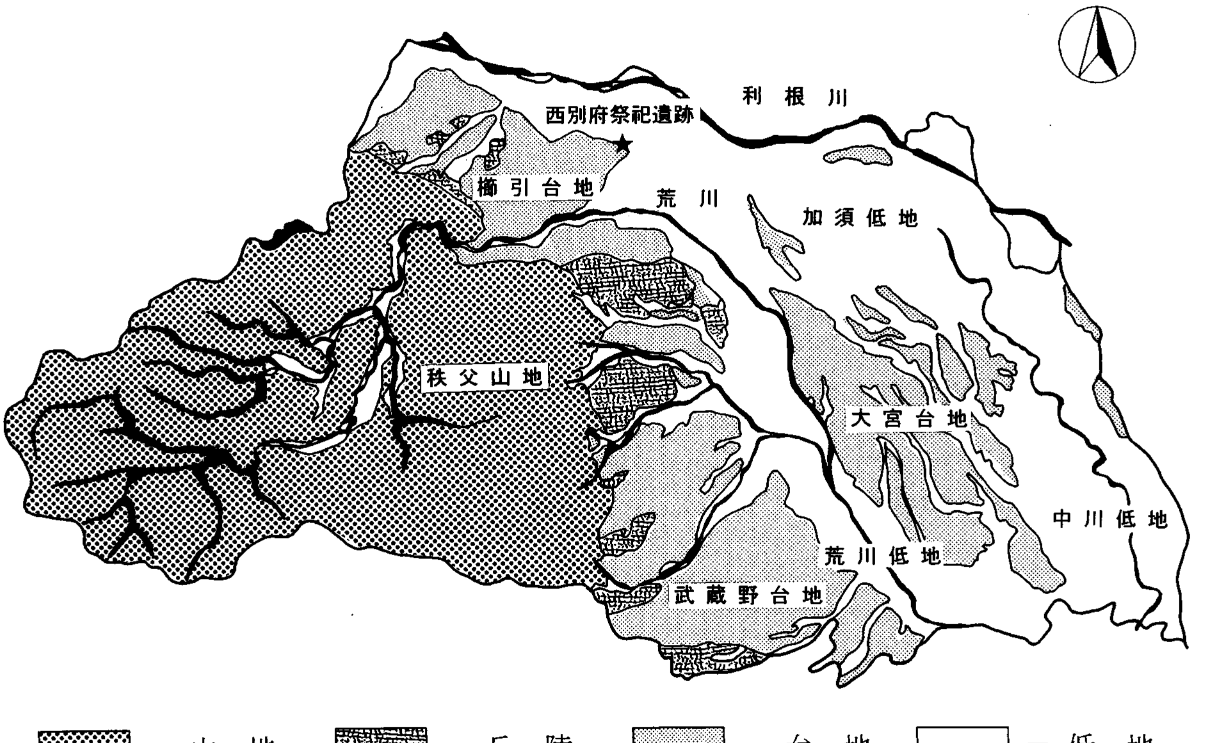
II　遺跡の立地と環境

熊谷市は、埼玉県の北部に位置する中核都市である。市の南側には荒川が、北側には妻沼町を挟んで利根川がそれぞれ西から南東方向に向って流れており、川と川に挟まれている。市の西側に櫛引台地、東側には妻沼低地が広がっているが、市の大半が妻沼低地上にある（第1図)。

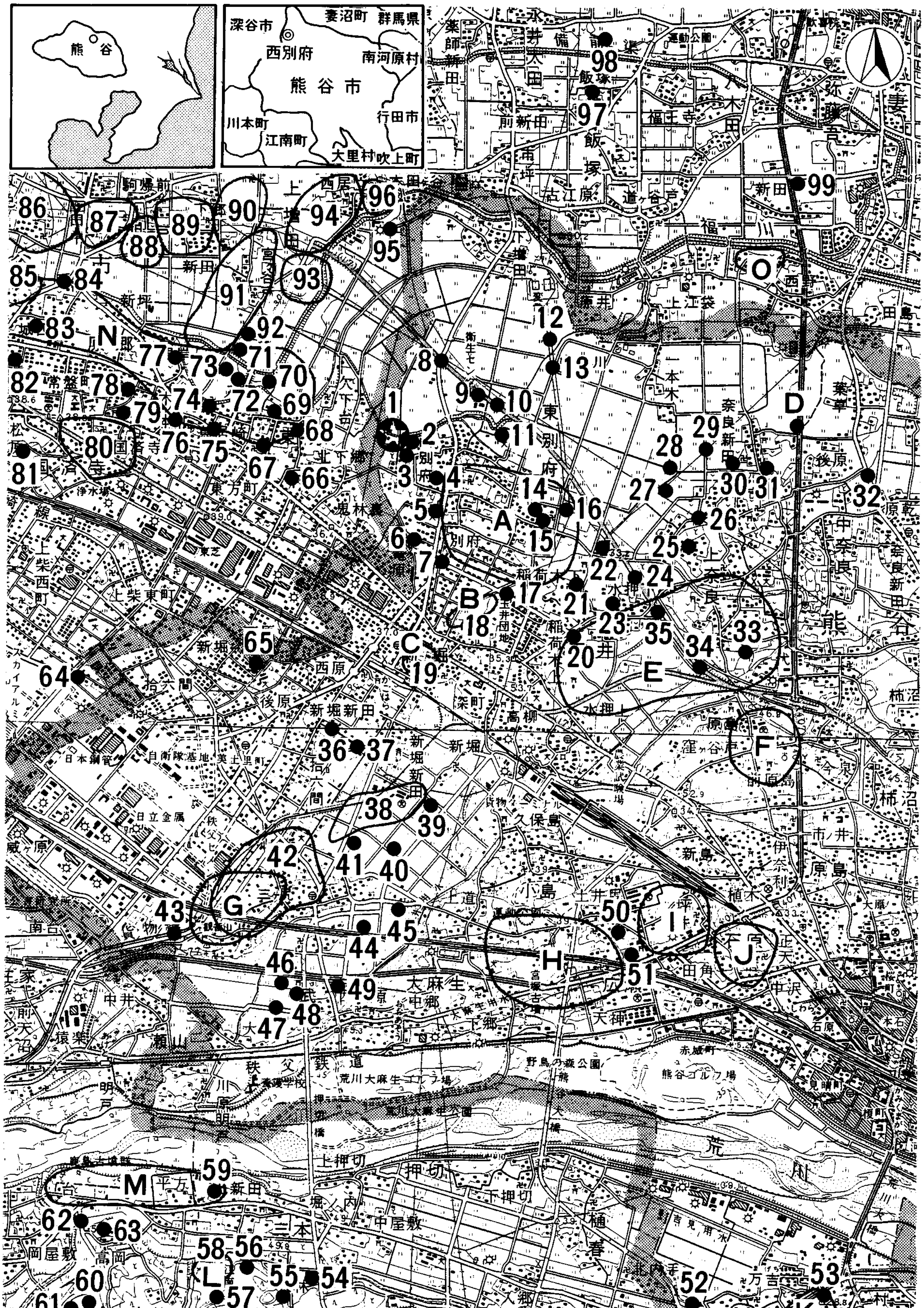
櫛引台地は、洪積世に形成された荒川扇状地の左岸一帯の総称で、寄居町の波久礼付近を扇頂として東は熊谷市西部の三ヶ尻付近まで、北東方向へは今回報告する西別府祭祀遺跡のある熊谷市北西部の西別府付近にまで延びている。標高は約30～54 mで、妻沼低地に向って緩やかに下っていく。また、三ヶ尻や西別府地区では台地裾にかつて湧水地が多数あったといわれ、本遺跡もこれらの湧水に関連したものである。櫛引台地の東側には、沖積世に荒川の乱流により新たに形成された新荒川扇状地が広がっている。新荒川扇状地は熊谷市の南西に位置する川本町の菅沼付近を扇頂として妻沼低地へと広がっており、自然堤防や後背湿地が発達している。また、三ヶ尻地区の荒川に面した櫛引台地南東端には、丘陵地である観音山（標高81 m、第3紀層の残丘）があり、台地上からの比高差は約25 m、沖積地からの比高差は約35 mである。

今回報告する西別府祭祀遺跡は、熊谷市でも北西端に位置し、櫛引台地の北東端から妻沼低地へ下ったまさに台地の裾に所在している。標高は28 m前後で、前述のとおり湧水地にある。なお、初夏から秋頃にかけては覆流水が湧水となって、現在でも沼になっているが、冬場はまったく湧き出ていない。

今回調査した箇所は、現在確認されている遺跡範囲内でもまさに中心地といえる。本遺跡は、昭和38年に大場磐雄・小沢国平氏らによって発掘調査が実施されている（大場他　1963)。詳細については不明であり、具体的な調査地点も定かではないが、「大体湯殿神社の社殿の北に当る」ことから、今回の



第1図　埼玉県の地形図



第２図　周辺遺跡位置図

第1表　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
熊谷市			52	万吉西浦遺跡	縄文中、古墳、平安、近世
1	西別府祭祀遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世	53	村岡館	平安末～中世
2	西方遺跡	奈良・平安、中・近世	江南町		
3	西別府廃寺	古墳後、奈良・平安、中・近世	54	権現坂遺跡	縄文前・中、古墳
4	西別府館跡	平安末～中世	55	北方遺跡	縄文早
5	原遺跡	古墳後、奈良・平安	56	富士山遺跡	縄文早～後、弥生後、奈良
6	No.4遺跡	平安	57	西原遺跡	旧石器、縄文前～後、奈良・平安
7	No.10遺跡	奈良・平安	58	姥ヶ沢遺跡	縄文早～後
8	根絡遺跡	縄文中、古墳前・後、奈良・平安	59	新田裏遺跡	古墳後
9	横間栗遺跡	縄文後、弥生前･中、古墳前･後、奈良･平安、近世	川本町		
10	関下遺跡	縄文中、弥生中、古墳後	60	竹ノ花遺跡	奈良・平安
11	石田遺跡	縄文中・後、弥生中、古墳前	61	白草遺跡	旧石器、縄文前期、弥生後、古墳中
12	入川遺跡	縄文後、古墳前・後	62	山ノ腰遺跡	縄文後、
13	深町遺跡	縄文中・後、古墳前・後、奈良・平安	63	舟山遺跡	縄文早～中、
14	別府城跡	平安、中世	深谷市		
15	別府氏館跡	平安末～中世	64	No.206遺跡	縄文中
16	寺東遺跡	縄文前・中・後	65	No.205遺跡	古墳前
17	五反畑遺跡	中世	66	No.204遺跡	縄文中・後、古墳後、奈良・平安
18	在家遺跡	古墳後、奈良・平安	67	No.203遺跡	奈良・平安、中世
19	籠原裏遺跡	縄文前、古墳後、平安、中・近世	68	No.29遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安
20	稲荷木上遺跡	古墳後	69	東方城跡	縄文早・後、室町
21	玉井陣屋跡	平安末～中世	70	No.191遺跡	古墳後、奈良・平安
22	稲荷東遺跡	古墳後、奈良・平安	71	No.189遺跡	奈良・平安
23	水押下遺跡	古墳後	72	城下遺跡	縄文後、古墳後、平安、中世
24	新ケ谷戸遺跡	古墳後、奈良・平安	73	No.190遺跡	古墳後、奈良・平安
25	奈良氏館跡	平安末～中世	74	杉町遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安
26	土用ケ谷遺跡	古墳後、奈良・平安	75	No.202遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安
27	天神下遺跡	古墳前・後、奈良・平安	76	No.200遺跡	古墳後
28	一本木前遺跡	古墳前・後、奈良・平安	77	根岸遺跡	縄文中・後、古墳後、奈良・平安、中世
29	中耕地遺跡	縄文中、古墳前・後、奈良・平安	78	常磐町東遺跡	縄文前・中、古墳後
30	西通遺跡	古墳後	79	No.199遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安
31	東通遺跡	古墳後	80	No.198遺跡	平安
32	奈良東耕地遺跡	奈良・平安	81	No.250遺跡	奈良・平安
33	本代遺跡	古墳後、近世	82	No.195遺跡	古墳後
34	下河原上遺跡	近世末	83	No.194遺跡	古墳後
35	No.53遺跡	奈良・平安	84	八日市遺跡	奈良・平安
36	拾六間後遺跡	奈良・平安、中・近世	85	城西遺跡	古墳後、奈良・平安
37	堂西遺跡	古墳後、奈良・平安、中世	86	上敷免遺跡	縄文中～晩、弥生中、古墳後、奈良・平安
38	樋ノ上遺跡	縄文前・中、古墳後、奈良・平安、中・近世	87	本郷前東遺跡	縄文後、古墳後、奈良・平安
39	東遺跡	平安、中世	88	新屋敷東遺跡	縄文中、古墳後、奈良・平安
40	黒沢館跡	中世	89	新田裏遺跡	古墳中、弥生後、奈良・平安、中世
41	若松遺跡	中・近世	90	明戸東遺跡	縄文中・後、弥生後、古墳後、奈良・平安
42	三ヶ尻遺跡	縄文前～後、弥生中、古墳後、奈良・平安、中世	91	宮ケ谷戸遺跡	縄文中、弥生中・後、古墳後、奈良・平安
43	No.23遺跡	古墳後	92	No.249遺跡	奈良・平安
44	松原遺跡	中・近世	93	東川端遺跡	古墳前・後、奈良・平安
45	庚申塚遺跡	近世	94	原遺跡	縄文後・晩、古墳後
46	社裏北遺跡	中世	95	清水上遺跡	縄文晩、弥生中、古墳前
47	社裏南遺跡	中世	96	居立遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世
48	社裏遺跡	中世	妻沼町		
49	臺遺跡	近世	97	飯塚遺跡	弥生中、古墳後、奈良・平安
50	高根遺跡	縄文前、古墳後、平安、中・近世	98	飯塚北遺跡	弥生中、古墳後、奈良・平安
51	不二ノ腰遺跡	奈良・平安	99	弥藤吾新田遺跡	古墳前・中

第２表　周辺古墳群一覧表

古　墳　群			J	石原古墳群	古墳後
熊　谷　市			K	村岡古墳群	古墳後
A	別府古墳群	古墳後	江　南　町		
B	在家古墳群	古墳後	L	蛯ヶ沢古墳群	古墳後
C	籠原裏古墳群	古墳末	川　本　町		
D	横塚山古墳	古墳中後～末　奈良古墳群	M	鹿島古墳群	古墳後～末
E	玉井古墳群	古墳後	深　谷　市		
F	原島古墳群	古墳後	N	木の本古墳群	古墳後
G	三ヶ尻古墳群	古墳後	妻　沼　町		
H	広瀬古墳群	古墳末	O	上江袋古墳群	古墳後
I	坪井古墳群	古墳後			

調査区内におさまるものと思われる。

次に本遺跡周辺の歴史的環境について概観する。

旧石器時代は、籠原裏遺跡（19）にて黒耀石の尖頭器が検出されたのが唯一の確認例である。

縄文時代については、本遺跡周辺では早期段階まで溯る。櫛引台地の北端に位置する深谷市東方城跡（69）からは早期の尖頭器が確認されているが、この他には見あたらない。前期になると、遺跡数も次第に増えはじめ、台地上のみならず低地上からも寺東遺跡（16）など集落跡が確認されている。中期は遺跡数が非常に多くなり、特に中期後半、加曽利E式期のものが多い。同期は前期同様、台地上及び低地からも集落が確認されているが、特に本遺跡のある櫛引台地北東端、及び台地下の自然堤防上に集中して所在する。隣接する深谷市でも同期の集落が多数確認されているが、自然堤防上にあるものが多い。後期になると遺跡数は減少し、中期同様、本遺跡周辺に集中して所在する。深谷市内においても、台地縁辺部、及び台地下の自然堤防上より遺跡が確認されている。晩期は、後期に比べるとさらに遺跡数が減少し、市内ではほとんど確認されておらず、市東部の妻沼低地自然堤防上にある上之地区から安行式土器が検出されているぐらいである。深谷市では自然堤防上よりいくつか遺跡が確認されているが、上敷免遺跡では晩期でも終末の浮線文土器片が多数検出されており、次代へのつながりがみてとれる。

弥生時代については、東日本初期弥生土器を語る上で非常に重要な資料が出土している。遺跡は、縄文時代中期以降集落が営まれている櫛引台地北東端部、及び台地下の自然堤防上に集中している。

特筆すべき事項としては、自然堤防上に位置する横間栗遺跡（９）から、前期末～中期中頃の再葬墓が13基確認されたことが挙げられる。なお、再葬墓一括資料は1999年３月に埼玉県指定文化財となった。

横間栗遺跡の南東に位置する関下遺跡（10）からは、弥生時代中期中頃の竪穴住居跡が確認され、南側に隣接して所在する石田遺跡（11）からも同期の遺構・遺物が検出されており、同期の集落が広がっているのかもしれない。深谷市では、自然堤防上よりいくつか遺跡が確認されているが、上敷免遺跡では同期の再葬墓、竪穴住居跡が確認されており、県内では初の遠賀川式の壺・胴部片も出土している。中期後半以降は確認例が少なく、後期の遺跡が深谷市にて確認されているのみである。

古墳時代になると、自然堤防上への集落の進出がより活発化する。前期は確認例がやや少ないが、本遺跡周辺から、北東、東方面に向って拡大していくことがみてとれる。また、深谷市でも東川端遺跡（93）をはじめ自然堤防上より集落跡、方形周溝墓等が確認されている。中期は、５世紀後半から末葉

の古墳として横塚山古墳（D：市指定史跡　帆立貝式前方後円墳）がみられるだけである。市内では北東部にある北島遺跡や常光院東遺跡、女塚古墳群周辺にて同期の遺構・遺物が確認されている程度である。後期になると、遺跡数が爆発的に多くなり、集落は大規模化し、古墳も群として多数みられるようになる。集落は自然堤防上にも多数営まれるようになり、奈良・平安時代へと続いていく遺跡が多い。

古墳群については、周辺一帯に多数の群集墳がみられる。台地上には在家古墳群（B）、籠原裏古墳群（C）、三ヶ尻古墳群（G）、深谷市木の本古墳群（N）等があり、自然堤防上には別府古墳群（A）、玉井古墳群（E）、原島古墳群（F）、広瀬古墳群（H）、坪井古墳群（I）、石原古墳群（J）、妻沼町上江袋古墳群（O）等がある。また、荒川を挟んで対岸の台地上には、村岡古墳群（K）、江南町蛇ヶ沢古墳群（L）、埼玉県指定史跡である川本町鹿島古墳群（M）等がみられる。このほか、市内東側の妻沼低地上にもたくさんの古墳群が分布している。

市内における古墳で特筆すべき事例としては、広瀬古墳群中の国指定史跡で上円下方墳という特異な形態をしている宮塚古墳や籠原裏古墳群中に所在する八角形墳等が挙げられる。

奈良・平安時代については、本遺跡周辺一帯は律令体制下では武蔵国幡羅郡に属する。幡羅郡は上秦、下秦、広沢、荏原、幡羅、那珂、霜見、余部の八郷からなる中郡であり、熊谷市西部、深谷市東部、妻沼町等を含む一帯が該当すると考えられている。なお、深谷市では現在でも「原郷（はらごう）」の地名が残っており、当時の名残を想わせる。

集落は前述のとおり、古墳時代後期から継続的に営まれる遺跡が多く、規模の大きいものが多い。また、本遺跡周辺の集落で出土する須恵器は、時代・時期に程度の差はあるが、武蔵国四大窯跡の１つである寄居町末野窯跡産のものを多く含む傾向があり、鳩山町南比企窯跡産のものを主体とする市東部の遺跡とは様相が異なっている。

集落以外で注目すべき遺跡としては、本遺跡と同じく熊谷市西別府地区に所在する西別府廃寺（３）がある。西別府廃寺は本遺跡のすぐ南側の櫛引台地北東端に位置している。８世紀初頭に創建された県内でも古い寺院跡であり、平成４年に行われた発掘調査では、瓦溜り状遺構、基壇跡、溝跡等が検出されている。出土した瓦には９世紀後半まで下るものもみられ、寺院は平安時代まで存続していたと考えられている。市内でも東部に位置する諏訪木遺跡からは、河川を利用した祭祀跡が確認されている。土器や木製品等が多数出土しており、本遺跡との関係も含めて非常に注目すべき遺跡である。

中世になると、武蔵七党やその他在地武士団の館跡がみられるようになるが、ただその実態は不明なものが多い。本遺跡の北東にある別府城跡（14）は別府氏の居館で現在も土塁と空堀が一部残っている。また、三ヶ尻地区では中世の遺跡・遺構が比較的多く確認されているが、なかでも黒沢館跡（40）は、発掘調査により出隅をもち全周する堀と土塁、虎口跡等が検出され、渡辺崋山が記した文献『訪瑶録（ほうへいろく）』所収の「黒沢屋敷」と発掘成果が一致するという大変貴重な例である。また、周辺に所在する樋ノ上遺跡（38）、若松遺跡（41）、社裏北遺跡（46）、社裏遺跡（48）、社裏南遺跡（47）からは土壙墓が多数検出されている。

近世については、本遺跡の南西の櫛引台地北東端に所在する西方遺跡（２）にて墓地群が調査されているのをはじめ、市内にていくつか調査例がみられるが、不明な点が多いのが実状である。

Ⅲ　遺跡の概要

1　調査の方法

発掘調査は、調査地点が台地下の湧水地にあるため、湧水の枯れる秋頃から冬にかけて実施された。また、東西に長い調査区の中央部は既に掘削されていたため、その部分を除いて行うこととなった。

調査はまず遺物確認面直上まで重機で掘削し、その後人力による手掘り作業を行っていった。そして、一辺５ｍのグリッド方式を用いて調査区全体を網羅できる様に、北西隅をＡ－１として南へ１・２・３…、東へＡ・Ｂ・Ｃ…とし、Ａラインは北から南へＡ－１・Ａ－２・Ａ－３…と呼称した。Ｂライン以東もＡラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

手掘り作業終了後は、各グリッドごとに実測、遺物の取り上げ、写真撮影等の作業を順次行っていった。なお、実測作業を行うにあたっては、グリッド交点に設定した杭を基準に水糸による１ｍ間隔のメッシュを張り、簡易遣り方による方法で行った。

2　検出された遺構と遺物

第１章の２で述べたとおり遺構の検出は近世の堰状遺構が４基検出されたのみで、本遺跡の主体となる古代については、遺物が検出されただけである。また、近世を除く他の時代についても同様である。

遺物は調査区のほぼ全面から確認されており、地盤となる粘土層、及び砂礫層上より多数検出されている。特に主体となる古代については、土器をはじめ非常に多くの遺物が検出されており、時代、及び時期により調査区内での出土位置にやや異なる傾向がみられた。

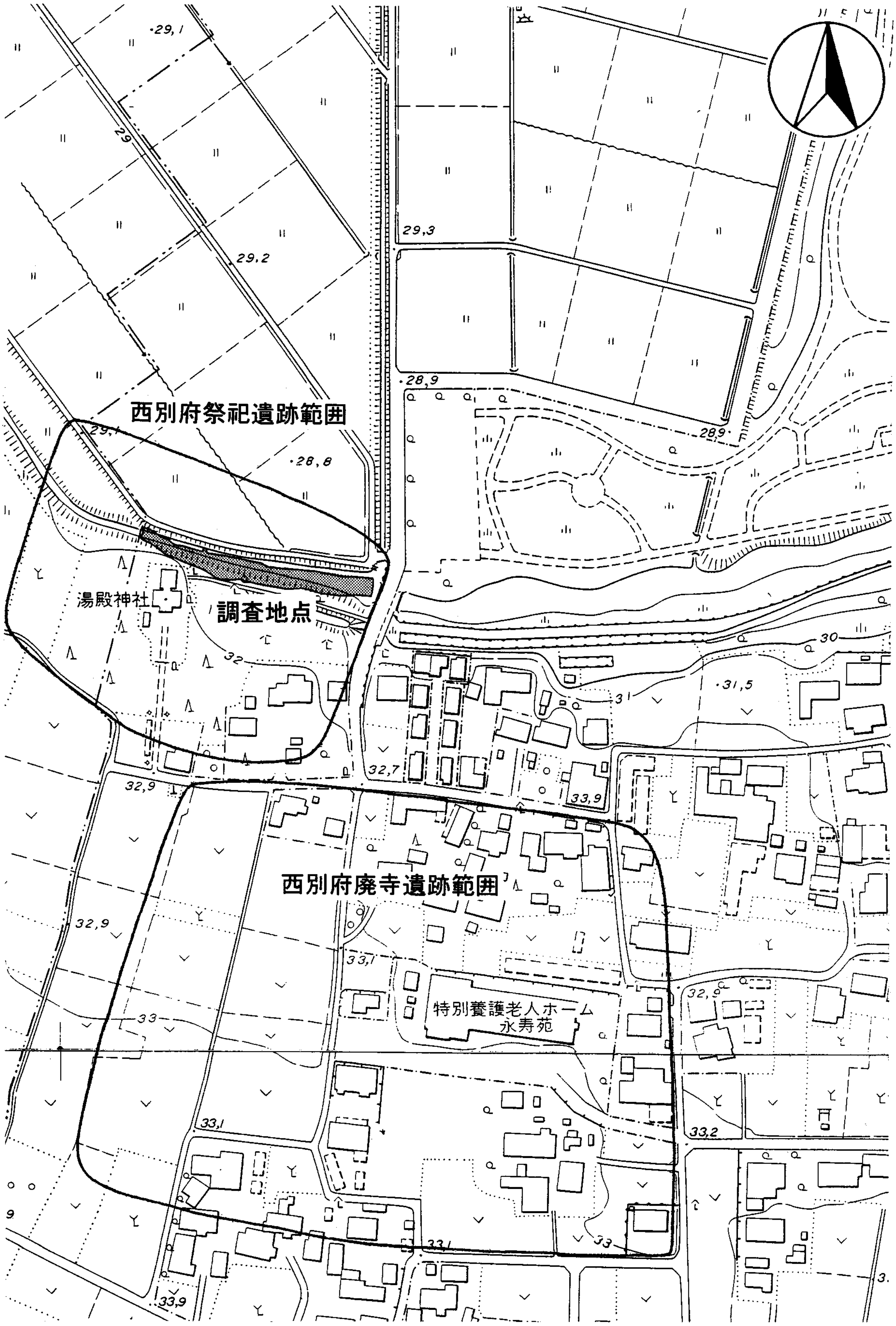
土器は須恵器、土師器の他にロクロを使用した所謂「土師質土器」もみられる。時間幅については、古墳時代後期末から平安時代でも新しい段階のものまであり、断絶することなくみられる。このうち７世紀末～８世紀中頃までのものと平安時代でも後期に位置づけられるものが数多く検出されている。器種は土器の種類に関係なく、坏・椀・皿類が主体となり、供膳具がそのほとんどを占めている。須恵器は、寄居町に所在する末野窯跡産のものがほとんどであるが、末野産が激減する８世紀前半については南比企窯跡産のものが主体となる。墨書土器も土器の種類や時代・時期に関係なくみられるが、食膳具に限られている。中には解読不明な記号のようなものもある。また、食膳具でも特に土師器に限られるが、灯明として使用されたものも数点みられる。出土土器は破片が多数を占めるが、完形品もみられる。

土器以外には土錘、滑石製模造品、砥石、瓦等が出土しており、中でも土錘は土器とともに本調査区全面より多数検出されている。本文では、その形態的特徴から４つに分けてみたが、調査区内での出土位置がタイプ別にまとまる傾向がみられた。

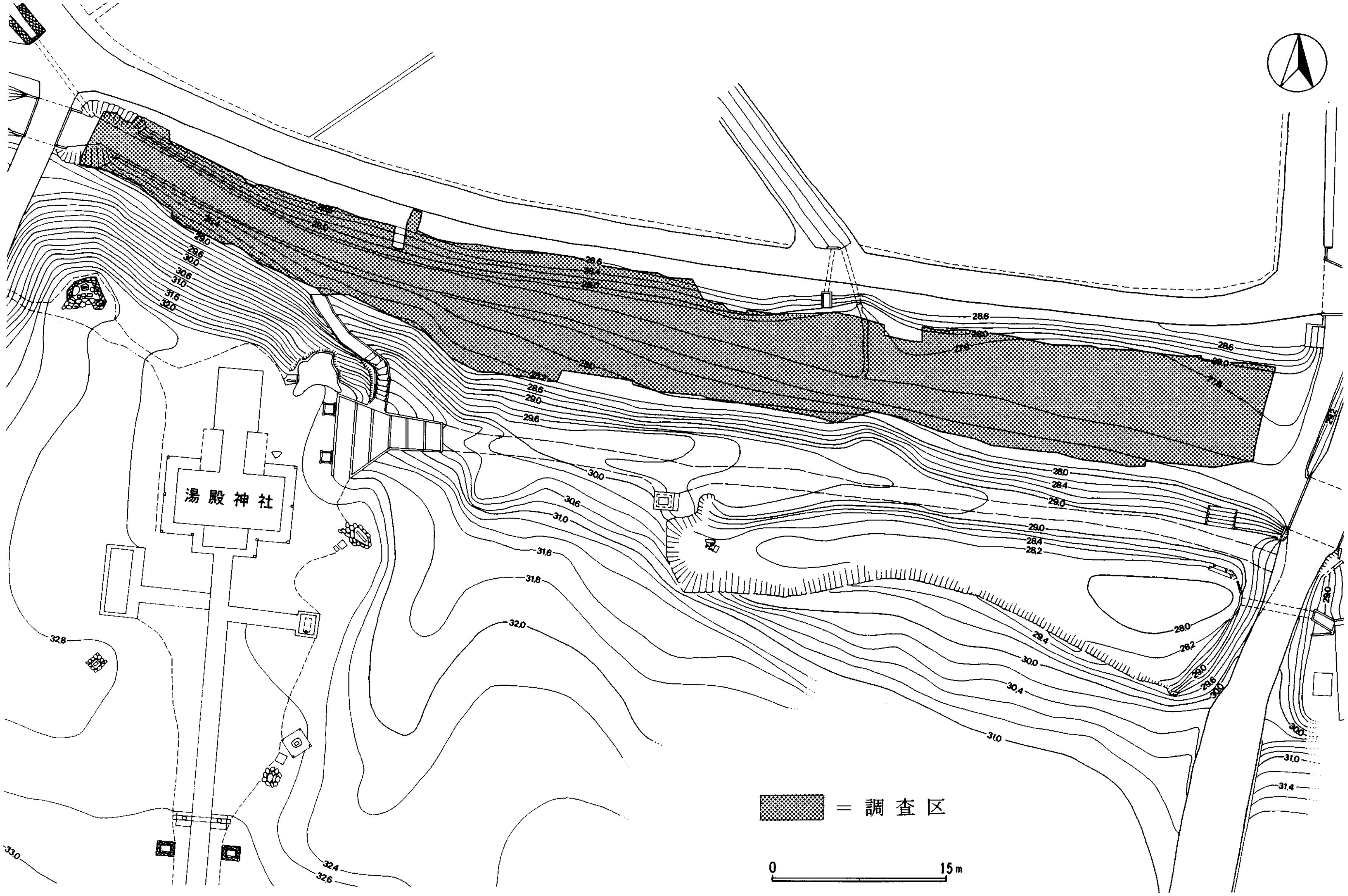
滑石製模造品は、図示不可能なものも含めて、合計67点が検出されている。昭和38年の調査によって検出された馬形・櫛形・剣形・有線円板形・有孔円板形・勾玉形などの他に、今回の調査では新たに人形も検出された。完形品や一部のみ残存するものがみられる。

砥石、瓦も数点ではあるが、検出されている。瓦は隣接する西別府廃寺のものであろう。

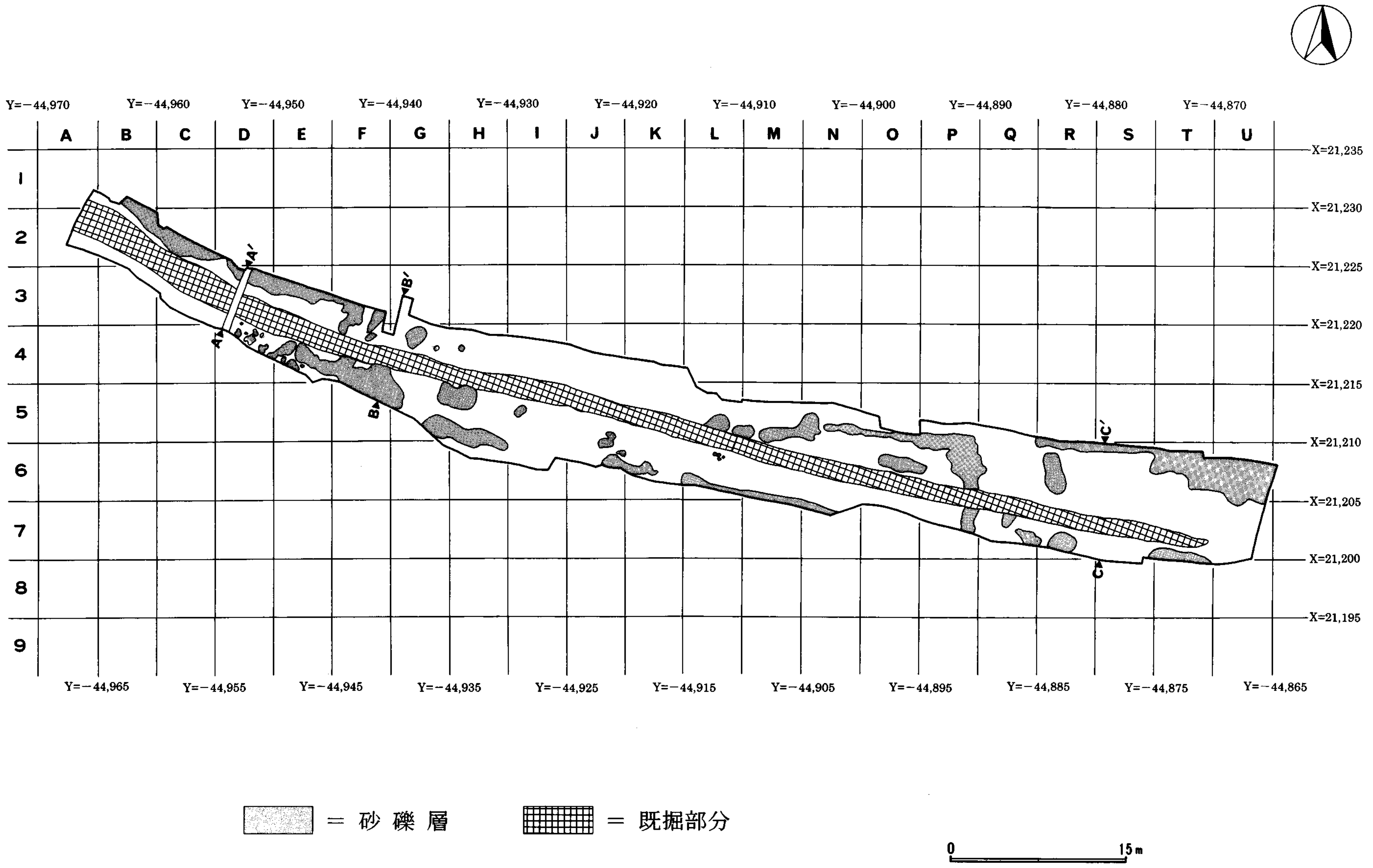
古代以外では縄文土器、弥生土器、埴輪、中世の古銭・板碑、近世の陶器・古銭・石臼等が検出されている。



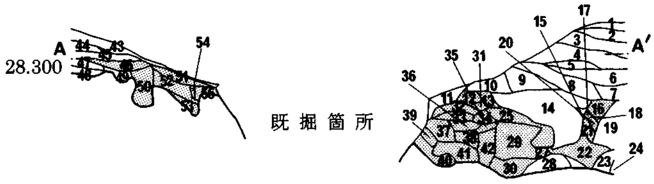
第３図　調査地点位置図



第４図　調査地点地形図

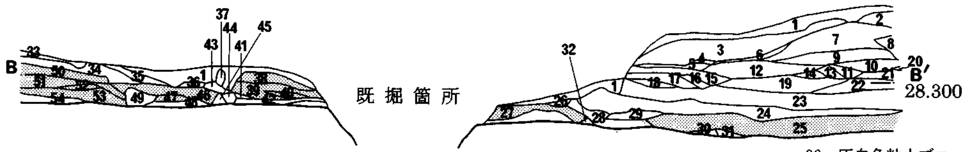

Y=−44,970
Y=−44,960
Y=−44,950
Y=−44,940
Y=−44,930
Y=−44,920
Y=−44,910
Y=−44,900
Y=−44,890
Y=−44,880
Y=−44,870
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U
1 2 3 4 5 6 7 8 9
X=21,235
X=21,230
X=21,225
X=21,220
X=21,215
X=21,210
X=21,205
X=21,200
X=21,195
Y=−44,965
Y=−44,955
Y=−44,945
Y=−44,935
Y=−44,925
Y=−44,915
Y=−44,905
Y=−44,895
Y=−44,885
Y=−44,875
Y=−44,865
A
A′
B
B′
C
C′
＝ 砂 礫 層
＝ 既掘部分
0
15m

第５図　調査区全測区



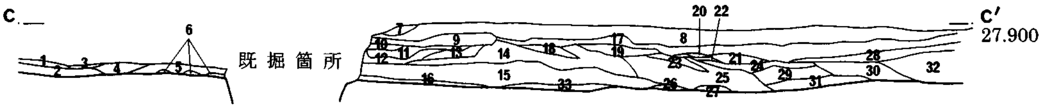
土層説明（AA′）

1 耕 作 土
2 黒灰色砂質土　粘性有。礫含む。
3 暗灰色粘土　礫、鉄分含む。
4 黒灰色砂礫層
5 砂　層　小石多量含む。
6 黒灰色砂質土　粘性有。小石少量含む。
7 黒灰色粘土　やや砂質。
8 暗灰色砂質土
9 4層とほぼ同じ。
10 黒灰色砂質土
11 暗灰色砂礫層
12 砂　層
13 黒灰色砂質土
14 黒色砂質土　粘性有。砂、流木木片含む。
15 灰黄緑砂質土　粘性有。
16 黒灰色砂質土　粘性有。
17 15層と同じ。
18 14層と同じ。
20 暗灰色砂質土　炭化物含む。
21 灰黄緑色砂層
22 14層＋21層　炭化物含む。
23 14層と同じ。
24 21層と同じ。
25 暗灰色粘土＋砂層　炭化物多量含む。
26 25層と同じ。
27 暗灰色粘土
28 14層と同じ。
29 砂　層　炭化物多量含む。
30 29層＋28層
31 暗灰褐色粘土
32 13層と同じ。
33 黒灰色砂質土　礫少量含む。
34 灰黄色砂層　鉄分含む。
35 25層とほぼ同じ。
36 34層とほぼ同じ。
37 灰黄色砂層。
38 34層とほぼ同じ。
39 暗灰褐色粘土＋37層
40 青灰色砂層
41 橙灰色粘土　鉄分多量含む。
42 暗灰色砂質土
43 暗灰褐色砂質土
44 暗灰色砂礫層
45 暗 灰 色 土　しまり強。
46 暗 灰 色 土　しまり強。鉄分含む。
47 暗灰色砂質土　礫少量含む。
48 礫　層
49 47層とほぼ同じ。
50 黒青灰色砂層
51 暗灰色砂層　礫少量含む。
52 41層と同じ。
53 52層とほぼ同じ。



土層説明（BB′）

1 耕 作 土
2 暗褐色粘土　鉄分含む。
3 暗褐色砂質土　礫、鉄分含む。
4 砂　層
5 暗青灰色砂層　礫含む。
6 暗青灰色砂層
7 黒灰色砂質土　粘性やや有。小石少量含む。
8 8層＋粘土ブロック
9 暗灰色砂層
10 暗灰色砂層　9層よりやや暗い。
11 暗灰色粘土　礫含む。
12 暗灰色粘質土　礫多量に含む。
13 10層とほぼ同じ。
14 11層と同じ。
15 黒灰色砂質土　粘性有。礫含む。
16 暗灰褐色粘土　鉄分含む。
17 暗灰色砂質土
18 暗灰色砂層
19 暗灰色砂質土　しまり強。鉄分、炭化物少量含む。
20 橙黄灰色粘質土
21 暗灰色粘土
22 暗灰色粘土　粘性強。木片多量含む。
23 黒灰色粘土　粘性強。木片多量含む。
24 黒灰褐色粘土　粘性強。木片多量含む。
25 黒灰色粘土　粘性強。木片含む。
26 23層と同じ。
27 暗灰色砂層
28 灰緑色粘土
29 暗灰色粘土　粘性強。木片含む。
30 青灰白色粘土
31 30層と同じ。
32 暗灰色粘土　鉄分多量含む。
33 黒灰褐色土
34 暗灰緑色砂層
35 33層と同じ。
36 灰白色粘土ブロック　鉄分含む。
37 暗灰緑色粘質土
38 暗灰色砂層　炭化物含む。
39 暗灰色砂層　38層より明るい。
40 鉄 分 層
41 38層と同じ。
42 39層と同じ。
43 橙灰白色粘土ブロック
44 39層と同じ。
45 43層＋44層
46 39層と同じ。　橙灰白色粘土ブロック含む。
47 39層と同じ。
48 暗灰色砂質土
49 43層と同じ。
50 暗青灰褐色砂質土　鉄分含む。
51 暗青灰褐色砂質土　50層より鉄分含む。
52 暗灰褐色砂質土　鉄分含む。
53 暗灰褐色砂質土　粘性強。
54 黒灰褐色粘土



土層説明（CC′）

1 黒灰色粘土
2 黒灰褐色粘土
3 黒灰色砂層
4 1層とほぼ同じ。
5 黒灰色砂質土　粘性強。礫多量含む。
6 2層と同じ。
7 暗灰色粘土
8 黒青色粘土＋暗灰色砂層
9 黒褐色粘質土　植物繊維多量含む。
10 暗灰褐色粘土　砂少量含む。
11 暗灰色砂層　砂多量含む。
12 暗灰褐色粘土　灰白橙色粘土、砂含む。
13 暗青灰砂層　暗灰青色粘土ブロック、鉄分、植物繊維含む。
14 暗青灰褐色粘土　鉄分含む。
15 黒青灰色砂礫層
16 黒灰色砂層
17 黒灰色粘質土　植物繊維多量含む。
18 暗灰色砂層　礫少量含む。
19 暗灰色砂層　礫、植物繊維、暗灰色粘土少量含む。
20 黒灰褐色砂層
21 黒灰褐色砂層
22 灰白青色砂層
23 暗灰褐色砂質土
24 黒青灰色粘土　暗灰色砂多量含む。
25 15層と同じ。
26 黒色粘土　砂含む。
27 黒灰色粘土
28 18層と同じ。　礫多量含む。
29 黒青灰褐色粘土　礫少量含む。
30 暗灰色砂礫層　鉄分多量含む。
31 27層とほぼ同じ。
32 暗灰褐色砂礫層
33 16層と同じ。

＝ 遺物包含層

0　2m

第6図　土層断面図

Ⅳ　遺構と遺物

繰り返し述べているとおり、遺構は近世の堰状遺構しか検出されていない。本遺跡の主体となる古代については多量の遺物が検出されているのみである。そこで、古代については調査区内における遺物の出土位置を時代、及び時期別に把握することとしたい。

遺物は主体となる土器のほか、土錘、滑石製模造品を対象とし、出土位置については発掘調査時に設定したグリッドをそのまま使用し、各グリッド毎に個対数をスクリーントーンで表示した。詳細については各図中に示してある。

土器は完形品の他に破片となったものも含めて、時代・時期に関係なく調査区全面から相当量出土した。実測可能で年代の分かるものは、破片でも実測し掲載した。異なるグリッド間において接合関係が認められた個体については、破片数の数や大きさなどから１つのグリッド内におさめて数えた。異なるグリッド同士とはいっても隣同士の場合が多いので影響はないだろう。なお、掲載した土器の中でも年代の判別が困難なものは個対数から除外してある。除外した土器は次のとおりである。須恵器・甕（第21図112～119、第21図126～133)、土師器・坏（第24図189・190)、土師器・手捏ね土器（第25図249・250)、土師器・甕（第31図425～428）など。これらの詳細については観察表を参照のこと。

出土した土器には上記のとおり甕などもみられるが、祭祀遺跡ということで坏・椀・皿などの食膳具がそのほとんどを占める。これらの年代は7世紀の中頃から12世紀までの所謂古代のものである。

時代・時期区分については、全部で７つに分けて示した。これは須恵器、土師器、土師質土器のうち、特に須恵器の年代を基に出土状況（つまり２，３個体が共伴して出土した状況など）も加味して設定した。なお、土師器については時間幅が広く、正確な年代を特定しにくいが、個々の形態的特徴から一般的にみられる年代で捉えることとした。

年代区分については次のとおりに分けた。まず「7世紀中頃～後半」を皮切りに、「7世紀末～8世紀初頭」、「8世紀前半～中頃」、「8世紀後半～9世紀初頭」、「9世紀前半～中頃」、「9世紀後半～10世紀初頭」、「10世紀前半以降」と区分した。なお、１世紀を初頭、前半、中頃、後半、末の５つに分けたが、初頭は第１四半期の初めまで、前半は第１四半期の終わりから第２四半期の初めまで、中頃は第２四半期の終わりから第３四半期の初めまで、後半は第３四半期終わりから第４四半期初めまで、末は第４四半期終わり頃とおおよそ捉えている。

「10世紀前半以降」については、土師質土器がその大半を占め、本来はもっと細分されるべきものであるが、何分編年が定かではないため、まとめて掲載することにした。そのため、他の区分に比べて個対数が非常に多くなってしまった。

以上の点から各区分毎にデータを提示した。力不足から土器の年代決定に多少の狂いはあると思われるが、大勢には影響ないものと思われる。なお、古代のものとして、砥石２点（第37図１・２）と瓦（第31図432～438）も出土しているが、砥石は年代判定が困難、瓦は廃棄されたものである可能性が高いため、出土状況図には入れなかった。ちなみに砥石はともに完形品、瓦はすべて破片である。詳細については観察表（第４・６表）を参照のこと。

では次項以降、各期毎にみていくこととする。

1　7世紀中頃～後半

出土状況（第7図）

出現期であるが、土器の出土量は少ない。出土位置は大きくみて調査区東のＱ～Ｓグリッド、調査区ほぼ中央のＬ・Ｍグリッド、調査区中央からやや西側のＤ～Ｊグリッドの３箇所に分けられる。このうち、Ｆ～Ｊグリッド付近は個対数が多く検出されており、後述する滑石製模造品の出土位置とも重複することとなり、合わせて同箇所が祭祀の中心と考えられる。

出土土器（第18・23・24図）

須恵器・蓋（第18図１）、土師器・坏（第23図139～141・143～147・152～160・第24図185・195・196・208）が該当する。

須恵器は蓋１点のみで、土師器を主体とする。土師器・坏は体部と底部の境に稜をもった有稜坏と、丸底で口縁部が内傾、もしくは直立する北武蔵型坏を主体とし、内面に放射状暗文の施された暗文土器もみられる。

第18図１は唯一の須恵器である。蓋。末野産で胎土が密。７世紀第３四半期に位置づけられよう。

第23図139～141・143～147・152～154は土師器・有稜坏。中でも139・140は口径が小さい点、器壁が厚い点、器高が高い点、より丸底である点などから他と比べて古層を示すものといえる。152～154は口径が大きく、口縁部が大きく外反するタイプのものである。同図155・156は口径小さく、器壁が厚い、器高が高い点などから、139・140同様、古層を示すものといえる。同図157～160は所謂北武蔵型坏で、口縁部が直立する160以外は、口縁部が内傾している。第24図185は口縁部が外に開くことや明確な稜を持たないことで他とは形態が異なるが、口縁部内面に沈線を持つ点や丸底になる点から同段階に入れた。ただし、出土位置がＲグリッドであること以外は不明なため、出土状況図には提示しなかった。

同図195・196・208は放射状暗文の施された暗文土器。焼成が非常に良好である。口縁部内面に沈線がみられ、底部は球形状を呈していることから、139・140・155・156同様、同段階でも古層を示すものといえる。

2　7世紀末～8世紀初頭

出土状況（第8図）

調査区のほぼ全面から出土しており、前段階に比べて出土量も多くみられるようになる。また、須恵器の割合も前段階に比べて多くなってくる。

出土位置は、大きくみて調査区西端のＡ～Ｃグリッド、調査区中央からやや西のＦ・Ｇグリッド、調査区ほぼ中央のＨグリッドから東側のＲグリッド、調査区東端のＴグリッドの４箇所に分けられるが、中でもＩ～Ｍグリッドにて多く出土しており、同箇所が祭祀の中心となろう。よって、前段階とは場所がやや東に移行する。

出土土器（第18・20～22・23・24図）

須恵器・蓋（第18図２～10）、坏（同図15・16）、高台付坏（第20図67）、円面硯（第21図109）、壺（同図110・125）、甕（同図111）、土師器・坏（第23図142・148～151・161～169・第24図

191・192・197～204・206・207・209・210)、皿（第24図193・194・211～214)、椀（第24図215）が該当する。

須恵器は蓋が多く、坏は少ない。また、高台の付いた坏や円面硯、壺などもみられる。土師器は前段階に引き続いて有稜坏と北武蔵型坏が主体となり、この他に皿もみられる。暗文土器は前段階よりも多くみられ、放射状暗文の施された坏・皿と螺旋状暗文の施された椀がみられる。

第18図2～10は須恵器・蓋。口縁部内面にかえりを持ち、擬宝珠つまみを有する。同図15・16は口縁部～体部がほぼ直線的に開き、やや丸底の坏、第20図67は高台付坏の高台部で所謂「出っ尻底」の類である。第21図109は唯一出土した円面硯・脚部の小破片、110は小型の壺で、口縁部と底部を欠く。ただし、図示しなかったが底部は意図的に打ち欠かれた可能性がある。同図111は甕、第22図125は壺の肩部片で、押し引いた櫛描文が施されている。須恵器は125以外すべて末野産である。

第23図142・148～151は土師器・有稜坏。底部がやや平底になる点で前段階とは区別した。中でも142は他のものと形態が異なり、後出的である。8世紀の前半と考えてもよいものであろう。同図161～169は前段階のものとは口縁部と器高の比率が大きくなる点や、底部がやや平底ぎみになってくる点から、後出的であると判断した。161～163は器高が低く口縁部が直立するタイプ、164は口縁部がやや内傾するタイプ、165・166は底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部がほぼ直立するタイプ、167は口縁部が外にやや開くタイプ、168・169は口縁部の横ナデの幅が狭いタイプである。第24図191・192は口縁部の外反が弱まり、体部と底部の境の稜も不明確になっている。前段階第23図152～154の系統である。

第24図197～204・206・207・209・210は放射状暗文が内面に施された坏。全体的に体部に指オサエの痕跡が認められ、口縁部は端部が外反するものが多い。このうち206は他とは底部形態が異なり、唯一柱状を呈している。なお、202は灯明として使用されたものである。207・209・210は口径の大きい一群。207は内面が黒色処理、210は体部外面にヘラミガキが施されている。211～214は皿で、放射状暗文が施されている。214のみ完形品。215は椀。体部外面はヘラミガキ、内面には3段の螺旋状暗文が施されているが、最下段のみ体部と底部の屈曲がきつくなることから、上半分しか描かれていない。

3　8世紀前半～中頃

出土状況（第9図）

同段階も前段階同様、調査区のほぼ全面より検出されている。個対数も前段階と同じくらいの数が検出されている。中でも多く確認されている所は、調査区のほぼ中央部分からやや西側にかけての範囲である。調査区西端においても、前段階同様、まとまった個体がみられるが、同段階においては、最も個対数の多いL－6グリッドを含むFグリッドからMグリッドまでが祭祀の中心といえる。

出土土器（第18～24・30・31図）

須恵器・蓋（第18図11・12)、坏（第18図17～23・第19図44・45・48)、高台付坏（第20図68)、椀（第21図106)、盤（同図107)、甕（第22図120・122～124)、土師器・坏（第23図170～184・188)、甕（第30図409・417・420～424）が該当する。

須恵器と土師器の割合がほぼ同じになってきており、須恵器は8世紀前半に一時衰退する末野産に代

わって南比企産のものがそのほとんどを占める。器種は蓋・坏の他に椀・盤・甕がみられる。一方、土師器も坏の他に甕や壺もみられるようになる。

第18図11・12は須恵器・蓋。蓋は前段階に比べて検出例が僅かで、しかもともに破片である。12は扁平つまみを有する。同図17～23は坏。17～20は南比企産であり、鳩山編年（渡辺　1990）に照らし合わせるとHⅡ期に比定されよう。口径＜底径×2で浅身。底部調整はみな回転ヘラ削りである。なお、18の底部外面にはヘラによる×印が付けられている。21・22は器高が高くなり、口縁部もやや内湾してくることからHⅢ期でも新しい段階に位置づけられる。23は器高が前者に比べて高いが、後者とは口縁部形態にヒアタスが認められることから両者の中間的な様相を持つ。Ⅱ期の新しい段階に位置づけられよう。同図44・45・48は坏の底部。44・48は墨書土器。ともに底部外面に書かれている。前者は不明、後者には「大」と描かれている。すべて南比企産。第20図68は高台付坏。産地は末野産の可能性が考えられる。形態からHⅡ期併行と思われる。第21図106は椀、107は盤で、ともに完形品ではないが唯一の検出例である。南比企産。第22図120・122～124は甕の口縁部。口縁部外面に120・123はタタキ目、122・124には波状文がそれぞれ施されている。これらはすべて南比企産である。

第23図170～181・第24図182～184・188は土師器・坏。ややバラツキがみられるものの、口径が13.5㎝～14.5㎝程で一定化してくる。また、体部整形に指オサエをするものが多く、底部は平底に近くなってくる。器壁も薄くなってくる。170・171は器高がやや高く、口縁部は内傾、172・173は口縁部が直立、174は口縁部がやや外に開く。175は底部から口縁部まで内湾しながらそのまま立ち上がる。173は灯明として使用されたものである。176～184は口縁部の横ナデが体～底部の境の屈曲する所まで施されるようになる。口縁部は内湾、直立、外に開いたりとさまざまであるが、器高低く、器壁も薄い。188は坏・底部。外面には墨書がみられる。解読不明。第30図409は甕の口縁部。「く」の字に近いが、ヘラ削りの方向は依然として斜位、ないし縦位である。同図417・420～422・第31図423・424は壺の口縁部である。みな器壁が厚い。なお、口縁部が短く、外に開く度合いが小さいもの、口径が胴部径よりも大きくなる、もしくはなりそうなものを壺とした。前者には417・420・421が、後者には422～424がそれぞれ当てはまる。

4　8世紀後半～9世紀初頭

出土状況（第10図）

出土数は少なく、調査区内でも散見されるのみである。大きくみて調査区西側のB～Hグリッド、ほぼ中央のJ～Lグリッド、東側のP・Qグリッドの3箇所に分けられようか。これらの中でも個対数が多く検出されているのはG・HグリッドとJ～Lグリッドであることから、前段階同様調査区のほぼ中央部分、G～Lグリッドが同段階の祭祀の中心といえよう。

出土土器（第18～20・24・25・30図）

須恵器・蓋（第18図13）、坏（第18図24～32・第19図46・65）、高台付坏（第20図69・83・84）、土師器・坏（第24図186・205・第25図225）、甕（第30図410・411・418・419）が該当する。

同段階になると須恵器と土師器の割合が完全に逆転してしまう。これは8世紀第4四半期に再び操業を開始する末野窯跡とは無関係ではなく、前段階同様、南比企産のものが主体となるが、末野産のもの

も再びみられるようになってくる。土師器は坏、甕が数点みられるのみである。

第18図13は須恵器・蓋。唯一の検出例である。器高高く、扁平なつまみを有する。末野産。ほぼ完形品である。同図24～32は坏。口径は12.5cm前後で一定化している。24・25は口径<底径×2で浅身。前者が末野産、後者が南比企産である。25はHⅣ期に比定される。26～29は口径≦底径×2で、底部は未調整で回転糸切り痕である。すべて南比企産でHV期に比定されるが、28・29は底径が小さいことからV期でも新しい段階のものであろう。器高が低く、また器壁が厚いことからHV期に入れた。30～32は24・25と26～29の中間的な様相を示すものである。第19図46は坏・底部。南比企産。第20図69・83・84は高台付坏。83・84はその底部である。69・83の底部外面にはそれぞれ「平」、「小」?の墨書がみられる。すべて南比企産。

第23図186・第24図225は土師器・坏。186はこの形態としては唯一の検出例である。口縁部～体部は直線的に外に開きながら立ち上がり、底部はやや平底状を呈する。225もこの器形としては唯一の検出例である。口縁部～体部は直線的に外に開きながら立ち上がり、口縁端部にて僅かに内湾する。体部と底部の境には明確な稜を有し、底部は平底状を呈する。なお、内面には「心提」?の墨書がある。

第23図205は放射状暗文の施された土師器・坏。205は186と同様の器形で、暗文は以前みられたものと違い、幅が細く数も多い。

第30図410・411は土師器・甕。前段階よりも口縁部が「く」の字状を呈してきており、胴部のヘラ削りも横位になる。411の口縁部には輪積痕がみられる。なお、410は摩耗が顕著なため、調整は図示不可能であった。418・419は壺。418は口縁部がわずかに外反し、419はほぼ直立する形をとる。418の口縁部には指頭圧痕、輪積痕がみられる。

5　9世紀前半～中頃

出土状況(第11図)

依然として出土数は少ないが、前段階よりは多少多くなる。出土位置はやはり調査区のほぼ全面より確認されているが、散見される程度である。大きくみて調査区西側のD・Eグリッド、調査区中央よりやや西側のG・Hグリッド、調査区ほぼ中央のJ～Nグリッド、調査区東側のQグリッド、調査区東端のUグリッドの5箇所に分けられようか。これらの中で最も多く個対数が検出されているのはD－3グリッドではあるが、同段階の祭祀の中心となるのは、やはり広い範囲で個対数が検出された調査区ほぼ中央付近ということになろうか。

出土土器(第18・19・21・24・25・30・31図)

須恵器・坏(第18図33・第19図34～37・47・49～53・66)、皿(第21図102)、高台付皿(第21図103)、ミニチュア土器(第21図108)、土師器・坏(第24図187・第25図216～224)、甕(第30図412～414)、台付甕(第31図429)が該当する。

同段階は再び土師器がみられるようになるが、主体となるのは須恵器・坏である。須恵器・坏は末野産と南比企産の両者がみられる。また、皿が新たにみられるようになる他、ミニチュア土器もみられる。蓋は検出されていない。土師器もやはり坏を主体とし、甕の他に新たに小型の台付甕もみられる。

第18図33・第19図34～37・47・49～53・66は須恵器・坏。口径が13cm前後で一定化し、口縁

部がやや外反するものが主体となる。また、全体的に器壁が薄く、器高も4cm前後で高い。33･34は9世紀第2～3四半期に位置づけられるものでともに末野産である。35は底径が大きく、器壁も厚いことからこれらの中でも古層を示す。南比企産でⅥ期でも古い段階のものである。なお、底部外面に「大来」?の墨書がある。36は底径が大きいが、口縁部がやや外反していることからみてHⅦ期に位置づけられよう。37は他と比べて小型だが、その形態や底部調整からみてHⅥ期の古段階に比定される。南比企産。47・49～53は坏の底部。49は底部外面に墨書があるが、破片であるため解読不明。66は坏・口縁部片。外面に墨書がみられるが、これも破片であるため解読不明。第21図102･103は皿、103は高台付。ともに末野産。102は内面に墨書がみられるが、半分を欠くため解読不明である。同図108は盃の形をしたミニチュア土器。口縁部形態や底部調整から9世紀前半と判断した。末野産。

第24図187・第25図216～224は土師器・坏。187は前段階186の系統で、口径が小さくなり、器高も高くなる。底部は平底に近い。216・217は平底ぎみで、体部と底部に稜をもつ。体部には軽い指オサエ、底部はヘラ削りを施している。218～224は器形のバリエーションはさまざまであるが、口縁部は横ナデ、体部は指オサエ、底部はヘラ削りを施すものである。底部はまだ完全な平底にはなっていない。222は内面に墨状のシミがみられ、底部外面には「小提」の墨書と外面同様のシミがある。223は内外面にタール状の付着物があり、灯明として使用されたものである。器形からみて218・220～222・224は9世紀前半に、219・223は中頃に位置づけられよう。第30図412～414は土師器・甕。412･413は口縁部形態が「コ」の字になる前段階のもので同段階でも古いものである。414は「コ」の字状を呈し、器壁が薄い。第31図429は台付甕の口縁部。「コ」の字状を呈する。

6　9世紀後半～10世紀初頭

出土状況（第12図）

出土数は前段階に比べて増加する。出土位置はやはり調査区のほぼ中央から西側に集中しており、最も多く検出されている所はH－5グリッドである。よって、この辺りを中心としてDグリッド～Lグリッドまでが同段階の祭祀の中心といえよう。

出土土器（第18～21・25・30図）

須恵器・蓋（第18図14）、坏（第19図38～41・54～64）、高台付椀（第20図70・71・73・74・76～82・85～90）、皿（第21図98～101）、高台付皿（第21図104・105）、土師器・坏（第25図229・233・234）、甕（第30図415）が該当する。

そのほとんどが須恵器であり、土師器は極僅かである。須恵器は坏の他に高台付椀が多数みられるようになる。産地は南比企産と末野産の両者がみられるが、圧倒的に末野産が占める。

第18図14は須恵器・蓋。天井部につまみを持たない。第19図38～41は坏。口径はまちまちであるが、口縁部が外反し、底部調整は未調整・回転糸切り痕である。器壁も薄い。同図54～64は坏・底部。調整はすべて未調整である。58･61･62は底部内面に墨書がみられ、58は渦巻き状に、61は「内」に似た字形、62は「加」と書かれている。第20図70・71・73・74・76～82・85～90は高台付椀。坏同様、口縁部が外反しているものが多いが、70･81は口縁部の外反が弱いことから、これらの中でも古層を示す。82は内面に渦巻き状の墨書がみられる。85～90は椀･高台部。第21図98～101は皿。

同図 104・105 は高台付皿である。100 は内面に墨状のシミがみられる。皿も坏・椀同様口縁部が外反している。

第 25 図 229・233・234 は土師器・坏。前段階第 25 図 218 ～ 224 の系統で、底部が平底化し、底径が小さくなる。調整技法については変わらない。第 30 図 415 は土師器・甕。口縁部～胴部片。「コ」の字口縁で、中段が膨らんでいる。

7　10世紀前半以降

出土状況（第 13 図）

出土数は増加する。ただし、最初に述べたとおり、年代の判別が困難なため、10 世紀前半以降のものすべてを一括したので、個対数は非常に多くなってしまった。出土位置は調査区東端を除いてほぼ全面より検出されているが、多量の土器が出土しているのはやはり調査区のほぼ中央から調査区西端までの範囲で、前段階とほぼ同じである。また、この中でも特にH－5グリッドからは 20 個体以上が検出されていることから同箇所がその中心といえる。

出土土器（第 19・20・22・25 ～ 31 図）

須恵器・坏（第 19 図 42・43)、高台付椀（第 20 図 72・75・91 ～ 97)、灰釉陶器・高台付皿（第 22 図 134 ～ 136)、長頸瓶（同図 137)、瓶（同図 138)、土師器・坏（第 25 図 226 ～ 228・230 ～ 232・235 ～ 248)、高台付椀（第 26 図 251 ～ 262)、土師質土器・坏（第 26 図 263 ～ 292・第 27 図 293 ～ 305)、高台付椀（第 27 図 306 ～ 327・第 28 図 328 ～ 363・第 29 図 364 ～ 369)、小皿（第 29 図 370 ～ 402)、皿（第 29 図 403 ～ 406)、蓋（第 29 図 407)、ミニチュア土器（第 29 図 408)、土師器・甕（第 30 図 416)、羽釜（第 31 図 430）が該当する。

土師質土器がほとんどであり、土師器・須恵器は少量のみである。土師質土器は、坏・高台付椀・小皿・皿・蓋・ミニチュア土器など多彩であるが、坏・高台付椀・小皿が主体となる。須恵器は坏と高台付椀のみとなる。産地は南比企産と末野産の両者がみられるが、末野産の方が多い。土師器は新たな器種として内面を黒色処理（していないものもあり)、ミガキの施された椀と、羽釜が出現する。なお、羽釜は破片 1 点のみの検出であり、主体とはならない。この他には前段階に引き続いて坏・甕がみられる。甕も羽釜同様、小破片であり主体とはならないものである。

第 19 図 42・43 は須恵器・坏。口縁部の外反は弱くなり、深身で底径小さく、器壁は厚手である。42 は南比企産。43 は末野産の可能性が考えられる。43 は口縁部外面に墨書がみられる。第 20 図 72・75・91 ～ 96 は高台付椀。72 は口縁部～体部が直線的であることから同段階としたが、口縁部の外反が強いことからやや古層を示すものである。末野産。75 は唯一全形が分かるもので、坏同様、口縁部の外反が弱く、底径小さく高台部は低い。南比企産。91 ～ 96 は椀・高台部。高台が低いことから、同段階とした。末野産が多い。なお、同図 97 は高台付椀・底部を利用したもの（底部内面中央に貫通してない孔を持つ）で、これも底径が小さいことから同段階に入れた。

第 22 図 134 ～ 136 は灰釉陶器・高台付皿。全形を知り得るのは 134 のみである。口縁部～体部が内湾することから、やや古層を示すものである。135・136 は高台部。高台部の断面形に違いがみられ、134・136 は爪先立ちしたような形態、135 は底部中央から「ハ」の字に広がる形態をしている。同図

137は長頸瓶の口縁部片。素口縁で大きく外反する。同図138は瓶の底部である。

第25図226～228・230～232・235～248は土師器・坏。前段階の第25図229・233・234の系統を引くものである。調整技法はさほど変わらないが、体部と底部の境にヘラ削りを施す点が異なる。器壁は厚くなり、口縁部～体部は直線的に立ち上がるものとS字状に屈曲するものがある。また、これらには器高の高いもの（226・228・230・235～238・240・241）と低いもの（227・231・239・242・243）の2者がみられる。後者の231については中でも更に器高が低く皿に近い形態をしている。238は灯明として使用されたものである。なお、242は出土位置が不明であり、出土状況図には入っていないものである。坏には墨書土器や線刻土器もみられ、墨書は、226が底部内面に「市」、227は底部内面に「合」？、247は口縁部～体部外面に「文」、248は口縁部～体部外面に「甲」？と書かれている。232は口縁部内面に線が描かれている。231・237・244・245・246にも墨書がみられるが破片であるため詳細については不明である。一方、線刻は230 1点のみの検出である。底部内面に2箇所刻まれている。第26図251～261は土師器・高台付椀。内面に横位のミガキを施す一群で、252・258以外は内面を黒色処理している。なお、258～260はミガキの摩耗が顕著であり、図示不可能であった。251・252・258・259は体部外面にヘラ削りをしている。262のみ高台部の形態が異なり、低く緩やかに広がる。

第26図263～292・第27図293～305は土師質土器・坏。全体的に厚手で、口縁部は外反、体部は内湾する。底部は未調整が多く、器高は高い。これらはその形態からいくつかのタイプに分けることが可能である。263・264は器高が低く、口縁部外反し、体部は内湾するタイプ。263は小皿としてもいいものかもしれない。265は小型品。266～271は底径が大きく、ロクロのノタ目が残存しないタイプ。272は口縁部～体部がやや内湾しながら立ち上がるタイプで1点のみの検出である。273～287は口縁部で大きく外反するタイプ。288・289はほぼ直線的に開きながらも中段でやや膨らむタイプである。290～292は坏・口縁部。292は264と同一個体と思われるが、接合関係は認められなかったので、個対数は別々に数えてある。293～305は坏・底部。底部だけみてもバラエテイーがある。墨書は7点が検出されている。264は口縁部外面に草書体で書かれているが、解読不明である。なお、同一個体と思われる292についても破片であるため、詳細は不明である。280は口縁部外面に「甲」が横方向に、また底部内面には線が3本描かれている。288は口縁部外面に記号のような墨書がみられる。290は口縁部内面に「子」、305は底部内面に「西」の文字があり、さらにその下に続く文字の先端がみえるが詳細は不明である。291は外面に十字状の文字が書かれている。第27図306～327・第28図328～369は土師質土器・高台付椀。坏同様、口縁部外反、体部内湾は変わらないが、形態にはバラエテイーがみられる。底部調整は高台部貼付け後回転ヘラナデをするものが多い。306は器形が須恵器・椀に似たタイプ。307～309は体部の内湾が弱く、口縁部がやや外反するタイプ。高台部は低い。310～315は体部内湾し、口縁部はやや外反するタイプ。器高高く、高台部も高いものが多い。316～327は体部内湾し、口縁部は大きく外反する。器高の低いタイプ。318は体部の内湾が他と比べて弱い。324は体部の内湾が稜をもって屈曲する。327は口縁部も欠くが、口縁部の外反が強いことからこのタイプとした。328～331は口縁部～体部が直線的に開くタイプ。ただし、328・329は体部に段をもつが、330・331は高台接合部から直線的に開くものである。332～337は体部内湾し、口縁部が直線的に開くタイプである。器高は低い。338～369は椀の高台部である。形態はさまざまであるが、高く「ハ」の字に開くものが

多い。338は底部外面に円形状に刺突列がある。墨書はほとんどみられないが、高台部片から３点のみ検出されている。339は底部内面に弧状に描かれた線がみられ、341は底部外面に解読不明の文字がみられる。368は破片なので全形は知り得ないが、底部内面に「へ」の字状の墨書がみられる。第29図370～402は土師質土器・小皿。小皿も形態にバラエテイーがみられる。底部調整は未調整が多い。墨書はみられなかった。370～374は口縁部外反、体部は内湾し、底部が円柱状を呈するタイプである。375は器高が低く、口縁部～体部が外に大きく開くタイプ。376～378は体部内湾し、口縁部が直線的に立ち上がるタイプ。器壁が薄い。379～382は口縁部～体部が内湾しながら立ち上がるタイプ。383～389は口縁部～体部の中段で稜があるタイプ。390～393は体部が外反し、底部がやや円柱状になるもので、370他の円柱状とは異なるタイプのものである。394～396は口縁部～体部があまり開かずに直線的に立ち上がるタイプで、底径も大きい。396は残りは良くないが、口縁端部にタール状の付着物がみられ、灯明として使用されたものである。397・398は体部内湾し、口縁部は直線的に立ち上がるものであるが、器壁が厚く、器高が低いタイプ。399～402は口縁部～体部が外反しながら立ち上がるタイプ。第29図403～406は皿。器形は坏・高台付椀同様さまざまであるが、底部調整はすべて回転ヘラナデが施されている。403は口縁部～体部がほぼ直線的に立ち上がるタイプ。404･405は口縁部～体部が内湾しながら立ち上がるタイプ。406は体部内湾し、口縁部がやや外反するタイプである。第29図407は蓋。唯一の検出例である。胎土、製作技法からみて土師質土器と判断した。第29図408はミニチュア土器。これも唯一の検出例である。底部調整は回転ヘラナデである。

第30図416は土師器･甕。口縁部～胴上部の小破片である。口縁部が短くなり、甕の末期的な形態。

第30図430は土師器・羽釜。これも口縁部～胴上部の小破片である。やや小型のものである。

8　土　錘

出土状況（第14図）

調査区のほぼ全面より検出されているが、やはり土器同様、調査区のほぼ中央から西端にかけて多数検出されている。土錘は年代を割り出すのは困難なので、その形態からタイプ別に大きくＡＢＣＤの４つに分けて、その出土状況をみていくこととした。

Ａタイプは最も小さいもので、長さ２cm以上５cm未満で最大厚が１cm前後のもの、Ｂタイプは長さがＡタイプとあまり変わらないものもあるが総じてＡタイプよりも長く、最大厚が１cm以上1.5cm未満のもの、Ｃタイプは長さはそれぞれ違いがあるものの最大厚が1.5cm前後2.0cm未満のもの、、Ｄタイプは上記以外の大型のものを一括して扱った。

出土した土錘は全部で209個である。タイプ別に数えると、まずＡタイプは113個、Ｂタイプは26個、Ｃタイプは65個、Ｄタイプは５個で、最も多く出土したのはＡタイプである。

出土位置をみてみると、まずＡタイプは調査区のほぼ全面から出土しているが、まとまって出土した所はＣ－２グリッド付近、Ｅ－３グリッド付近、Ｈ－４グリッド付近、Ｋ・Ｌ－６グリッドの計４箇所である。Ｂタイプは、調査区の西端、Ｂ・Ｃ－２グリッドにて集中して出土しているほか調査区のほぼ中央付近にて散見されるのみである。Ｃタイプは、調査区の中央から西側にかけて多数出土しているが、中でもＤ～Ｇグリッドにかけてがまとまって出土している。Ｄタイプは出土数が少なく、かつ大型品を

一括して扱ったのでデータとして有効かどうかは定かではないが、調査区でも西側のC・Dグリッドにて集中して検出されている。

土錘（第32～37図）

検出された土錘はすべて実測し掲載した。以下、タイプ別にその特徴を記す。なお、平均値を示したが、最大長と重量は完形品のみで、最大幅については完形品でなくても算出可能なのものもみられるのでそれらを含めてそれぞれ算出した。

Aタイプは、最大長約3.7㎝、最大幅約0.9㎝、重量約3.2ｇが平均値である。形態は管玉のような形をしたものと両端がすぼまり、中段が膨れるものの２つがみられる。後者には形が多少いびつなものも含まれる。

Bタイプは、最大長約5.5㎝、最大幅約1.2㎝、重量約8.6ｇが平均値である。形態はAタイプ同様、２つの形態がみられるが、後者が圧倒的に多い。

Cタイプは、最大長約6.0㎝、最大幅約1.7㎝、重量約16.9ｇが平均値である。形態はA・Bタイプ同様、２つの形態がみられるが、後者が圧倒的に多い。

Dタイプは、個々によって形態、大きさが異なるため平均値はださないが、最も大きいものは第32図17で最大長9.4㎝、最大幅4.3㎝、重量は179ｇを測る。

個々の詳細については、観察表（第３表）を参照のこと。

9　滑石製模造品

出土状況（第15・16図）

１にて述べたとおり、滑石製模造品は調査区内でも出土位置がかなり集中している。検出されたのはD～HグリッドとKグリッドの２箇所あるが、後者からは１つしか検出されていないため、前者が中心となる。中でもFグリッドにて多数集中して検出されており、同箇所がその中でも中心となる。ただし、土器・土錘もそうだが、今回の調査にあたっては、調査区の中央部分が既に掘削を受けてしまっていたため、本来はもっと多数存在したと推測される。

Fグリッド付近は７世紀中頃～後半にかけての土器が多数出土しており、同段階においては同箇所が祭祀の中心であったと考えられることから、滑石製模造品もこれらの土器に伴うものと思われる。

滑石製模造品（第38～41図）

滑石製模造品は全部で67個が検出されている。人形、馬形、櫛形、剣形、有線円板形、有孔円板形、勾玉形などがみられ、この他にも「不明」としたが、おそらく何らかの一部分と考えられるものも検出されている。掲載した滑石製模造品は、完形のものと一部分のみのものがあり、ほとんどのものは研磨されているが、剣形、有孔円板形に限っては研磨の施されていないものもごく一部みられる。なお、掲載したもの以外で図示不可とした一群については、小片であることから検出数のみを表に記載した。

第38図１～３は人形で、３点が検出されている。１は中でも大きいもので、完形品。２は割れ口から下部を欠くものと思われる。３は下部が短く、しかもいびつであるが、端部が尖っていることから完形品と判断した。すべてに全面丁寧な研磨が施されている。

同図４～11は馬形。８点が検出されている。馬形はその形態からバリエーションがさまざまである。

大きさもさまざまで小型のもの（4～7）と大型のもの（8～11）がみられる。4～6・9・10は完形品。7は顔の一部、8・11は首から胴にかけての部分である。すべて全面丁寧な研磨が施されている。

第39図12～17は櫛形である。全部で6点出土している。形態は横に長くかまぼこ状の形をしたもの（12・13・17）とやや小振りで小判状の形をしたもの（14～16）の2つがみられる。櫛は横長の櫛で線を刻んで表現しており、このうち15は縦線のみで表現されており、横線が省略されたものである。櫛形はFグリッドからの出土が多い。12・13・16・17は完形品。14は端部分、15は半分をそれぞれ欠く。全面丁寧な研磨が施されている。

同図18～22は剣形。5点が検出されている。前述のとおり剣形は研磨されたもの（18・19・21）とそうでないもの（20・22）の2つがみられる。形態もさまざまで決まった形態は持っていない。みな完形品であると思われる。

第40図23～29は有線円板形。「円板」といっても円に近い形のものもみられる。7点が検出されている。線の数はまちまちであるが、十字に斜め線を入れる4本からなるものが主体となり、表裏両面に描かれる。25・26・28は完形品。23・27は一部を欠き、24は半分、29はその大部分をそれぞれ欠く。すべて研磨されているが、28は特に丁寧な研磨が施されている。

同図30～39・第41図40～46は有孔円板形。滑石製模造品のうち、最も多く検出されている。形態もさまざまで、これも有線円板形同様、「円板」としたが実際には円でないものもみられる。大きさもまちまちであるが、概して長辺が3㎝前後のものが多い。なお、全面研磨されているもの（30・31・34・36～41・43・44）がほとんどであるが、剣形同様、研磨せずに自然面をそのまま利用し、孔を空けたもの（45・46）もみられる。また、前者には一部のみを研磨するもの（32・33・35・42）もある。前者のうち、全面研磨された一群は薄く平べったいが、一部の研磨が施されるものと研磨しない一群については厚い。30・33～39・41・45・46は完形品。31・32・42・43・44は孔を含む半分を欠く。40は孔は残存するが、約1/3を欠く。

第41図47・48は勾玉形。48は非常に大きいもので、長辺で8.1㎝を計る大型品である。ともに完形品で、全面研磨されている。

第41図49～58は不明とした一群。そのほとんどが破片である。49～52は断面が隅丸の四角形状の細長い棒状を呈しており、全面丁寧な研磨が施されている。人形、ないし馬形の一部であろうか。53は自然面を残す。短くて幅があるが剣形か。54は円形状を呈している。有線円板形か有孔円板形の一部か。55は研磨は施されていないが、左右対称になっている。完形品かどうかは不明である。56は半分を欠く。刻線はないが、櫛形の一部であろうか。57は、大部分が自然面を残すが、右側のみ直線的に加工されている。58は断面が三角形状を呈する棒状のものである。上部を欠く。

10　その他

縄文時代（第42図1～5）

遺構は検出されていないが、縄文時代中・後期の土器片が数点出土している。検出された土器片はすべて深鉢形土器（以下、深鉢）の破片である。

第42図1は弧状に巡る隆帯を貼り付けた深鉢・口縁部片。縄文時代中期後半・加曽利ＥⅠ式。2は

深鉢・胴部片。外面に縦位の条線が施文されている。縄文時代中期。３は深鉢・口縁部片。口縁部に沿って走る平行沈線間に刺突・ＲＬ単節縄文を充填する。外面無文部と内面にはやや粗い研磨が施されている。縄文後期前半・堀ノ内Ｉ式。４は深鉢・胴部片。縦・斜位に走る平行沈線間にＲＬ単節縄文を充填する。外面無文部と内面は研磨ではなく、ナデが施されている。縄文時代後期前半・堀ノ内Ⅱ式。５は深鉢・口縁部片。折り返した口縁部は横位のナデが施され、以下撚糸文が施文されている。縄文時代後期。

弥生時代（第 42 図６～８）

弥生時代も遺構は検出されていない。土器片のみが数点確認されているだけである。土器片はいずれも弥生時代後期の吉ヶ谷式で甕形土器（以下、甕）である。いずれのものにも外面に細かいＲＬ単節縄文が施文されている。

第 42 図６・７は甕の胴部でも底部に近い胴下部の破片である。８は口縁部下の括れる頸部から再び膨らみ始める胴上部の破片である。

古墳時代（第 42 図９～ 11）

古墳自体は検出されておらず、円筒埴輪の破片が数点検出されているのみである。

第 42 図９～ 11 はすべて円筒埴輪で、横位の突帯・縦位のハケ目が施されている。突帯は低く、９・11 は角が丸みを帯びている。胎土に白色粒を含み、にぶい褐色、ないし橙色をしている。

中世（第 42 図 19 ～ 23・27・28）

遺構はみられない。該当する遺物には古銭と板碑があり、調査区東側からの検出が多い。

第 42 図 19 ～ 23 は古銭。詳細については観察表（第 12 表）参照のこと。みな完形品である。

同図 27・28 は板碑で、ともに石材は緑泥片岩である。残存状態は悪く、一部分のみの検出である。

近世（第 17 図・第 42 図 12 ～ 18・24 ～ 26・第 43 図 29 ～ 31）

今回の調査で唯一遺構の検出がみられたのが近世である。遺構は木材を使用した堰状遺構で計４基が確認された（第 17 図）。

多少くずれかけてはいたものの、加工した木材を使用して組んだ状態で確認されたのは４基のみであった。検出されたのはＨ・Ｉ－４グリッド、Ｋ・Ｌ－５グリッド、Ｑ－７グリッド、Ｒ－６グリッドの計４箇所においてである。ただ、加工された木材が単独で確認された箇所も調査区内においていくつか確認されているので（第 17 図右下参照）、本来はもっと多く存在していたと思われる。

近世の遺物には陶磁器・古銭・石臼などがみられ、中世同様、調査区の東側からの検出が多い。

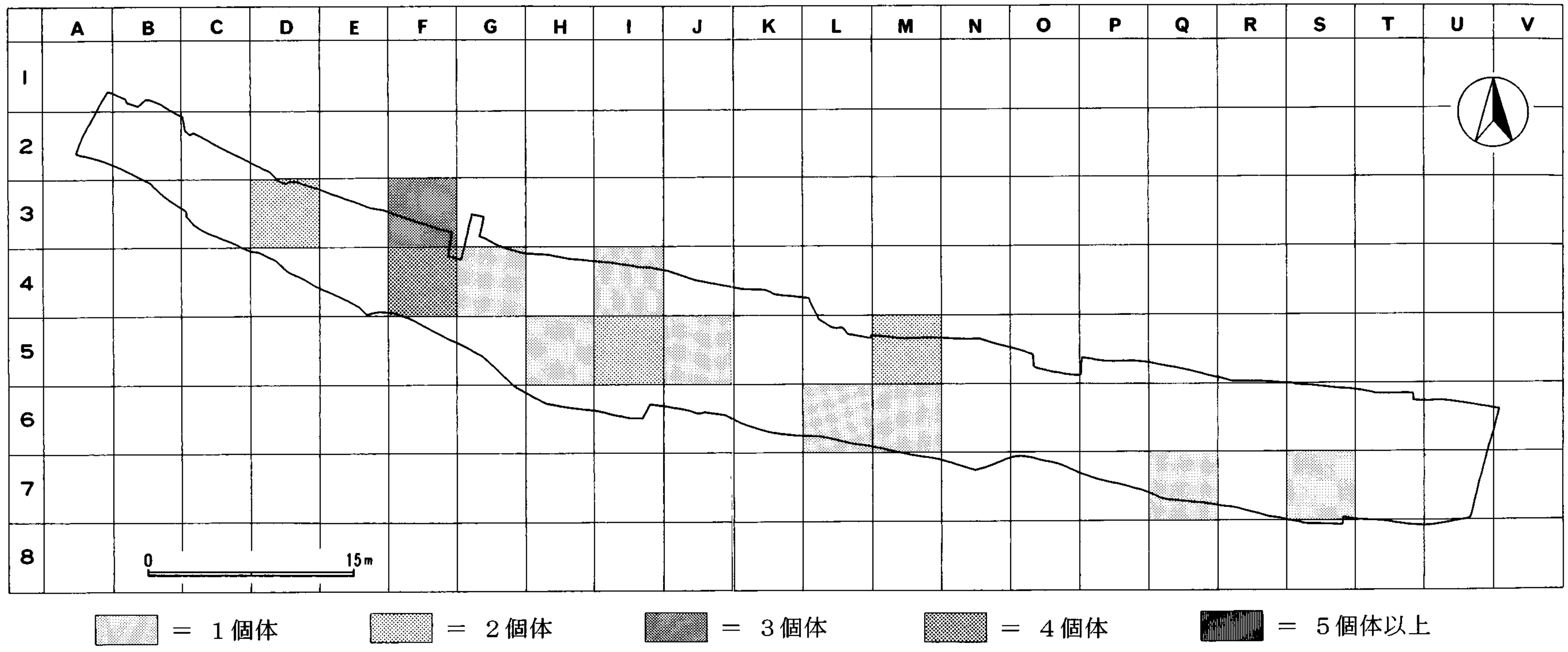
第 42 図 12 ～ 17 は陶器である。12 ～ 14 は徳利の破片。12・13 は外面に釉薬がかかっている。14 は底部外面に墨書がみられる。15 ～ 17 は皿。これらも釉薬がかかっている。15 は内面に３つの燭台と思われる痕跡がみられる。すべて胎土が緻密である。

第 42 図 18 は磁器・獣脚部。

第 42 図 24 ～ 26 は古銭。すべて新寛永通宝である。完形品は 26 のみである。

第 43 図 29 ～ 31 は石臼。29 は下部分で、30・31 は上部分である。すべて半分を欠いている。

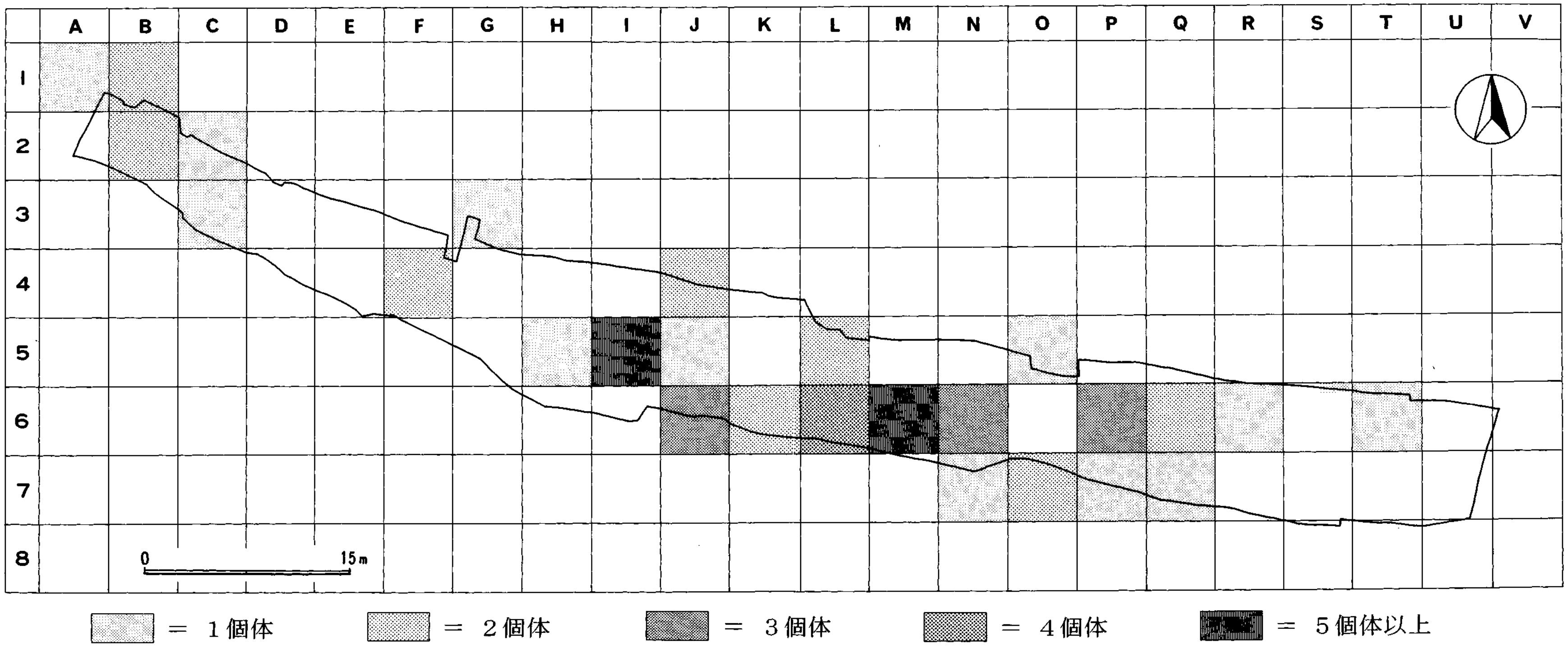
７世紀中頃～後半・土器出土状況



1　須恵器・坏（J－5Grid）
139 土師器・坏（F－4Grid）
140 土師器・坏（F－3Grid）
141 土師器・坏（G－4Grid）
143 土師器・坏（F－4Grid）
144 土師器・坏（F－4Grid）
145 土師器・坏（I－5・6Grid）
146 土師器・坏（I－4Grid）
147 土師器・坏（I－5Grid）
152 土師器・坏（M－5Grid）
153 土師器・坏（M－5Grid）
154 土師器・坏（Q－7Grid）
155 土師器・坏（D－3Grid）
156 土師器・坏（H－5Grid）
157 土師器・坏（D－3Grid）
158 土師器・坏（F－3Grid）
159 土師器・坏（L－6Grid）
160 土師器・坏（M－6Grid）
185 土師器・坏（RGrid）
195 土師器・坏（F－4Grid）
196 土師器・坏（F－3Grid）
208 土師器・坏（S・T・U－7Grid）

第７図　７世紀中頃～後半・土器出土状況図

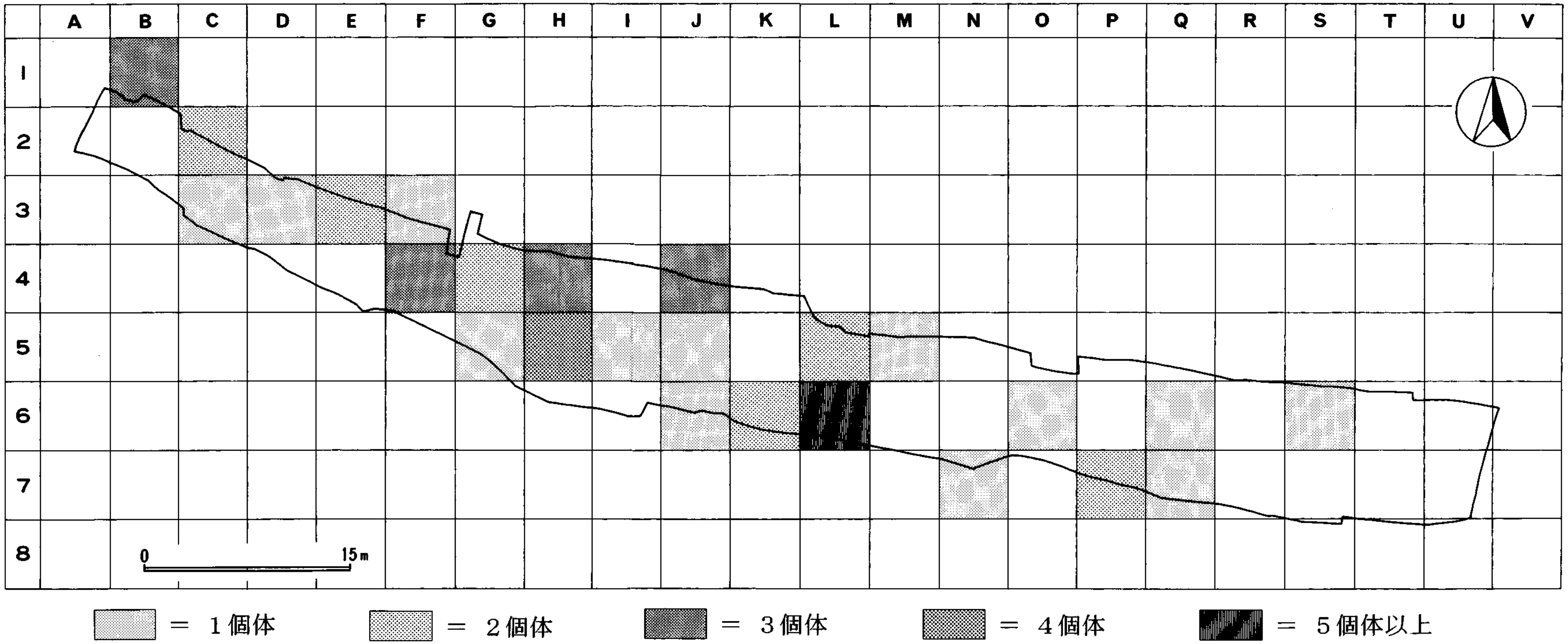
7世紀末～8世紀初頭・土器出土状況



2 須恵器・蓋 (H−5Grid)
3 須恵器・蓋 (I−5Grid)
4 須恵器・蓋 (B−1Grid)
5 須恵器・蓋 (I−5・6Grid)
6 須恵器・蓋 (J−4Grid)
7 須恵器・蓋 (L−5Grid)
8 須恵器・蓋 (N−6Grid)
9 須恵器・蓋 (O−7Grid)
10 須恵器・蓋 (Q−6Grid)
15 須恵器・坏 (I−5Grid)
16 須恵器・坏 (J−6Grid)
67 須恵器・高台付坏 (L−6Grid)
109 須恵器・円面硯 (B−2Grid)
110 須恵器・壺 (B−2Grid)
111 須恵器・甕 (C−2Grid)
125 須恵器・壺 (B−1Grid)
142 土師器・坏 (C−3Grid)
148 土師器・坏 (J−6Grid)
149 土師器・坏 (L−6Grid)
150 土師器・坏 (N−6Grid)
151 土師器・坏 (P−5・6Grid)
161 土師器・坏 (I−5Grid)
162 土師器・坏 (O・P−6Grid)
163 土師器・坏 (P−7Grid)
164 土師器・坏 (F−4Grid)
165 土師器・坏 (K−6Grid)
166 土師器・坏 (P−6Grid)
167 土師器・坏 (G−3Grid)
168 土師器・坏 (J−6Grid)
169 土師器・坏 (N−6Grid)
191 土師器・坏 (Q−6Grid)
192 土師器・坏 (R−6Grid)
193 土師器・皿 (A−1Grid)
194 土師器・皿 (O−7Grid)
197 土師器・坏 (F−4Grid)
198 土師器・坏 (F−4Grid)
199 土師器・坏 (J−5Grid)
200 土師器・坏 (L−6Grid)
201 土師器・坏 (L・M−5・6Grid)
202 土師器・坏 (M−6Grid)
203 土師器・坏 (M−6Grid)
204 土師器・坏 (F−4Grid)
206 土師器・坏 (M−6Grid)
207 土師器・坏 (J−4Grid)
209 土師器・坏 (N−7Grid)
210 土師器・坏 (Q−7Grid)
211 土師器・皿 (L−5Grid)
212 土師器・皿 (M−6Grid)
213 土師器・皿 (O・P−6Grid)
214 土師器・皿 (T−6Grid)
215 土師器・椀 (K−6Grid)

第8図　7世紀末～8世紀初頭・土器出土状況図

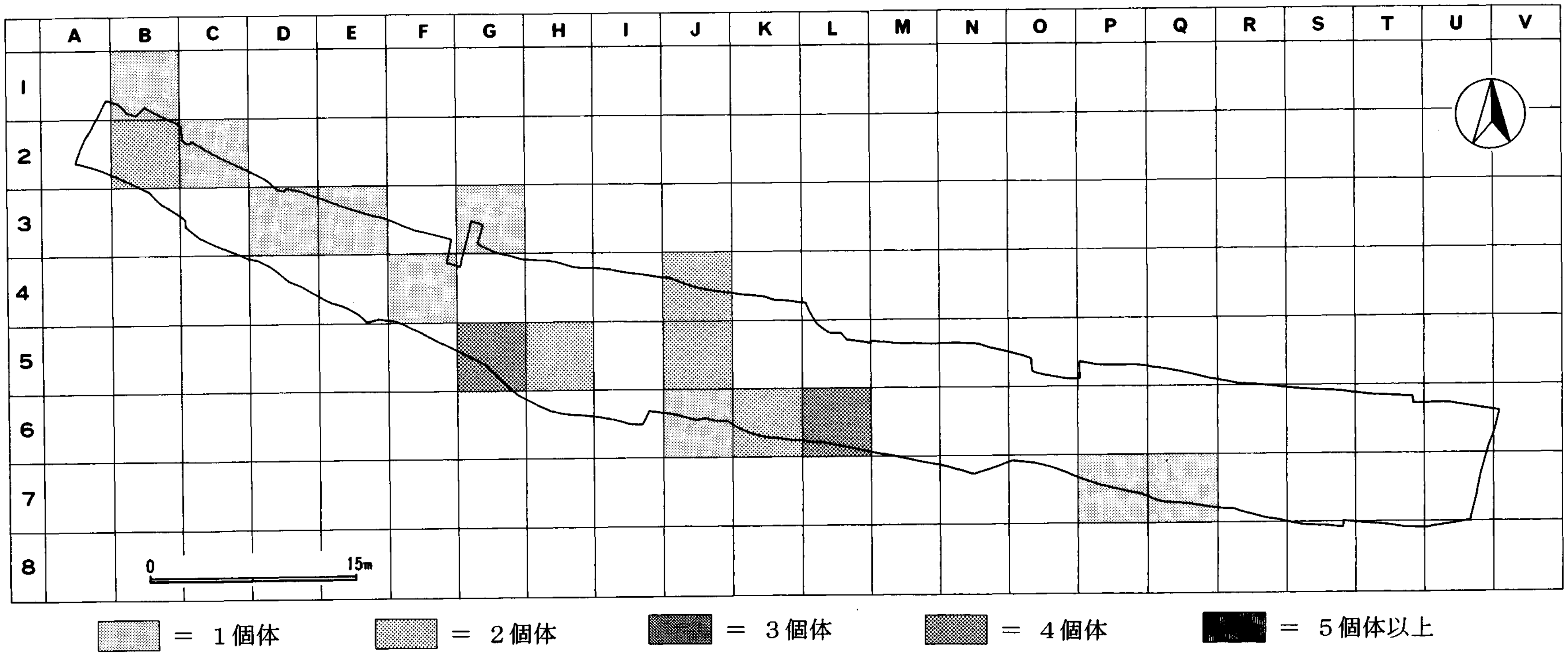
8世紀前半～中頃・土器出土状況



11	須恵器・蓋	(L−6Grid)	68	須恵器・高台付坏	(P−7Grid)	174	土師器・坏	(D−3Grid)	188	土師器・坏 (E−3Grid)
12	須恵器・蓋	(S−6Grid)	106	須恵器・椀	(I−5Grid)	175	土師器・坏	(E−3Grid)	409	土師器・甕 (B−1Grid)
17	須恵器・坏	(C−2Grid)	107	須恵器・盤	(H−5Grid)	176	土師器・坏	(F−4Grid)	417	土師器・壺 (B−1Grid)
18	須恵器・坏	(H−4Grid)	120	須恵器・甕	(B−1Grid)	177	土師器・坏	(F−3Grid)	420	土師器・壺 (L−6Grid)
19	須恵器・坏	(H−5Grid)	122	須恵器・甕	(H−5Grid)	178	土師器・坏	(J−4Grid)	421	土師器・壺 (M−5Grid)
20	須恵器・坏	(J−6・K−4・5Grid)	123	須恵器・甕	(H−5Grid)	179	土師器・坏	(J−4Grid)	422	土師器・壺 (L−6Grid)
21	須恵器・坏	(G−5Grid)	124	須恵器・甕	(L−5Grid)	180	土師器・坏	(K−6Grid)	423	土師器・壺 (L・M−6Grid)
22	須恵器・坏	(L−6Grid)	170	土師器・坏	(C−2Grid)	181	土師器・坏	(L−6Grid)	424	土師器・壺 (N−7Grid)
23	須恵器・坏	(Q・R−6Grid)	171	土師器・坏	(G−4Grid)	182	土師器・坏	(L−6Grid)		
44	須恵器・坏	(L−5Grid)	172	土師器・坏	(H−4Grid)	183	土師器・坏	(O−6・7Grid)		
45	須恵器・坏	(Q−7Grid)	173	土師器・坏	(H−4Grid)	184	土師器・坏	(P−7Grid)		

第9図　8世紀前半～中頃・出土状況図

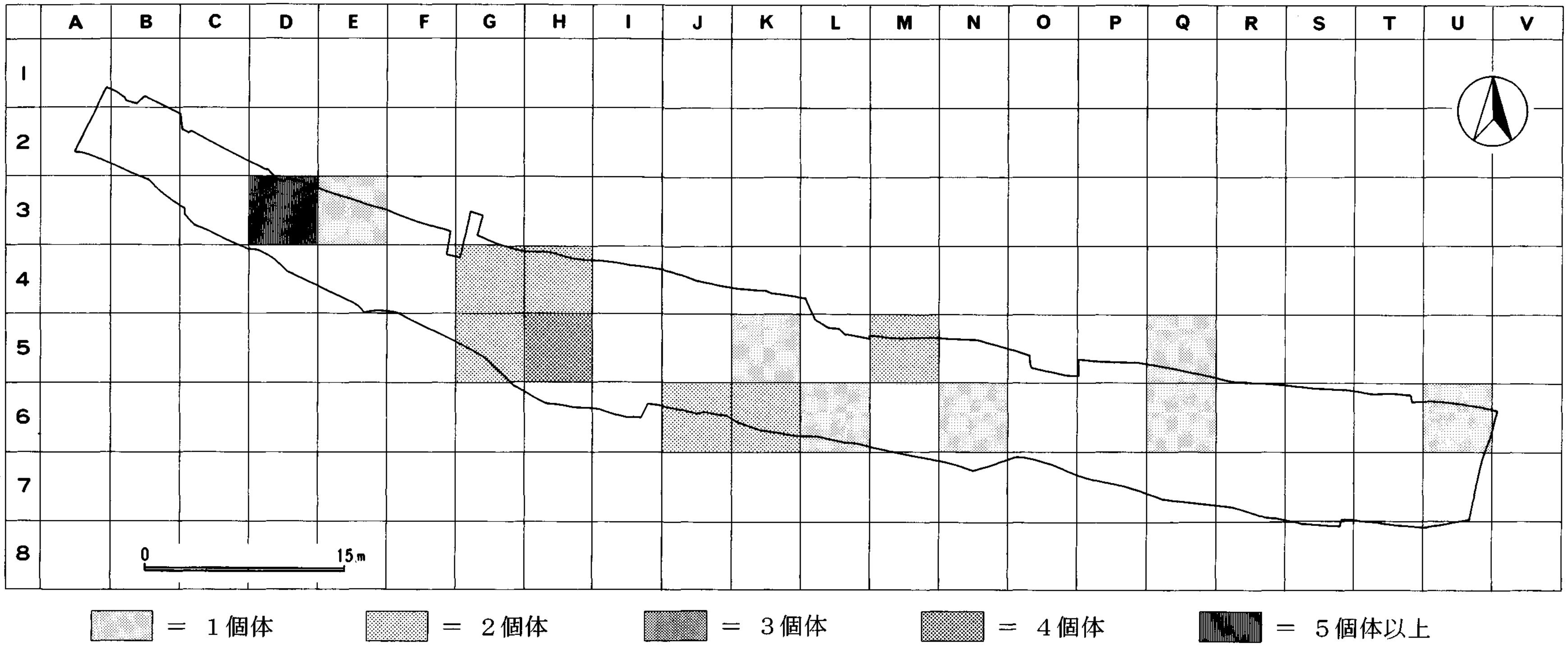
８世紀後半～９世紀初頭・土器出土状況



13	須恵器・蓋	(B－1・2Grid)
24	須恵器・坏	(B－1Grid)
25	須恵器・坏	(B－2Grid)
26	須恵器・坏	(G－5Grid)
27	須恵器・坏	(G－5Grid)
28	須恵器・坏	(H－5Grid)
29	須恵器・坏	(H－5Grid)
30	須恵器・坏	(J－5・6Grid)
31	須恵器・坏	(K－6Grid)
32	須恵器・坏	(E－3Grid)
46	須恵器・坏	(C－2Grid)
65	須恵器・坏	(Q－7Grid)
69	須恵器・高台付坏	(L－6Grid)
83	須恵器・高台付坏	(G－5Grid)
84	須恵器・高台付坏	(J－4Grid)
186	土師器・坏	(D－3Grid)
205	土師器・坏	(J－5Grid)
225	土師器・坏	(L－6Grid)
410	土師器・甕	(G－5Grid)
411	土師器・甕	(J－6Grid)
418	土師器・甕	(G－3Grid)
419	土師器・甕	(L－6Grid)

第10図　８世紀後半～９世紀初頭・土器出土状況

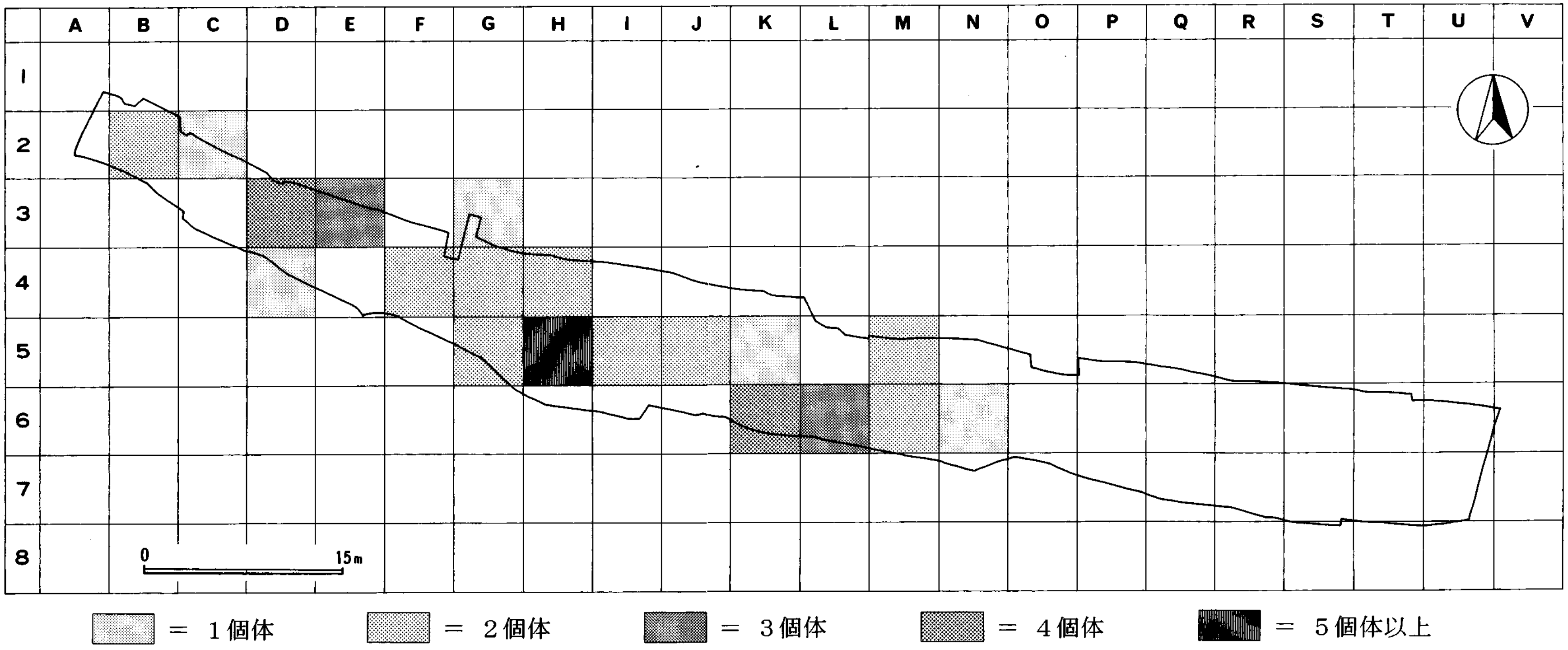
９世紀前半〜中頃・土器出土状況



33 須恵器・坏（D−3Grid）	102 須恵器・皿　（L・M−5Grid）	224 土師器・坏　（K−6Grid）
34 須恵器・坏（G−5Grid）	103 須恵器・台付皿（D−3Grid）	412 土師器・甕　（K−6Grid）
35 須恵器・坏（H−4Grid）	108 須恵器・ミニチュア（D−3Grid）	413 土師器・甕　（L−6Grid）
36 須恵器・坏（H−4Grid）	187 土師器・坏　（M−5Grid）	414 土師器・甕　（E−3Grid）
37 須恵器・坏（G−5Grid）	216 土師器・坏　（G−4Grid）	429 土師器・台付甕（Q−7Grid）
47 須恵器・坏（G−4Grid）	217 土師器・坏　（K−6Grid）	
49 須恵器・坏（J−6Grid）	218 土師器・坏　（D−3Grid）	
50 須恵器・坏（J−6Grid）	219 土師器・坏　（D−3Grid）	
51 須恵器・坏（K−5Grid）	220 土師器・坏　（G−4Grid）	
52 須恵器・坏（Q−6Grid）	221 土師器・坏　（H−5Grid）	
53 須恵器・坏（U−6Grid）	222 土師器・坏　（H−4Grid）	
66 須恵器・坏（N−6Grid）	223 土師器・坏　（K−5Grid）	

第11図　９世紀前半〜中頃・土器出土状況

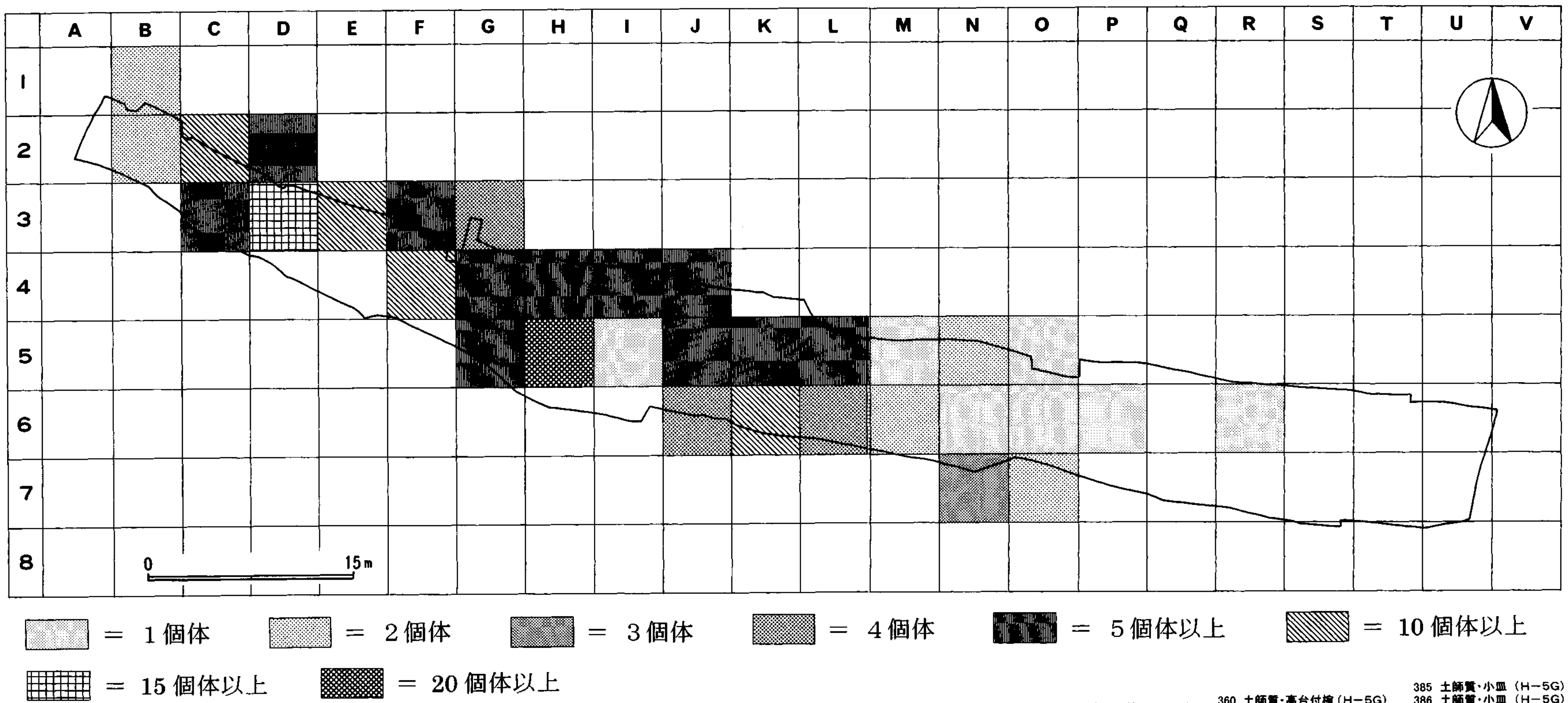
９世紀後半～10 世紀初頭・土器出土状況



14 須恵器・蓋 （L－6Grid）
38 須恵器・坏 （B－2Grid）
39 須恵器・坏 （G－5Grid）
40 須恵器・坏 （H－5Grid）
41 須恵器・坏 （H－5Grid）
54 須恵器・坏 （B－1・2Grid）
55 須恵器・坏 （D－3Grid）
56 須恵器・坏 （D－4Grid）
57 須恵器・坏 （G－3Grid）
58 須恵器・坏 （G－4Grid）
59 須恵器・坏 （H－4Grid）
60 須恵器・坏 （Ｉ－5・6Grid）
61 須恵器・坏 （J－5Grid）
62 須恵器・坏 （K－5Grid）
63 須恵器・坏 （M－6Grid）
64 須恵器・坏 （N－6Grid）
70 須恵器・高台付椀 （C－2Grid）
71 須恵器・高台付椀 （E－3Grid）
73 須恵器・高台付椀 （F－4Grid）
74 須恵器・高台付椀 （F－4Grid）
76 須恵器・高台付椀 （G－4Grid）
77 須恵器・高台付椀 （G・H－5Grid）
78 須恵器・高台付椀 （H－5Grid）
79 須恵器・高台付椀 （J－5Grid）
80 須恵器・高台付椀 （K－6Grid）
81 須恵器・高台付椀 （L－6Grid）
82 須恵器・高台付椀 （L－6Grid）
85 須恵器・高台付椀 （H－5Grid）
86 須恵器・高台付椀 （K－6Grid）
87 須恵器・高台付椀 （D－3Grid）
88 須恵器・高台付椀 （D－3Grid）
89 須恵器・高台付椀 （Ｉ－5・6Grid）
90 須恵器・高台付椀 （M－6Grid）
98 須恵器・皿 （H－5Grid）
99 須恵器・皿 （K－5Grid）
100 須恵器・皿 （M－5Grid）
101 須恵器・皿 （L－6Grid）
104 須恵器・高台付皿 （E－3Grid）
105 須恵器・高台付皿 （H－4Grid）
229 土師器・坏 （D－3Grid）
233 土師器・坏 （E－3Grid）
234 土師器・坏 （G－5Grid）
415 土師器・甕 （K・L－6Grid）

第12図　９世紀後半～10世紀初頭・土器出土状況

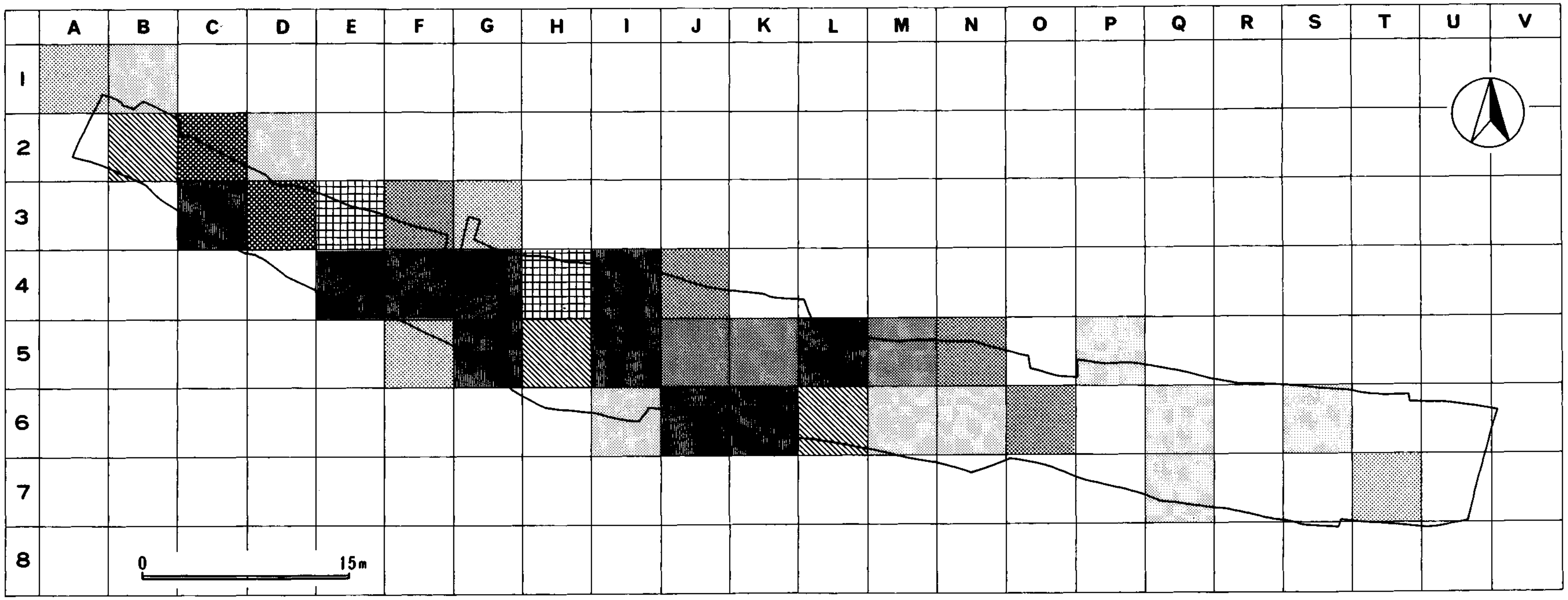
10 世紀前半以降・土器出土状況



42 須恵器・坏 (K−6G)
43 須恵器・坏 (L−6G)
72 須恵器・高台付椀 (E−3G)
75 須恵器・高台付椀 (F−3G)
91 須恵器・高台付椀 (C−2G)
92 須恵器・高台付椀 (C−2G)
93 須恵器・高台付椀 (E−3G)
94 須恵器・高台付椀 (G−3G)
95 須恵器・高台付椀 (K−6G)
96 須恵器・高台付椀 (L−6G)
134 灰釉陶器・高台付皿 (L−6G)
135 灰釉陶器・高台付皿 (H−5G)
136 灰釉陶器・高台付皿 (L−6G)
137 灰釉陶器・長頸瓶 (H−5G)
138 灰釉陶器・瓶 (N−7G)
226 土師器・坏 (B−1G)
227 土師器・坏 (C−2G)
228 土師器・坏 (C−2G)
230 土師器・坏 (D−3G)
231 土師器・坏 (D−3G)
232 土師器・坏 (G−5G)
235 土師器・坏 (H−4G)
236 土師器・坏 (J−6G)
237 土師器・坏 (J−4G)
238 土師器・坏 (K−5G)
239 土師器・坏 (K−6G)
240 土師器・坏 (K−6G)
241 土師器・坏 (K−5・6G)
242 土師器・坏 (不 明)
243 土師器・坏 (O−7G)
244 土師器・坏 (C−2G)
245 土師器・坏 (K−6G)
246 土師器・坏 (K−6G)
247 土師器・坏 (L−5G)
248 土師器・坏 (N−6G)
251 土師器・高台付椀 (C−2G)
252 土師器・高台付椀 (D−3G)
253 土師器・高台付椀 (F−4G)
254 土師器・高台付椀 (G−4G)
255 土師器・高台付椀 (G−5G)
256 土師器・高台付椀 (I−4G)
257 土師器・高台付椀 (J−4G)
258 土師器・高台付椀 (L−5G)
259 土師器・高台付椀 (N−7G)
260 土師器・高台付椀 (C−3G)
261 土師器・高台付椀 (H−5G)
262 土師器・高台付椀 (H−5G)
263 土師質土器・坏 (K−6G)
264 土師質・坏 (M−6G)
265 土師質・坏 (B−1G)
266 土師質・坏 (C−3G)
267 土師質・坏 (C−3G)
268 土師質・坏 (F−4G)
269 土師質・坏 (H−4G)
270 土師質・坏 (H−5G)
271 土師質・坏 (J−5G)
272 土師質・坏 (F−3G)
273 土師質・坏 (C−2G)
274 土師質・坏 (C−2G)
275 土師質・坏 (D−2G)
276 土師質・坏 (D−3G)
277 土師質・坏 (E−3G)
278 土師質・坏 (E−3G)
279 土師質・坏 (E−3G)
280 土師質・坏 (E−3G)
281 土師質・坏 (G−3G)
282 土師質・坏 (H−4G)
283 土師質・坏 (H−4G)
284 土師質・坏 (H−5G)
285 土師質・坏 (H−5G)
286 土師質・坏 (J−4G)
287 土師質・坏 (J−5G)
288 土師質・坏 (G−4G)
289 土師質・坏 (L−5G)
290 土師質・坏 (E−3G)
291 土師質・坏 (K−5G)
292 土師質・坏 (L・M−6G)
293 土師質・坏 (F−4G)
294 土師質・坏 (G−4G)
295 土師質・坏 (G−5G)
296 土師質・坏 (H−5G)
297 土師質・坏 (H−5G)
298 土師質・坏 (H−4G)
299 土師質・坏 (H−5G)
300 土師質・坏 (I−4G)
301 土師質・坏 (I−5G)
302 土師質・坏 (J−5G)
303 土師質・坏 (L−5G)
304 土師質・坏 (P−6G)
305 土師質・坏 (K−6G)
306 土師質・高台付椀 (E−3G)
307 土師質・高台付椀 (C−2G)
308 土師質・高台付椀 (G−5G)
309 土師質・高台付椀 (L−6G)
310 土師質・高台付椀 (D−2G)
311 土師質・高台付椀 (D−3G)
312 土師質・高台付椀 (H−4G)
313 土師質・高台付椀 (H−5G)
314 土師質・高台付椀 (J−6G)
315 土師質・高台付椀 (K−4・5G)
316 土師質・高台付椀 (D−3G)
317 土師質・高台付椀 (E−3G)
318 土師質・高台付椀 (G−4G)
319 土師質・高台付椀 (D−2G)
320 土師質・高台付椀 (D−3G)
321 土師質・高台付椀 (D−3G)
322 土師質・高台付椀 (E−3G)
323 土師質・高台付椀 (E−3・F−3・4G)
324 土師質・高台付椀 (H−4G)
325 土師質・高台付椀 (H−4G)
326 土師質・高台付椀 (I−4G)
327 土師質・高台付椀 (J−5G)
328 土師質・高台付椀 (C−2G)
329 土師質・高台付椀 (D−3G)
330 土師質・高台付椀 (D−3G)
331 土師質・高台付椀 (D−3G)
332 土師質・高台付椀 (G−4G)
333 土師質・高台付椀 (G−3G)
334 土師質・高台付椀 (C−2G)
335 土師質・高台付椀 (F−4G)
336 土師質・高台付椀 (K−5G)
337 土師質・高台付椀 (J−4G)
338 土師質・高台付椀 (F−3G)
339 土師質・高台付椀 (G−3G)
340 土師質・高台付椀 (I−4G)
341 土師質・高台付椀 (I−4G)
342 土師質・高台付椀 (K−5G)
343 土師質・高台付椀 (K−6G)
344 土師質・高台付椀 (L−6G)
345 土師質・高台付椀 (N−7G)
346 土師質・高台付椀 (C−3G)
347 土師質・高台付椀 (D−3G)
348 土師質・高台付椀 (J−5G)
349 土師質・高台付椀 (K−5G)
350 土師質・高台付椀 (B−2G)
351 土師質・高台付椀 (C−2G)
352 土師質・高台付椀 (C−3G)
353 土師質・高台付椀 (C−3G)
354 土師質・高台付椀 (H−5G)
355 土師質・高台付椀 (H−5G)
356 土師質・高台付椀 (D−2G)
357 土師質・高台付椀 (D−3G)
358 土師質・高台付椀 (G−4G)
359 土師質・高台付椀 (H−5G)
360 土師質・高台付椀 (H−5G)
361 土師質・高台付椀 (H−5G)
362 土師質・高台付椀 (J−6G)
363 土師質・高台付椀 (K−6G)
364 土師質・高台付椀 (R−6G)
365 土師質・高台付椀 (C−3G)
366 土師質・高台付椀 (G−4G)
367 土師質・高台付椀 (G−5G)
368 土師質・高台付椀 (H−5G)
369 土師質・高台付椀 (L−6G)
370 土師質・小皿 (F−4G)
371 土師質・小皿 (F−4G)
372 土師質・小皿 (I−4G)
373 土師質・小皿 (J−5G)
374 土師質・小皿 (J−6G)
375 土師質・小皿 (G−4G)
376 土師質・小皿 (C−2G)
377 土師質・小皿 (E−3G)
378 土師質・小皿 (F−4G)
379 土師質・小皿 (B−2G)
380 土師質・小皿 (D−3G)
381 土師質・小皿 (H−5G)
382 土師質・小皿 (O−7G)
383 土師質・小皿 (F−3G)
384 土師質・小皿 (F−4G)
385 土師質・小皿 (H−5G)
386 土師質・小皿 (H−5G)
387 土師質・小皿 (I−4G)
388 土師質・小皿 (K−5G)
389 土師質・小皿 (O−6G)
390 土師質・小皿 (G−5G)
391 土師質・小皿 (G−4G)
392 土師質・小皿 (G−3G)
393 土師質・小皿 (L−5G)
394 土師質・小皿 (C−2G)
395 土師質・小皿 (F−3G)
396 土師質・小皿 (H−5G)
397 土師質・小皿 (H−4G)
398 土師質・小皿 (M−5G)
399 土師質・小皿 (D−2G)
400 土師質・小皿 (D−3G)
401 土師質・小皿 (F−3G)
402 土師質・小皿 (F−4G)
403 土師質・皿 (E−3G)
404 土師質・皿 (F−3・4G)
405 土師質・皿 (G−5G)
406 土師質・皿 (H−5G)
407 土師質・蓋 (N−5G)
408 土師質・ミニチュ (N−5G)
416 土師器・甕 (O−5G)
430 土師器・羽釜 (F−4G)

第13図　10世紀前以降・土器出土状況

土錘出土状況



＝ 1個体　＝ 2個体　＝ 3個体　＝ 4個体　＝ 5個体以上　＝ 10個体以上　＝ 15個体以上　＝ 20個体以上

Aタイプ

2 A－1Grid
14 B－2Grid
15 B－2Grid
16 B－2Grid
25 C－2Grid
26 C－2Grid
27 C－2Grid
28 C－2Grid
29 C－3Grid
30 C－2Grid
31 C－3Grid
32 C－2Grid
33 C－2Grid
34 C－2Grid
35 C－2Grid
36 C－2Grid
37 C－2Grid
38 C－2Grid
39 C－3Grid
40 C－2Grid
41 C－2Grid
42 C－2Grid
57 D－3･4Grid
58 D－3･4Grid
59 D－3Grid
60 D－3Grid
61 D－3Grid
62 D－3Grid
63 D－3Grid
64 D－3Grid
65 D－2Grid
72 E－3Grid
73 E－3Grid
75 E－3Grid
76 E－3Grid
77 E－4Grid
78 E－3Grid
79 E－3Grid
80 E－3Grid
81 E－3Grid
82 E－3Grid
83 E－3Grid
84 E－3Grid
85 E－3Grid
86 E－3Grid
87 E－3Grid
88 E－3Grid
89 E－4Grid
90 E－3Grid
98 F－4Grid
99 F－5Grid
100 F－4Grid
101 F－3Grid
102 F－3Grid
103 F－3Grid
112 G－4Grid
113 G－3Grid
114 G－4Grid
115 G－4Grid
127 H－5Grid
128 H－5Grid
129 H－4Grid
130 H－4Grid
131 H－4Grid
132 H－4Grid
133 H－4Grid
134 H－4Grid
135 H－4Grid
136 H－4Grid
137 H－5Grid
138 H－4Grid
139 H－4Grid
140 H－4Grid
141 H－4Grid
142 H－4Grid
143 H－4Grid
149 I－4Grid
150 I－5Grid
151 I－5Grid
152 I－4Grid
153 I－4Grid
154 I－4Grid
155 I－4Grid
165 J－5Grid
166 J－6Grid
167 J－4Grid
172 K－6Grid
173 K－6Grid
174 K－6Grid
175 K－6Grid
180 L－6Grid
181 L－6Grid
182 L－6Grid
183 L－5Grid
184 L－6Grid
185 L－6Grid
186 L－6Grid
187 L－6Grid
188 L－6Grid
189 L－6Grid
190 L－5Grid
193 M－6Grid
194 M－5Grid
198 N－5Grid
199 N－6Grid
201 O－6Grid
202 O－6Grid
203 O－6Grid
204 P－5Grid
206 Q－7Grid
207 S－6Grid
208 T－7Grid
209 T－7Grid

Bタイプ

3 B－2Grid
4 B－2Grid
5 B－2Grid
7 B－2Grid
8 B－2Grid
10 B－2Grid
11 B－2Grid
20 C－2Grid
21 C－2Grid
22 C－2Grid
23 C－2Grid
108 G－5Grid
121 H－4Grid
122 H－5Grid
148 I－4Grid
157 J－4Grid
159 J－6Grid
161 J－6Grid
162 J－5Grid
163 J－4Grid
164 J－6Grid
171 K－5Grid
178 L－6Grid
179 L－5Grid
197 N－5Grid

Cタイプ

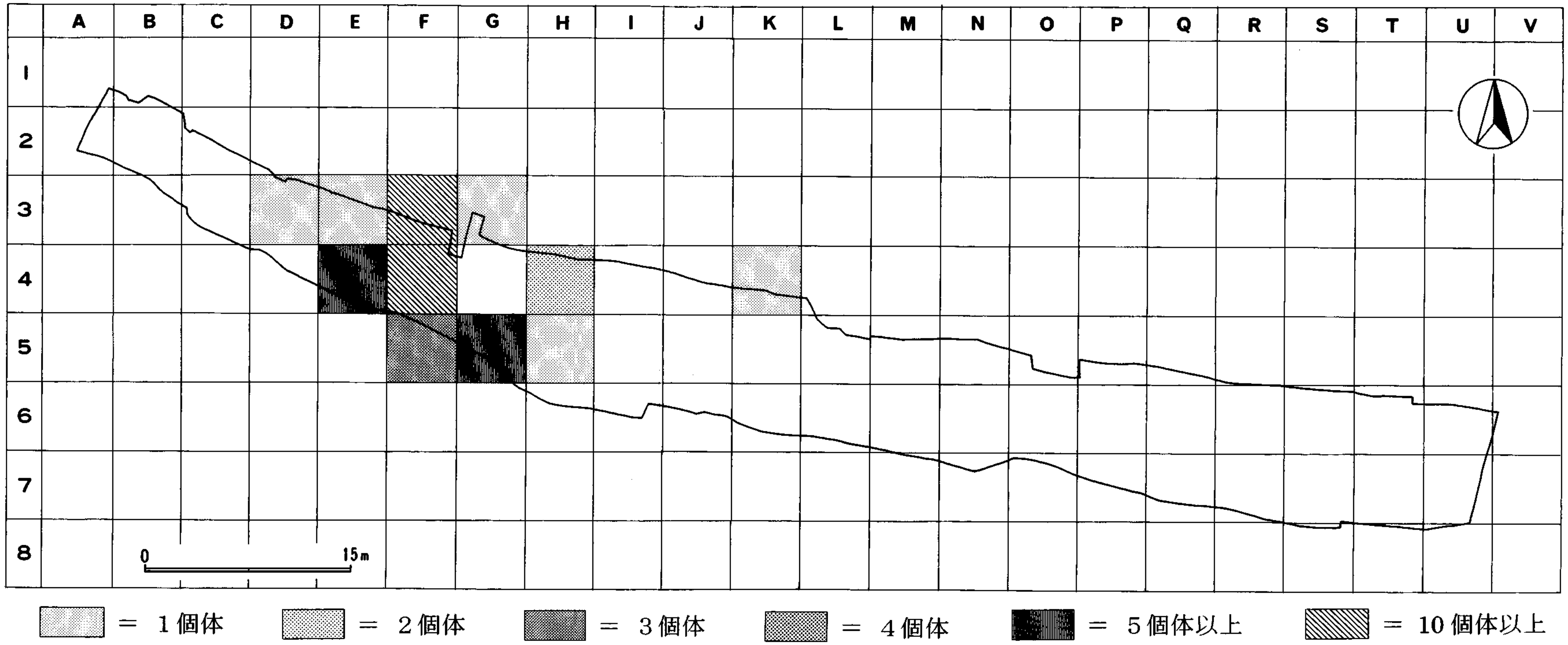
1 A－1Grid
6 B－2Grid
9 B－2Grid
12 B－2Grid
13 B－2Grid
18 C－2Grid
24 C－2Grid
45 D－3･4Grid
46 D－3Grid
47 D－3Grid
48 D－3Grid
49 D－3Grid
50 D－3Grid
51 D－3Grid
52 D－3Grid
53 D－3Grid
54 D－3Grid
55 D－3Grid
56 D－3Grid
66 E－3Grid
67 E－4Grid
68 E－4Grid
69 E－4Grid
70 E－3Grid
71 E－3Grid
92 F－4Grid
93 F－4Grid
94 F－4Grid
95 F－5Grid
96 F－3Grid
97 F－4Grid
104 G－4Grid
105 G－5Grid
106 G－5Grid
107 G－5Grid
109 G－3Grid
110 G－5Grid
111 G－4Grid
117 H－5Grid
118 H－4Grid
119 H－5Grid
120 H－5Grid
144 I－5Grid
145 I－5Grid
146 I－4Grid
147 I－6Grid
156 J－4Grid
158 J－5Grid
160 J－6Grid
168 K－5Grid
169 K－5Grid
170 K－6Grid
176 L－5Grid
177 L－5Grid
191 M－5Grid
192 M－5Grid
195 N－5Grid
196 N－6Grid
200 O－6Grid
205 Q－6Grid

Dタイプ

17 C－3Grid
43 D－3Grid
44 D－3Grid
91 F－4Grid
116 H－5Grid

第14図　土錘出土状況

滑石製模造品出土状況

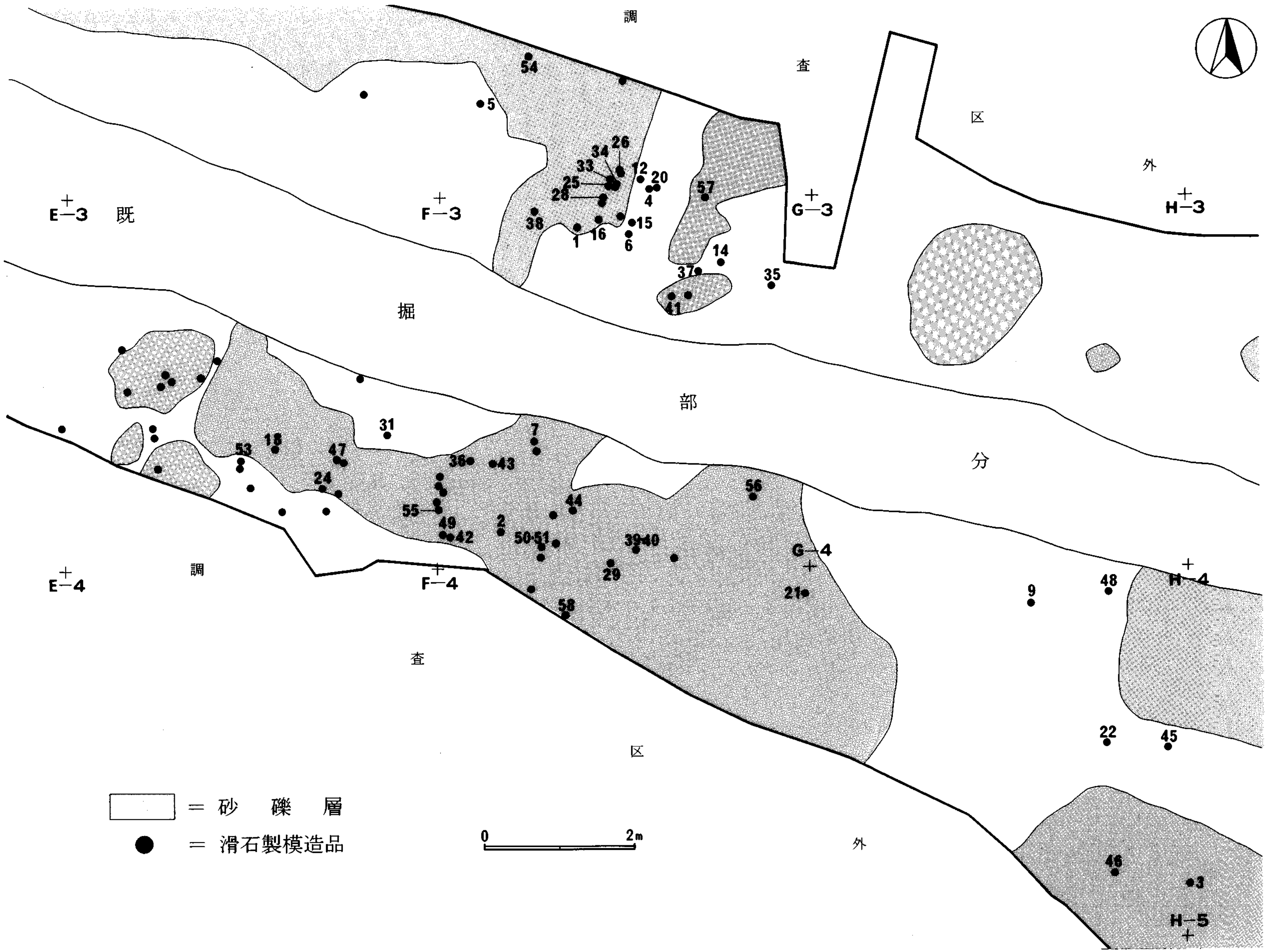


1 人　形（F－4Grid）
2 人　形（F－4Grid）
3 人　形（H－5Grid）
4 馬　形（F－3Grid）
5 馬　形（F－3Grid）
6 馬　形（F－4Grid）
7 馬　形（F－3Grid）
8 馬　形（G－3Grid）
9 馬　形（G－5Grid）
10 馬　形（K－4Grid）
11 馬　形（H－4Grid）
12 櫛　形（F－3Grid）
13 櫛　形（F－3Grid）
14 櫛　形（F－4Grid）
15 櫛　形（F－4Grid）
16 櫛　形（F－4Grid）
17 櫛　形（H－4Grid）
18 剣　形（E－4Grid）
19 剣　形（F－4Grid）
20 剣　形（F－3Grid）
21 剣　形（F－5Grid）
22 剣　形（G－5Grid）
23 有線円板（E－4Grid）
24 有線円板（E－4Grid）
25 有線円板（F－3Grid）
26 有線円板（F－3Grid）
27 有線円板（E－4Grid）
28 有線円板（F－4Grid）
29 有線円板（F－4Grid）
30 有孔円板（D－3Grid）
31 有孔円板（E－4Grid）
32 有孔円板（E－4Grid）
33 有孔円板（G－5Grid）
34 有孔円板（F－3Grid）
35 有孔円板（F－4Grid）
36 有孔円板（F－4Grid）
37 有孔円板（F－4Grid）
38 有孔円板（F－4Grid）
39 有孔円板（F－4Grid）
40 有孔円板（F－4Grid）
41 有孔円板（F－4Grid）
42 有孔円板（F－4Grid）
43 有孔円板（F－4Grid）
44 有孔円板（F－4Grid）
45 有孔円板（G－5Grid）
46 有孔円板（G－5Grid）
47 勾玉形（E－4Grid）
48 勾玉形（G－5Grid）
49 不　明（F－4Grid）
50 不　明（F－4Grid）
51 不　明（F－4Grid）
52 不　明（F－4Grid）
53 不　明（E－4Grid）
54 不　明（F－3Grid）
55 不　明（F－3Grid）
56 不　明（F－4Grid）
57 不　明（F－4Grid）
58 不　明（F－5Grid）

第15図　滑石製模造品出土状況

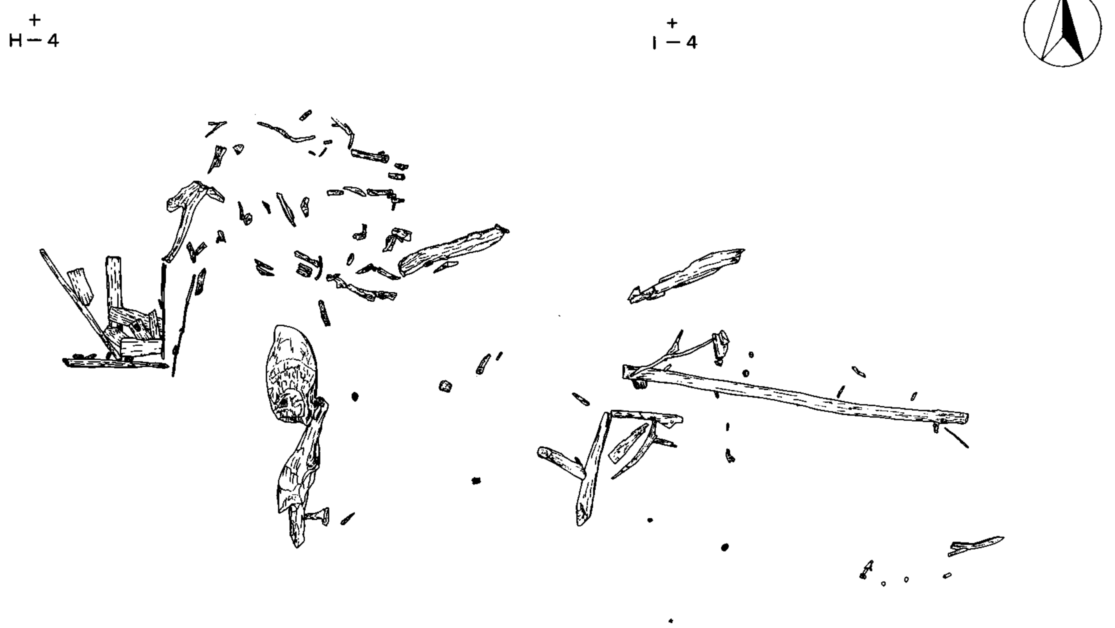
滑石製模造品出土数表

	図　示	図示不可	計
D－3Grid	1	0	1
E－3Grid	0	1	1
E－4Grid	7	2	9
F－3Grid	13	2	15
F－4Grid	25	3	28
F－5Grid	2	1	3
G－3Grid	1	0	1
G－5Grid	5	0	5
H－4Grid	2	0	2
H－5Grid	1	0	1
K－4Grid	1	0	1
合　計			67

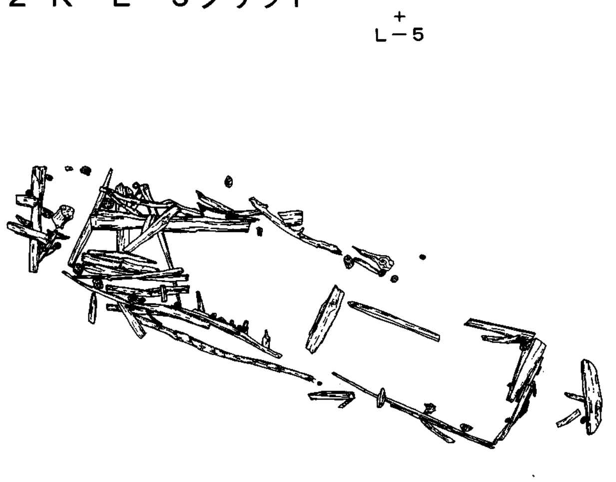


第16図　滑石製模造品集中地点分布図

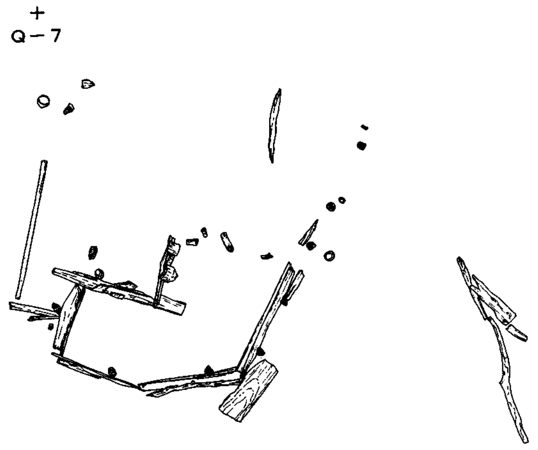
1 H・I－4グリッド



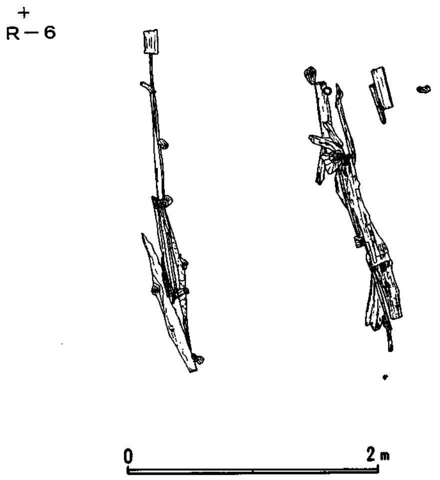
2 K・L－5グリッド

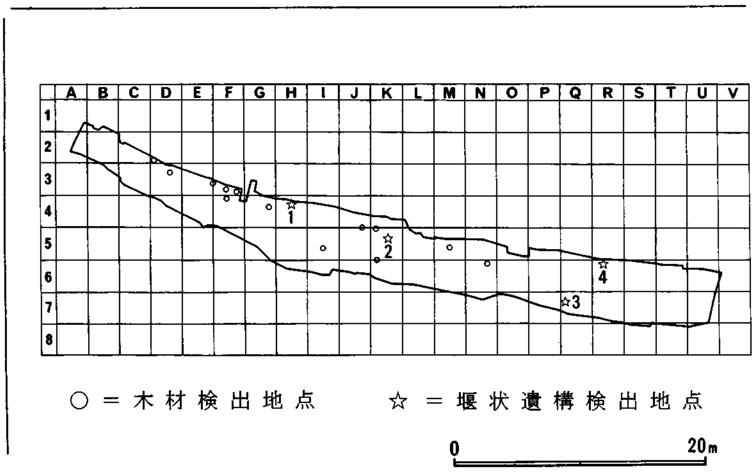


3 Q－7グリッド

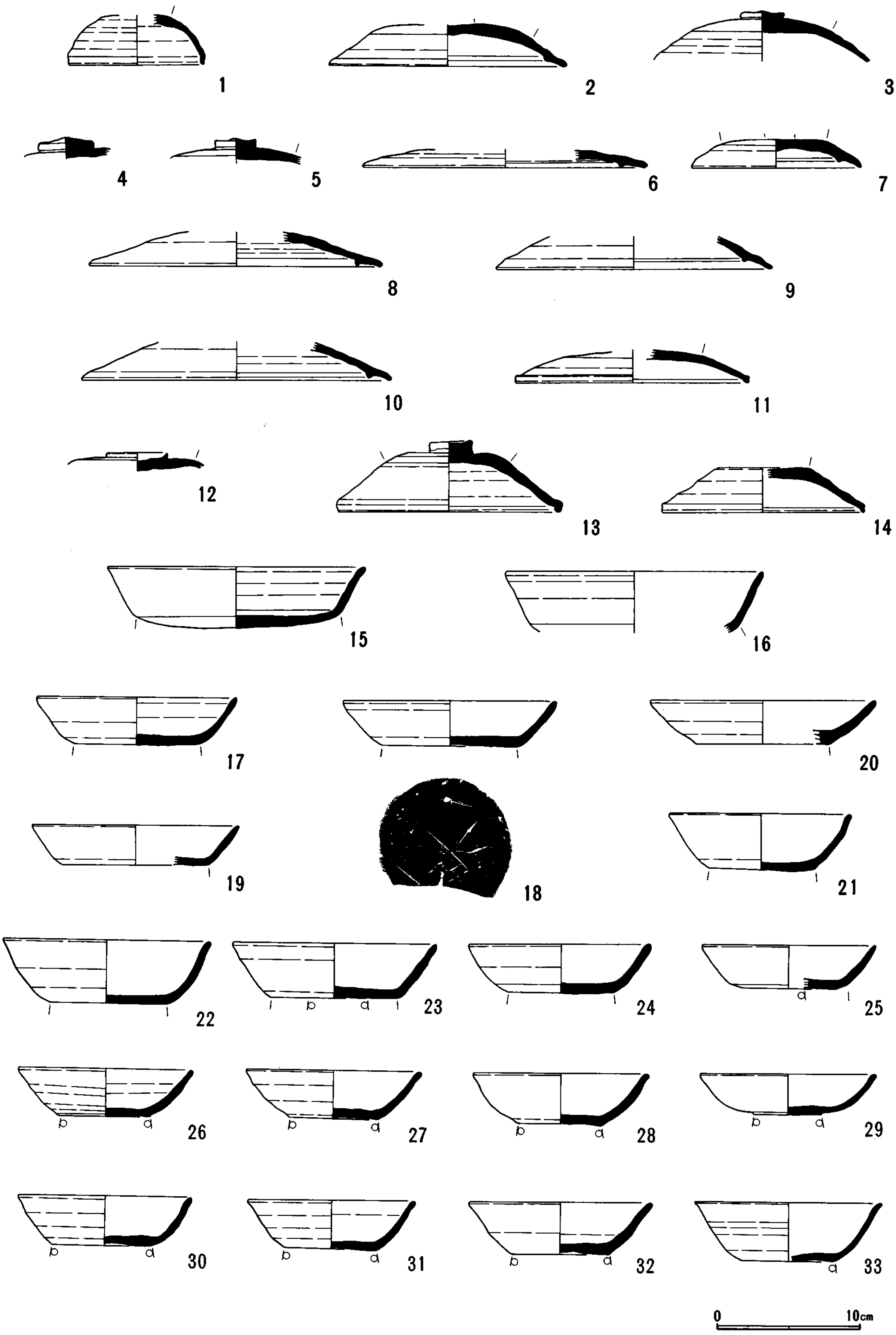


4 R－6グリッド

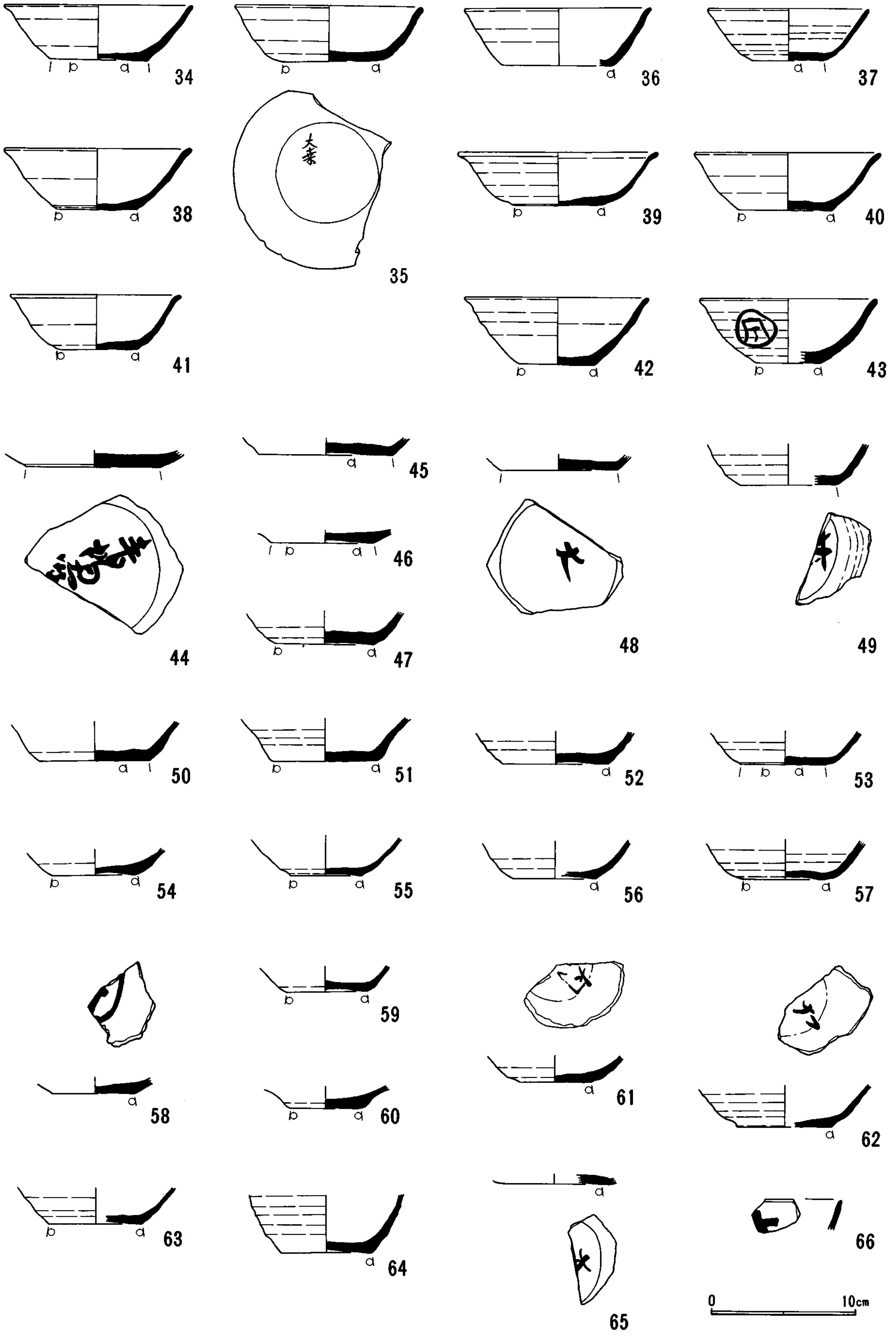




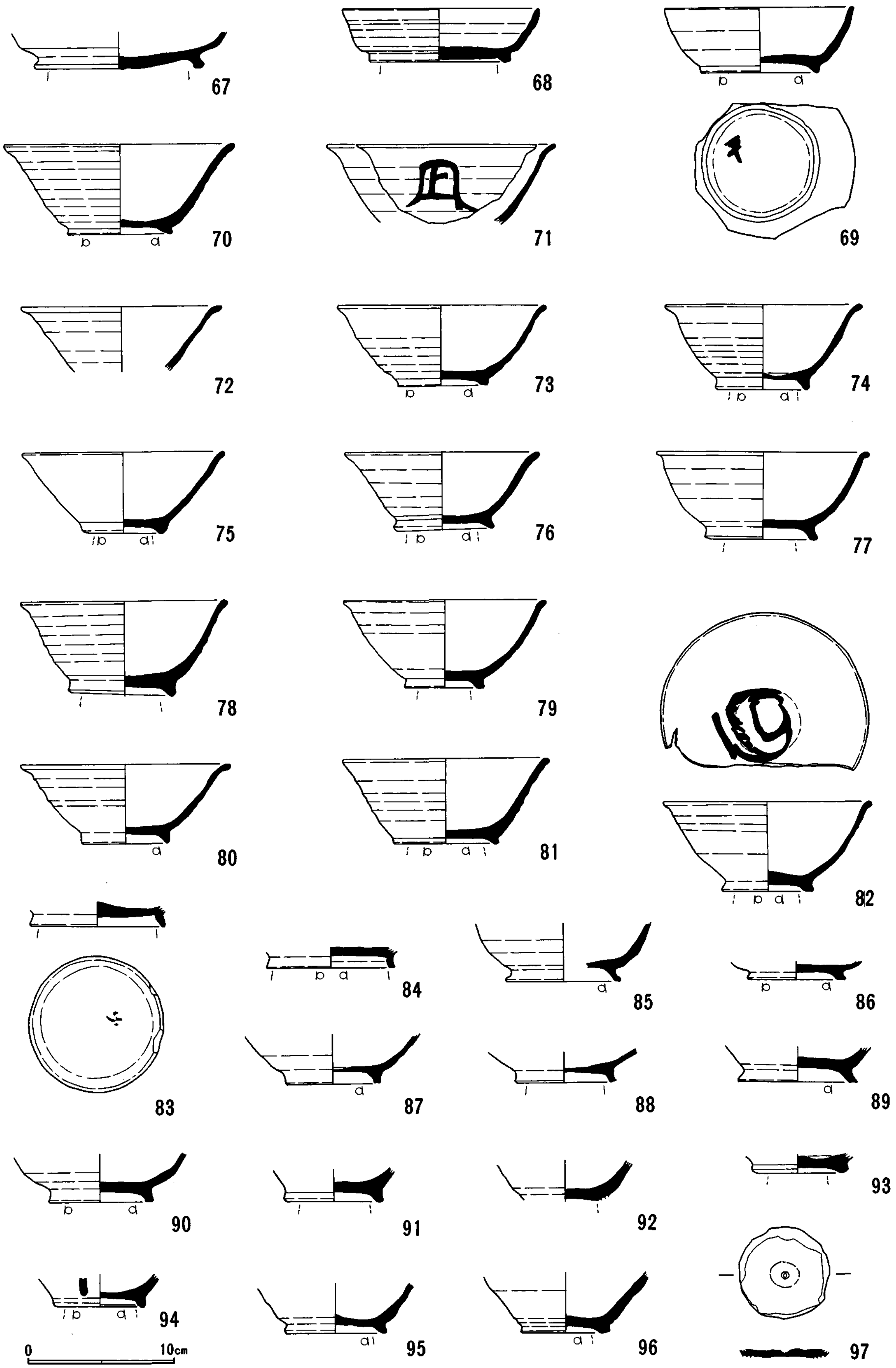
第17図 近世・堰状遺構


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
20
19
18
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
0
10cm

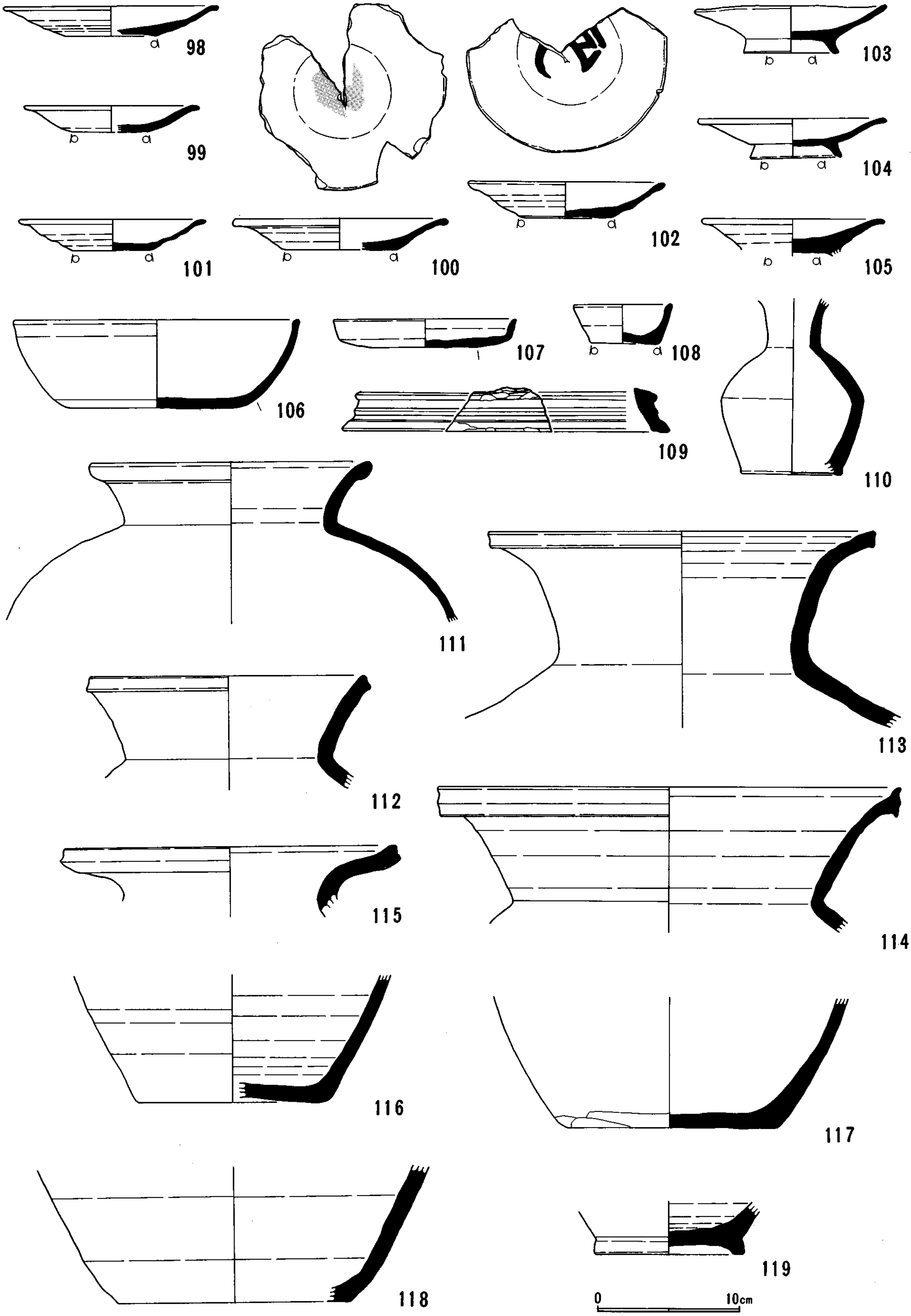
第18図　出土土器(1)



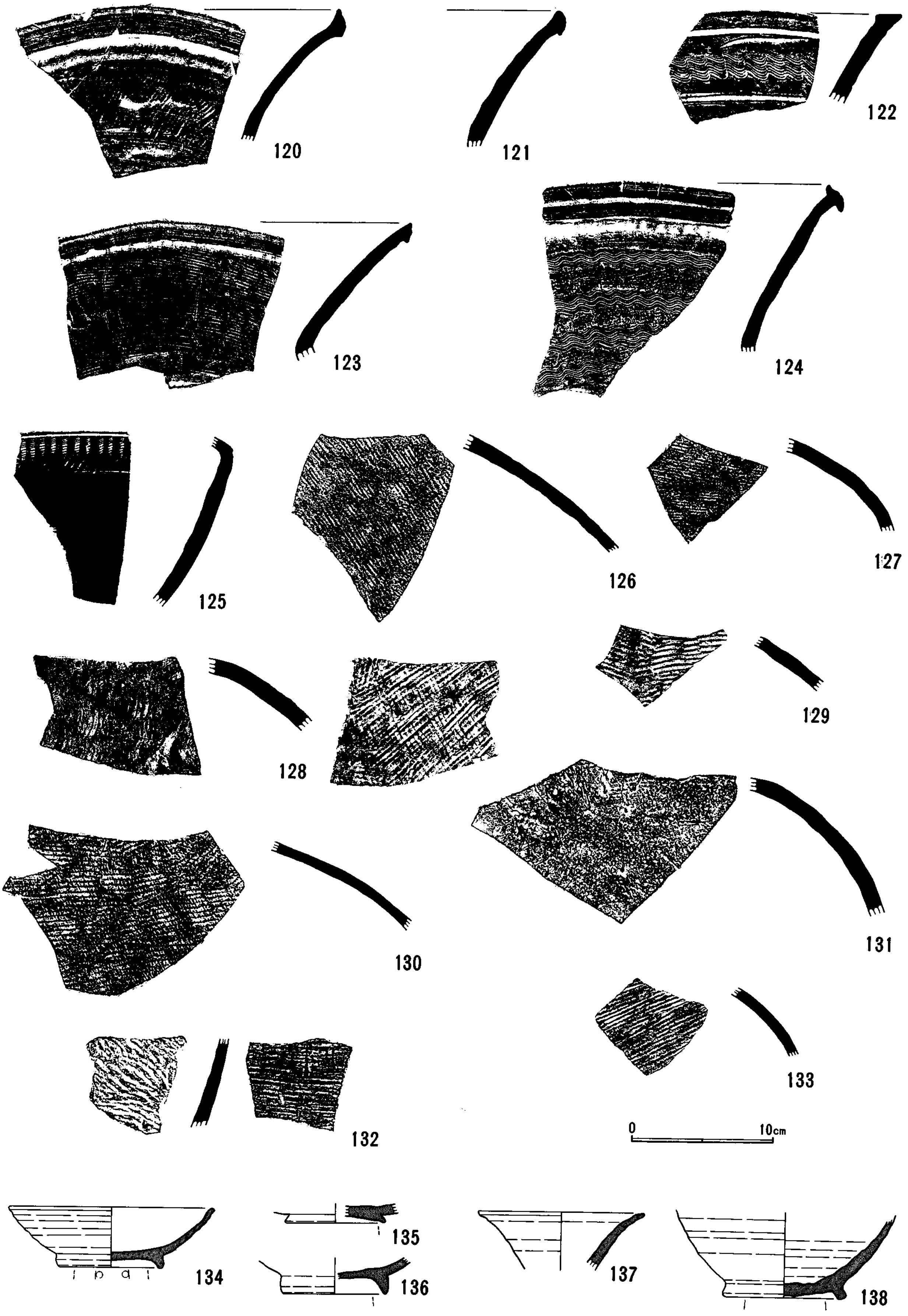
第19図　出土土器(2)


67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
0
10cm

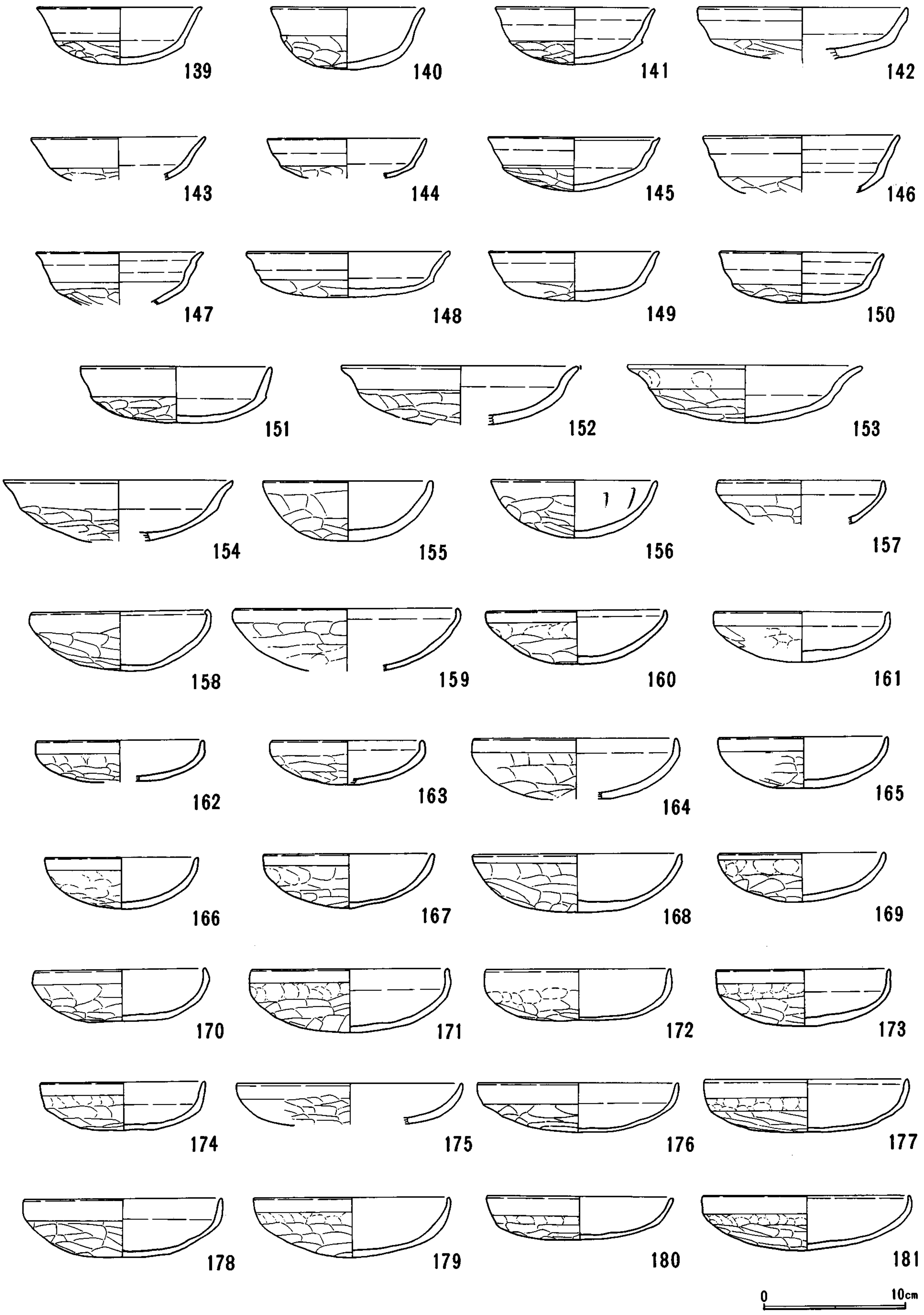
第20図　出土土器(3)


98
99
101
100
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
113
112
115
114
116
117
118
119
0
10cm

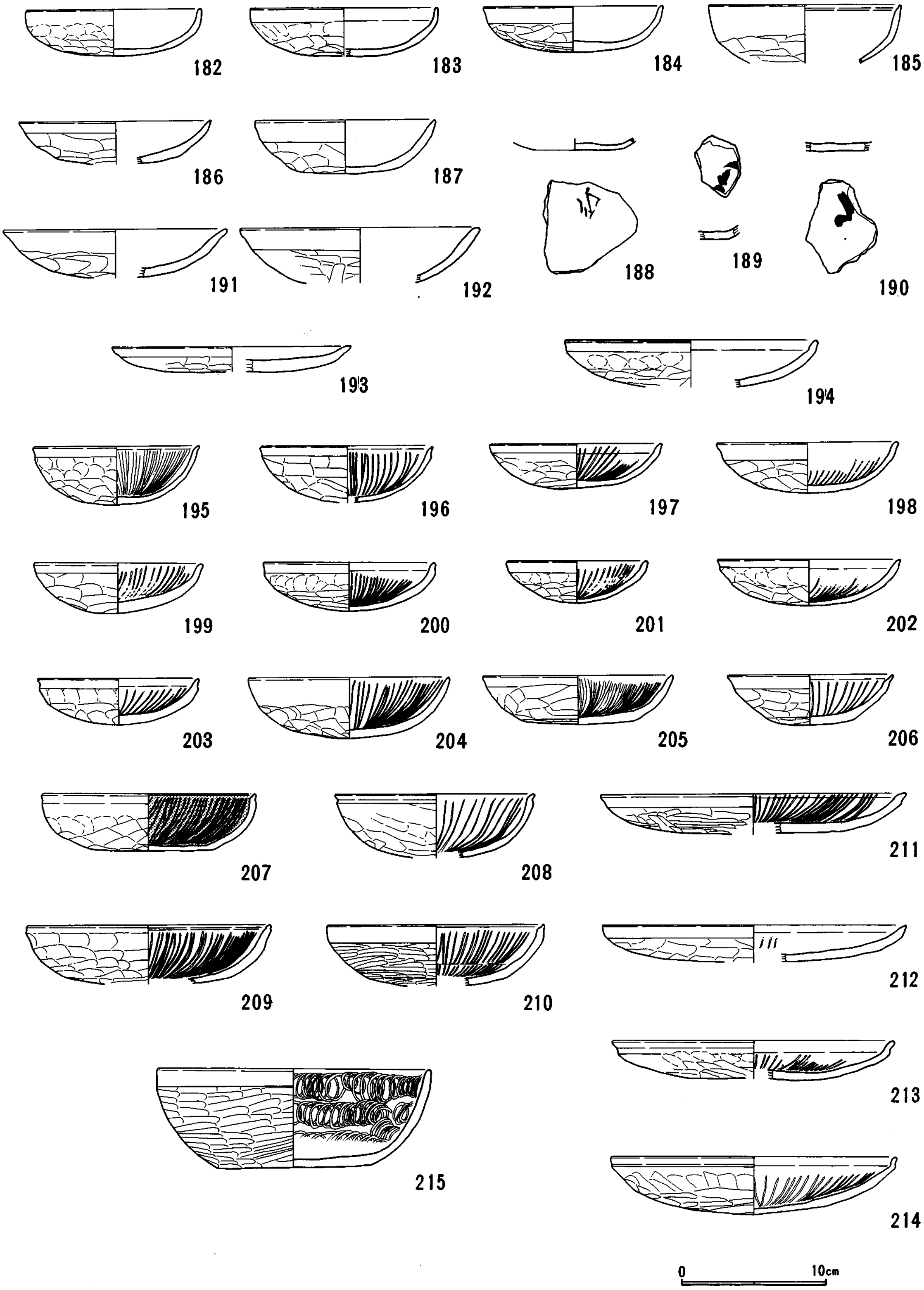
第21図　出土土器(4)


120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
0
10cm
134
135
136
137
138

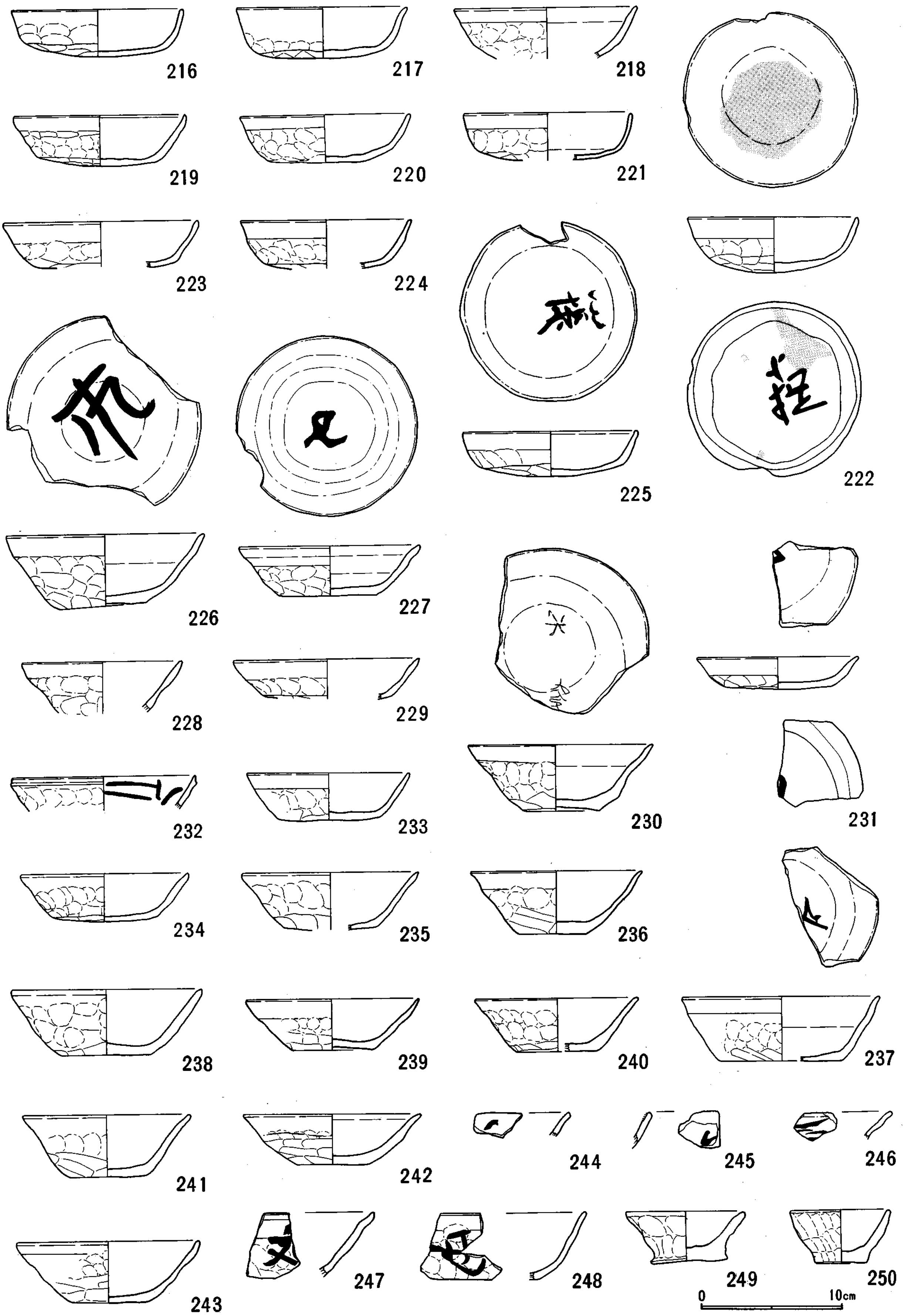
第22図　出土土器(5)


139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
0
10cm

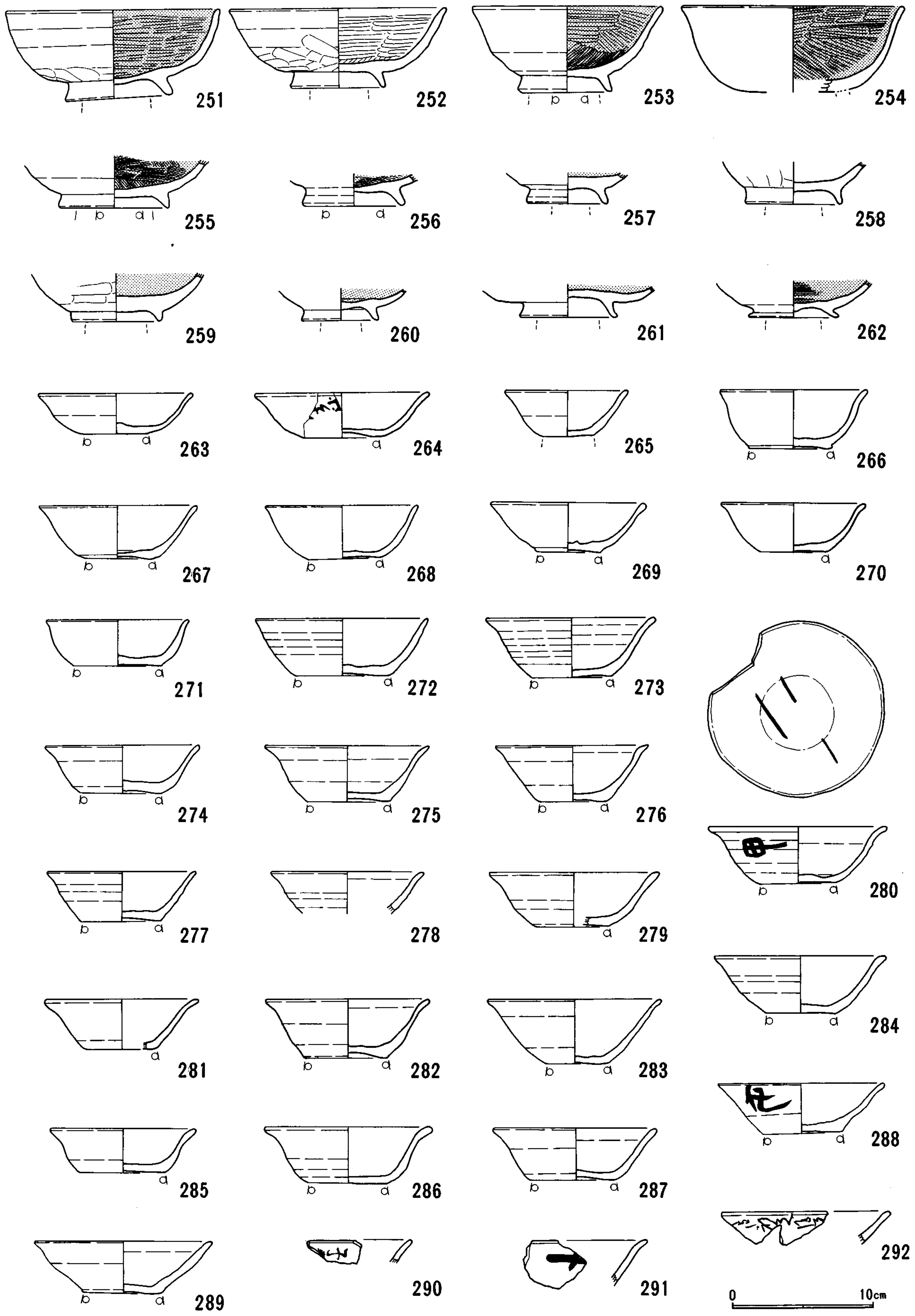
第23図　出土土器(6)


182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
0
10cm

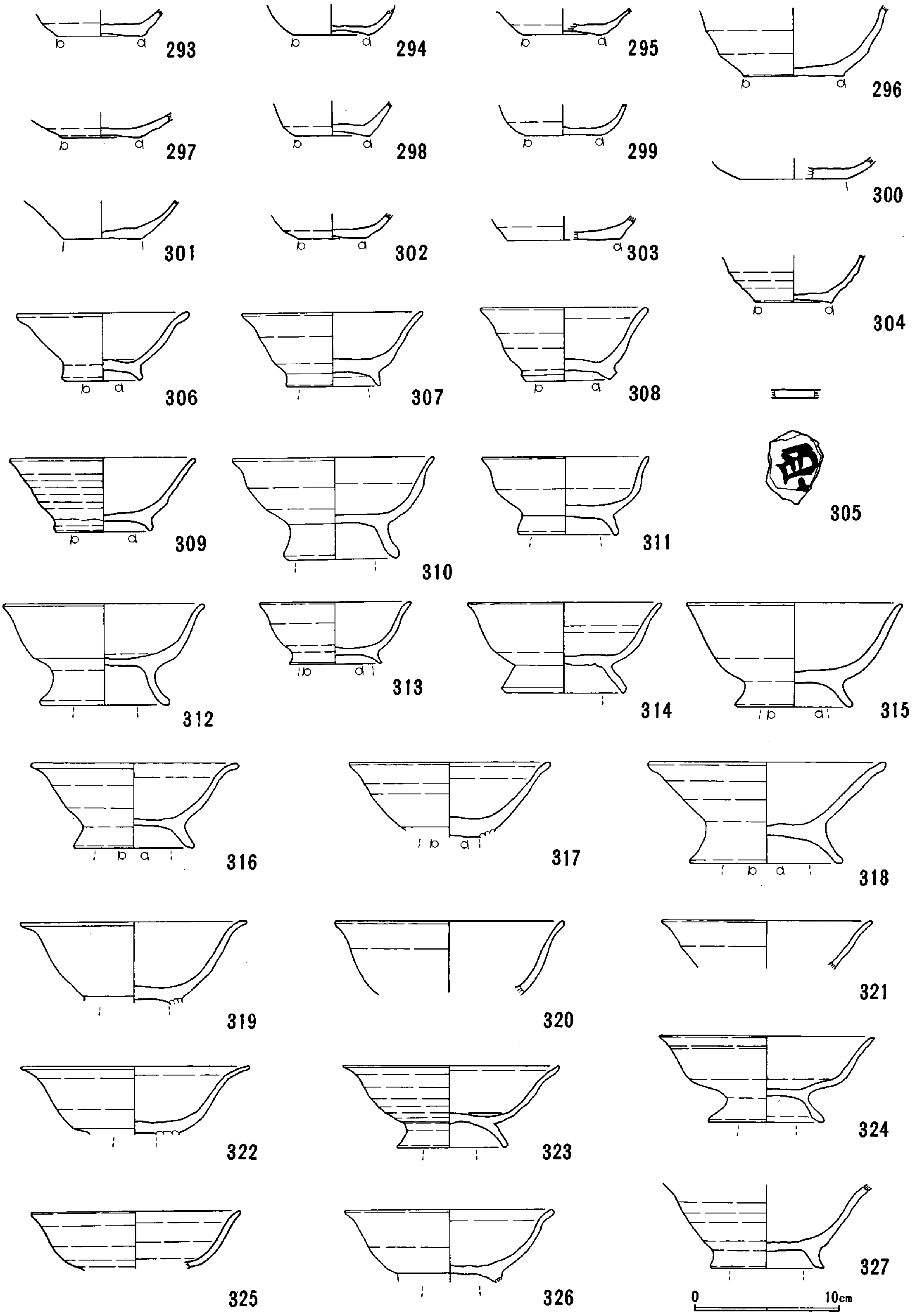
第24図　出土土器(7)


216
217
218
219
220
221
223
224
225
222
226
227
228
229
232
233
230
231
234
235
236
238
239
240
237
241
242
244
245
246
243
247
248
249
250
0
10cm

第25図　出土土器(8)

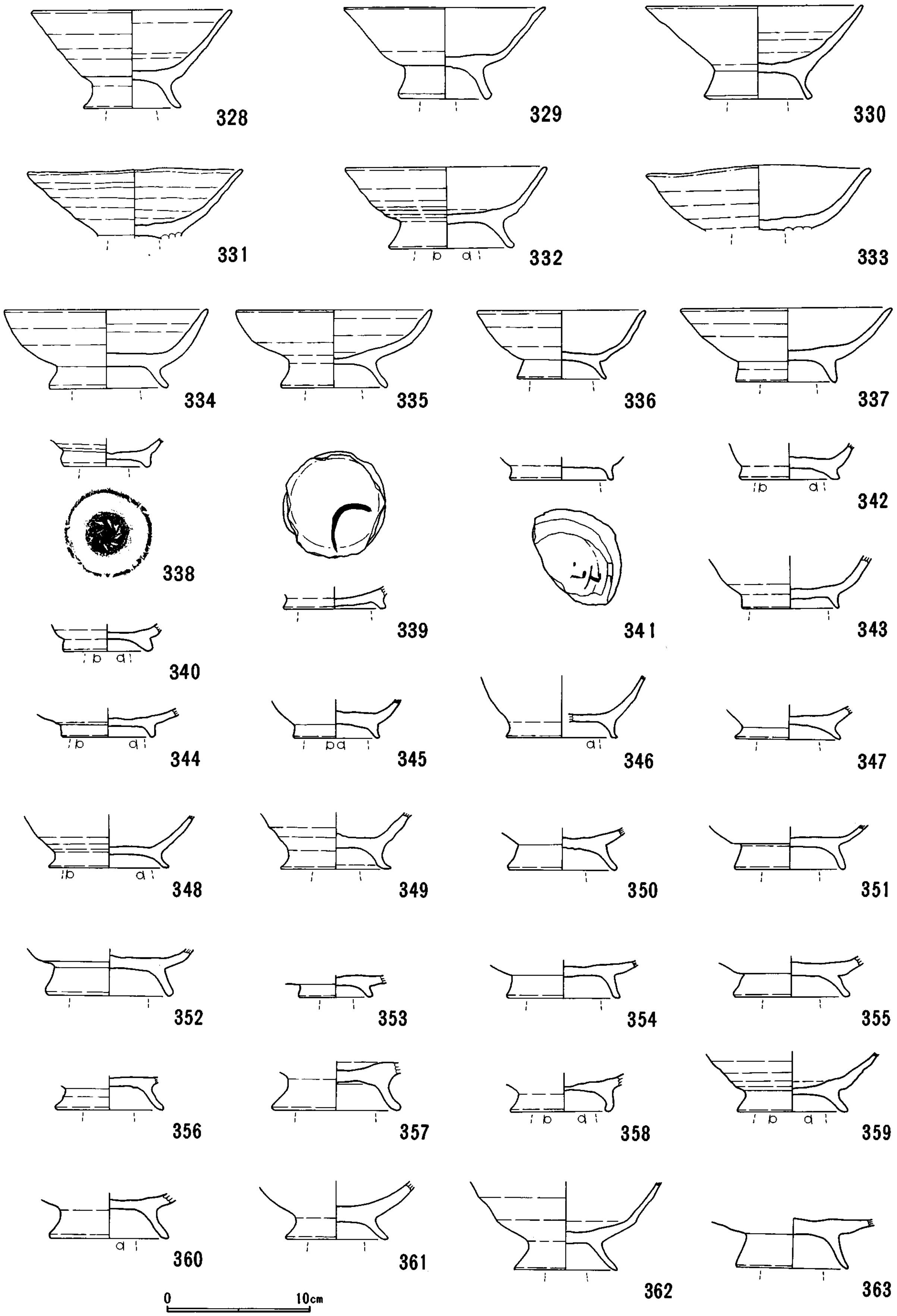

251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
0
10cm

第26図　出土土器(9)

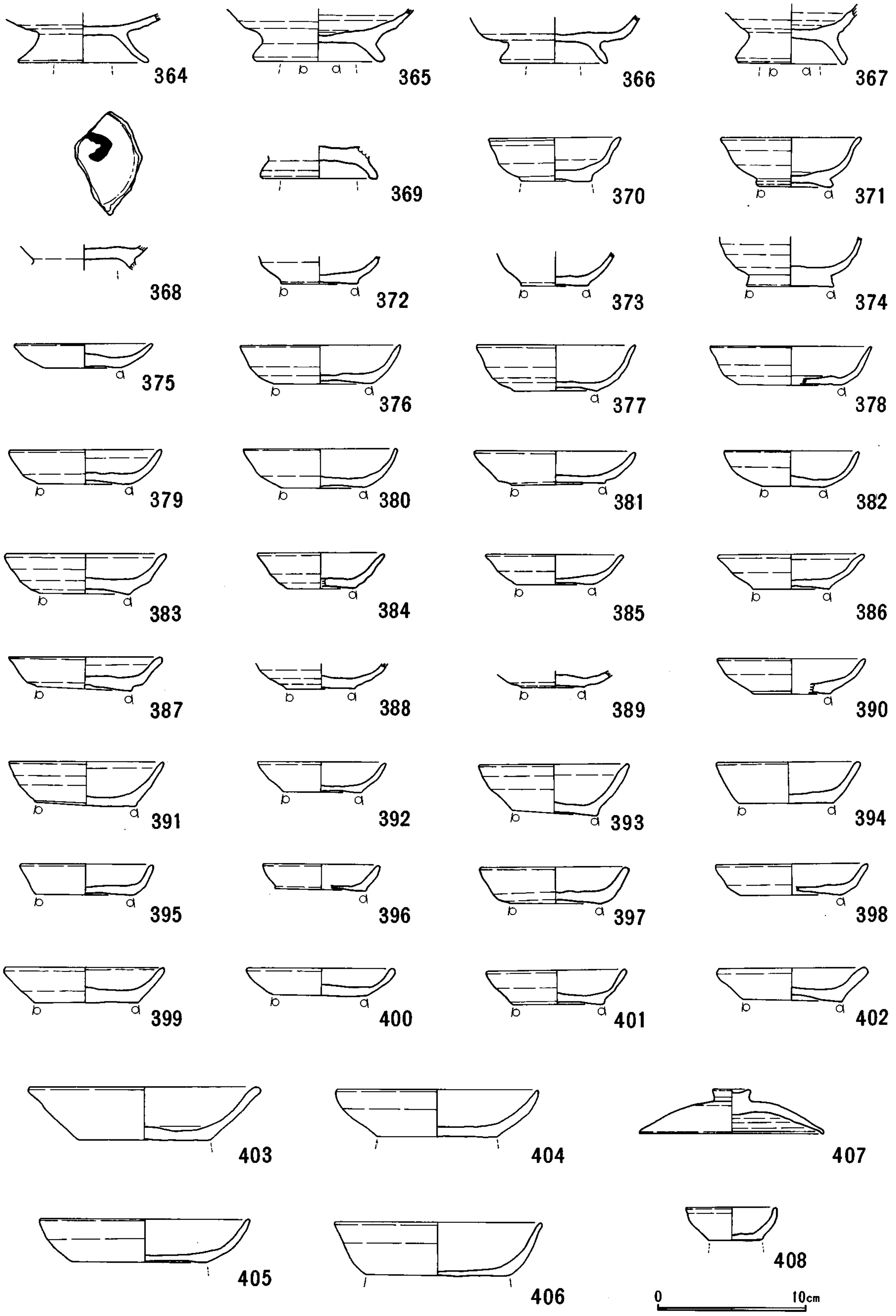


293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
0
10cm

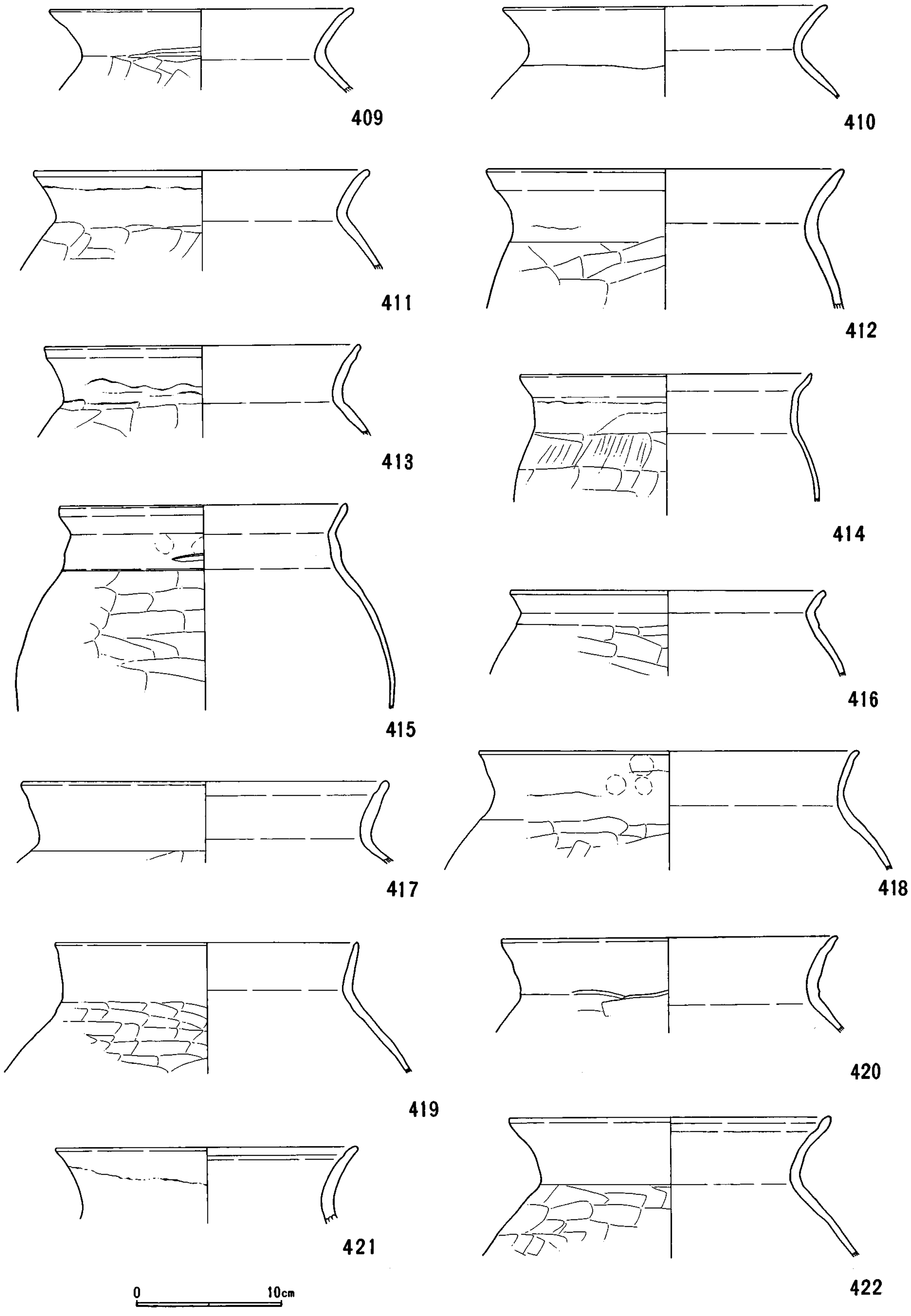
第27図　出土土器(10)


328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
0
10cm

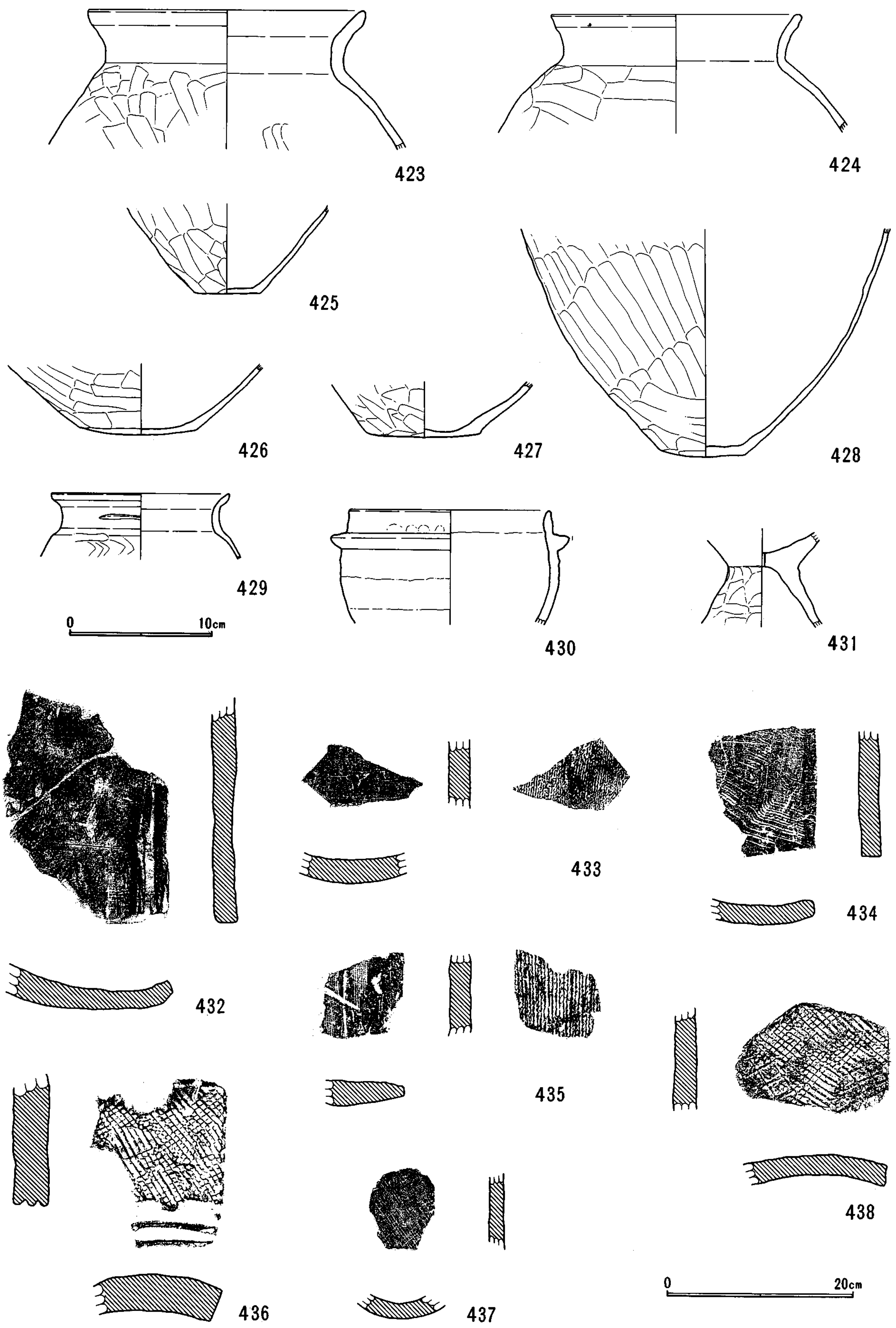
第28図　出土土器(11)


364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
0
10cm

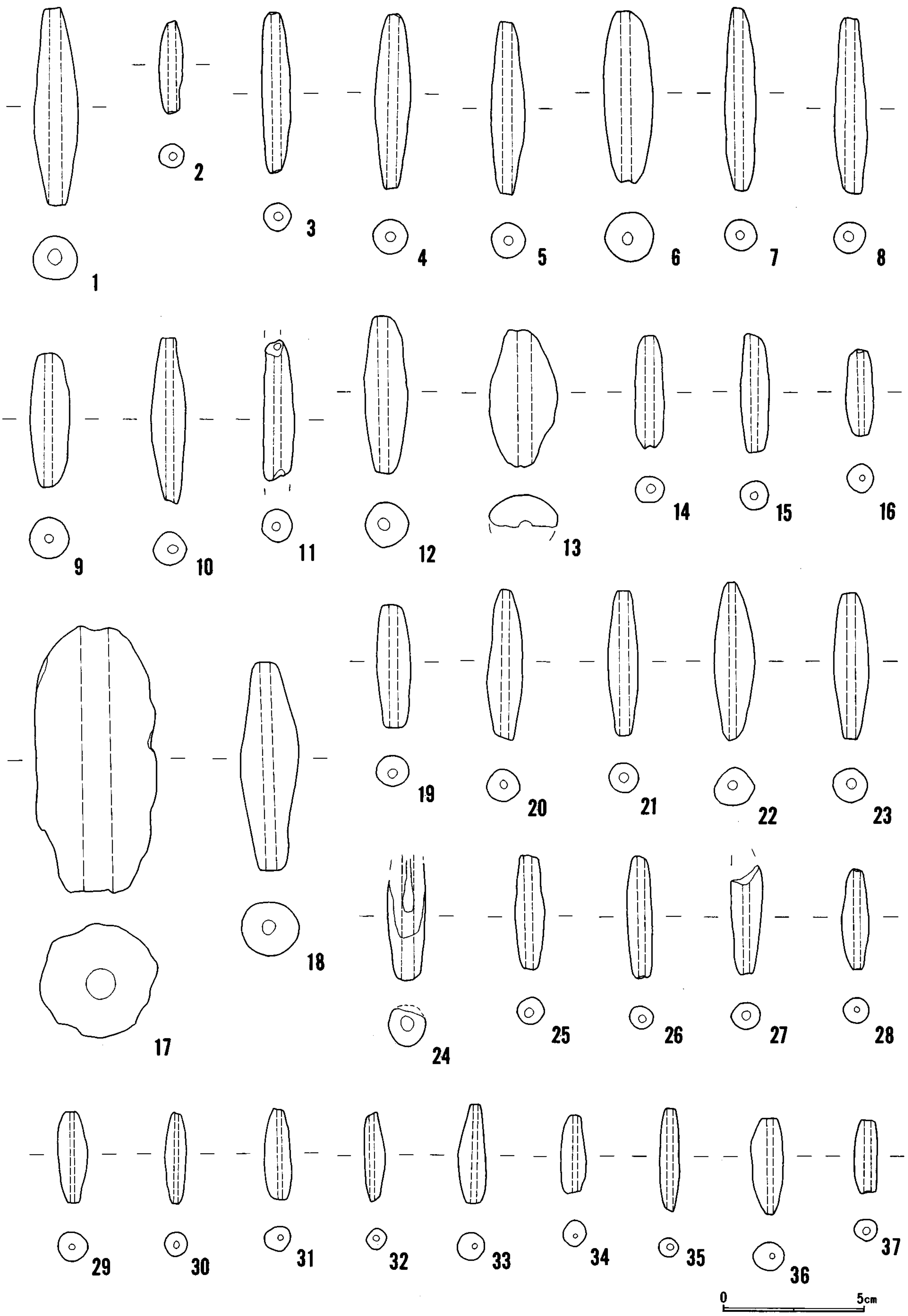
第29図　出土土器(12)



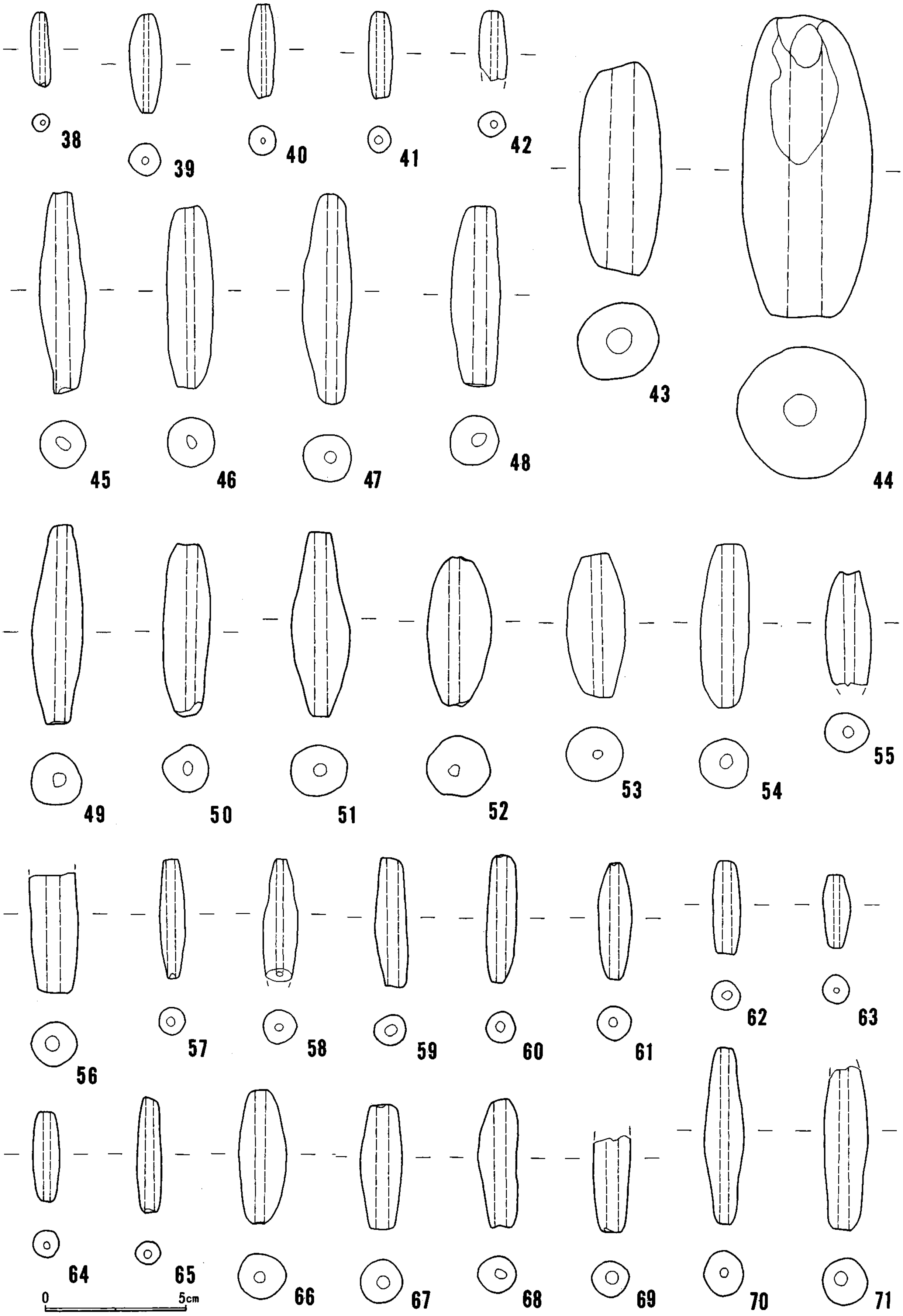
第30図　出土土器(13)


423
424
425
426
427
428
429
0
10cm
430
431
432
433
434
435
436
437
438
0
20cm

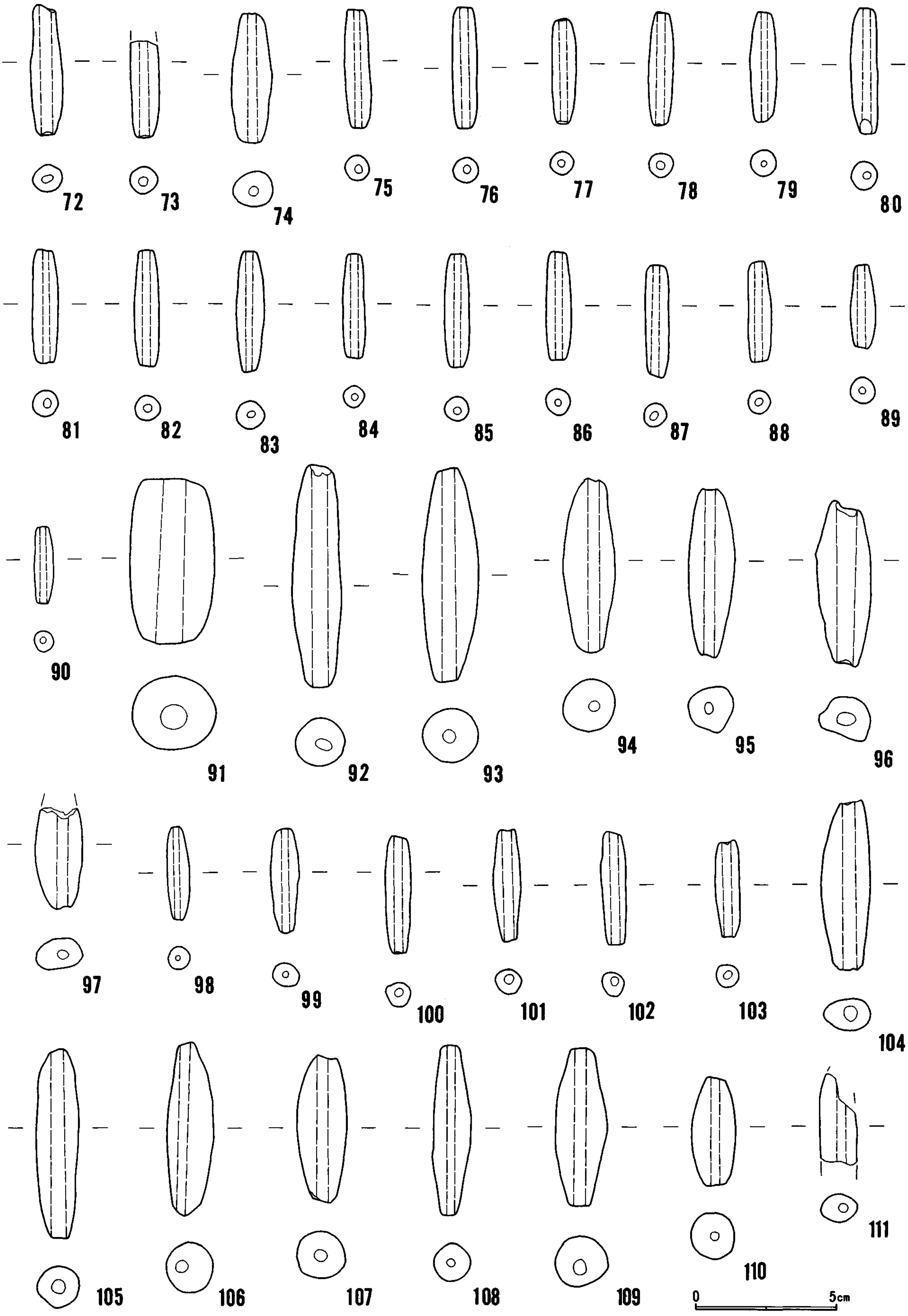
第31図　出土土器(14)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
0
5cm

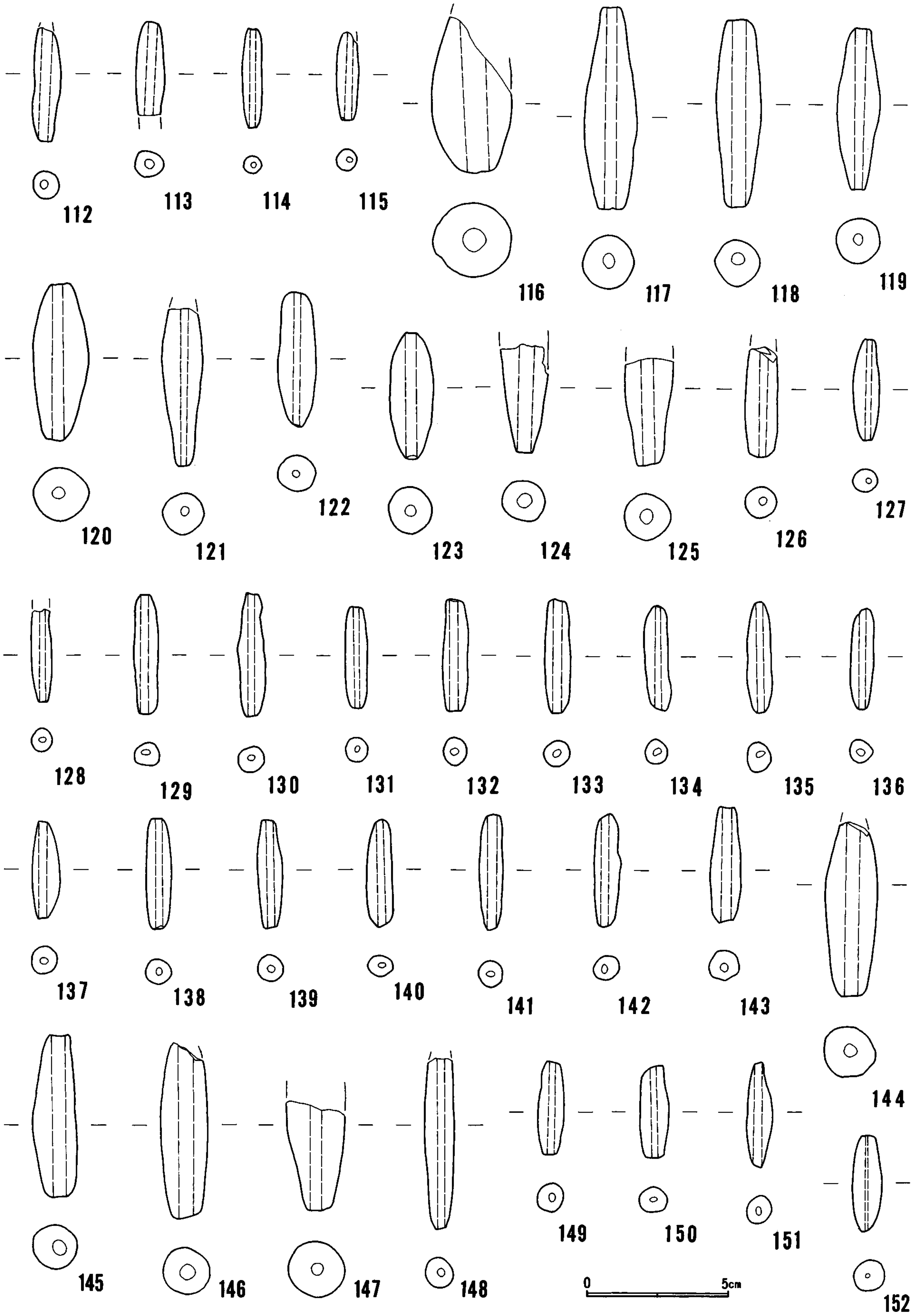
第32図　土錘(1)


38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
0
5cm

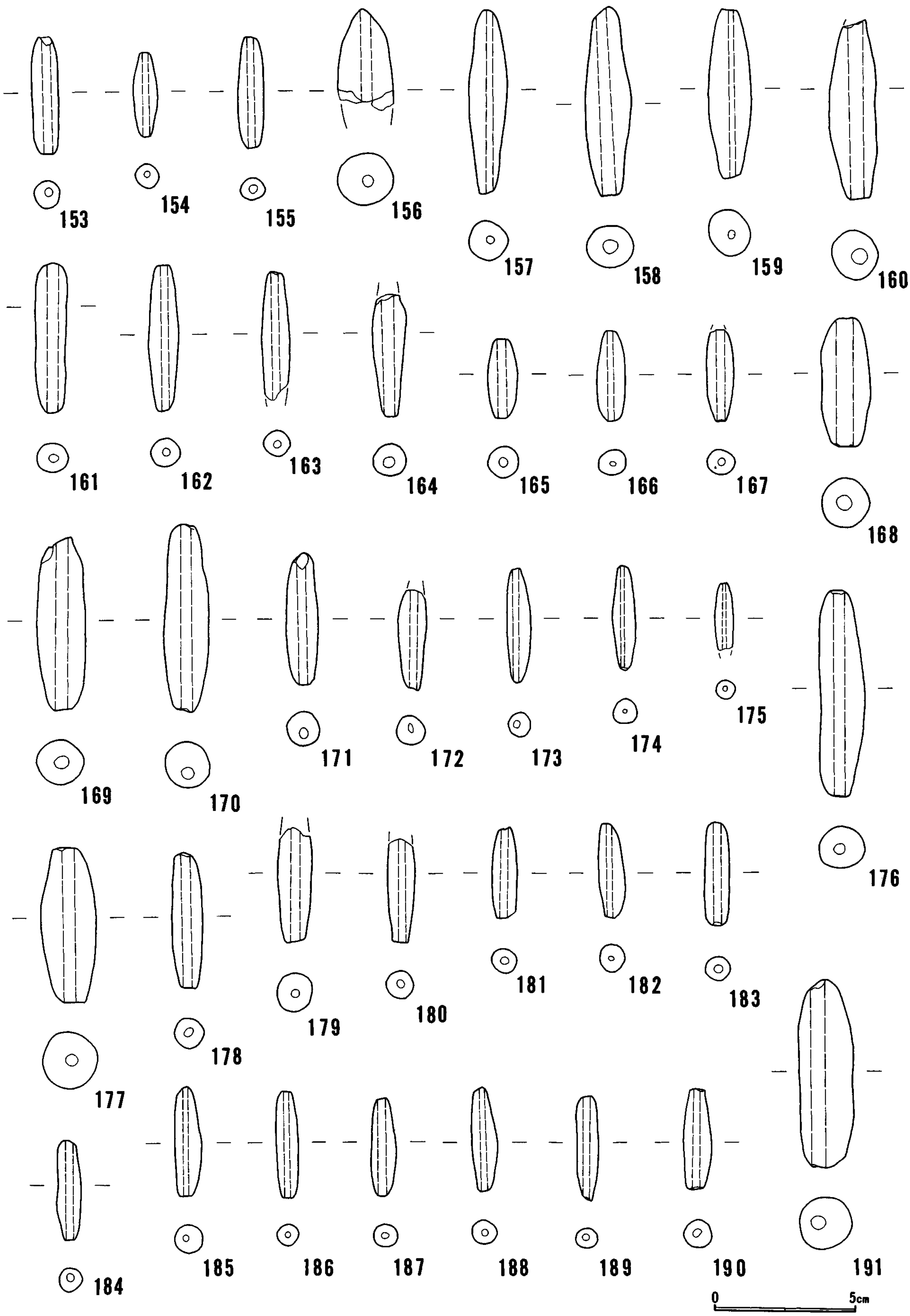
第33図　土錘(2)


72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
0
5cm

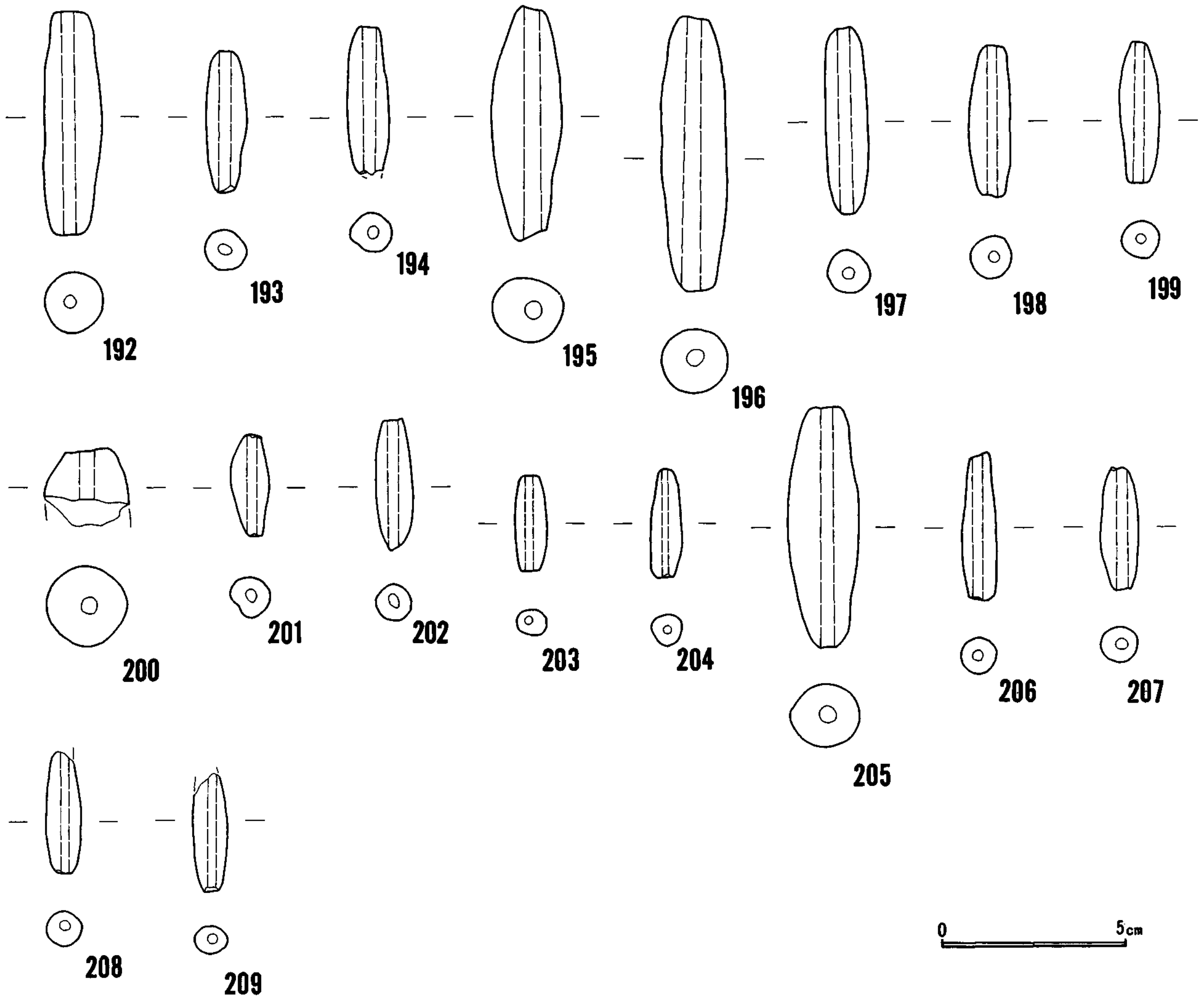
第34図　土錘(3)

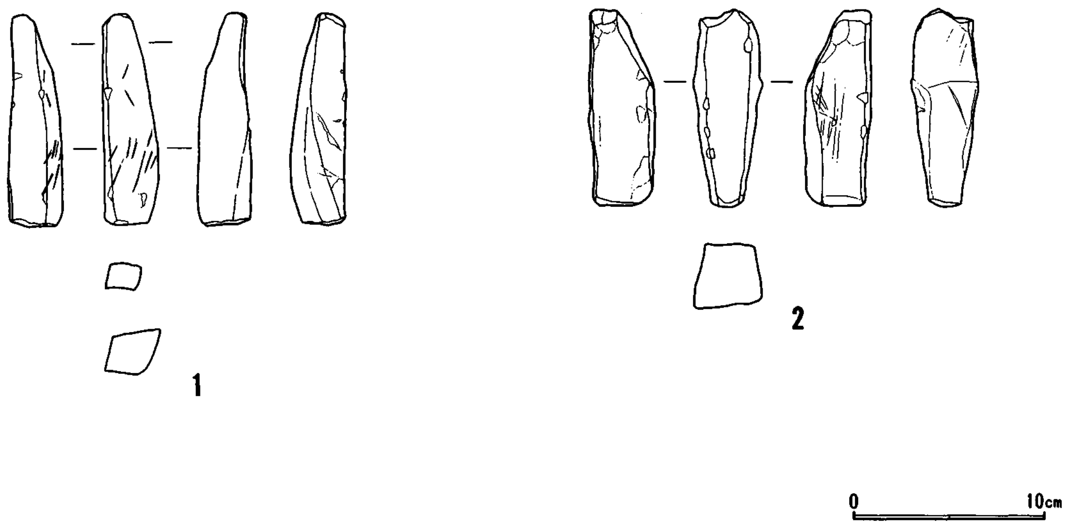

112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
0
5cm

第35図　土錘(4)

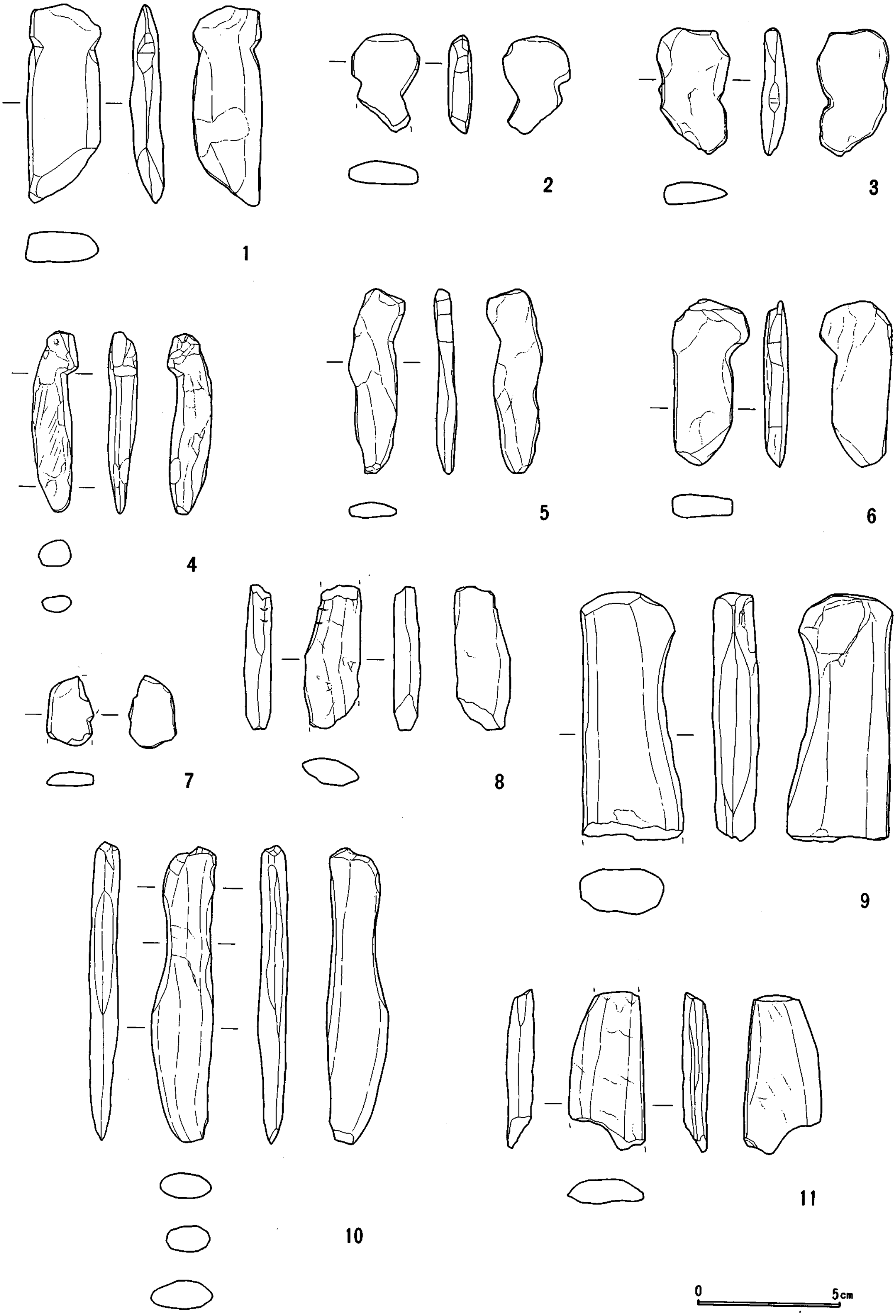

153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
0
5cm

第36図　土錘(5)

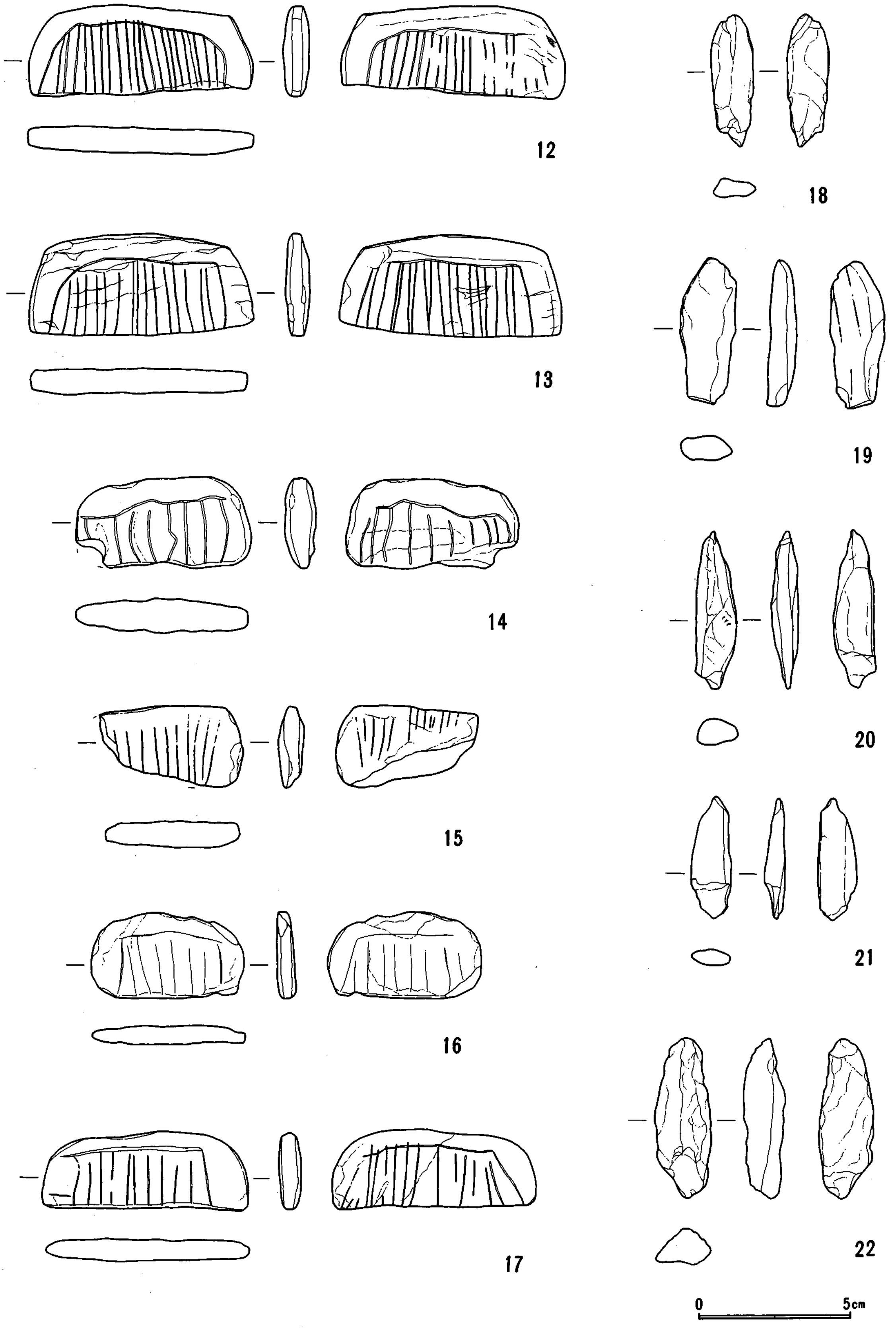

192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
0
5cm


1
2
0
10cm

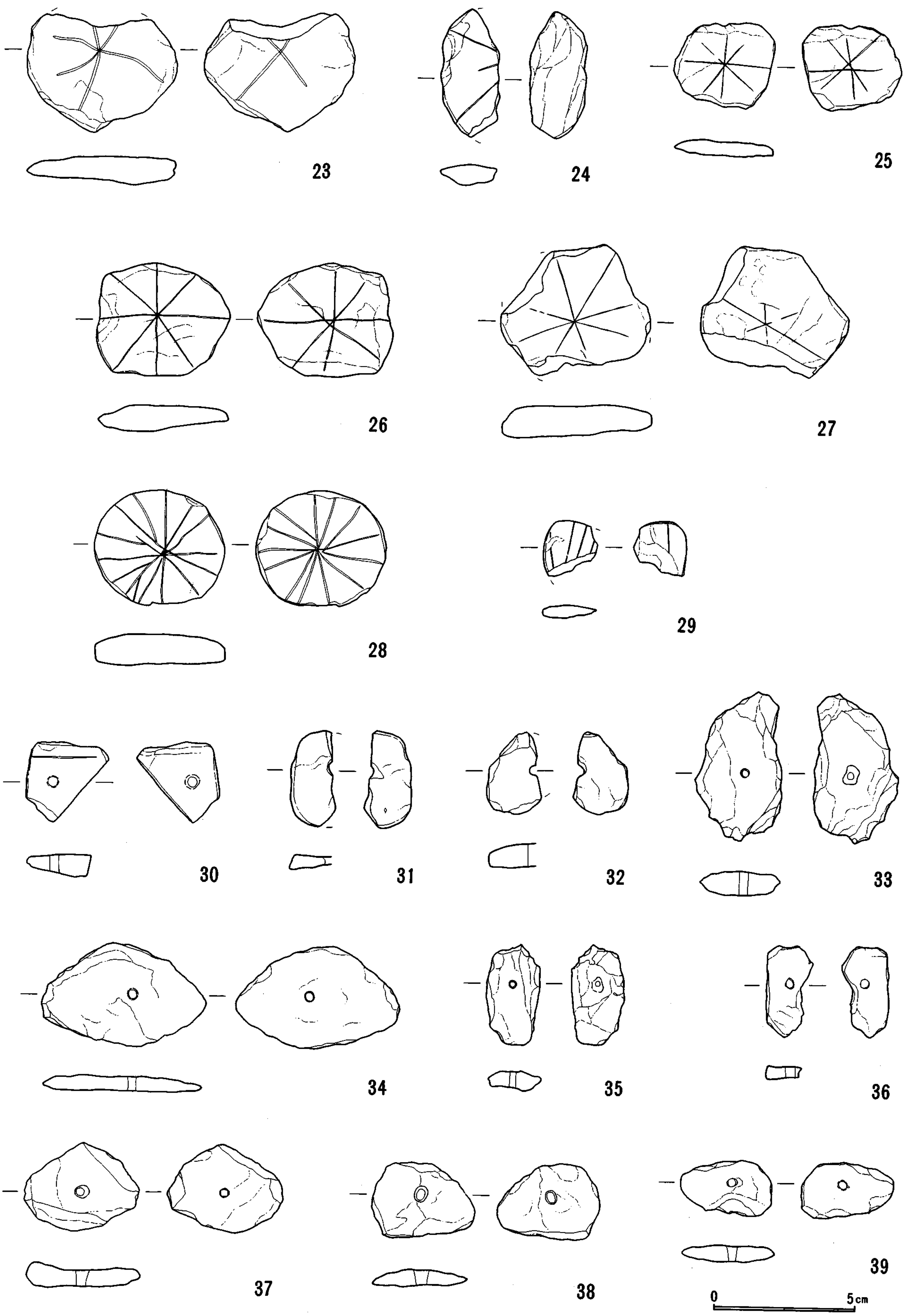
第37図　土錘(6)・砥石



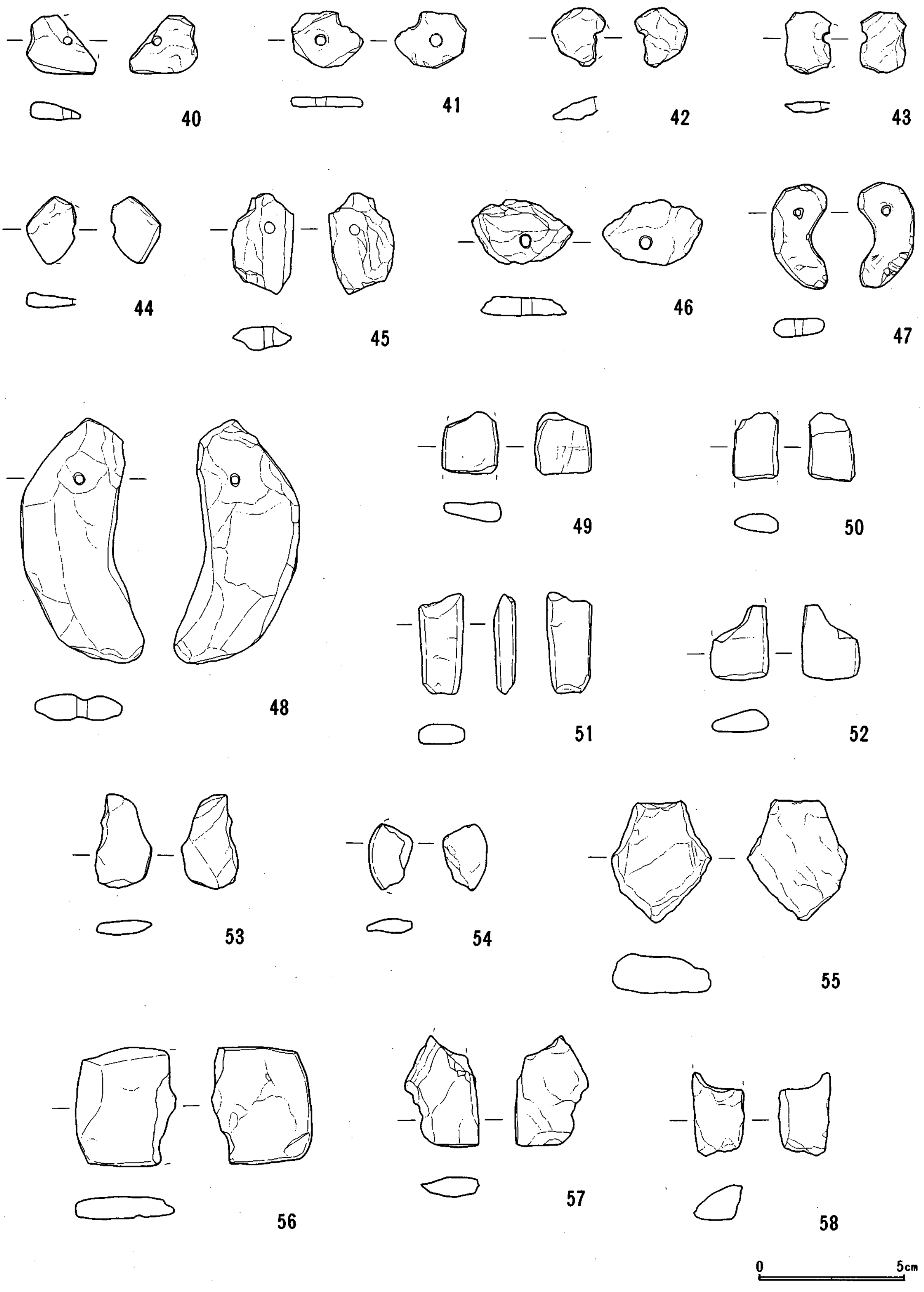
第38図　滑石製模造品(1)



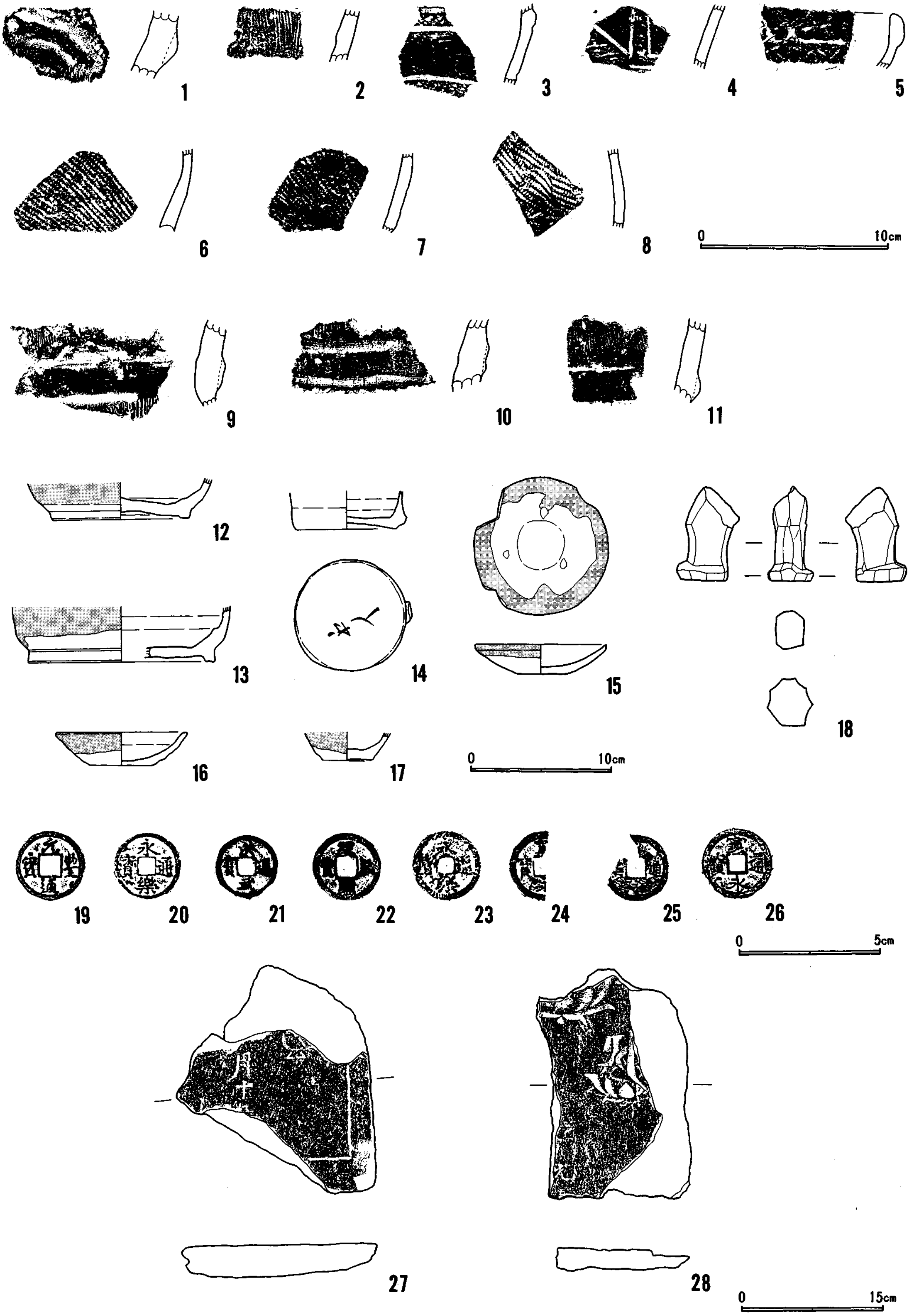
第39図　滑石製模造品(2)



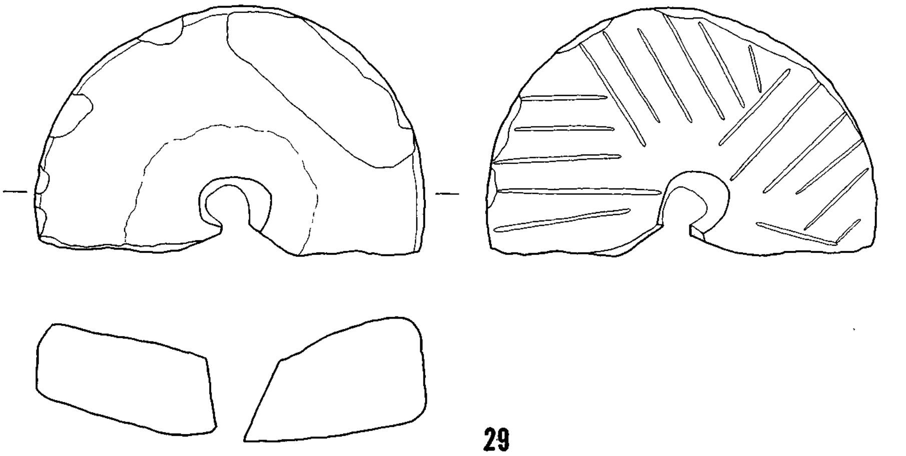
第40図　滑石製模造品(3)



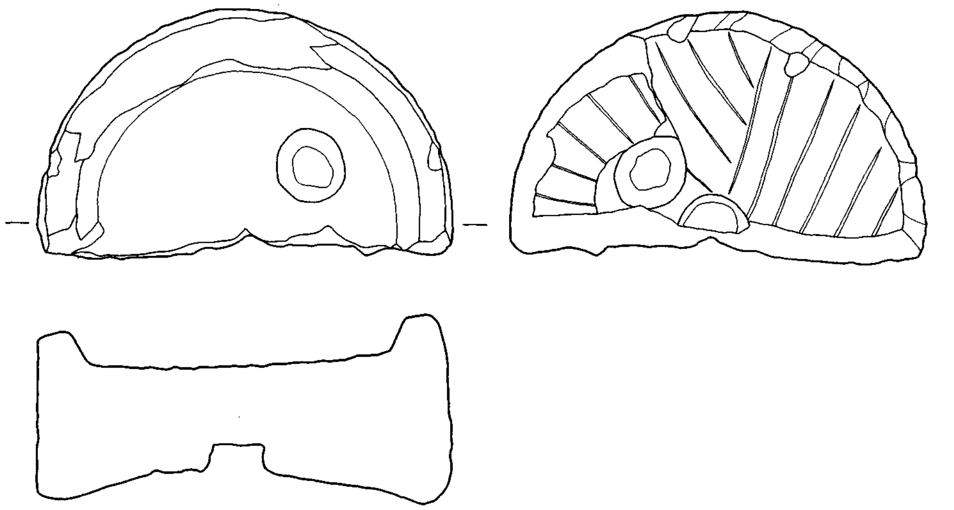
第41図　滑石製模造品(4)



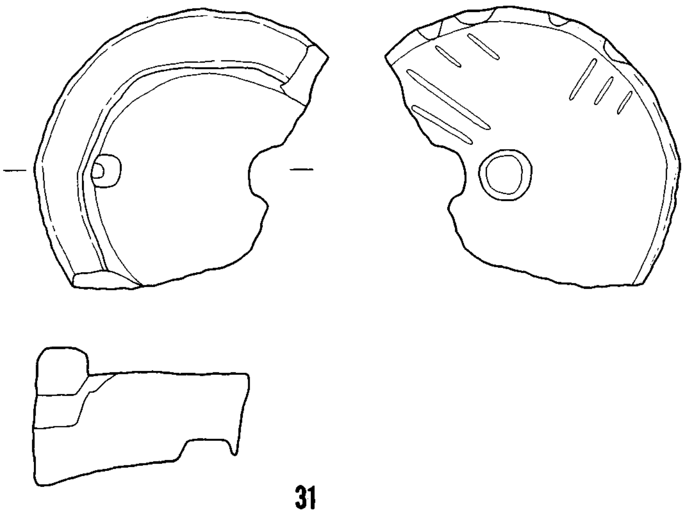
第42図　縄文・弥生・埴輪・陶磁器・古銭・板碑



29



30



31

0　15cm

第43図　石臼

第3表　土器観察表

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
18－1 11	J－5	須恵器 蓋	(9.5) 3.5 －	外 回転ナデ。天井部回転ヘラ削り。内 回転ナデ。口～天井部内湾し、口縁端部直立する。	白色粒　黒色粒 密	灰色	良	口～天 30%	末野産。
18－2 11	H－5	須恵器 蓋	(16.7) 2.8 －	外 回転ナデ。天井部回転ヘラ削り。内 回転ナデ。口縁部外に開く。内面かえり有。天井部平坦。つまみ欠。「カキヤブリ」痕。	黒色粒　石英 片岩 密	外 暗灰色 内 浅黄色	良	口 45% 天 50%	末野産。
18－3 11	I－5	須恵器 蓋	－ 3.4	外 回転ナデ。天井部つまみ周辺回転ヘラ削り。内 回転ナデ。口縁部ほぼ直線的に開く。天井部ほぼ平坦。擬宝珠つまみ有。	白色粒　黒色粒 片岩　石英 密	外 灰黄色 内 黒褐色 褐灰色	良	口 10% 天 100%	末野産。
18－4 －	B－1	須恵器 蓋	－ 1.4 －	外 つまみ周辺ヘラ削り。内 回転ナデ。擬宝珠つまみ有。	白色粒　黒色粒 赤色粒　片岩 密	灰白色	良	つまみ 100%	末野産。
18－5 －	I－5 6	須恵器 蓋	－ 1.9 －	外 つまみ周辺回転ヘラ削り。内 回転ナデ。天井部ほぼ平坦。擬宝珠つまみ有。	白色粒　黒色粒 石英 密	外 褐灰色 内 灰色	良	天井部 45%	末野産。
18－6 －	J－4	須恵器 蓋	(20.0) 1.2 －	内外ともに回転ナデ。口縁部外に開く。内面にかえり有。	白色粒　片岩 密	灰色	良	口縁部 10%	末野産。
18－7 11	L－5	須恵器 蓋	(12.0) 2.0 －	外 回転ナデ。天井部回転ヘラ削り。内 回転ナデ。口縁部内湾する。天井部平坦。つまみ欠。「カキヤブリ」痕有。	白色粒　黒色粒 片岩 密	灰色	良	口 35% 天 60%	末野産。
18－8 －	N－6	須恵器 蓋	(20.6) 2.4 －	内外ともに回転ナデ。口縁部外に開く。内面にかえり有。	白色粒　黒色粒 片岩　石英 密	外 灰色 内 灰色 灰白色	良	口縁部 15%	末野産。
18－9 －	O－7	須恵器 蓋	(19.3) 2.3 －	内外ともに回転ナデ。口縁部外に開く。内面にかえり有。	白色粒　黒色粒 雲母　片岩 密	外にぶい橙 内 灰黄色 黒褐色	良	口縁部 20%	末野産。
18－10 －	Q－6	須恵器 蓋	(21.8) 2.2 －	内外ともに回転ナデ。口縁部外に開く。内面にかえり有。	白色粒　片岩 石英 やや粗	灰色	良	口縁部 10%	末野産。
18－11 11	L－6	須恵器 蓋	(16.5) 2.2 －	外 回転ナデ。天井部回転ヘラ削り。内 回転ナデ。口縁部内湾し、端部直立する。天井部ほぼ平坦。つまみ欠。	白色粒　小石 白色針状物質 密	外 灰 暗灰 内 灰 灰白	良	口～天 45%	南比企産。
18－12 －	S－6	須恵器 蓋	－ 1.25 －	外 つまみ周辺回転ヘラ削り。内 回転ナデ。天井部平坦。扁平つまみ有。	白色粒　小石 白色針状物質 密	灰色	良	天井部 30%	南比企産。
18－13 11	B－1 2	須恵器 蓋	15.8 4.9 －	外 口縁部回転ナデ。天井部つまみ周辺回転ヘラ削り。内 回転ナデ。口縁部ほぼ直線的、端部直立。天井部平坦。扁平つまみ。	白色粒　黒色粒 片岩 密	外 灰色 内 灰白色	良	ほぼ完形	末野産。
18－14 －	L－6	須恵器 蓋	(14.2) 3.1 －	外 口縁部回転ナデ。天井部回転ヘラ削り。内 回転ナデ。口縁部ほぼ直線的に開き、端部直立する。天井部ほぼ平坦。	白色粒　黒色粒 片岩 密	灰色	良	口 20% 天 30%	末野産。
18－15 11	I－5 J－6	須恵器 坏	18.1 4.2 9.2	内外ともに回転ナデ。底部手持ちヘラ削り。口縁部やや外反する。体部直線的。底部やや丸底。	白色粒　黒色粒 片岩　石英 密	外 灰黄褐 内 黄灰色	良	口 35% 体 〃 底 100%	末野産。
18－16 －	J－6	須恵器 坏	(18.2) 4.2 (14.7)	内外ともに回転ナデ。底部ヘラ削り。口～体部外に直線的に開く。	白色粒　赤色粒 片岩　石英 やや粗	暗赤褐色	良	口～体 20%	末野産。
18－17 11	C－2	須恵器 坏	(14.0) 3.3 8.6	内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。口～体部ほぼ直線的に開く。底部平底。	白色粒　小石 白色針状物質 密	外 灰黄褐 内 灰色	良	口 25% 体 〃 底 100%	南比企産。
18－18 11	H－4	須恵器 坏	(15.0) 3.2 (9.6)	内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。底面に×印有。口～体部直線的に開く。底部やや上げ底。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 小石　密	灰色	良	口 70% 体 〃 底 100%	南比企産。
18－19 －	H－5	須恵器 坏	(14.6) 2.75 (10.2)	内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。口～体部直線的に開く。底部上げ底。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 小石　密	灰色	良	口～底 20%	南比企産。
18－20 11	J－6 K－4・5	須恵器 坏	(15.8) 3.05 (9.2)	内外ともに回転ナデ。口縁部外面自然釉有。底部回転ヘラ削り。口～体部ほぼ直線的に開く。底部平底？	白色粒　小石 白色針状物質 密	外 暗灰色 灰色 内 灰色	良	口 40% 体 〃 底 30%	南比企産。
18－21 12	G－5	須恵器 坏	(12.8) 3.9 7.8	内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。口～体部内湾する。底部平底。	白色粒　小石 白色針状物質 密	外 灰色 内 浅黄色 灰色	良	口 20% 体 100% 底 〃	南比企産。
18－22 12	L－6	須恵器 坏	14.6 4.4 8.0	内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。口縁部やや外反する。口縁部外面自然釉有。体部内湾。底部平底。	白色粒　小石 白色針状物質 密	外 灰色 暗灰色 内 灰色	良	ほぼ完形	南比企産。

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
18−23 12	Q−6 R−6	須恵器 坏	(14.4) 3.85 9.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後外周ヘラ削り。口〜体部直線的に開く。底部やや上げ底。	白色粒 小石 白色針状物質 密	外 灰色 内 黄灰色	良	口 25% 体 60% 底 100%	南比企産。
18−24 12	B−1	須恵器 坏	12.8 3.4 7.4	内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体部やや内湾する。底部平底。	白色粒 黒色粒 赤色粒 片岩 密	灰ｵﾘｰﾌﾞ色	良	ほぼ完形	末野産。
18−25 —	B−2	須恵器 坏	(12.2) 3.0 (6.1)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後外周ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体部やや内湾する。底部やや上げ底。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 浅黄色 暗灰色 内 灰白色	良	口 20% 体 40% 底 45%	南比企産。
18−26 12	G−5	須恵器 坏	12.2 3.3 6.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部やや内湾する。口縁部外面自然釉有。底部上げ底。	白色粒 小石 白色針状物質 密	外 灰色 暗灰色 内 灰色	良	ほぼ完形	南比企産。
18−27 12	G−5	須恵器 坏	12.3 3.4 6.3	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部やや外反する。体部やや内湾する。底部上げ底。	白色粒 小石 白色針状物質 密	ｵﾘｰﾌﾞ灰色	良	口 40% 体 〃 底 100%	南比企産。
18−28 12	H−5	須恵器 坏	12.4 3.5 6.1	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部やや内湾する。底部平底。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 暗灰色 灰色 内 灰色	良	ほぼ完形	南比企産。
18−29 —	H−5	須恵器 坏	(12.4) 2.85 4.7	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部内湾する。底部平底。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	灰白色	良	口 20% 体 35% 底 100%	南比企産。
18−30 12	J−5 6	須恵器 坏	12.3 3.5 7.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部内湾する。底部上げ底。	白色粒 小石 白色針状物質 密	外 暗灰色 灰色 内 灰色	良	口 55% 体 〃 底 100%	南比企産。
18−31 12	K−6	須恵器 坏	11.8 3.5 6.5	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部やや外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	黒色粒 片岩 石英 密	明褐色 灰黄色	良	ほぼ完形	末野産。
18−32	E−3	須恵器 坏	12.9 3.65 6.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部上げ底。	白色粒 片岩 石英 密	黄灰色	良	口 25% 体 75% 底 100%	末野産。
18−33 —	D−3	須恵器 坏	(13.2) 4.1 (6.5)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部上げ底。	黒色粒 赤色粒 片岩 石英 密	淡黄色	やや 不良	口 25% 体 45% 底 〃	末野産。
19−34 12	G−5	須恵器 坏	13.1 3.8 6.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後外周ヘラ削り。口縁部外反する。体部内湾する。底部上げ底。	黒色粒 片岩 石英 密	淡黄色 灰黄色	やや 不良	ほぼ完形	末野産。
19−35 13	H−4	須恵器 坏	(13.0) 3.9 7.1	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。底部外面に墨書有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 灰色 暗灰色 内 灰色	良	口 45% 体 〃 底 100%	南比企産。
19−36 —	H−4	須恵器 坏	(13.0) 3.95 (7.8)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部やや内湾する。底部平底？	白色粒 黒色粒 白色針状物質 石英 密	外 灰白色 褐灰色 内 灰白色	良	口 25% 体 30% 底 20%	南比企産。
19−37 —	G−5	須恵器 坏	(11.2) 3.6 (4.8)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後外周ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体部内湾する。底部やや上げ底。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 灰ｵﾘｰﾌﾞ 暗灰色 内 灰ｵﾘｰﾌﾞ	良	口 15% 体 45% 底 〃	南比企産。
19−38 13	B−2	須恵器 坏	(13.0) 4.1 5.1	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部平底。	白色粒 黒色粒 片岩 密	灰黄色 黄灰色	良	口 20% 体 50% 底 〃	末野産。
19−39 13	G−5	須恵器 坏	(13.8) 3.6 5.9	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部大きく外反する。体部内湾する。底部平底。	白色粒 黒色粒 片岩 小石 やや粗	褐灰色	良	口 35% 体 50% 底 〃	末野産。
19−40 13	H−5	須恵器 坏	13.0 4.0 7.9	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	白色粒 黒色粒 赤色粒 片岩 密	灰白色	良	口 35% 体 50% 底 100%	末野産。
19−41 13	H−5	須恵器 坏	11.9 3.8 5.7	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	白色粒 黒色粒 片岩 やや粗	暗灰色 にぶい赤褐	良	口 35% 体 70% 底 100%	末野産。
19−42 —	K−6	須恵器 坏	12.85 4.7 5.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部やや外反する。体部内湾する。底部平底。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 石英 密	暗灰色	良	口 5% 体 70% 底 100%	南比企産。
19−43 13	L−6	須恵器 坏	12.4 4.5 4.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部やや外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	黒色粒 赤色粒 石英 密	淡黄色 にぶい黄橙	良	口 40% 体 90% 底 100%	末野産？
19−44 13	L−5	須恵器 坏	— 1.2 9.4	底部全面回転ヘラ削り。底部平底。底部外面に墨書有。	白色粒 小石 白色針状物質 密	暗灰色	良	底部 70%	南比企産。

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
19−45 —	Q−7	須恵器 坏	— 1.7 (9.3)	底部回転糸切り後外周ヘラ削り。 底部上げ底。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 小石　密	灰色	良	底部 40%	南比企産。
19−46 —	C−2	須恵器 坏	— 1.9 7.4	底部回転糸切り後外周ヘラ削り。 底部上げ底。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 石英　密	灰白色	良	底部 100%	南比企産。
19−47 —	G−4	須恵器 坏	— 2.3 7.0	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部上げ底。	白色粒　黒色粒 片岩 密	灰色	良	体　5% 底 100%	末野産。
19−48 13	J−4	須恵器 坏	— 1.1 8.2	底部全面回転ヘラ削り。 底部平底。 底部外面に墨書有。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 小石　密	外　灰白色 内　灰白色 にぶい黄褐	良	底部 40%	南比企産。
19−49 14	J−6	須恵器 坏	— 2.8 (6.6)	底部回転ヘラ削り。 体部内湾する。 底部平底。底部外面に墨書有。	白色粒　黒色粒 片岩　石英 密	灰白色	良	体　10% 底　30%	末野産。
19−50 —	J−6	須恵器 坏	— 2.7 (7.5)	底部回転糸切り後外周ヘラ削り。 体部直線的に開く。 底部平底。	白色粒　黒色粒 片岩 密	外　灰色 内　暗灰色	良	体　30% 底　45%	末野産。
19−51 —	K−5	須恵器 坏	— 3.0 7.2	底部回転糸切り。 体部直線的に開く。 底部平底。	白色粒　片岩 やや粗	外　黄灰色 内　黄灰色 暗赤褐色	良	体　55% 底 100%	末野産。
19−52 —	Q−6	須恵器 坏	— 2.2 (7.4)	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部上げ底。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 小石　密	黄灰色	良	体　40% 底　45%	南比企産。
19−53 —	U−6	須恵器 坏	— 2.3 6.0	底部回転糸切り後外周ヘラ削り。 体部内湾する。 底部平底。	白色粒　小石 白色針状物質 密	灰色	良	体　30% 底 100%	南比企産。
19−54 —	B−1 2	須恵器 坏	— 1.9 5.9	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部上げ底。	黒色粒　赤色粒 石英 密	灰白色 灰ｵﾘｰﾌﾞ色	やや 不良	体　45% 底　70%	末野産？
19−55 —	D−3	須恵器 坏	— 2.8 5.0	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部上げ底。	白色粒　小石 白色針状物質 やや粗	外　灰ｵﾘｰﾌﾞ 内　黒褐色	良	体　25% 底 100%	南比企産。
19−56 —	D−4	須恵器 坏	— 2.8 (5.8)	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部上げ底。	白色粒　黒色粒 片岩　石英 密	外　にぶい黄 内　黄灰色	良	体　40% 底　45%	末野産。
19−57 —	G−3	須恵器 坏	— 2.8 5.8	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部上げ底。	黒色粒　小石 白色針状物質 密	灰色	良	体　10% 底 100%	南比企産。
19−58 14	G−4	須恵器 坏	— 1.1 (5.6)	底部回転糸切り。 底部やや上げ底。 底部内面に墨書有。	白色粒　黒色粒 小石 粗	灰色	良	底部 25%	末野産。
19−59 —	H−4	須恵器 坏	— 1.8 5.7	底部回転糸切り。 体部直線的。 底部上げ底。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 石英　密	にぶい黄橙 暗灰色	良	体　95% 底 100%	南比企産。
19−60 —	I−5 6	須恵器 坏	— 1.7 5.0	底部回転糸切り。 体部外反する。 底部平底。	白色粒　黒色粒 片岩 密	灰白色	良	体　40% 底 100%	末野産。
19−61 14	J−5	須恵器 坏	— 2.8 (6.2)	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部平底。底部内面に墨書有。	白色粒　片岩 石英 密	外　暗灰色 内　灰色	良	体　20% 底　30%	末野産。
19−62 14	K−5	須恵器 坏	— 2.9 (6.6)	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部平底。底部内面に墨書有。	白色粒　黒色粒 片岩　石英 密	暗灰色	良	体　20% 底　30%	末野産。
19−63 —	M−6	須恵器 坏	— 2.5 6.4	底部回転糸切り。 体部やや内湾する。 底部上げ底。	白色粒　黒色粒 片岩 密	外　黄灰色 内　灰白色	良	体　25% 底 100%	末野産。
19−64 —	N−6	須恵器 坏	— 4.0 (6.4)	底部回転糸切り。 体部内湾する。 底部上げ底。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 小石　石英　密	外　黄灰色 内　灰白色	良	体　30% 底　35%	南比企産。
19−65 14	Q−7	須恵器 坏	— 0.7 (6.7)	底部回転糸切り。 底部平底。 底部外面に墨書有。	白色粒　黒色粒 白色針状物質 石英　密	灰白色	良	底部 25%	南比企産。
19−66 14	N−6	須恵器 坏	— — —	内外ともに回転ナデ。 口縁部やや内湾する。 口縁部外面に墨書有。	白色粒　黒色粒 片岩　石英 密	灰色	良	口縁部片	末野産。

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
20-67 14	L-6	須恵器 坏	— 2.5 11.6	高台付。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。体部段有。底部「出尻」。高台部ハの字状に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	灰褐色	良	体 30% 高 100%	末野産。
20-68 14	P-7	須恵器 坏	13.6 3.6 9.7	高台付。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。口～体部やや内湾する。口縁部外面自然釉有。高台部ややハの字に開く	白色粒 黒色粒 小石 密	外 灰白色 ｵﾘｰﾌﾞ灰 内 灰白色	良	口 65% 体 〃 高 100%	末野産？
20-69 14	L-6	須恵器 坏	(12.9) 4.4 8.0	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口～体部内湾する。高台部ほぼ直立する。底部外面に墨書有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 灰白色 灰 色 内 灰 色	良	口 20% 体 〃 高 100%	南比企産。
20-70 15	C-2	須恵器 椀	(15.8) 6.2 7.2	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 やや粗	灰黄色 灰白色	良	口 35% 体 50% 高 70%	南比企産。
20-71 15	E-3	須恵器 椀	(15.7) 5.45 —	内外ともに回転ナデ。口縁部外反する。外面に墨書有。体部内湾する。	白色粒 黒色粒 片岩 やや粗	灰 色	良	口～体 30%	末野産。
20-72 —	E-3	須恵器 椀	(13.8) 4.5 —	内外ともに回転ナデ。口縁部外反する。体部直線的に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 やや粗	暗灰色 灰 色	良	口～体 20%	末野産。
20-73 15	F-4	須恵器 椀	15.0 5.7 7.7	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部直立する。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	灰 色	良	口 70% 体 75% 高 100%	末野産。
20-74 —	F-4	須恵器 椀	(13.6) 5.8 6.5	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ハの字状に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	灰 色	良	口 5% 体 30% 高 100%	末野産。
20-75 —	F-3	須恵器 椀	14.0 5.5 5.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ナデ。口縁部やや外反。体部直線的に開く。高台部直立する。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 密	外 灰 暗灰 内 暗灰色 褐灰色	良	口 30% 体 〃 高 75%	南比企産。
20-76 15	G-4	須恵器 椀	13.4 5.3 6.9	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	白色粒 片岩 小石 粗	灰 色 灰ｵﾘｰﾌﾞ色	やや 不良	完 形	末野産。
20-77 15	G-5 H-5	須恵器 椀	14.6 5.9 7.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラナデ。口縁部大きく外反する。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	黒色粒 片岩 石英 やや粗	外 暗灰色 灰 色 内 灰 色	良	ほぼ完形	末野産。
20-78 15	H-5	須恵器 椀	14.2 6.5 7.4	高台付。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ややハの字に開く。	黒色粒 赤色粒 石英 小石 密	灰白色	良	口 70% 体 〃 高 100%	末野産。
20-79 15	J-5	須恵器 椀	14.0 6.0 5.5	高台付。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ややハの字に開く。	黒色粒 片岩 石英 密	褐灰色 にぶい橙色	良	口 40% 体 100% 高 〃	末野産。
20-80 —	K-6	須恵器 椀	(14.4) 5.6 6.0	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部大きく外反する。体部内湾する。高台部ほぼ直立する。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	暗灰色 にぶい橙色	良	口 20% 体 40% 高 50%	末野産。
20-81 15	L-6	須恵器 椀	(14.2) 5.8 7.2	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切後高台部周辺回転ヘラナデ。口縁部やや外反。体部直線的。高台部ハの字。	白色粒 石英 やや粗	黒 色	良	口 30% 体 100% 高 〃	末野産。
20-82 15	L-6	須恵器 椀	14.2 6.1 6.2	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切後高台周辺回転ヘラナデ。口縁部外反。体部内湾。底部内面墨書有。高台部ハの字。	白色粒 黒色粒 赤色粒 片岩 石英 密	灰 色	良	口 60% 体 〃 高 100%	末野産。
20-83 16	G-5	須恵器 椀	— 1.7 9.1	高台部。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラ削り。底部外面墨書有。高台部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	橙 色	やや 不良	高台部 100%	南比企産。
20-84 —	J-4	須恵器 椀	— 1.4 8.8	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラ削り。高台部ややハの字に開く。	白色粒 小石 白色針状物質 密	灰 色	良	高台部 70%	南比企産。
20-85 —	H-5	須恵器 椀	— 4.0 (7.9)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	灰白色	良	体 10% 高 20%	末野産。
20-86 —	K-6	須恵器 椀	— 1.3 6.8	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。高台部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 石英 小石 密	灰黄褐色 暗灰色	良	高台部 100%	南比企産。
20-87 —	D-3	須恵器 椀	— 3.4 (6.6)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。高台部直立する。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	灰白色	良	体 5% 高 45%	末野産。
20-88 —	D-3	須恵器 椀	— 2.1 7.0	高台部。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラナデ。体部直線的に開く。高台部ややハの字に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	灰ｵﾘｰﾌﾞ色	良	体 25% 高 100%	末野産。

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
20−89 —	I−5 6	須恵器 椀	− 2.4 (8.2)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部直線的。高台部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	灰色	良	体 10% 高 45%	末野産。
20−90 —	M−6	須恵器 椀	− 3.1 7.1	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。高台部ほぼ直立する。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	外 暗灰色 灰色 内 灰色	良	体 30% 高 90%	末野産。
20−91 —	C−2	須恵器 椀	− 2.2 6.8	高台部。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラナデ。高台部ほぼ直立する。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 石英 密	外 灰白色 暗灰色 内 暗灰色	やや 不良	高台部 100%	南比企産。
20−92 —	C−2	須恵器 椀	− 2.8 −	内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラナデ。体部やや内湾する。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	黄灰色	良	体部 30%	末野産。
20−93 —	E−3	須恵器 椀	− 1.1 6.6	高台部。内外ともに回転ナデ。底部全面回転ヘラナデ。高台部低く、ややハの字に開く。	白色粒 黒色粒 赤色粒 片岩 石英 密	外にぶい橙 内 浅黄色	良	高台部 80%	末野産。
20−94 16	G−3	須恵器 椀	− 2.1 6.3	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部直線的に開く。高台部ほぼ直立する。底部外面に墨書有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 石英 密	灰白色	良	高台部 100%	南比企産。
20−95 —	K−6	須恵器 椀	− 3.4 7.0	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	白色粒 片岩 石英 やや粗	外 黄灰色 内 灰色	良	体 10% 高 50%	末野産。
20−96 —	L−6	須恵器 椀	− 4.2 6.0	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部直線的に開く。高台部低く、ややハの字に開く。	白色粒 黒色粒 赤色粒 片岩 石英 小石 密	外 灰黄色 灰色 内 灰黄色	良	体 25% 高 50%	末野産。
20−97 16	I−5	須恵器 椀	− − −	底部内面中央に孔有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 密	暗灰色	良	高台部 100%	南比企産。
21−98 —	H−5	須恵器 皿	(15.2) 2.1 (6.3)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部やや内湾する。底部上げ底。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	外 灰黄色 内 灰黄色 暗灰色	良	口~底 30%	末野産。
21−99 16	K−5	須恵器 皿	12.4 1.9 (5.9)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部やや内湾する。底部平底。	白色粒 片岩 小石 やや粗	暗灰色	良	口~底 70%	末野産。
21−100 16	M−5	須恵器 皿	(13.4) 2.1 5.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口~体部外反する。底部平底。	白色粒 赤色粒 片岩 石英 やや粗	にぶい赤褐	良	口 25% 体 〃 底 100%	末野産。
21−101 16	M−5	須恵器 皿	15.0 2.2 7.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口~体部外反する。底部平底。底部内面に墨状のシミ有。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	灰色	良	口 30% 体 85% 底 100%	末野産。
21−102 16	M−5 L−5	須恵器 皿	14.0 2.7 6.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部やや内湾する。底部やや上げ底。底部内面に墨書有。	白色粒 黒色粒 赤色粒 片岩 石英 やや粗	灰黄褐色 橙色	良	口~底 60%	末野産。
21−103 16	D−3	須恵器 皿	13.6 3.3 6.7	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口~体部内湾する。高台部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 やや粗	灰色 オリーブ黒色	良	完形	末野産。
21−104 16	E−3	須恵器 皿	13.4 2.7 6.5	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部やや内湾する。高台部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 小石 やや粗	暗灰色 灰オリーブ色	良	完形	末野産。
21−105 —	H−4	須恵器 皿	(13.0) 2.6 −	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部ほぼ直線的に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	暗灰色 灰色	良	口 30% 体 50%	末野産。
21−106 17	I−5	須恵器 碗	(20.2) 6.1 (11.1)	内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラ削り。口~体部内湾する。底部平底。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	灰色	良	口 40% 体 〃 底 45%	南比企産。
21−107 17	H−5	須恵器 盤	(13.0) 2.0 7.4	内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラ削り。口縁部ほぼ直線的に開く。口縁部外面に自然釉有。体部段有。底部平底。	白色粒 小石 白色針状物質 密	外 灰色 暗灰色 内 灰色	良	口~底 25%	南比企産。
21−108 17	D−4	須恵器 ミニチュア	7.0 2.7 4.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口~体部ほぼ直線的に開く。底部やや上げ底。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	灰黄色 灰色	良	完形	末野産。
21−109 17	B−2	須恵器 円面硯	− 3.1 (23.2)	外 横位の突帯、透かし孔有。内 回転ナデ。脚部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	灰黄色 灰白色	良	脚部 10%	末野産。
21−110 17	B−2	須恵器 壺	− 13.4 7.2	内外ともに回転ナデ。頸部ほぼ直立する。肩部緩やかに下る。胴部直線的。底部やや上げ底。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	暗灰色 灰色	良	口・底部 以外完存	末野産。

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
21－111 —	C－2	須恵器 甕	(20.0) 11.3 —	外 口縁部回転ナデ、胴部タタキ目。内 口縁部回転ナデ、胴部同心円状あて具痕。口縁部外反し、端部肥厚。胴部球形。	白色粒 黒色粒 片岩 小石 粗	暗灰色 灰色	良	口 40% 胴 45%	末野産。
21－112 —	L－5 6	須恵器 甕	(20.0) 8.0 —	内外ともに回転ナデ。口縁部ほぼ直線的に開く。口縁部外面自然釉有。	白色粒 黒色粒 片岩 やや粗	外 ｵﾘｰﾌﾞ灰 内 灰色 浅黄色	良	口 30% 胴 5%	末野産。
21－113 —	L－6	須恵器 甕	(27.4) 13.7 —	内外ともに回転ナデ。口～頸部外反する。肩部緩やかに下る。	白色粒 小石 白色針状物質 やや粗	灰色	良	口 20% 胴 10%	南比企産。
21－114 17	M－5	須恵器 甕	(32.8) 10.3 —	内外ともに回転ナデ。口～頸部外反する。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	暗灰色 灰色	良	口 25% 胴 5%	南比企産。
21－115 —	N－5	須恵器 甕	(23.6) 5.1 —	内外ともに回転ナデ。口縁部大きく外反し、端部でやや内湾する。やや受け口状を呈する。	黒色粒 石英 密	外 灰白色 内 暗灰色	やや 不良	口縁部 30%	末野産？
21－116 —	F－4	須恵器 甕	— 8.9 13.8	内外ともに回転ナデ。底部ヘラ削り。胴下部ほぼ直線的に開く。底部上げ底。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 密	黄灰色	良	胴 50% 底 〃	末野産。
21－117 17	N－7	須恵器 甕	— 9.2 (15.2)	内外ともに回転ナデ。底部ヘラ削り。胴～底部境ヘラ削り。胴下部緩やかに内湾する。底部平底。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 灰色 黒灰色 内 灰色	良	胴 25% 底 45%	南比企産。
21－118 —	S－6	須恵器 甕	— 9.5 (16.4)	内外ともに回転ナデ。底部ヘラ削り？胴下部緩やかに内湾する。胴下部内外面ともに自然釉有。底部平底？	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 ｵﾘｰﾌﾞ黒 内 灰色 灰白色	良	胴下～底 20%	南比企産。
21－119 —	P－7	須恵器 瓶	— 3.7 (10.6)	高台付。内外ともに回転ナデ。底部ナデ。胴下部、底部内面自然釉有。高台部ややハの字に開く。	白色粒 黒色粒 片岩 やや粗	外 ｵﾘｰﾌﾞ灰 内 灰色	良	胴 10% 底 30%	末野産。
22－120 33	B－1	須恵器 甕	— — —	外 タタキ目。内 回転ナデ。口縁部外反する。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	灰色 灰白色	良	口縁部片	南比企産。
22－121 33	B－3	須恵器 甕	— — —	内外ともに回転ナデ。口縁部外反する。口縁部内外ともに自然釉有。	白色粒 片岩 密	ｵﾘｰﾌﾞ灰色	良	口縁部片	末野産。
22－122 33	H－5	須恵器 甕	— — —	外 回転ナデ。口縁部外面平行沈線間に波状文有。内 回転ナデ。口縁部ほぼ直線的に開く。端部平坦。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	灰色	良	口縁部片	南比企産。
22－123 33	H－5	須恵器 甕	— — —	外 タタキ目。内 回転ナデ。口縁部外反する。	白色粒 小石 白色針状物質 密	外 暗灰色 内 灰白色 暗灰色	良	口縁部片	南比企産。
22－124 33	L－5	須恵器 甕	— — —	外 波状文有。内 回転ナデ。口縁部外反する。	白色粒 小石 白色針状物質 密	暗灰色 灰白色	良	口縁部片	南比企産。
22－125 33	B－1	須恵器 瓶	— — —	外 肩部押し引きによる櫛描文有。胴下部回転ナデ。内 回転ナデ。胴部算盤玉状を呈する。	白色粒 黒色粒 小石 密	灰白色	良	胴部片	産地？
22－126 33	K－5	須恵器 甕	— — —	外 タタキ目。内 回転ナデ。肩部緩やかに下る。肩部外面自然釉有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 灰白色 内 褐灰色 灰白色	良	肩部片	南比企産。
22－127 33	K－6	須恵器 甕	— — —	外 タタキ目。内 回転ナデ。肩部湾曲する。肩部外面自然釉有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 石英 密	外 灰色 灰白色 内 灰色	良	肩部片	南比企産。
22－128 33	L－6	須恵器 甕	— — —	外 格子目状のタタキ目。内 あて具痕。肩部緩やかに下る。外面自然釉有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 灰白色 暗灰色 内 灰色	良	肩部片	南比企産。
22－129 33	L－6	須恵器 甕	— — —	外 タタキ目。内 回転ナデ。肩部直線的。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 暗灰色 灰白色 内 灰色	良	肩部片	南比企産。
22－130 33	Q－7	須恵器 甕	— — —	外 タタキ目。内 回転ナデ。肩部緩やかに下る。肩部外面自然釉やや有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 暗灰色 灰白色 内 暗灰色	良	肩部片	南比企産。
22－131 33	R－6	須恵器 甕	— — —	外 タタキ目やや残。内 回転ナデ。肩部湾曲する。肩部外面自然釉有。	白色粒 黒色粒 片岩 石英 やや粗	外 灰色 ｵﾘｰﾌﾞ灰 内 灰白色	良	肩部片	末野産。
22－132 33	R－6	須恵器 甕	— — —	外 回転ナデ。内 あて具痕。胴下部ほぼ直線的。	白色粒 小石 白色針状物質 密	外 暗灰色 内 灰色	良	胴下部片	南比企産。

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
22−133 33	S−6	須恵器 甕	− − −	外 タタキ目。内 回転ナデ。肩部緩やかに下る。肩部外面自然釉有。	白色粒 黒色粒 白色針状物質 小石 密	外 オリーブ黒 内 灰 色	良	肩部片	南比企産。
22−134 17	L−6	灰 釉 皿	(14.7) 4.3 7.6	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。口〜体部内湾する。高台部ほぼ直立する。	白色粒 黒色粒 密	外 灰 色 内 灰白色 灰黄色	良	口 5% 体 100% 底 〃	
22−135 —	H−5	灰 釉 皿	− 1.3 (7.2)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 密	灰白色	良	高台部 30%	
22−136 —	L−6	灰 釉 皿	− 2.6 (7.7)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部直立する。	白色粒 黒色粒 密	灰白色	良	高台部 30%	
22−137 —	H−5	灰 釉 長頸瓶	(11.8) 4.1 −	内外ともに回転ナデ。口縁部外反する。口縁部内面釉有。	白色粒 黒色粒 小石 密	外 灰白色 内 灰オリーブ	良	口縁部 20%	
22−138 —	N−7	灰 釉 瓶	− 6.1 8.9	高台付。内外ともに回転ナデ。胴下部内湾する。底部回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	白色粒 黒色粒 小石 密	灰白色	良	胴下 30% 底 100%	
23−139 17	F−4	土師器 坏	11.7 5.1 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 黒雲母 小石 密	外 黄橙色 内 黒褐色 明黄橙色	良	口〜底 80%	
23−140 —	F−3	土師器 坏	(10.9) 4.4 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部やや外反する。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 黒雲母 密	外 橙 色 黒褐色 内 橙 色	良	口 40% 体 50% 底 〃	
23−141 17	G−4	土師器 坏	11.2 4.0 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部やや外反する。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 白色粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	灰褐色 黒褐色	良	口〜底 85%	
23−142 —	C−3	土師器 坏	(14.8) 3.8 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 石英 密	褐灰色	やや 不良	口〜底 20%	
23−143 —	F−4	土師器 坏	(12.4) 3.0 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部外反する。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 黒雲母 密	橙 色	良	口〜底 25%	
23−144 —	F−4	土師器 坏	(11.2) 2.8 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	橙 色	良	口〜底 30%	
23−145 18	I−5 6	土師器 坏	12.0 3.7 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部直線的に開く。口縁部内面沈線有。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 黒雲母 密	外にぶい橙 黒褐色 内 橙 色	良	口〜底 80%	
23−146 —	I−4	土師器 坏	13.8 3.9 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 黒雲母 石英 密	暗褐色 灰黄褐色	良	口〜底 30%	
23−147 —	I−5	土師器 坏	(11.8) 3.7 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部外反する。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 黒雲母 小石 密	赤褐色 明赤褐色	良	口〜底 45%	
23−148 —	J−6	土師器 坏	(14.4) 3.2 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部外反する。体〜底部に段有。底部やや平底ぎみ。	砂粒 黒色粒 黒雲母 小石 密	にぶい橙色	良	口〜底 45%	
23−149 —	L−6	土師器 坏	(12.0) 3.45 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体〜底部に段有。底部やや平底ぎみ。	砂粒 白色粒 石英 小石 密	黒褐色	良	口 10% 体 25% 底 〃	
23−150 —	N−6	土師器 坏	(11.7) 3.6 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部ほぼ直線的に開く。体〜底部に段有。底部やや平底ぎみ。	砂粒 赤色粒 石英 密	黒褐色 にぶい黄橙	良	口〜底 35%	
23−151 18	P−5 6	土師器 坏	(13.5) 3.9 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部直線的に開く。体〜底部に段有。底部やや平底ぎみ。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外 褐灰色 にぶい橙色 内 黒褐色	良	ほぼ完形	
23−152 —	M−5	土師器 坏	(17.0) 4.2 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部大きく外反する。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 石英 小石 密	にぶい橙色	良	口〜底 30%	
23−153 18	M−5	土師器 坏	(16.6) 4.0 −	外 横ナデ、指頭圧痕有。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部大きく外反する。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	橙 色	良	口〜底 35%	
23−154 —	Q−7	土師器 坏	(16.2) 4.2 −	外 横ナデ。内 横ナデ、ナデ。底部ヘラ削り。口縁部大きく外反する。体〜底部に段有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	にぶい橙色 橙 色	良	口〜底 30%	

挿図番号 図版番号	出土グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
23−155 18	D−3 4	土師器 坏	12.0 4.1 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	にぶい橙色 橙色	良	口〜底 60%	
23−156 18	H−5	土師器 坏	11.7 4.0 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。一部ヘラ痕有。口縁部やや開く。体〜底部丸底。	砂粒 白色粒 黒色粒 石英 角閃石 密	外 橙色 黒色 内 橙色	良	口 70% 体 〃 底 100%	
23−157 −	D−3	土師器 坏	(11.9) 3.0 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部やや内傾する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色	良	口〜底 30%	
23−158 18	F−3	土師器 坏	12.8 4.2 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部ほぼ内湾する、端部さらに内湾。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	橙色	良	口〜底 80%	
23−159 −	L−6	土師器 坏	(16.3) 4.3 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 石英 密	にぶい橙色	良	口〜底 25%	
23−160 18	M−6	土師器 坏	12.8 3.7 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部ほぼ直立する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色 明赤褐色	良	口〜底 50%	
23−161 −	I−5	土師器 坏	12.4 3.5 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 小石 密	にぶい橙色	良	口 40% 体 〃 底 50%	摩耗顕著。
23−162 −	O−6 P−6	土師器 坏	(11.8) 2.9 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 石英 密	にぶい褐色	良	口〜底 45%	
23−163 −	P−7	土師器 坏	(11.0) 3.1 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	にぶい橙色	良	口〜底 25%	
23−164 −	F−4	土師器 坏	(14.6) 4.2 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部ほぼ直立する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色 黄灰色	良	口〜底 20%	
23−165 −	K−6	土師器 坏	(12.0) 3.6 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色	良	口 5% 体 20% 底 50%	
23−166 −	P−6	土師器 坏	(10.8) 3.55 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色	良	口〜底 30%	外面摩耗顕著。
23−167 18	G−3	土師器 坏	12.1 3.8 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部やや開く。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい橙色	良	口〜底 50%	
23−168 18	J−6	土師器 坏	(14.7) 4.1 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部やや開く。体〜底部屈曲緩やか。底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい橙色 黒褐色	良	口 30% 体 〃 底 100%	
23−169 −	N−6	土師器 坏	(11.9) 3.4 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部やや開く。体〜底部屈曲緩やか。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色	良	口 40% 体 〃 底 100%	
23−170 18	C−2	土師器 坏	(12.4) 3.6 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 石英 密	橙色 にぶい黄橙	良	口 45% 体 〃 底 100%	
23−171 19	G−4	土師器 坏	14.2 4.5 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 小石 密	外 橙色 明赤褐色 内 橙色	良	完形	
23−172 19	H−4	土師器 坏	13.1 3.6 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部ほぼ直立する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい褐色 にぶい橙色	良	口〜底 50%	
23−173 19	H−4	土師器 坏	12.3 4.0 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 角閃石 石英 小石 密	褐灰色 灰褐色	良	完形	内面にタール状のもの付着（灯明）。
23−174 19	D−3	土師器 坏	11.6 3.4 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 黒雲母 小石 密	浅黄橙 橙色	良	ほぼ完形	
23−175 −	E−5	土師器 坏	(16.0) 2.9 −	外 口縁部横ナデ、体底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 小石 密	外 黒褐色 にぶい橙色 内にぶい橙色	良	口〜底 20%	
23−176 19	F−4	土師器 坏	14.2 3.5 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 白色粒 褐色粒 密	外にぶい橙色 内 橙色	良	口〜底 55%	

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
23−177 19	F−3	土師器 坏	14.4 3.7 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 白色粒 石英 密	外 暗褐色 内 黒褐色	良	口〜底 70%	
23−178 19	J−4	土師器 坏	14.0 4.1 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 密	橙色	良	ほぼ完形	
23−179 19	J−4	土師器 坏	13.8 4.1 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 黒雲母 密	にぶい橙色 黒褐色	良	口〜底 60%	
23−180 19	K−6	土師器 坏	13.2 3.0 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部外に開く。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 石英 密	にぶい褐色	良	口〜底 60%	
23−181 19	L−6	土師器 坏	14.9 3.8 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 黒雲母 石英 密	褐色	良	口〜底 50%	
24−182 −	L−6	土師器 坏	(12.2) 3.1 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 石英 密	橙色	良	口〜底 35%	
24−183 −	O−6 7	土師器 坏	(13.1) 3.2 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直立する。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	にぶい橙色	良	口〜底 35%	
24−184 20	P−7	土師器 坏	12.5 3.2 −	外 口縁部横ナデ、指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部やや開く。体〜底部屈曲。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	橙色 暗灰色 浅黄橙色	良	口〜底 65%	
24−185 −	R グリッド	土師器 坏	(13.4) 4.0 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部やや開く。内面端部沈線有。体〜底部に段有。底部丸底？	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	橙色 黄橙色	良	口〜底 20%	
24−186 −	D−3	土師器 坏	(13.3) 2.9 (8.4)	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ほぼ直線的に開く。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	橙色	良	口 10% 体 30% 底 〃	
24−187 20	M−5	土師器 坏	(13.6) 3.7 7.8	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ほぼ直線的に開く。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 黒雲母 石英 密	橙色	良	口 30% 体 55% 底 〃	
24−188 20	E−3	土師器 坏	− 1.3 −	外 ヘラ削り。内 ナデ。底部やや平底。底部外面に墨書有。	砂粒 黒色粒 石英 密	にぶい褐色	良	底部 30%	
24−189 20	K−6	土師器 坏	− 1.1 −	外 ヘラ削り。内 ナデ。底部やや平底。底部内面に墨書有。	砂粒 黒色粒 赤色粒 黒雲母 密	浅黄橙色	良	底部片	
24−190 20	L−6	土師器 坏	− 0.7 −	外 ヘラ削り。内 ナデ。底部やや平底。底部外面に墨書有。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 小石 密	外 橙色 褐色 内 橙色	良	底部片	
24−191 −	Q−6	土師器 坏	(15.6) 3.3 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部外反する。体〜底部に段やや有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 黒雲母 石英 密	にぶい褐色	良	口 25% 体 30% 底 〃	
24−192 −	R−6	土師器 坏	(16.6) 3.8 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直線的に開く。体〜底部に段やや有。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	橙色	良	口〜底 20%	
24−193 −	A−1	土師器 坏	(16.7) 1.7 −	外 口縁部横ナデ。体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部やや外反する。体〜底部屈曲。底部やや平底ぎみ。	砂粒 白色粒 石英 密	外 灰黄褐 内 黒褐色	良	口〜底 10%	
24−194 −	O−7	土師器 坏	(17.7) 3.2 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部直線的にやや開く。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	外にぶい褐 内 橙色	良	口〜底 20%	
24−195 20	F−4	土師器 坏	11.6 4.0 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁端部やや外反する。体〜底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 密	橙色	良	ほぼ完形	
24−196 −	F−3	土師器 坏	(12.0) 3.9 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部直線的に開く。体〜底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい橙色 橙色	良	口〜底 25%	
24−197 −	F−4	土師器 坏	(12.0) 3.0 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部直線的に開く。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 白色粒 黒色粒 石英 密	明赤褐色	良	口 20% 体 25% 底 45%	
24−198 −	F−4	土師器 坏	(12.6) 3.5 −	外 口縁部横ナデ、体〜底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部やや外反する。体〜底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外 浅黄橙 黒褐色 内 浅黄橙	良	口 20% 体 45% 底 〃	内面摩耗顕著。

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
24−199 20	J−5	土師器 坏	11.8 3.5 −	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部やや外反する。体～底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	橙色 明赤褐色	良	完形	内面一部摩耗。
24−200 20	L−6	土師器 坏	12.0 3.4 −	外 口縁部横ナデ、体～底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部直立。体～底部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外にぶい褐 橙色 内 橙色	良	ほぼ完形	
24−201 —	L−6 M−5	土師器 坏	9.8 2.9 −	外 口縁部横ナデ、体～底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁外に開く。口～体部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 密	にぶい橙色	良	口～底 50%	内面一部摩耗。
24−202 21	M−6	土師器 坏	12.7 3.2 −	外 口縁部横ナデ、体～底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁外に開く。口～体部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	にぶい褐色 黒褐色 明赤褐色	良	ほぼ完形	内面一部摩耗。 灯明。
24−203 —	M−6	土師器 坏	(11.2) 3.2 −	外 口縁部横ナデ、体～底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部外反。口～体部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	橙色	良	口～底 30%	
24−204 —	F−4	土師器 坏	(14.0) 4.2 −	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部外に開く。体～底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	橙色	良	口 25% 体 〃 底 60%	
24−205 —	J−5 6	土師器 坏	(13.3) 3.4 8.0	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口～体部内湾する。底部やや平底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	外 赤褐色 黒褐色 内 明赤褐	良	口 10% 体 30% 底 90%	
24−206 —	M−6	土師器 坏	(11.5) 3.5 5.8	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部外に開く。体部内湾。底部やや平底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい橙色	良	口 10% 体 35% 底 50%	
24−207 21	J−4	土師器 坏	(14.8) 3.9 8.6	外 口縁部横ナデ、体～底部指オサエ、ヘラ削。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文、黒色処理。口縁外反。体部内湾。底部平底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	外 橙色 内 黒褐色	良	口～底 30%	
24−208 21	S−7 T−7 U−7	土師器 坏	14.0 4.3 −	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部外反する。体～底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	明褐灰色	良	口～底 50%	
24−209 21	N−7	土師器 坏	(17.1) 4.1 −	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部外に開く。体～底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	外 浅黄橙 橙色 内 橙色	良	口～底 45%	
24−210 21	Q−7	土師器 坏	(15.7) 4.7 −	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラミガキ。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部内湾する。体～底部丸底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外 橙色 黒褐色 内 橙色	良	口～底 20%	
24−211 22	L−5	土師器 皿	(21.2) 2.7 −	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部やや外反する。口～体部屈曲。底部丸底。	砂粒 白色粒 石英 密	外 暗灰色 浅黄色 内 暗灰色	良	口～底 25%	
24−212 —	M−6	土師器 皿	(21.0) 3.1 −	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部外に開く。口～体部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	明赤褐色	良	口～底 40%	内面摩耗顕著。
24−213 —	O−6	土師器 皿	(19.6) 2.8 −	外 口縁部横ナデ、体～底部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部外反。口～体部屈曲。底部丸底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	橙色	良	口～底 20%	内面一部摩耗。
24−214 22	T−6	土師器 皿	19.9 4.0 −	外 口縁部横ナデ、体～底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ、放射状暗文。口縁部ほぼ直立する。口～体部屈曲。底部丸底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 密	灰白色 明赤褐色 暗灰色	良	完形	
24−215 22	K−6	土師器 椀	19.1 6.95 10.7	外 口縁部横ナデ、体～底部ミガキ。内 横ナデ、ナデ、螺旋状暗文(3段)。口～体部内湾する。底部平底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 密	暗褐色 赤褐色	良	ほぼ完形	
25−216 22	G−4	土師器 坏	12.1 3.3 10.0	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口～体部内湾する。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 角閃石 黒雲母 小石 密	橙色	良	完形	
25−217 22	K−6	土師器 坏	12.2 3.6 9.0	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部やや外反する。体部内湾。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい褐色	良	ほぼ完形	
25−218 —	D−3	土師器 坏	(13.0) 3.6 −	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口縁部直線的に開く。体部内湾する。	砂粒 赤色粒 密	にぶい橙色	良	口～体 20%	
25−219 22	D−3	土師器 坏	12.3 3.5 8.4	外 口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾。体部直線的。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 石英 密	にぶい褐色	良	口～底 65%	
25−220 22	G−4	土師器 坏	12.1 3.4 4.8	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部外に開く。体部内湾する。底部平底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 密	にぶい褐色	良	口～体 70%	

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
25−221 22	H−5	土師器 坏	(12.0) 3.3 (10.0)	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部内湾する。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	橙色 にぶい橙色	良	口〜底 45%	
25−222 23	H−4	土師器 坏	12.1 3.9 −	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁外に開く。体部内湾。底部丸底。底部外面墨書有。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	外 黒褐色 褐灰色 内にぶい橙	良	ほぼ完形	内面に付着物有。
25−223 —	K−5	土師器 坏	(13.9) 3.25 10.6	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部内湾する。体部直線的。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	橙色 黒色	良	口〜底 45%	内外面にタール状の付着物有。灯明。
25−224 —	K−6	土師器 坏	(12.2) 3.4 8.6	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部外に開く。体部内湾する。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 石英 密	にぶい褐色	良	口〜底 30%	
25−225 23	L−6	土師器 坏	12.4 3.2 10.1	外 口縁横ナデ、体部指オサエ、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部直線的に開く。底部やや平底。底部内面墨書有。	砂粒 黒色粒 石英 密	橙色	良	ほぼ完形	
25−226 23	B−1	土師器 坏	14.1 5.0 6.2	外 口縁横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部S字状。底部上げ底。底部内面墨書有。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	黄橙色	良	口 45% 体 〃 底 100%	
25−227 23	C−2	土師器 坏	12.9 3.6 6.8	外 口縁横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部S字状。底部平底。底部内面墨書有。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	橙色 灰黄色 浅黄色	良	ほぼ完形	
25−228 —	C−2	土師器 坏	(11.4) 3.6 −	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ややS字状に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 小石 密	黄橙色	良	口〜体 30%	
25−229 —	D−3	土師器 坏	(13.2) 2.9 9.4	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ややS字状に開く。	砂粒 黒色粒 石英 密	にぶい橙色	良	口〜底 20%	
25−230 23・24	D−3	土師器 坏	(13.1) 4.6 5.0	外 口縁横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り、底部ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体S字状。底部上げ底。底部内面線刻有。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	黄橙色	良	口 35% 体 〃 底 100%	
25−231 24	D−3	土師器 坏	(11.5) 2.2 (7.4)	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口縁部外反する。体部内湾する。底部平底。底部内外面に墨書有。	砂粒 石英 密	外 浅黄色 にぶい橙 内にぶい橙	良	口 20% 体 25% 底 〃	
25−232 24	E−3	土師器 坏	(11.9) 3.3 7.2	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口〜体部直線的に開く。底部やや平底。	砂粒 黒色粒 石英 小石 密	にぶい黄褐 にぶい黄橙	良	口 15% 体 〃 底 40%	
25−233 —	G−5	土師器 坏	(13.0) 2.4 −	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口〜体部直線的に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	浅黄色	良	口縁部 25%	
25−234 24	G−5	土師器 坏	12.0 3.4 7.5	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ほぼ直線的に開く。底部平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	橙色 明赤褐色	良	ほぼ完形	
25−235 24	H−4	土師器 坏	(12.6) 4.05 (6.6)	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ややS字状に開く。底部平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 小石 密	にぶい黄橙	良	口〜底 40%	
25−236 24	J−6	土師器 坏	12.2 4.4 4.8	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ややS字状に開く。底部平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外 灰黄褐 にぶい橙 内にぶい橙	良	口〜底 75%	
25−237 24	J−4	土師器 坏	(14.1) 4.5 (8.6)	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ややS字状に開く。底部平底。底部内面に墨書有。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外 褐灰色 にぶい橙 内 浅黄色	良	口 10% 体 20% 底 45%	
25−238 24	K−5	土師器 坏	(13.7) 4.6 6.2	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部直線的に開く。底部平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	外 黄橙色 内 黒褐色 黄橙色	良	口 35% 体 50% 底 100%	内面にタール状の付着物有。
25−239 —	K−6	土師器 坏	(12.3) 3.6 5.7	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部ややS字状に開く。底部上げ底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	にぶい黄橙	良	口 30% 体 〃 底 100%	
25−240 24	K−6	土師器 坏	11.7 3.7 (5.6)	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部やや外反する。底部平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	にぶい橙色 にぶい黄橙	良	口〜底 45%	
25−241 —	K−5 6	土師器 坏	(12.0) 4.4 5.2	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口〜体部やや外反する。底部平底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	黒褐色 にぶい黄橙	良	口 10% 体 25% 底 100%	
25−242 —	不明	土師器 坏	(12.6) 3.5 5.2	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り、輪積痕有。内 横ナデ、ナデ。口〜体部S字状に開く。底部平底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	外 橙色 黒褐色 内 橙色	良	口 20% 体 25% 底 100%	

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
25−243 —	O−7	土師器 坏	(13.1) 4.2 5.5	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ、ヘラ削り。内 横ナデ、ナデ。口縁部ほぼ直線的に開く。底部平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	淡黄色 黒褐色	良	口 15% 体 〃 底 100%	
25−244 25	C−2	土師器 坏	— — —	内外ともに横ナデ。口縁部外面に墨書有。口縁部外反する。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	黄褐色	良	口縁部片	
25−245 25	K−6	土師器 坏	— — —	内外ともに横ナデ。口縁部内面に墨書有。口縁部直線的に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 密	にぶい褐色	良	口縁部片	
25−246 25	K−6	土師器 坏	— — —	内外ともに横ナデ。口縁部外面に墨書有。口縁部S字状に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	にぶい褐色	良	口縁部片	
25−247 25	L−5	土師器 坏	— — —	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口〜体部S字状に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	にぶい黄橙	良	口縁部片	
25−248 25	N−6	土師器 坏	— 4.7 —	外 口縁部横ナデ、体部指オサエ。内 横ナデ、ナデ。口〜体部外面に墨書有。口〜体部ややS字状に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	橙色	良	口縁部片	
25−249 25	F−4	土師器 手捏ね	8.4 3.5 5.4	外 口〜体部指オサエ。内 横ナデ。底部口〜体部やや外反する。底部平底。器壁厚い。	砂粒 黒色粒 角閃石 密	浅黄橙色	良	完形	
25−250 25	G−5	土師器 手捏ね	7.6 3.8 (3.8)	外 口〜体部指オサエ。内 横ナデ。底部口〜体部内湾する。底部平底。器壁厚い。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	橙色	良	口 60% 体 〃 底 45%	
26−251 25	C−2	土師器 椀	13.2 6.5 7.7	高台付。外 口縁部回転ナデ、体部ヘラ削り。内 ミガキ、黒色処理。底部回転ナデ。口〜体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	外 黒色 にぶい黄橙 内 黒色	良	口 80% 体 〃 高 100%	
26−252 —	D−3	土師器 椀	(15.5) 5.6 6.8	高台付。外 口縁部回転ナデ、体部ヘラ削。内 ミガキ。底部回転ナデ。口縁部外に開く。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 白色粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	にぶい橙色 黒褐色	良	口 30% 体 〃 高 100%	
26−253 —	F−4	土師器 椀	13.1 6.0 6.2	高台付。外 回転ナデ。内 ミガキ、黒色処理。底部回転糸切後高台周辺ヘラナデ。口縁部外反。体部内湾。高台部ハの字。	砂粒 黒色粒 石英 小石 密	外 浅黄橙 橙色 内 黒色	良	ほぼ完形	
26−254 —	G−4	土師器 椀	(15.9) 6.0 —	外 回転ナデ。内 ミガキ、黒色処理。口縁部外反する。体部内湾する。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	外 明褐色 灰黄褐 内 黒色	良	口〜高 20%	
26−255 —	G−5	土師器 椀	— 3.8 7.8	高台部。外 回転ナデ。内 ミガキ、黒色処理。底部回転糸切り後高台周辺回転ヘラナデ。体部内湾。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	外 黄橙色 にぶい黄橙 内 黒色	良	体〜高 100%	
26−256 —	I−4	土師器 椀	— 2.2 7.2	高台部。外 回転ナデ。内 ミガキ、黒色処理。底部回転糸切り。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	外 灰褐色 浅黄橙色 内 黒色	良	高台部 90%	
26−257 —	J−4	土師器 椀	— 2.1 5.8	高台部。外 回転ナデ。内 ミガキ、黒色処理。底部回転糸切り。高台部ハの字に開く。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 密	外 灰褐色 内 黒色	良	高台部 100%	
26−258 —	L−5	土師器 椀	— 2.9 6.9	高台部。外 ヘラ削り。内 ミガキ。底部回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部やや ハの字に開く。	砂粒 白色粒 黒色粒 赤色粒 小石 密	にぶい黄橙	良	体 40% 高 100%	内面ミガキ摩耗顕著。
26−259 —	N−7	土師器 椀	— 3.4 6.5	高台部。外 ヘラ削り。内 ミガキ、黒色処理。底部回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部ほぼ直立する。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 密	外 褐灰色 暗灰色 内 黒色	良	体 25% 高 100%	内面ミガキ摩耗顕著。
26−260 —	C−3	土師器 椀	— 2.3 5.5	高台部。外 回転ナデ。内 ミガキ。内外面黒色処理。底部回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部ややハの字に開く。	砂粒 白色粒 角閃石 石英 密	黒色	良	体 25% 高 100%	内面ミガキ摩耗顕著。
26−261 —	H−5	土師器 椀	— 2.15 7.0	高台部。外 回転ナデ。内 ミガキ、黒色処理。底部回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 密	外 黄橙色 内 暗灰色 橙色	良	体 20% 高 100%	
26−262 —	H−5	土師器 坏	— 2.6 6.4	高台部。外 回転ナデ。内 ミガキ、黒色処理。底部回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒 白色粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外 暗褐色 橙色 内 黒褐色		体 70% 高 100%	
26−263 —	L−5	土師質 坏	(11.0) 2.9 4.6	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部平底。	砂粒 白色粒 黒色粒 密	にぶい橙色	良	口 10% 体 25% 底 100%	
26−264 25	M−6	土師質 坏	(12.4) 3.2 5.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。口縁部外面墨書有。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	浅黄橙色	良	口 5% 体 10% 底 60%	292と同一個体。

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
26−265 26	B−1	土師質 坏	8.7 3.2 3.6	内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部やや外反する。体部内湾する。底部平底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 密	外　浅黄橙 橙　色 内　橙　色	良	完　形	
26−266 26	C−3	土師質 坏	10.5 4.2 5.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 石英　小石 密	浅黄橙色	良	ほぼ完形	
26−267 26	C−3	土師器 坏	11.3 3.7 4.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部やや外反する。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 角閃石　小石 密	にぶい赤褐	良	口　55% 体　〃 底　100%	
26−268 26	F−4	土師質 坏	10.8 4.7 4.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 小石 密	灰白色	良	完　形	
26−269 26	H−4	土師質 坏	11.0 3.5 4.5	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒褐色 赤色粒　角閃石 石英　密	外　赤褐色 内にぶい褐	良	ほぼ完形	
26−270 —	H−5	土師質 坏	(10.3) 3.5 (4.6)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　小石　密	外　橙　色 にぶい橙 内　橙　色	良	口　30% 体　〃 底　45%	
26−271 26	J−5	土師質 坏	(10.2) 3.3 6.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　白色粒 黒色粒　角閃石 石英　小石　密	褐灰色 にぶい橙色	良	口　25% 体　30% 底　80%	
26−272 —	F−3	土師質 坏	(12.4) 4.0 (6.8)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部やや内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　密	灰　色 浅黄橙色 黒褐色	良	口〜底 30%	
26−273 26	C−2	土師質 坏	12.1 4.2 5.9	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　白色粒 黒色粒　赤色粒 角閃石　小石　密	橙　色 浅黄橙色	良	ほぼ完形	
26−274 26	C−2	土師質 坏	11.0 3.4 5.7	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	橙　色 浅黄橙色	良	ほぼ完形	
26−275 26	D−2	土師質 坏	11.6 4.0 5.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	にぶい褐色	良	ほぼ完形	
26−276 —	D−3	土師質 坏	(10.9) 4.0 4.5	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　密	浅黄橙色	良	口　20% 体　35% 底　70%	
26−277 —	E−3	土師質 坏	(10.6) 3.5 5.7	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部やや外反する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	橙　色 浅黄橙色	良	口　25% 体　30% 底　100%	
26−278 —	E−3	土師質 坏	(10.9) 3.0 —	内外ともに回転ナデ。 口縁部外反する。体部内湾する。	砂粒　黒色粒 赤色粒　石英 密	にぶい褐色 にぶい橙色	良	口〜体 30%	
26−279 26	E−3	土師質 坏	12.1 3.9 (4.9)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 角閃石　小石 密	褐灰色 黄灰色	良	口　60% 体　〃 底　45%	
26−280 27	E−3	土師質 坏	12.7 4.0 5.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。口縁部外面、底部内面墨書有。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	橙　色 浅黄橙色	良	ほぼ完形	
26−281 —	G−3	土師質 坏	(11.0) 3.5 4.9	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部平底？	砂粒　白色粒 黒色粒　角閃石 小石　密	灰黄褐色 黒褐色 淡黄色	良	口〜底 30%	
26−282 27	H−4	土師質 坏	11.7 4.1 6.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	外　浅黄橙 明褐色 内　浅黄橙	良	ほぼ完形	
26−283 27	H−4	土師質 坏	12.4 4.5 4.5	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　白色粒 石英　小石 密	外　褐　色 にぶい褐 内　黒褐色	良	ほぼ完形	
26−284 27	H−5	土師質 坏	(12.2) 4.0 5.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部平底。	砂粒　白色粒 黒色粒　石英 小石　密	黒褐色 暗灰色	良	口　40% 体　60% 底　80%	
26−285 —	H−5	土師質 坏	(10.3) 3.1 (6.0)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　密	外　浅黄橙 内　橙　色	良	口　15% 体　30% 底　45%	
26−286 27	J−4	土師質 坏	(11.9) 4.0 6.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。底部平底。	砂粒　黒色粒 角閃石　小石 密	橙　色	良	口　45% 体　70% 底　100%	

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
26−287 27	J−5	土師質 坏	11.7 3.8 5.5	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部やや内湾する。底部上げ底。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	浅黄色	良	ほぼ完形	
26−288 27	G−4	土師質 坏	11.8 3.5 5.1	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。口縁部外面墨書有。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	橙色 浅黄橙色	良	口 55% 体 〃 底 100%	
26−289 —	L−5	土師質 坏	(12.7) 3.7 5.6	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部外反する。口縁部外面墨書有。底部やや上げ底。	砂粒 黒色粒 密	にぶい黄褐 黒褐色	良	口 20% 体 〃 底 60%	
26−290 28	E−3	土師質 坏	— — —	内外ともに回転ナデ。口縁部外反する。口縁部内面墨書有。	砂粒 黒色粒 密	にぶい褐色	良	口縁部片	
26−291 28	K−5	土師質 坏	— — —	内外ともに回転ナデ。口縁部外反する。口縁部外面墨書有。	砂粒 黒色粒 黒色粒 密	浅黄橙色	良	口縁部片	
26−292 28	L−6 M−6	土師質 坏	— — —	内外ともに回転ナデ。口縁部やや外反する。口縁部外面墨書有。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	浅黄橙色	良	口縁部片	264と同一個体。
27−293 —	F−4	土師質 坏	— 1.8 6.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。底部やや上げ底。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	にぶい黄橙	良	底部 100%	
27−294 —	G−4	土師質 坏	— 2.1 5.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 小石 密	外 橙色 浅黄橙色 内浅黄橙色	良	体 25% 底 95%	
27−295 —	G−5	土師質 坏	— 1.8 5.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。底部やや上げ底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 小石 密	にぶい橙色	良	底部 100%	
27−296 —	H−5	土師質 坏	— 4.9 7.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	浅黄橙色 橙色	良	体 30% 底 50%	
27−297 —	H−5	土師質 坏	— 1.6 5.3	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部直線的。底部やや上げ底。	砂粒 白色粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	外 黒褐色 内 赤褐色	良	体 20% 底 75%	
27−298 —	H−4	土師質 坏	— 2.3 5.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒 黒色粒 小石 密	浅黄橙色	良	体〜底 100%	
27−299 —	H−5	土師質 坏	— 2.2 5.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部平底。	砂粒 白色粒 石英 小石 密	にぶい褐色	良	体〜底 90%	
27−300 —	I−4	土師質 坏	— 1.5 7.4	内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラ削り。体部内湾する。底部平底。	砂粒 黒色粒 黒雲母 密	褐灰色 灰白色	良	体 25% 底 40%	
27−301 —	I−5	土師質 坏	— 2.5 5.4	内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラ削り。体部内湾する。底部平底。	砂粒 黒色粒 密	橙色	良	体 45% 底 100%	
27−302 —	J−5	土師質 坏	— 1.7 4.6	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部平底。	砂粒 白色粒 赤色粒 小石 密	にぶい橙色	良	体 40% 底 100%	
27−303 —	L−5	土師質 坏	— 1.6 7.6	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部直線的。底部平底。	砂粒 白色粒 赤色粒 石英 小石 密	外 黒褐色 内 灰褐色	良	体 20% 底 25%	
27−304 —	P−6	土師質 坏	— 3.2 5.5	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒 黒色粒 黒雲母 小石 密	灰白色 黒褐色	良	体 20% 底 100%	
27−305 28	K−6	土師質 坏	— — —	外 内 回転ナデ。底部平底。底部外面に墨書有。	砂粒 黒色粒 赤色粒 密	橙色	良	底部片	
27−306 28	E−6	土師質 坏	(12.0) 4.7 5.6	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ややハの字に開く。	砂粒 白色粒 小石 やや粗	褐灰色 黒褐色	良	口 45% 体 100% 高 〃	
27−307 —	C−2	土師質 坏	(12.6) 5.1 6.1	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ほぼ直立する。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	にぶい褐色	良	口 30% 体 100% 底 〃	
27−308 28	G−5	土師質 坏	11.7 5.1 6.7	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 白色粒 角閃石 石英 小石 密	黒褐色 灰黄褐色	良	完形	

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
27−309 —	L−6	土師質 坏	(12.9) 5.1 6.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部内湾する。高台部直立する。	砂粒 白色粒 赤色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色 浅黄橙色	良	口 20% 体 45% 高 55%	
27−310 28	D−2	土師質 坏	14.0 7.0 8.0	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 小石 密	橙色 浅黄橙色	良	ほぼ完形	
27−311 28	D−3	土師質 坏	11.6 5.3 7.0	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色	良	ほぼ完形	
27−312 —	H−4	土師質 坏	(14.0) 7.0 (9.0)	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 小石 密	にぶい橙色	良	口 10% 体 30% 高 45%	
27−313 28	H−5	土師質 坏	10.6 4.3 6.4	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。口縁部外反。体部内湾。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 石英 密	橙色	良	ほぼ完形	
27−314 —	J−6	土師質 坏	(13.5) 6.2 (8.7)	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外 黒褐色 内 橙色	良	口 20% 体 25% 高 20%	
27−315 —	K−4 −5	土師質 坏	(15.0) 7.2 (8.2)	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。口縁部やや外反。体部内湾。高台部ハの字。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 小石 密	浅黄橙色	良	口 20% 体 100% 高 40%	
27−316 28	D−3	土師質 坏	(14.4) 5.8 8.4	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。口縁部大きく外反。体部内湾。高台部ハの字。	砂粒 白色粒 黒色粒 石英 小石 密	外 黒褐色 橙色 内 黒褐色	良	口 30% 体 50% 高 100%	
27−317 —	E−3	土師質 坏	(14.0) 5.2 —	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部欠。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	黒褐色	良	口 45% 体 100%	
27−318 —	G−4	土師質 坏	(16.5) 7.0 10.6	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切後高台部周辺回転ヘラナデ。口縁部外反。体部直線的。高台緩やかに広がる。	砂粒 白色粒 赤色粒 石英 小石 密	外 橙色 内 暗褐色	良	口 15% 体 100% 高 〃	
27−319 —	D−2	土師質 坏	(15.7) 5.3 —	高台付。内外ともに回転ナデ。口縁部大きく外反する。体部内湾する。高台部欠。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい橙色	良	口 25% 体 55%	
27−320 —	D−3	土師質 坏	(16.0) 5.0 —	高台付。内外ともに回転ナデ。口縁部外反する。体部内湾する。高台部欠。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい黄橙	良	口〜体 20%	
27−321 —	D−3	土師質 坏	(14.6) 3.4 —	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部やや外反する。体部やや内湾する。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	黄橙色	良	口〜体 50%	
27−322 —	E−3	土師質 坏	(15.9) 4.7 —	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部大きく外反する。体部内湾する。高台部欠。	砂粒 白色粒 黒色粒 赤色粒 石英 小石 密	橙色 にぶい褐色 黒褐色	良	口 45% 体 100%	
27−323 29	E−3 F−3 −4	土師質 坏	15.0 5.7 7.7	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部大きく外反する。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	浅黄橙色 橙色	良	ほぼ完形	
27−324 —	H−4	土師質 坏	(14.9) 6.0 8.0	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部外反する。体部屈曲する。高台部やや緩やかに広がる。	砂粒 黒色粒 角閃石 密	にぶい黄橙	良	口 20% 体 〃 高 70%	
27−325 —	H−4	土師質 坏	14.6 3.9 —	高台付。内外ともに回転ナデ。口縁部やや外反する。体部内湾する。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	浅黄橙色	良	口〜体 40%	
27−326 —	I−4	土師質 坏	(14.6) 5.0 —	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部大きく外反する。体部内湾する。高台部欠。	砂粒 白色粒 石英 小石 やや粗	にぶい黄橙	良	口〜体 75%	
27−327 —	J−5	土師質 坏	— 5.7 7.9	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部大きく外反する。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 石英 小石 やや粗	にぶい橙色	良	体 40% 高 80%	
28−328 —	D−3	土師質 坏	(13.6) 7.3 6.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口〜体部直線的に開く。高台部緩やかに広がる。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい褐色	良	口 20% 体 50% 高 100%	
28−329 29	D−3	土師質 坏	14.2 6.3 6.2	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部直線的に開く。体部屈曲する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	浅黄橙色 橙色	良	口 60% 体 〃 高 100%	
28−330 29	D−3	土師質 坏	15.2 6.4 7.6	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口〜体部直線的に開く。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 小石 密	赤褐色	良	口 20% 体 50% 高 90%	

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
28−331 —	D−3	土師質 坏	15.2 4.1 —	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口～体部直線的に開く。高台部欠。	砂粒 白色粒 赤色粒 角閃石 石英 小石 密	赤褐色 にぶい褐色	良	口 40% 体 100%	
28−332 29	G−4	土師質 坏	14.2 5.7 8.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切後高台周辺回転ヘラナデ。口縁部直線的。体部内湾。高台部緩やかに広がる。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい褐色 黒褐色	良	ほぼ完形	
28−333 —	G−3	土師質 坏	15.8 4.5 —	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部やや外反する。体部内湾する。高台部欠。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 小石 密	浅黄橙色	良	口 90% 体 100%	
28−334 29	C−2	土師質 坏	14.4 5.5 8.4	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部直線的に開く。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	にぶい褐色	良	ほぼ完形	
28−335 —	F−4	土師質 坏	(13.8) 5.5 7.2	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部直線的に開く。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 赤色粒 石英 小石 密	にぶい橙	良	口 20% 体 100% 底 〃	
28−336 29	K−5	土師質 坏	11.9 4.9 6.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部直線的に開く。体部内湾する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	浅黄橙色 橙色	良	ほぼ完形	
28−337 —	J−4	土師質 坏	(15.0) 5.2 7.3	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口縁部直線的に開く。体部内湾する。高台部ほぼ直立する。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	にぶい褐色 浅黄橙色	良	口 20% 体 30% 高 100%	
28−338 —	F−3	土師質 坏	— 2.0 6.4	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。刺突有。高台部ほぼ直立する。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	浅黄橙色 橙色	良	高台部 100%	
28−339 29	G−3	土師質 坏	— 1.6 7.2	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。刺突痕有。高台部ハの字に開く。底部内面に墨書有。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	にぶい橙色	良	高台部 100%	
28−340 —	I−4	土師質 坏	— 1.9 6.2	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部ハの字に開くする。	砂粒 黒色粒 角閃石 密	明褐灰色 灰褐色	良	高台部 100%	
28−341 29	I−4	土師質 坏	— 1.6 (7.3)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転周辺回¥転ヘラナデ。高台部ハの字に開くする。	砂粒 黒色粒 角閃石 小石 密	灰白色 黒褐色	良	高台部 40%	内面剥離。
28−342 —	K−5	土師質 坏	— 2.6 7.0	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部ハの字に開くする。	砂粒 黒色粒 赤色粒 小石 密	浅黄橙色	良	高台部 100%	
28−343 —	K−6	土師質 坏	— 3.7 6.8	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部直立する。	砂粒 白色粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	褐灰色 灰白色	良	体 25% 高 100%	
28−344 —	L−6	土師質 坏	— 2.1 6.6	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部直立する。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 密	黒褐色 淡黄色	良	高台部 100%	
28−345 —	N−7	土師質 坏	— 2.8 6.1	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部直立する。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	にぶい橙色	良	高台部 100%	
28−346 —	C−3	土師質 坏	— 3.1 7.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒 白色粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外にぶい橙 内 灰褐色	良	体～高 20%	
28−347 —	D−3	土師質 坏	— 2.4 7.4	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 密	浅黄橙色	良	高台部 65%	
28−348 —	J−5	土師質 坏	— 3.1 8.4	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒 白色粒 赤色粒 石英 小石 密	外にぶい褐 内 赤褐色	良	体 20% 高 80%	
28−349 —	K−5	土師質 坏	— 4.0 7.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	浅黄橙色	良	体 30% 高 75%	
28−350 —	B−2	土師質 坏	— 2.9 (7.7)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部緩やかに広がる。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外 暗褐色 橙色 内 橙色	良	高台部 30%	
28−351 —	C−2	土師質 坏	— 3.1 7.8	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。体部屈曲する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	外 褐灰色 内 灰黄色	良	高台部 90%	
28−352 —	C−3	土師質 坏	— 3.3 9.0	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。体部屈曲する。高台部ハの字に開く。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 密	外にぶい橙 内 浅黄橙	良	高台部 100%	

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
28−353 —	C−3	土師質 坏	— 1.4 5.2	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	外 褐 色 内 橙 色	良	高台部 100%	
28−354 —	H−5	土師質 坏	— 2.6 8.0	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部ややハの字に開く。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　密	浅黄橙色 褐灰色	良	高台部 100%	
28−355 —	H−5	土師質 坏	— 2.9 8.2	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒　白色粒 黒色粒　角閃石 密	橙 色	良	高台部 100%	
28−356 —	D−2	土師質 坏	— 2.4 7.1	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部緩やかに広がる。	砂粒　白色粒 黒色粒　角閃石 石英　密	褐灰色 灰褐色	良	高台部 70%	
28−357 —	D−3	土師質 坏	— 3.5 9.1	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部緩やかに広がる。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 密	橙 色 黒褐色 暗褐色	良	高台部 100%	
28−358 —	G−4	土師質 坏	— 2.7 7.3	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒　黒色粒 石英 密	浅黄橙色	良	高台部 100%	
28−359 —	H−5	土師質 坏	— 4.2 7.8	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。体部直線的。高台部ハの字に開く。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	浅黄橙色 褐灰色	良	体　30% 高 100%	
28−360 —	H−5	土師質 坏	— 3.1 (8.4)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部緩やかに広がる。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　密	外　黒褐色 内　浅黄橙	良	高台部 25%	
28−361 —	H−5	土師質 坏	— 4.1 7.2	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。体部内湾する。高台部緩やかに広がる。	砂粒　黒色粒 赤色粒　石英 密	橙 色	良	体　10% 高　80%	
28−362 —	J−6	土師質 坏	— 6.1 7.2	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。体部屈曲する。高台部緩やかに広がる。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 密	橙 色	良	体　20% 高 100%	
28−363 —	K−6	土師質 坏	— 3.5 8.0	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒　白色粒 黒色粒　赤色粒 角閃石 小石 密	にぶい橙色	良	高台部 70%	
29−364 —	R−6	土師質 坏	— 3.4 (9.0)	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部緩やかに広がる。	砂粒　黒色粒 赤色粒　石英 小石　密	橙 色	良	高台部 40%	
29−365 —	C−3	土師質 坏	— 3.5 8.9	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 小石　密	にぶい橙色	良	高台部 100%	
29−366 —	G−4	土師質 坏	— 3.1 7.2	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　小石　密	橙 色	良	高台部 60%	
29−367 —	G−5	土師質 坏	— 4.1 7.6	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り後高台部周辺回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒　白色粒 黒色粒　角閃石 石英　小石　密	灰褐色	良	高台部 100%	
29−368 29	H−5	土師質 坏	— 1.6 —	高台付。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。底部内面墨書有。	砂粒　白色粒 石英　小石 密	外 褐 色 内　暗褐色	良	高台部片	
29−369 —	L−6	土師質 坏	— 2.2 8.0	高台部。内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。高台部ハの字に開く。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 小石　密	灰白色	良	高台部 100%	
29−370 29	F−4	土師質 小皿	9.0 3.0 4.8	内外ともに回転ナデ。底部回転ヘラナデ。口〜体部内湾する。口〜体部屈曲有。底部やや上げ底。厚底、円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 赤色粒　小石 密	浅黄橙色 橙 色	良	完 形	
29−371 30	F−4	土師質 小皿	9.5 3.3 5.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反。体部内湾。口〜体部屈曲有。底部上げ底。厚底、円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 石英　小石 密	浅黄橙色 橙 色	良	完 形	
29−372 —	I−4	土師質 小皿	— 1.8 5.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。屈曲有。底部やや上げ底。厚底、円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 赤色粒　石英 小石　密	橙 色	良	体　30% 高 100%	
29−373 —	J−5	土師質 小皿	— 2.3 4.7	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部やや上げ底。厚底、円柱状を呈する。	砂粒　白色粒 角閃石　石英 小石　やや粗	外にぶい褐 内にぶい橙	良	体　20% 高 100%	
29−374 —	J−6	土師質 小皿	— 3.4 5.9	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部平底。厚底、円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　小石　密	にぶい橙色	良	体　30% 高 100%	

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
29−375 —	G−4	土師質 小皿	(9.5) 1.1 (5.2)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部内湾する。底部やや上げ底。厚底。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 小石　密	褐灰色	良	口〜底 45%	
29−376 —	C−2	土師質 小皿	(10.9) 2.6 6.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	浅黄橙色 黒褐色	良	口　30% 体　〃 底 100%	
29−377 —	E−3	土師質 小皿	(10.8) 3.1 (5.5)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部やや外反する。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 密	外にぶい橙 内　黒褐色 にぶい橙	良	口〜底 30%	
29−378 —	F−4	土師質 小皿	(11.0) 2.6 (7.0)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 密	にぶい橙色 淡橙色	良	口〜底 25%	
29−379 30	B−2	土師質 小皿	10.4 2.3 6.3	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 密	浅黄橙色	良	完　形	
29−380 30	D−3	土師質 小皿	10.4 3.1 5.5	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 角閃石 密	浅黄色 黒褐色	良	完　形	
29−381 30	H−5	土師質 小皿	11.0 2.3 6.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	橙　色	良	口　50% 体　70% 底　75%	
29−382 —	O−7	土師質 小皿	(9.2) 2.4 4.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部内湾する。底部平底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　密	浅黄橙色	良	口　15% 体　〃 底 100%	
29−383 30	F−3	土師質 小皿	11.0 3.7 6.1	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。口〜体部屈曲。体部外反する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 小石　密	浅黄橙色 黒褐色	良	完　形	
29−384 —	F−4	土師質 小皿	(8.7) 2.4 (4.6)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。口〜体部屈曲。体部やや内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　小石　密	淡黄色	良	口　25% 体　〃 底　20%	
29−385 30	H−5	土師質 小皿	9.4 2.1 5.3	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。口〜体部屈曲。体部内湾する。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　小石　密	橙　色	良	完　形	
29−386 30	H−5	土師質 小皿	(10.0) 2.4 5.2	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。口〜体部屈曲。体部外反する。底部やや上げ底、円柱状呈する。	砂粒　黒色粒 密	にぶい褐色	良	口　45% 体　〃 底 100%	
29−387 30	I−4	土師質 小皿	10.4 2.3 6.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部外反する。体部屈曲する。底部上げ底。厚底、円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	褐灰色	良	口　75% 体　〃 底　80%	
29−388 —	K−5	土師質 小皿	— 1.7 4.7	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部上げ底。厚底、円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	橙　色	良	体　10% 底　90%	
29−389 —	O−6	土師質 小皿	— 1.1 4.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。体部内湾する。底部平底。円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　密	浅黄橙色	良	体　60% 底 100%	
29−390 —	G−5	土師質 小皿	(8.7) 2.4 (4.6)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部内湾する。底部平底。円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　小石 密	浅黄橙色	良	口〜底 40%	
29−391 30	G−4	土師質 小皿	10.5 3.0 6.9	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部内湾する。底部平底。円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	にぶい橙色	良	完　形	
29−392 —	G−3	土師質 小皿	(8.7) 2.0 5.3	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部外反する。底部やや上げ底。円柱状を呈する。	砂粒　白色粒 小石 密	明褐色	良	口　40% 体　〃 底 100%	
29−393 30	L−5	土師質 小皿	10.2 3.5 5.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部外反する。底部平底。円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 小石　密	橙　色 淡橙色	良	ほぼ完形	
29−394 —	C−2	土師質 小皿	(9.8) 2.8 6.5	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部ほぼ直線的に開く。底部平底。やや円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　小石　密	浅黄橙色 褐灰色	良	口　20% 体　〃 底 100%	
29−395 31	F−3	土師質 小皿	9.1 2.1 6.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部ほぼ直線的に開く。底部やや上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　石英 密	にぶい橙色	良	完　形	
29−396 31	H−5	土師質 小皿	(8.0) 1.8 (6.2)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部直線的に開く。底部やや上げ底、薄底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　石英 密	褐　色 黒褐色	良	口〜底 40%	口縁端部にタール状の付着物有。灯明。

挿図番号 図版番号	出土 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
29−397 31	H−4	土師質 小皿	10.2 2.5 6.8	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 密	灰黄色	良	完形	
29−398 —	M−5	土師質 小皿	(10.4) 2.1 (6.8)	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口縁部直線的に開く。体部内湾する。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	浅黄橙色	良	口 20% 体 40% 底 〃	
29−399 31	D−2	土師質 小皿	11.0 2.4 7.0	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部直線的に開く。底部平底。	砂粒　黒色粒 角閃石　小石 密	外にぶい褐 内　浅黄橙	良	ほぼ完形	
29−400 31	D−3	土師質 小皿	10.1 1.8 6.4	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部やや内湾する。底部平底。	砂粒　黒色粒 角閃石 密	橙色 浅黄橙色	良	完形	
29−401 31	F−3	土師質 小皿	9.6 2.3 6.3	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部直線的に開く。底部やや上げ底、円柱状を呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 小石　密	外　褐灰色 にぶい褐色 内　褐灰色	良	完形	
29−402 31	F−4	土師質 小皿	10.3 2.2 6.7	内外ともに回転ナデ。底部回転糸切り。口〜体部直線的に開く。底部上げ底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 石英　密	褐灰色 浅黄橙色	良	ほぼ完形	
29−403 —	E−3	土師質 皿	(15.8) 3.7 8.9	内外ともに回転ナデ。底部回転ナデ。口縁部やや外反する。体部内湾する。底部平底。	砂粒　黒色粒 赤色粒 密	橙色	良	口 5% 体 25% 底 45%	
29−404 31	F−3	土師質 皿	13.8 3.2 8.2	内外ともに回転ナデ。底部回転ナデ。口〜体部内湾する。底部平底。	砂粒 密	浅黄橙色	良	口〜底 75%	
29−405 —	G−5	土師質 皿	(14.4) 2.9 9.0	内外ともに回転ナデ。底部回転ナデ。口〜体部内湾する。底部平底。	砂粒 密	橙色	良	口〜底 40%	
29−406 31	H−5	土師質 皿	(14.1) 3.6 9.8	内外ともに回転ナデ。底部回転ナデ。口縁部やや外反する。体部内湾する。底部平底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　小石 密	橙色	良	口 30% 体 100% 底 〃	
29−407 31	N−5	土師質 蓋	12.6 3.0 —	内外ともに回転ナデ。口縁部外に開く。口〜天井部内湾する。扁平つまみ有。	砂粒　黒色粒 角閃石　小石 密	橙色	良	口 20% 天 100%	
29−408 32	N−5	土師質 ﾐﾆﾁｭｱ	6.2 2.3 3.2	内外ともに回転ナデ。底部回転ナデ。口縁部直立する。体部内湾する。底部平底。	砂粒　黒色粒 赤色粒　角閃石 小石　密	浅黄橙色	良	ほぼ完形	
30−409 —	B−1	土師器 甕	(21.0) 5.4 —	外 口縁部横ナデ、胴部斜位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部くの字状を呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 小石　密	外にぶい橙 内　灰黄色	良	口〜胴上 25%	
30−410 32	G−5	土師器 甕	(22.4) 6.4 —	外 口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部くの字状を呈する。	砂粒　白色粒 黒色粒　角閃石 石英　密	橙色	良	口〜胴上 30%	内外ともに摩耗顕著。
30−411 32	J−6	土師器 甕	(23.2) 6.8 —	外 口縁部横ナデ、輪積痕有。胴部斜・横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部くの字状を呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	橙色	良	口〜胴上 40%	
30−412 —	K−6	土師器 甕	(24.8) 9.6 —	外 口縁部横ナデ、輪積痕有。胴部斜・横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部ややコの字状呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	にぶい褐色	良	口〜胴上 20%	
30−413 32	L−6	土師器 甕	(21.8) 6.3 —	外 口縁部横ナデ、輪積痕有。胴部斜・横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部ややコの字状呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	赤褐色	良	口〜胴上 20%	
30−414 32	E−3	土師器 甕	(20.2) 8.8 —	外 口縁部横ナデ、輪積痕有。胴部横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部コの字状呈する。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	橙色	良	口〜胴上 30%	
30−415 32	K−6 L−6	土師器 甕	(20.1) 14.0 —	外 口縁部横ナデ、指頭圧痕有。胴部横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部コの字。胴部球形。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 小石　密	にぶい褐色	良	口 50% 体 20%	
30−416 —	O−5	土師器 甕	(21.8) 5.9 —	外 口縁部横ナデ。胴部斜・横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部短く外に開く。胴部膨らむ。	砂粒　黒色粒 赤色粒　石英 密	外　黒褐色 内　橙色	良	口〜胴上 15%	
30−417 —	B−1	土師器 壷	(25.5) 5.6 —	外 口縁部横ナデ。胴部横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ。沈線有。胴部ヘラナデ。口縁部外に開く。	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	にぶい褐色	良	口〜胴上 15%	
30−418 —	G−3	土師器 壷	(26.2) 8.2 —	外 口縁部横ナデ。指頭圧痕、輪積痕有。胴部横位ヘラ削り。内 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。口縁部やや外反。胴膨らむ	砂粒　黒色粒 角閃石　石英 密	外　橙色 浅黄橙色 内にぶい橙	良	口 15% 胴 30%	

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
30−419 32	L−6	土師器 壺	21.0 8.3 −	外 口縁部横ナデ。胴部横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。口縁部ほぼ直立する。胴部膨らむ。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	にぶい褐色 明褐色	良	口〜胴上 95%	
30−420 −	L−6	土師器 壺	(23.2) 6.4 −	外 口縁部横ナデ。胴部横位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。口縁部くの字状を呈する。	砂粒 白色粒 黒色粒 角閃石 石英 小石 密	赤褐色	良	口 20% 胴 5%	
30−421 −	M−5	土師器 壺	(20.9) 5.3 −	外 口縁部横ナデ。輪積痕有。内 口縁部横ナデ。沈線有。口縁部外反する。	砂粒 黒色粒 赤色粒 石英 密	外 橙色 内にぶい橙	良	口縁部 20%	
30−422 −	L−6	土師器 壺	(22.2) 9.5 −	外 口縁部横ナデ。胴部横・斜位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ。沈線有。胴部ヘラナデ。口縁部受け口状呈する。胴膨らむ。	砂粒 黒色粒 角閃石 密	灰黄色	良	口 35% 胴 25%	
31−423 32	L−6 M−6	土師器 壺	19.6 9.5 −	外 口縁部横ナデ。胴部縦・斜位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。口縁部受け口状呈する。胴部膨らむ。	砂粒 黒色粒 小石 やや粗	橙色 暗灰色	良	口〜胴上 90%	
31−424 32	N−7	土師器 壺	17.6 8.4 −	外 口縁部横ナデ。胴部縦・斜位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。口縁部受け口状呈する。胴部膨らむ。	砂粒 白色粒 石英 小石 やや粗	外 浅黄橙 黒褐色 内 黒褐色	良	口 100% 胴 60%	
31−425 −	E−3	土師器 甕	− 6.3 4.7	甕底部。外 縦・斜位のヘラ削り。内 ヘラナデ。胴下部直線的。底部平底。	砂粒 白色粒 石英 小石 密	外 褐色 内 明褐色	良	底部 100%	
31−426 −	G−4	土師器 壺	− 5.0 7.4	壺底部。外 横・斜位のヘラ削り。内 ヘラナデ。胴下部直線的。底部やや丸底。	砂粒 白色粒 角閃石 石英 小石 密	外 灰黄色 黒褐色 内にぶい褐	良	底部 100%	
31−427 −	K−6	土師器 壺	− 4.0 8.0	壺底部。外 斜位のヘラ削り。内 ヘラナデ。胴下部ほぼ直線的。底部平底。	砂粒 黒色粒 赤色粒 角閃石 石英 小石 密	橙色	良	底部 95%	
31−428 32	M−6	土師器 甕	− 16.2 6.0	甕底部。外 横・斜位のヘラ削り。内 ヘラナデ。胴下部内湾する。底部平底。	砂粒 白色粒 黒色粒 石英 小石 密	外 黒褐色 橙色 内 橙色	良	胴 70% 底 100%	
31−429 −	Q−7	土師器 甕	(12.6) 4.6 −	外 口縁部横ナデ。一部ヘラ削り痕有。胴部横・斜位のヘラ削り。内 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。口縁部コの字。胴膨らむ。	砂粒 黒色粒 角閃石 石英 密	外 橙色 内 褐色 黒褐色	良	口〜胴上 25%	
31−430 −	F−4	土師器 羽釜	(14.4) 8.0 −	外 口縁部横ナデ。横位の突帯有。胴部無調整。輪積痕有。内 口縁部横ナデ。胴部無調整。口〜胴部緩やかに下る。	砂粒 黒色粒 小石 やや粗	浅黄橙色	良	口〜胴上 15%	
31−431 −	B−2	土師器 高坏	− 5.9 −	外 ヘラ削り。内 ナデ。底部中央穿孔。	砂粒 黒色粒 石英 小石 密	浅黄橙色	良	接合部 100%	

第4表 瓦観察表

挿図番号	図版番号	出土グリッド	分類	厚さ(cm)	胎土	色調	焼成	備考
31−432	33	C−3	平瓦	1.8〜3.0	赤色粒 黒色粒 片岩 石英	にぶい褐	良	凸面ナデ。凹面一部布目残。
31−433	33	C−2	平瓦	2.3〜2.5	白色粒 片岩	灰色	良	凸面縄叩き。凹面布目。
31−434	33	J−5	平瓦	1.8〜2.3	白色粒 黒色粒 片岩 角閃石	橙色	良	凸面ナデ。凹面布目
31−435	33	P−6	平瓦	1.1〜2.7	黒色粒 赤色粒 片岩	灰白色	良	凸面縄叩き。凹面布目。
31−436	33	Q−6	三重孤文軒平瓦	2.3〜2.5	白色粒 黒色粒 赤色粒 片岩	灰黄色	良	凸面格子叩き。凹面ナデ。
31−437	33	T−7	平瓦	3.6〜4.0	白色粒 黒色粒 赤色粒 片岩	灰白色	良	凸面格子叩き。凹面ナデ。
31−438	33	T−6	平瓦	1.5〜2.0	白色粒 黒色粒 片岩	灰色	良	凸面ナデ。凹面布目。

第5表 土錘観察表

挿図番号	図版番号	出土グリッド	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重量(g)	備考
32−1	34	A−1	土錘	6.9	1.6	20	完形。
32−2	34	A−1	土錘	3.2	0.9	5	完形。
32−3	34	B−2	土錘	5.6	1.0	9	完形。
32−4	34	B−2	土錘	6.1	1.35	10	完形。
32−5	34	B−2	土錘	6.0	1.2	10	完形。
32−6	34	B−2	土錘	6.0	1.8	20	完形。
32−7	34	B−2	土錘	6.35	1.1	10	完形。
32−8	34	B−2	土錘	6.1	1.1	10	完形。
32−9	34	B−2	土錘	4.7	1.4	14	完形。
32−10	34	B−2	土錘	5.9	1.3	9	完形。
32−11	34	B−2	土錘	−	1.1	−	両端欠。
32−12	34	B−	土錘	5.6	1.6	15	完形。

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分　類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重量(g)	備　　　考
32−13	34	B−2	土　錘	4.9	−	−	半分欠。
32−14	34	B−1	土　錘	4.0	1.0	5	完形。
32−15	34	B−	土　錘	4.2	1.0	6	完形。
32−16	34	B−1	土　錘	3.0	1.0	4	完形。
32−17	34	C−3	土　錘	9.4	4.3	179	完形。
32−18	34	C−2	土　錘	7.4	2.1	28	完形。
32−19	34	C−3	土　錘	4.4	1.2	9	完形。
32−20	34	C−2	土　錘	5.3	1.3	10	完形。
32−21	34	C−2	土　錘	5.2	1.05	8	完形。
32−22	34	C−2	土　錘	5.6	1.45	10	完形。
32−23	34	C−2	土　錘	5.2	1.25	9	完形。
32−24	34	C−2	土　錘	−	1.35	−	半分欠。
32−25	34	C−2	土　錘	4.1	1.05	5	完形。
32−26	34	C−2	土　錘	4.45	0.9	5	完形。
32−27	34	C−2	土　錘	−	1.15	−	半分欠。
32−28	34	C−2	土　錘	3.55	1.0	4	完形。
32−29	34	C−3	土　錘	3.2	1.05	5	完形。
32−30	34	C−2	土　錘	3.2	0.8	3	完形。
32−31	34	C−3	土　錘	3.2	0.95	5	完形。
32−32	34	C−2	土　錘	3.2	0.75	4	完形。
32−33	34	C−2	土　錘	3.5	1.0	4	完形。
32−34	34	C−3	土　錘	2.8	0.9	4	完形。
32−35	34	C−2	土　錘	3.7	0.7	1	完形。
32−36	34	C−2	土　錘	3.4	1.15	5	完形。
32−37	34	C−2	土　錘	2.6	0.8	3	完形。
33−38	34	C−2	土　錘	2.65	0.65	1	完形。
33−39	34	C−3	土　錘	3.5	1.15	6	完形。
33−40	34	C−2	土　錘	3.35	0.9	4	完形。
33−41	34	C−2	土　錘	3.1	0.9	4	完形。
33−42	34	C−2	土　錘	−	1.0	−	半分欠。
33−43	34	D−3	土　錘	7.5	2.9	53	完形。
33−44	34	D−3	土　錘	10.7	4.6	204	先端一部欠。
33−45	34	D−3･4	土　錘	7.1	1.6	19	完形。
33−46	34	D−3	土　錘	6.4	1.75	20	完形。
33−47	34	D−3	土　錘	7.5	1.7	19	完形。
33−48	34	D−3	土　錘	6.4	1.7	18	完形。
33−49	34	D−3	土　錘	6.9	1.8	21	完形。
33−50	34	D−3	土　錘	6.1	1.6	17	完形。
33−51	34	D−3	土　錘	6.5	2.1	20	完形。
33−52	34	D−3	土　錘	5.3	2.3	23	完形。
33−53	34	D−3	土　錘	5.1	2.0	20	完形。
33−54	34	D−3	土　錘	5.8	1.7	19	完形。
33−55	34	D−3	土　錘	−	1.6	−	先端欠。
33−56	34	D−3	土　錘	−	1.6	−	半分欠。
33−57	34	D−3･4	土　錘	4.2	0.9	3	完形。
33−58	34	D−3	土　錘	−	1.2	−	先端欠。
33−59	34	D−3	土　錘	4.5	1.1	5	完形。
33−60	34	D−3	土　錘	4.6	1.1	4	完形。
33−61	34	D−3	土　錘	4.2	1.3	5	完形。
33−62	34	D−3	土　錘	3.3	1.0	4	完形。
33−63	34	D−3	土　錘	2.6	1.0	2	完形。
33−64	34	D−3	土　錘	3.2	0.9	2	完形。
33−65	34	D−2	土　錘	4.2	0.9	4	完形。
33−66	34	E−3	土　錘	4.8	1.7	12	完形。
33−67	34	E−4	土　錘	4.5	1.5	10	完形。
33−68	34	E−4	土　錘	4.6	1.4	8	完形。
33−69	34	E−3	土　錘	−	1.3	−	半分欠。
33−70	34	E−3	土　錘	6.3	1.6	12	完形。
33−71	34	E−3	土　錘	−	1.6	−	先端欠。
34−72	34	E−3	土　錘	4.65	1.1	4	完形。
34−73	34	E−3	土　錘	−	1.05	−	半分欠。
34−74	34	E−3	土　錘	4.6	1.4	8	完形。
34−75	34	E−3	土　錘	4.2	0.9	3	完形。
34−76	34	E−3	土　錘	4.3	0.9	4	完形。

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分　類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重量(g)	備　　考
34−77	34	E−3	土　錘	3.7	0.8	3	完形。
34−78	34	E−3	土　錘	4.0	0.85	3	完形。
34−79	34	E−3	土　錘	3.9	0.9	3	完形。
34−80	34	E−3	土　錘	4.45	0.9	4	完形。
34−81	34	E−3	土　錘	4.0	0.9	3	完形。
34−82	34	E−3	土　錘	4.1	0.9	3	完形。
34−83	34	E−3	土　錘	4.3	1.0	4	完形。
34−84	34	E−3	土　錘	3.7	0.8	2	完形。
34−85	34	E−3	土　錘	3.8	0.85	3	完形。
34−86	34	E−3	土　錘	3.8	0.9	3	完形。
34−87	34	E−3	土　錘	3.9	0.8	2	完形。
34−88	34	E−3	土　錘	3.5	0.8	3	完形。
34−89	34	E−3	土　錘	2.9	0.9	2	完形。
34−90	34	E−3	土　錘	2.7	0.7	1	完形。
34−91	34	F−4	土　錘	5.8	3.05	46	完形。
34−92	34	F−4	土　錘	7.9	1.8	23	完形。
34−93	34	F−5	土　錘	7.5	2.0	27	完形。
34−94	34	F−4	土　錘	6.15	1.9	17	完形。
34−95	34	F−5	土　錘	5.9	1.7	14	完形。
34−96	34	F−3	土　錘	5.8	1.85	16	完形。
34−97	34	F−4	土　錘	−	1.7	−	先端欠。
34−98	34	F−4	土　錘	3.3	0.8	1	完形。
34−99	34	F−5	土　錘	3.8	0.95	3	完形。
34−100	34	F−4	土　錘	4.2	0.95	4	完形。
34−101	34	F−3	土　錘	4.0	1.0	3	完形。
34−102	34	F−3	土　錘	4.1	0.9	4	完形。
34−103	34	F−3	土　錘	3.5	0.85	3	完形。
34−104	34	G−4	土　錘	6.1	1.7	14	完形。
34−105	34	G−5	土　錘	6.8	1.5	15	完形。
34−106	34	G−5	土　錘	6.2	1.75	16	完形。
34−107	34	G−5	土　錘	5.3	1.8	14	完形。
34−108	34	G−5	土　錘	6.1	1.3	11	完形。
34−109	34	G−3	土　錘	5.6	1.9	15	完形。
34−110	34	G−5	土　錘	3.9	1.7	10	完形。
34−111	34	G−4	土　錘	−	1.3	−	半分、先端欠。
35−112	35	G−4	土　錘	−	1.0	−	先端欠。
35−113	35	G−3・4	土　錘	−	1.0	−	先端欠。
35−114	35	G−4	土　錘	3.5	0.7	1	完形。
35−115	35	G−4	土　錘	3.1	0.75	1	完形。
35−116	35	H−5	土　錘	−	2.8	−	先端欠。
35−117	35	H−5	土　錘	7.2	0.85	20	完形。
35−118	35	H−4	土　錘	6.6	1.65	14	完形。
35−119	35	H−5	土　錘	5.7	1.6	13	完形。
35−120	35	H−5	土　錘	5.6	2.0	18	完形。
35−121	35	H−4	土　錘	−	1.45	−	先端欠。
35−122	35	H−5	土　錘	4.7	1.4	6	完形。
35−123	35	H−5	土　錘	4.4	1.65	11	完形。
35−124	35	H−4	土　錘	−	1.6	−	半分欠。
35−125	35	H−5	土　錘	−	1.7	−	半分欠。
35−126	35	H−5	土　錘	−	1.15	−	半分欠。
35−127	35	H−5	土　錘	3.55	0.9	3	完形。
35−128	35	H−5	土　錘	−	0.8	−	先端欠。
35−129	35	H−4	土　錘	4.2	0.9	3	完形。
35−130	35	H−4	土　錘	4.4	0.9	4	完形。
35−131	35	H−4	土　錘	3.6	0.8	2	完形。
35−132	35	H−4	土　錘	4.0	0.95	3	完形。
35−133	35	H−4	土　錘	4.1	0.9	2	完形。
35−134	35	H−4	土　錘	3.7	0.9	3	完形。
35−135	35	H−4	土　錘	3.9	1.0	4	完形。
35−136	35	H−4	土　錘	3.6	0.8	2	完形。
35−137	35	H−5	土　錘	3.5	1.0	3	完形。
35−138	35	H−4	土　錘	3.9	0.9	3	完形。
35−139	35	H−4	土　錘	3.9	0.9	4	完形。
35−140	35	H−4	土　錘	3.8	0.9	3	完形。

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分　類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重量(g)	備　　　考
35−141	35	H−4	土 錘	4.1	0.9	3	完形。
35−142	35	H−4	土 錘	4.0	1.0	2	完形。
35−143	35	H−4	土 錘	4.1	1.1	3	完形。
35−144	35	I−5	土 錘	−	1.85	−	先端欠。
35−145	35	I−5	土 錘	5.7	1.6	13	完形。
35−146	35	I−4	土 錘	−	1.7	−	先端欠。
35−147	35	I−6	土 錘	−	2.1	−	半分欠。
35−148	35	I−4	土 錘	−	1.1	−	先端欠。
35−149	35	I−4	土 錘	3.3	1.0	3	完形。
35−150	35	I−5	土 錘	3.2	1.0	3	完形。
35−151	35	I−5	土 錘	3.7	1.0	2	完形。
35−152	35	I−4	土 錘	3.4	1.1	3	完形。
36−153	35	I−4	土 錘	4.1	1.0	4	完形。
36−154	35	I−4	土 錘	3.0	0.9	2	完形。
36−155	35	I−4	土 錘	3.9	0.9	3	完形。
36−156	35	J−4	土 錘	−	2.0	−	半分欠。
36−157	35	J−4	土 錘	6.5	1.4	11	完形。
36−158	35	J−5	土 錘	6.7	1.7	14	完形。
36−159	35	J−6	土 錘	5.9	1.6	13	完形。
36−160	35	J−6	土 錘	−	1.7	−	先端欠。
36−161	35	J−6	土 錘	5.3	1.1	7	完形。
36−162	35	J−5	土 錘	5.2	1.05	4	完形。
36−163	35	J−4	土 錘	−	0.9	−	先端欠。
36−164	35	J−6	土 錘	−	1.15	−	先端欠。
36−165	35	J−5	土 錘	2.8	1.1	2	完形。
36−166	35	J−6	土 錘	3.2	1.0	3	完形。
36−167	35	J−4	土 錘	−	1.0	−	先端欠。
36−168	35	K−5	土 錘	4.6	1.7	12	完形。
36−169	35	K−5	土 錘	6.1	1.7	17	完形。
36−170	35	K−6	土 錘	6.7	1.6	18	完形。
36−171	35	K−5	土 錘	4.7	1.2	6	完形。
36−172	35	K−6	土 錘	−	1.1	−	先端欠。
36−173	35	K−6	土 錘	4.1	0.9	3	完形。
36−174	35	K−6	土 錘	3.7	0.9	2	完形。
36−175	35	K−6	土 錘	−	0.7	−	先端欠。
36−176	35	L−5	土 錘	7.3	1.6	18	完形。
36−177	35	L−5	土 錘	5.5	2.0	21	完形。
36−178	35	L−6	土 錘	4.8	1.1	5	完形。
36−179	35	L−5	土 錘	−	1.35	−	先端欠。
36−180	35	L−6	土 錘	−	1.0	−	先端欠。
36−181	35	L−6	土 錘	3.2	0.9	2	完形。
36−182	35	L−6	土 錘	3.35	0.9	3	完形。
36−183	35	L−5	土 錘	3.7	0.9	3	完形。
36−184	35	L−6	土 錘	3.6	0.85	2	完形。
36−185	35	L−6	土 錘	3.9	1.0	3	完形。
36−186	35	L−6	土 錘	3.8	0.8	3	完形。
36−187	35	L−6	土 錘	3.5	0.9	2	完形。
36−188	35	L−6	土 錘	3.7	0.9	2	完形。
36−189	35	L−6	土 錘	3.7	0.8	2	完形。
36−190	35	L−5	土 錘	3.6	1.0	4	完形。
36−191	35	M−5	土 錘	6.7	1.9	25	完形。
37−192	35	M−5	土 錘	6.1	1.6	16	完形。
37−193	35	M−6	土 錘	3.8	1.15	4	完形。
37−194	35	M−5	土 錘	−	1.15	−	先端欠。
37−195	35	N−5	土 錘	6.3	1.9	18	完形。
37−196	35	N−6	土 錘	7.4	1.8	24	完形。
37−197	35	N−5	土 錘	5.1	1.15	8	完形。
37−198	35	N−6	土 錘	4.7	1.1	5	完形。
37−199	35	N−5	土 錘	3.8	1.1	4	完形。
37−200	35	O−6	土 錘	−	2.3	−	大半欠。
37−201	35	O−6	土 錘	2.75	1.05	3	完形。
37−202	35	O−6	土 錘	3.6	1.0	3	完形。
37−203	35	O･P−6･7	土 錘	2.6	0.8	2	完形。
37−204	35	P−5	土 錘	3.0	0.9	2	完形。

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分　類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重量(g)	備　　考
37−205	35	Q−6	土　錘	6.5	1.95	19	完形。
37−206	35	Q−7	土　錘	4.0	0.95	4	完形。
37−207	35	S−	土　錘	3.4	1.0	3	完形。
37−208	35	T−7	土　錘	−	0.95	−	先端欠。
37−209	35	T−7	土　錘	−	0.95	−	先端欠。

第６表　砥石観察表

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分　類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	石　材	備　　考
37−1	35	F−3	砥　石	11.2	2.9	2.3	砂　岩	完形。全面使用。
37−2	35	U−7	砥　石	10.2	3.7	3.4	砂　岩	完形。全面使用。

第７表　滑石模造品観察表

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分　類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備　　考
38−1	36	F−4	人　形	6.9	2.6	1.1	完形。
38−2	36	F−4	人　形	−	2.3	0.8	下部欠。
38−3	36	H−5	人　形	4.3	2.6	0.8	完形。
38−4	36	F−3	馬　形	6.4	1.4	1.1	完形。
38−5	36	F−3	馬　形	6.4	1.7	0.6	完形。
38−6	36	F−4	馬　形	5.9	2.7	0.8	完形。
38−7	36	F−3	馬　形	−	1.6	0.5	下部欠。
38−8	36	G−3	馬　形	−	2.0	0.9	頸部。頭部・下部欠。
38−9	36	G−5	馬　形	−	3.5	1.65	下部欠？
38−10	36	K−4	馬　形	10.5	2.2	1.0	完形。
38−11	36	H−4	馬　形	−	2.65	0.95	頸部。頭部・下部欠。
39−12	37	F−3	櫛　形	3.0	7.4	0.9	完形。
39−13	37	F−3	櫛　形	3.8	7.4	0.8	完形。
39−14	37	F−4	櫛　形	3.0	5.7	1.1	一部分欠。
39−15	37	F−4	櫛　形	2.65	−	0.85	下部欠。
39−16	37	F−4	櫛　形	2.85	5.05	0.6	完形。
39−17	37	H−4	櫛　形	2.5	6.7	0.7	完形。
39−18	37	E−4	剣　形	4.4	1.4	0.7	完形。
39−19	37	F−4	剣　形	4.8	1.9	0.8	完形。
39−20	37	F−3	剣　形	5.2	1.4	0.85	完形。
39−21	37	F−5	剣　形	4.0	1.3	0.5	完形。
39−22	37	G−5	剣　形	5.3	1.85	1.1	完形。
40−23	38	E−4	有線円板形	−	5.3	1.0	一部分欠。
40−24	38	E−4	有線円板形	−	−	0.7	半分欠。
40−25	38	F−3	有線円板形	2.0	3.35	0.55	完形。
40−26	38	F−3	有線円板形	4.6	4.0	0.9	完形。
40−27	38	E−4	有線円板形	−	5.3	1.1	一部分欠。
40−28	38	F−4	有線円板形	4.0	4.6	1.1	完形。
40−29	38	F−4	有線円板形	−	−	0.45	大部分欠。一部分のみ残存。
40−30	38	D−3	有孔円板形	2.7	2.8	0.8	一部分欠。三角形状。
40−31	38	E−4	有孔円板形	−	−	0.5	半分欠。
40−32	38	E−4	有孔円板形	−	2.8	0.8	半分欠。
40−33	38	G−5	有孔円板形	5.4	3.1	0.85	完形。
40−34	38	F−3	有孔円板形	3.55	5.8	0.55	完形。
40−35	38	F−4	有孔円板形	3.6	1.8	0.7	完形。
40−36	38	F−4	有孔円板形	3.2	1.65	0.5	完形。
40−37	38	F−4	有孔円板形	3.05	5.8	0.8	完形。
40−38	38	F−4	有孔円板形	2.7	3.6	0.6	完形。
40−39	38	F−4	有孔円板形	1.9	3.2	0.6	完形。
41−40	39	F−4	有孔円板形	1.95	−	0.55	一部分欠。
41−41	39	F−4	有孔円板形	1.9	2.4	0.35	完形。
41−42	39	F−4	有孔円板形	2.1	−	0.6	半分欠。
41−43	39	F−4	有孔円板形	2.1	−	0.35	半分欠。
41−44	39	F−4	有孔円板形	2.3	−	0.5	半分欠。
41−45	39	G−5	有孔円板形	3.3	2.1	0.8	完形。
41−46	39	G−5	有孔円板形	2.2	2.3	0.65	完形。
41−47	39	E−4	勾玉形	3.5	1.8	0.6	完形。
41−48	39	G−5	勾玉形	8.1	3.3	0.9	完形。
41−49	39	F−4	不　明	−	0.95	0.6	両端欠。
41−50	39	F−4	不　明	−	1.6	0.6	両端欠。
41−51	39	F−4	不　明	−	1.55	0.65	上部欠。

挿図番号	図版番号	出土グリッド	分　類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備　　考
41−52	39	F−4	不　明	−	2.05	0.7	上部欠。
41−53	39	E−4	不　明	3.2	1.85	0.45	完形？
41−54	39	F−3	不　明	−	−	0.45	大部分欠。
41−55	39	F−3	不　明	4.1	3.4	1.3	完形？
41−56	39	F−4	不　明	4.1	−	0.75	半分欠。
41−57	39	F−4	不　明	3.7	2.4	0.7	上部欠？
41−58	39	F−5	不　明	−	1.7	1.1	上部欠。

第８表　縄文土器観察表

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
42−1 −	E−4	深鉢形 土器	− − −	外 弧状の隆帯。内 ナデ。 口縁部やや内湾する。	砂粒　白色粒 黒色粒　赤色粒 石英　密	外 灰黄色 内 灰褐色	良	口縁部片	縄文中期・加曽利ＥⅠ式。
42−2 −	I−5	深鉢形 土器	− − −	外 縦位の条線文。内 ナデ。 胴部外に開く。	砂粒　白色粒 小石 やや粗	外 橙色 内 黒褐色	良	胴部片	縄文中期。
42−3 −	I−5	深鉢形 土器	− − −	外 横位の平行沈線間に刺突、ＲＬ単節縄文施文。無文部やや粗い研磨。内 横位のやや粗い研磨。口縁部やや内湾する。	砂粒　白色粒 石英 やや粗	にぶい褐色	良	口縁部片	縄文後期・堀ノ内Ⅰ式。
42−4 −	C−2	深鉢形 土器	− − −	外 平行沈線間にＲＬ単節縄文充填。無文部縦・斜位のナデ。内 縦・斜位のナデ。 胴部外に開く。	砂粒　白色粒 黒色粒　石英 密	外 浅黄橙 暗灰色 内 黒褐色	良	胴部片	縄文後期・堀ノ内Ⅱ式。
42−5 −	M−5	深鉢形 土器	− − −	外 口縁部ナデ、撚糸文。内 ナデ。 口縁部内湾する。折り返し口縁。	砂粒　黒色粒 石英　小石 やや粗	にぶい橙色	良	口縁部片	縄文後期。

第９表　弥生土器観察表

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
42−6 −	B−2	甕形 土器	− − −	外 ＲＬ単節縄文。内 横位のナデ。 胴部内湾する。	砂粒　白色粒 石英　小石 やや粗	外 黒褐色 内 暗褐色	良	胴部片	弥生後期・吉ヶ谷式
42−7 −	E−4	甕形 土器	− − −	外 ＲＬ単節縄文。内 横位のナデ。 胴部内湾する。	砂粒　白色粒 石英　小石 密	外 黒褐色 灰色 内 黄灰色	良	胴部片	弥生後期・吉ヶ谷式
42−8 −	I−5	甕形 土器	− − −	外 ＲＬ単節縄文。内 横位のナデ。 頸部くびれる。胴部膨らむ。	砂粒　白色粒 石英 密	外 黒褐色 内 浅黄橙 黒褐色	良	頸〜胴部片	弥生後期・吉ヶ谷式

第10表　埴輪観察表

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
42−9 −	F−3	円筒 埴輪	− − −	外 縦位のハケ目。横位の突帯。内 ナデ。 突帯低く、やや丸みを帯びる。	白色粒　角閃石 小石 密	にぶい橙色	良	胴部片	
42−10 −	F−4	円筒 埴輪	− − −	外 縦位のハケ目。横位の突帯。内 ナデ。 突帯低い。	白色粒　黒色粒 小石 密	にぶい橙色	良	胴部片	
42−11 −	L−7	円筒 埴輪	− − −	外 縦位のハケ目。横位の突帯。内 ナデ。 突帯低く、やや丸みを帯びる。	白色粒　小石 密	にぶい褐色	良	胴部片	

第11表　陶器類観察表

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種	口径 器高 底径	技法・形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
42−12 −	D−3 −4	陶器 徳利	− 3.9 (13.3)	外 釉有。内 ロクロナデ。	白色粒 緻密	外 オリーブ 灰色 内 灰色	良	底部 55%	

42−13 −	Q−6	陶 器 徳 利	− 4.0 (13.4)	外 釉有。内 ロクロナデ。	白色粒 緻密	外 オリーブ灰色 内 灰 色	良	底 部 40%	
42−14 −	T−6	陶 器 徳 利	− 2.8 (7.0)	外 薄い釉有。内 ロクロナデ。	小石 緻密	淡黄色	良	底 部 100%	
42−15 −	D−2	陶 器 灯明皿	9.4 2.1 3.6	外 口縁部釉有。内 釉有。底部ヘラ削り。底部外面墨書有。	黒色粒 緻密	淡黄色	良	ほぼ完形	
42−16 −	V−7	陶 器 灯明皿	9.4 2.4 4.6	外 口縁部釉有。内 釉有。底部ヘラ削り。	黒色粒 緻密	外 暗褐色 にぶい褐 内 暗褐色	良	完 形	
42−17 −	D−2	陶 器 皿	− 2.0 3.4	外 釉有。内 ロクロナデ。底部回転糸切り。	黒色粒 緻密	外 暗褐色 赤褐色 内 暗褐色	良	底 部 65%	
42−18 −	E−3	磁 器 獣 脚	− 6.7 3.1	内外ともに薄く釉有。	白色粒 緻密	暗褐色	良	脚 部 100%	

第12表　古銭観察表

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分 類	最大径(cm)	穿径(cm)	重量(g)	初 鋳 年 代	鋳造地	備 考
42−19	−	J−5	元豊通宝	2.45	0.75	0.49	1078年	北宋	完形。
42−20	−	O−6	永楽通宝	2.35	0.6	0.6	1408年	明	完形。
42−21	−	R−7	洪武通宝	2.2	0.6	0.48	1367年	明	完形。
42−22	−	T−6	元符通宝	2.4	0.7	0.6	1098年	北宋	完形。
42−23	−	T−6	永楽通宝	2.35	0.6	0.49	1408年	明	完形。
42−24	−	B−2	新寛永通宝	−	−	−	1672年	−	半分欠。
42−25	−	H−5	新寛永通宝	2.3	0.7	−	1672年	−	1/4欠。
42−26	−	Q・R−6	新寛永通宝	2.45	0.6	0.5	1672年	−	完形。

第13表　板碑観察表

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分 類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	石 材	備 考
42−27	−	O−5	板 碑	−	−	3.4	緑泥片岩	両端欠。
42−28	−	R−6	板 碑	−	−	2.4	緑泥片岩	下部、側面欠。

第14表　石製品観察表

挿図番号	図版番号	出土ｸﾞﾘｯﾄﾞ	分 類	最大径(cm)	最大厚(cm)	石 材	備 考
43−29	−	Q−6	石 臼	30.7	8.4	角閃石安山岩	下臼。半分、所々欠。条線残存。中央穿孔。やや播り鉢状。
43−30	−	R−6	石 臼	32.8	15.0	凝灰岩	上臼。半分、所々欠。条線残存。孔有。断面ややH状。
43−31	−	S−6	石 臼	−	10.6	凝灰岩	上臼。半分欠。条線わずかに残存。孔有。断面ややH状。

V　調査のまとめ

西別府祭祀遺跡は、櫛引台地の北東端に所在する古代の祭祀遺跡である。遺跡は台地上、及び台地下に広がるものと思われるが、中心となるのはやはり台地下に位置する湧水堀で、今回の調査地点はまさに遺跡の中心部分といえる。

本遺跡は昭和 38 年に発見、調査されて以来、「湯殿神社祭祀跡」としてその名が知られてきた。現在は「西別府祭祀遺跡」として埼玉県遺跡番号に登録されているが、これは名称変更をしたためであって、「湯殿神社祭祀跡」とは同じ遺跡のことである。

昭和 38 年の調査については正式な報告がなされていないため、調査地点や出土遺物など詳細については定かではないが、遺跡を紹介した文献（大場・小沢　1963）や、県内の祭祀遺跡を掲載した『新編埼玉県史』（埼玉県　1984）によりその内容を知ることができる。

それらによると、遺構は検出されておらず、滑石製模造品・土器・土錘などの遺物が検出されただけである。滑石製模造品は合計 160 点ほど検出され、そのうち形状の分かるものは 80 点ある。内訳は馬形が 13 点、櫛形が 19 点、勾玉形が 16 点、有孔円板形が 10 点、有線円板形が 19 点、剣形が 3 点である。土器は、土師器と須恵器がみられるが、特に須恵器は検出量が少ないという。どれも小破片で、完形品はほとんどみられず、器種は坏や壺類が多いということである。土錘については、『新編埼玉県史』に 3 点が図示してあるのみで、何点検出されたのかはわからない。

今回の調査においてもやはり古代の遺構は検出されず、粘土層上、及び砂礫層上より多数の遺物が検出されただけである。遺物は調査区のほぼ全面から時代･時期に関係なく混在した状態で検出されたが、特に調査区中央よりやや東側のＮグリッド付近から調査区西端のＡグリッドまでの広い範囲において多数検出されている。遺物の主体となるのは土器（土師器・須恵器・土師質土器）であり、墨書・線刻土器もみられる。これらは古墳時代後期から平安時代後半まで断絶することなく検出されている。土器以外では、滑石製模造品・土錘の他に、砥石、瓦片なども若干ではあるが検出されている。

今回の調査では、滑石製模造品に人形が含まれる点、平安時代でも新しい段階のロクロを使った土師質土器が多数検出された点が、昭和 38 年の調査とは異なる新たな成果として挙げられる。特に後者については、古代祭祀遺跡としての存続期間が平安時代後半まで続いていたことを示す重要な成果といえる。

では、以下、祭祀の変遷をはじめ、遺跡の性格を表す墨書土器、土錘、滑石製模造品について簡単にまとめてみたい。

1）　祭祀の変遷

本遺跡では遺構がないため、調査区全面より出土した土器を指標にその変遷を追っていくほかない。よって、本書では古代を 7 つの段階に区分し、各段階毎に調査区内における土器の検出状況の把握を試みた。その結果、どの段階においても総じて調査区ほぼ中央から西側にかけての範囲において多数の遺物が検出され、また各段階によって祭祀の行われた箇所にやや違いがあることがわかった。以下、順を追ってみていくこととする。

出現期である 7 世紀中頃から後半は土器の検出量が少ないが、多く出土した箇所は調査区中央のやや

西側、Ｆグリッド付近である。また、Ｆグリッド付近は滑石製模造品が多く検出された所でもあり、昭和 38 年の調査地点もこの辺りであることから、同段階においてはＦグリッド付近が祭祀の中心といえる。昭和 38 年の調査で須恵器の検出量が少ないこともこれを裏付けることになろう。

滑石製模造品は、その検出量が今回の分と先の調査の分をあわせると約 217 点程になる。今回の調査では土器の検出量は少ないが、先の調査分を含めても土器が滑石製模造品を上回るとは考えにくいことから、同段階においては祭祀用具の主体は、土器ではなく滑石製模造品であったと思われる。

次の７世紀末から８世紀初頭になると、土器の検出量が前段階に比べて多くなる。これは滑石製模造品に変わって土器を祭祀用具の主体として用いるようになったためであろう。祭祀の位置は、全段階を通じてこの段階のみ調査区内でも中央よりやや東側のＩ～Ｎグリッドへと移行する。

８世紀前半から中頃は前段階同様、ほぼ同量の土器が検出されているが、祭祀の中心は調査区のほぼ中央、Ｆ～Ｍグリッドへと移行する。

８世紀後半から９世紀初頭、及び９世紀前半から中頃は土器の検出量が激減するが、祭祀の中心は前段階とほとんど変わらないと思われる。ただし、９世紀前半から中頃は検出量が非常に少なく、中心といえる箇所が定かではない。

９世紀後半から 10 世紀初頭になると検出量がやや増え始め、祭祀箇所は調査区中央から西側のＤ～Ｌグリッドになる。そして 10 世紀前半以降はさらに検出量が増え、祭祀箇所は前段階とほぼ同じである。

全体を通して分かったことは、まず土器は調査区中央から西側にかけての範囲において多数検出されており、Ｉ～Ｎグリッドを中心とする７世紀末から８世紀初頭段階以外は、ほとんど調査区の中央から西側にかけての範囲において祭祀が行われていたということである。この調査区中央から西側にかけての範囲は、湯殿神社社殿のほぼ裏手にあたり、両者の関係に密接なつながりがあることが推察される。これについては大場磐雄・小沢国平両氏も「水源地に近い淵に臨む崖の上に祭場が設けられ、厳粛な祭儀が行われたが、…何年もくりかえされている中に、最初は臨時の祭場であった崖の上に、固定した建物が作られて常時水霊を奉祀する神社となった。これが今の湯殿神社の前身であろう」と述べ、両者の関係について言及している。

次に、時代・時期によって土器の検出量に差がみられる点が挙げられる。これは祭祀が活発に行われたかどうかを示すバロメーターといえ、本遺跡では長期間にわたって祭祀が行われていたが、祭祀を活発に行った期間とそうでない期間があることを示唆している。検出数からのみ判断するのは早計ではあるが、数が多ければやはりそれは祭祀を活発に行っていたことを示す証しとなろう。

本遺跡における祭祀は、７世紀中頃から 11 世紀代までという長期間にわたって行われ、主に調査区のほぼ中央から西側にかけての範囲において行われていた。そして、それは活発に行われていた時期とそうでない時期があり、出現期である７世紀中頃から後半にかけては滑石製模造品主体であったのが、７世紀末から８世紀初頭以降は土器主体となるのである。本遺跡にみられる祭祀形態は古代をもって終わってしまうが、これは先の指摘のとおり、湯殿神社の前身が台地上に築かれたことによって、祭祀形態に変化が生じた結果であろう。

2）墨書土器

今回の調査によって多数の土器が検出されたが、これらの中には墨書・線刻土器も含まれている。

墨書土器は全部で41点検出されており、これらは土師器・須恵器・土師質土器の区別なく、坏・椀・皿など供膳具のみみられる。

墨書は、楷書体を主体とするが、草書体も土師質土器にのみみられる。また、破片であるためはっきりしないが、曲線、ないし直線や渦巻き状に描くものなど一種の記号のようなものもみられる。墨書の書かれた部位は、口縁部内外面、体部外面、底部内外面とさまざまであるが、最も多いのは底部内面である。文字数は草書体を除いて、1、ないし2文字が主であるが、第19図44のみ3文字である。

墨書土器については、平川　南氏による研究がある（平川　1991）。氏によると、「墨書土器の文字は、その種類がきわめて限定され、かつ東日本各地の遺跡で共通して記され」、「共通文字の使用のみならず、墨書土器の字形も、各地で類似している。しかも、本来の文字が変形したままの字形が広い分布を示している」という。そして、「中国で考案された特殊文字—則天文字さらには篆書体が日本各地に広く普及し、しかもそれに類するような我が国独自と思われる特殊な字形の文字を生み出している」という。そして、結論として墨書土器を祭祀・儀礼形態の側からとらえ、従来いわれてきた「文字の普及のバロメーター」という面に疑問を投げかけている。

これらの点から本遺跡出土資料をみてみると、確かに東日本各地において検出された墨書と同じ、もしくは同類のものがみられる。本遺跡で多くみられたのは「大」であるが、この他にも「加」「西」「文」「甲」など東日本各地において検出例のあるものである。また、則天文字から生み出された特殊文字も3点（第19図43・第20図71・第25図225）出土しているが、いずれも同じ字形のものが東日本において検出されている。

墨書は地名、人名、数字、吉祥などを表すものとされるが、本遺跡は集落ではなく、明らかに祭祀遺跡といえるものである。よって、今回検出された墨書については、地名、人名、数字などを表すものというよりもむしろ吉祥を表現したものといえるのではないか。筆者の力量不足のため、本遺跡から出土した墨書には解読できないものが多々あるが、これらについても吉祥を表したものではないだろうか。

なお、線刻土器も1点のみ出土している（第25図230）。底部内面に2箇所みられ、1つは1文字、もう1つは割れ口にあるため定かではないが2文字草書体で刻まれている。前者は合わせ文字の可能性もある。解読不可能であるが、これも墨書同様、吉祥句を表したものではないだろうか。

3）土錘

土器同様、土錘についても主に調査区のほぼ中央から西側にかけての範囲より検出されている。年代の判定が困難なため、本文中ではその形態から4つのタイプに分類して出土位置を示したが、その結果、タイプ別にまとまって出土している傾向がみられた。これは同タイプの土錘をまとめて捧げた結果であって、実用品として用いられた結果ではないだろう。

土錘は今回の調査では合計209個と非常に多く検出された。祭祀遺跡から土錘が検出されることは、本遺跡に限らずよくみられる事象であるが、これほど多く検出されるのはあまり例のないことである。

土錘はその役割から漁撈における大漁を祈願して滑石製模造品や土器とともに供されたものであって、

あくまでも祭祀用具の１つであったと思われる。

4）滑石製模造品

滑石製模造品は、人形、馬形、櫛形、剣形、有線円板形、有孔円板形のほか、形状不明なもの、図示しなかったものも含めて全部で67点が検出されている。人形が今回の調査で新たに検出された以外は、昭和38年の調査時に検出されたものと内容は同じである。出土位置はＥ～Ｇグリッドに集中しており、特にＦグリッドから多数検出されている。昭和38年に調査が行われた箇所は「大体湯殿神社社殿の北に当る」（大場・小沢　1963）ことから、今回の調査にて検出されたＥ～Ｇグリッド付近、ないしそれに含まれることは間違いなく、本遺跡において滑石製模造品が検出される場所はこのＥ～Ｇグリッドであるといえる。

祭祀における滑石製模造品というと、福岡県沖ノ島の祭祀遺跡出土例が著名である。沖ノ島に関しては、その立地、規模、内容からみて一般的にみられる祭祀遺跡とは明らかに一線を画するものであり、同等のレベルで語れるものではない。ただ、沖ノ島以外にも滑石製模造品を祭祀に用いる例は全国に存在する。本遺跡周辺でも深谷市新屋敷東遺跡や、一本木前遺跡から滑石製模造品を使用した祭祀跡が確認されている。

新屋敷東遺跡は、妻沼低地自然堤防上に立地する縄文時代後期から古墳、奈良・平安時代、中・近世と続く複合遺跡である（田中　1992)。遺跡の主体となるのは古墳時代後期の集落であり、滑石製模造品は集落北側の河川跡縁辺部より検出されている。模造品には「勾玉形模造品」、「大形有孔円板」、「剣形模造品」、「鉄鏃形模造品」、「櫛形模造品」、その他「線刻された石製模造品」（いずれも報告書の表現による）などが検出されている。新屋敷東遺跡出土例（以下、新屋敷例）は、「櫛形」「勾玉形」など分類上では本遺跡検出例と同じではあるが、個々の形状をみると本遺跡出土例とはかなり異なる。また、新屋敷例は成形が粗雑で何を模造したのか分かりにくく、孔をもつものが多数存在する。これらは７世紀でも前半の土器が共伴していることから、本遺跡のものよりも時期がやや溯るものである。

一本木前遺跡は、新屋敷東遺跡と同じく妻沼低地自然堤防上に立地し、古墳時代後期から奈良・平安、鎌倉、室町時代と続く複合遺跡である。主体となるのは古墳時代後期の集落であり、滑石製模造品は入り江に面した祭祀跡から古墳時代後期の土器や馬の頭骨に混じって数点出土している。なお、一本木前遺跡については現在整理中であるため、詳細については今年度刊行予定の報告書を待ちたい。

馬や櫛が水にかかわる祭祀において古くから用いられたことは、古代の文献や民俗資料などから広く知られており、考古学的には主に水に関わる遺構（井戸や溝など）から検出されることが多い。馬については、先の一本木前遺跡の祭祀跡から馬の頭骨が出土している。一方、櫛については、木製で横型のものが井戸跡から検出した例があるという（大場・小沢　1963)。

本遺跡が水にかかわる祭祀であることは上記のことから明らかであるが、滑石製模造品を用いての祭祀は律令制直前までで、以後は土器主体へと変わる。これが律令制と関係があるのかは分からないが、祭祀形態に何らかの変化があった結果であろう。ただ、祭祀自体は以後も長期間続くことから、祭祀の本質的な意味は変わらないと思われる。

以上、本遺跡の変遷、及び遺跡の性格を示す墨書土器、土錘、滑石製模造品について簡単に述べた。

祭祀については、その祭祀形態、内容を解明することは非常に困難である。多くの場合、古代の文献や民俗資料などから、その答えを導き出したりするが、説得力を持たせることは非常に難しい。

本遺跡の祭祀について具体的なことは知る良しもないが、湧水堀にあることや馬や櫛などが用いられていることからも水に関係することは明らかである。また、本遺跡のある櫛引台地北東端からは、北方正面には高大にそびえる赤城山、その西には谷川、榛名、妙義、浅間といった山々、東には男体、筑波などの山々を望むことができる。本遺跡はこうした山々の巨大パノラマを望むことのできる場所にあることから、山岳信仰的な面も考えられよう。本遺跡の北側には現在、水田が広がっているが、当時も一面に水田が広まっていたと思われる。多数の土錘の存在も含めて、本遺跡の祭祀は当時の人々の生産活動に対する祈願を表したものといえるのではないだろうか。

本遺跡はその開始時期がまさに律令体制に入る直前段階であり、また南東に隣接する西別府廃寺の創建期とも重なってくる。西別府廃寺は県内でも古い寺院跡であり、8世紀初頭の創建が考えられている。本遺跡との関係は無関係ではないだろう。また、付近は東山道の推定路になっており、この辺り一帯は古代を考える上で非常に重要な要素を多く含んだ地域である。本遺跡も滑石製模造品という非常に珍しい遺物が多数検出されるなど祭祀遺跡の中でも特異なものといえる。

遺跡は今回の調査でほぼ掘り尽くされてしまったと思われるが、当時の祭祀形態を考える上で非常に貴重なデータをもたらしてくれたことと思う。ただ、筆者の力量不足のため、十分な成果を得られたかどうかは疑問の残るところである。今後、祭祀遺跡の研究データとして本書を使用していただければ幸いである。

なお、主体となる古代以外にも遺物が確認されているが、これらは本遺跡周辺に所在する遺跡からの影響であろう。縄文時代は本遺跡東側の自然堤防上に前期から後期の集落である寺東遺跡、弥生時代は北東方向に前期末から中期前半の再葬墓が検出された横間栗遺跡やその南には集落跡である関下遺跡、古墳時代は古墳時代後期の群集墳である別府古墳群、中・近世は本遺跡東に西方遺跡などがある。検出された遺物はこれらの遺跡からのものであろう。ただ、弥生時代に関しては、後期の遺跡は確認されていないことから、周辺にその存在が考えられる。また、本遺跡において唯一遺構が確認された近世の堰状遺構は遺跡の北に広がる水田に関連するものであろう。

参考・引用文献

大場磐雄・小沢国平　1963「新発見の祭祀遺跡」『史跡と美術』第338号

川本町遺跡調査会　1995『鹿島平方裏遺跡発掘調査報告書』

熊谷市　1963『熊谷市史』前編

熊谷市教育委員会　1982『三尻遺跡群　上辻・下辻遺跡』

1984『三尻遺跡群　上辻・下辻遺跡』

1985『三尻遺跡群　黒沢館・樋ノ上遺跡』

1986『三尻遺跡群　若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡』

1988『三尻遺跡群　社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡』

1994『西別府廃寺（第2次）』

1999『横間栗遺跡』

1999『稲荷東遺跡』

埼玉県　1982『新編　埼玉県史』資料編2

1984『新編　埼玉県史』資料編3

埼玉県教育委員会　1988『埼玉の中世城館跡』

㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1987『下辻遺跡』

1987『上敷免遺跡』

1992『新屋敷東・本郷前東』

1995『根絡・横間栗・関下』

埼玉県立歴史資料館　1987『埼玉の古代窯業調査報告書』

椙山林継　1988「祭祀遺跡の年代」『論争・学説日本の考古学　5　古墳時代』雄山閣

平川　南　1991「墨書土器とその字形─古代村落における文字の実相─」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集

深谷市教育委員会　1998『常盤町東遺跡』

渡辺　一　1990「南比企窯跡群の須恵器の年代～鳩山窯跡の年代を中心に～」『埼玉考古』27　埼玉考古学会

1995「武蔵国の須恵器生産の各段階」『王朝の考古学』

写 真 図 版

発掘調査作業風景

調査区全景 1

調査区全景 2

C－2 Grid 遺物出土状況

D－2 Grid 遺物出土状況

E－3 Grid 遺物出土状況

F－4 Grid 遺物出土状況

G・H－4 Grid 遺物出土状況

I－5・6 Grid 遺物出土状況

J－4・5 Grid 遺物出土状況

J－5・6 Grid 遺物出土状況

L－6 Grid 遺物出土状況

L・M－6 Grid 遺物出土状況

N－5 Grid 遺物出土状況

O－6・7 Grid 遺物出土状況

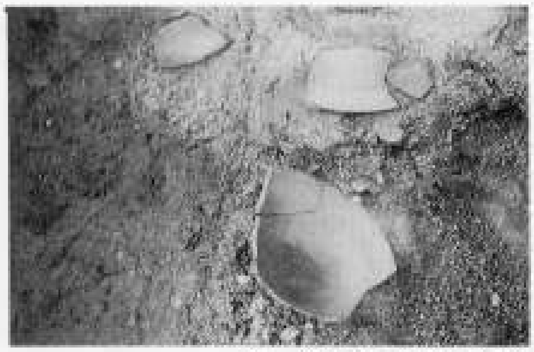
Q－7 Grid 遺物出土状況

R－7 Grid 遺物出土状況

土層断面(AA′)

土層断面(BB′)

B－1 Grid 土器出土状況


D－3 Grid 土器出土状況

F－3 Grid 土器出土状況

F－4 Grid 土器出土状況

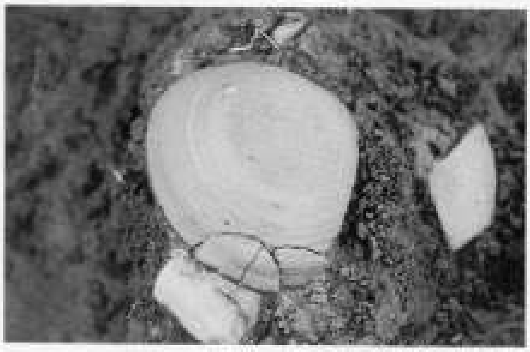
F－4 Grid 土器出土状況

G－4 Grid 土器出土状況

G－4 Grid 土器出土状況

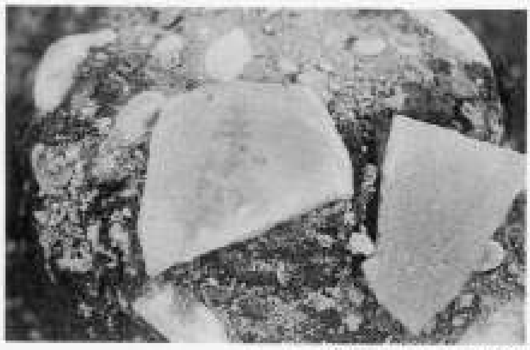
G－4 Grid 土器出土状況

G－5 Grid 土器出土状況



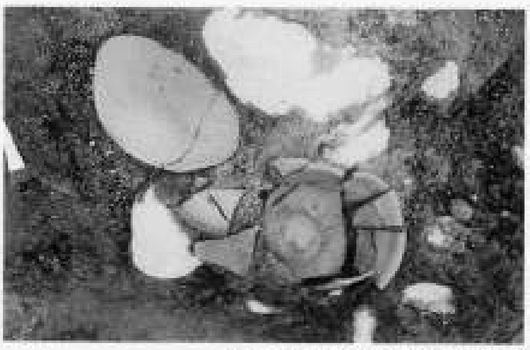
H－4 Grid 土器出土状況

H－5 Grid 土器出土状況



L－5 Grid 土器出土状況

L－6 Grid 土器出土状況



L－6 Grid 土器出土状況

M－6 Grid 土器出土状況

T－6 Grid 土器出土状況

Q－6 Grid 瓦出土状況

D－3 Grid 滑石製模造品出土状況

F－3・4 Grid 滑石製模造品出土状況

F－3 Grid 滑石製模造品出土状況

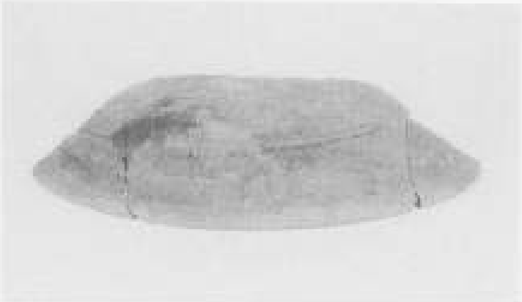
F－4 Grid 滑石製模造品出土状況

F－4 Grid 滑石製模造品出土状況

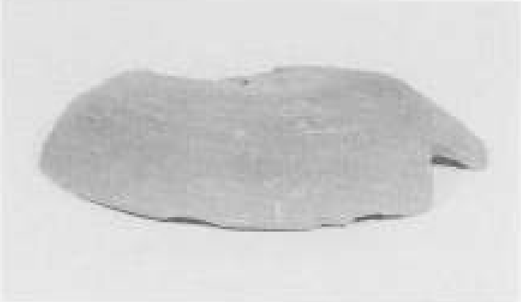
G－5 Grid 滑石製模造品出土状況

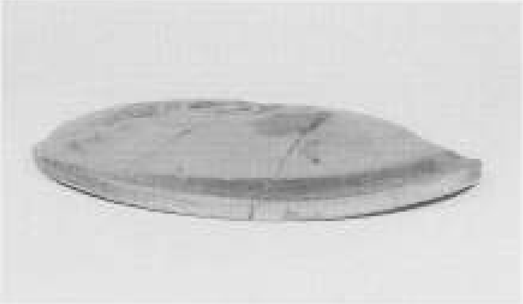
G－5 Grid 滑石製模造品出土状況

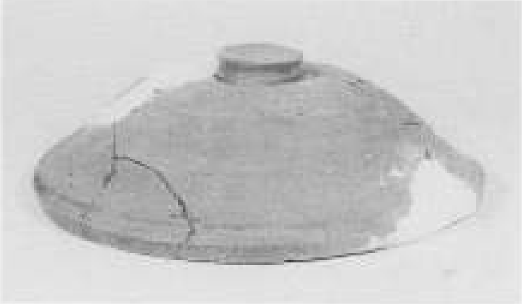
須恵器・蓋（第18図１）

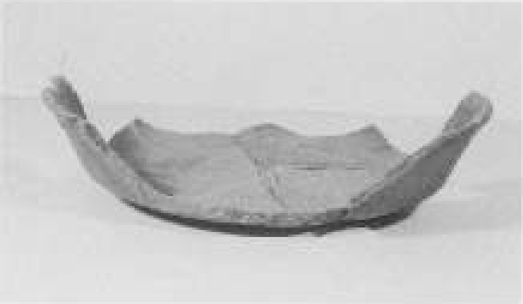

須恵器・蓋（第18図２）

須恵器・蓋（第18図３）


須恵器・蓋（第18図７）


須恵器・蓋（第18図11）


須恵器・蓋（第18図13）


須恵器・坏（第18図15）

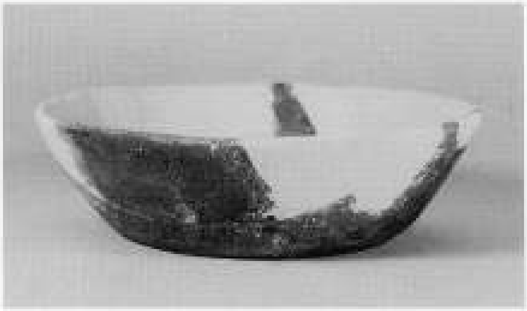
須恵器・坏（第18図17）

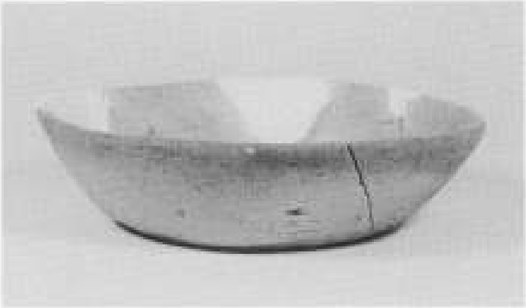
須恵器・坏（第18図18）

須恵器・坏（第18図20）

須恵器・坏（第18図21）

須恵器・坏（第18図22）


須恵器・坏（第18図23）


須恵器・坏（第18図24）

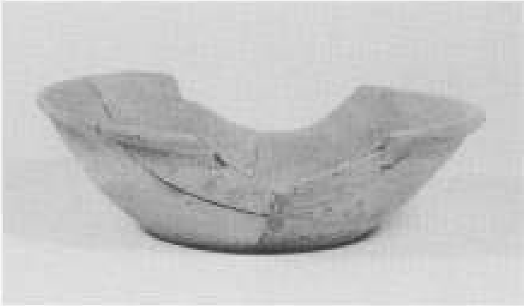
須恵器・坏（第18図26）

須恵器・坏（第18図27）

須恵器・坏（第18図28）

須恵器・坏（第18図30）

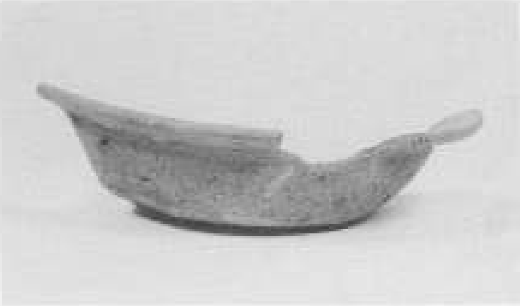
須恵器・坏（第18図31）


須恵器・坏（第19図34）

須恵器・坏（第19図35）

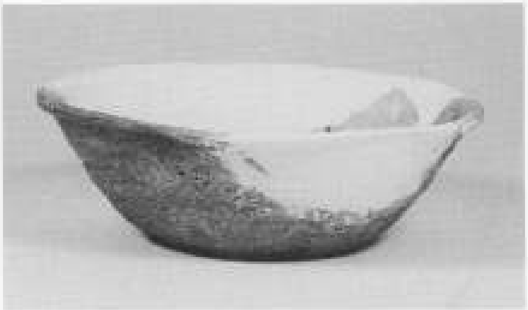
須恵器・坏（第19図38）

底部外面墨書（第19図35）



須恵器・坏（第19図39）

須恵器・坏（第19図40）

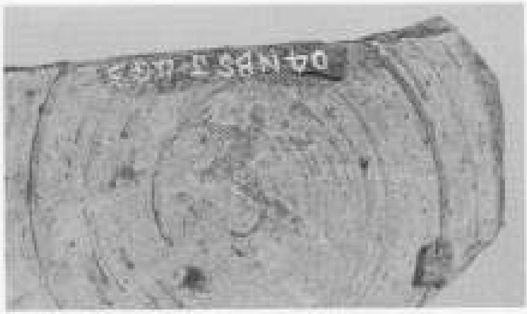


須恵器・坏（第19図41）

須恵器・坏（第19図43）

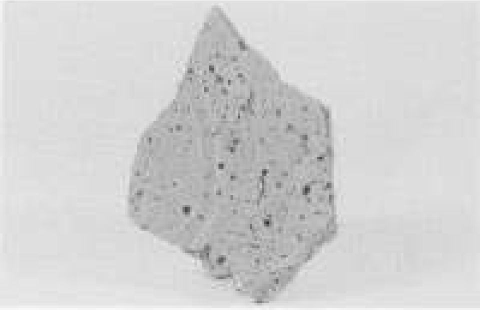
底部外面墨書（第19図44）

口縁部外面墨書（第19図43）

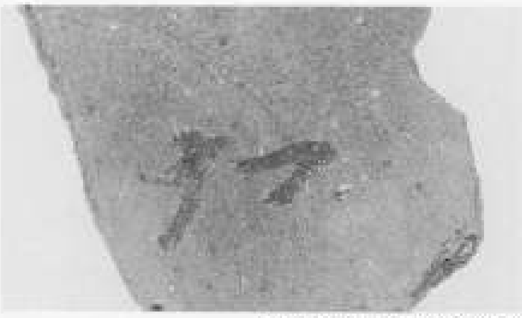


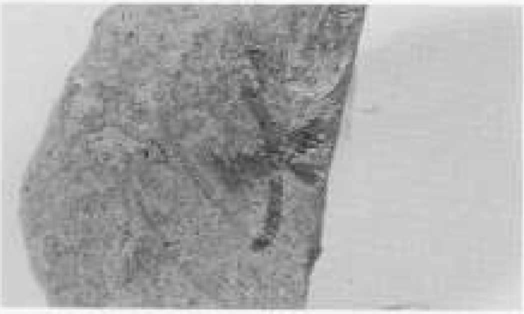
底部外面墨書（第19図48）

底部外面墨書（第19図49）

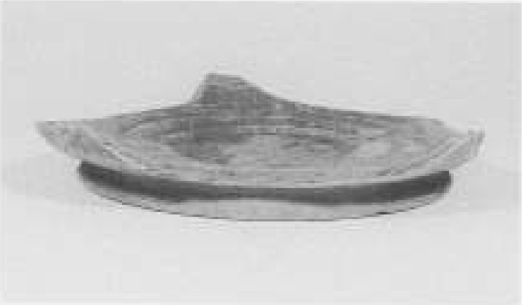

底部内面墨書（第19図58）

底部内面墨書（第19図61）


底部内面墨書（第19図62）

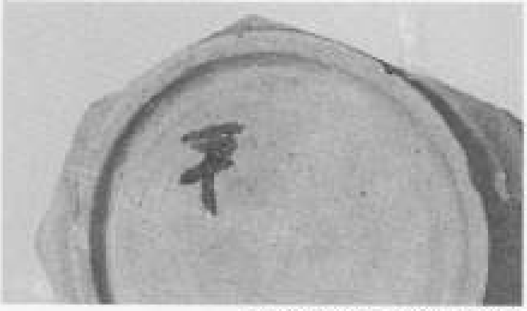

底部外面墨書（第19図65）

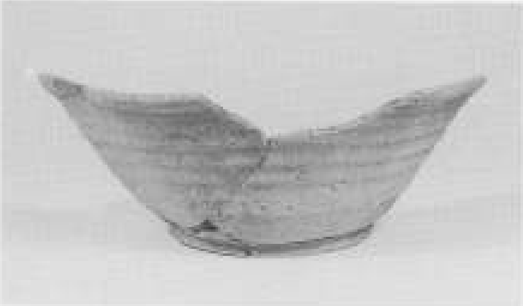
口縁部外面墨書（第19図66）

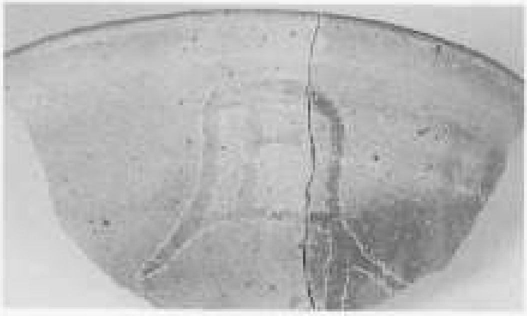

須恵器・高台付坏（第20図67）

須恵器・高台付坏（第20図69）

須恵器・高台付坏（第20図68）


底部外面墨書（第20図69）


須恵器・高台付椀（第20図70）


口縁部外面墨書（第20図71）

須恵器・高台付椀（第20図73）

須恵器・高台付椀（第20図76）

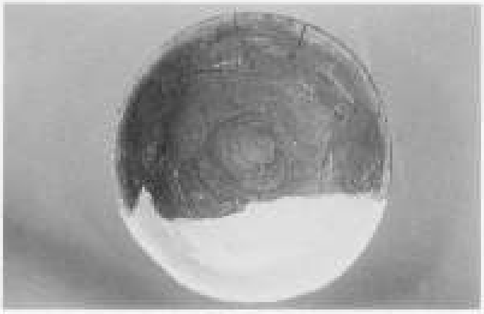
須恵器・高台付椀（第20図77）

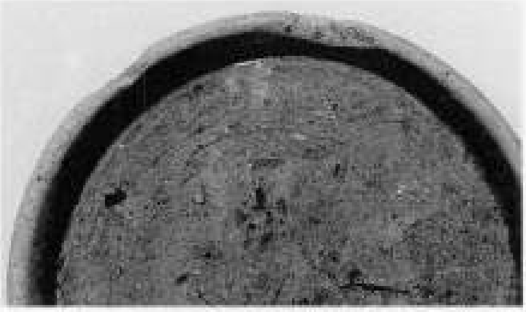
須恵器・高台付椀（第20図78）

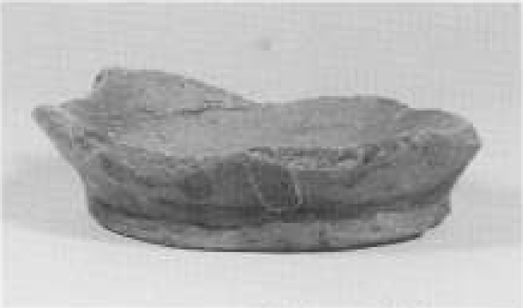
須恵器・高台付椀（第20図79）

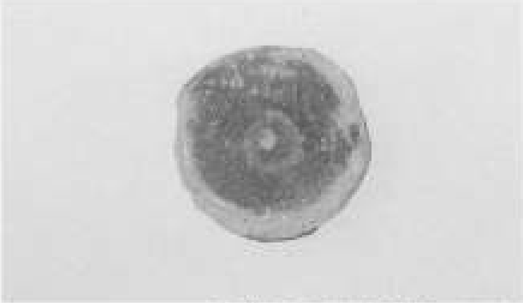
須恵器・高台付椀（第20図82）

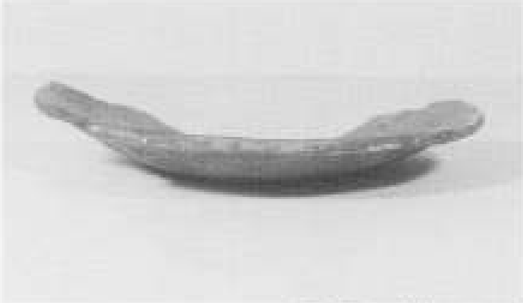
須恵器・高台付椀（第20図81）

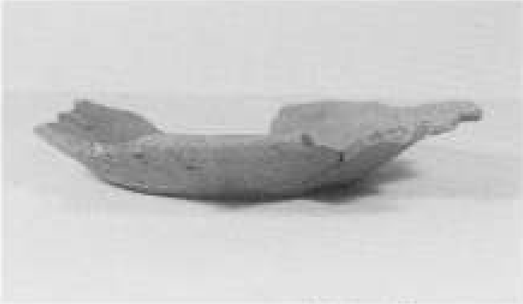

底部内面墨書（第20図82）

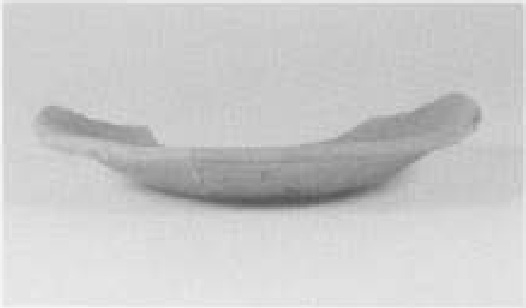

底部外面墨書(第20図83)

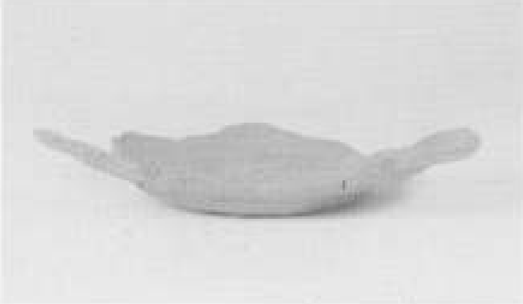

体部外面墨書(第20図94)

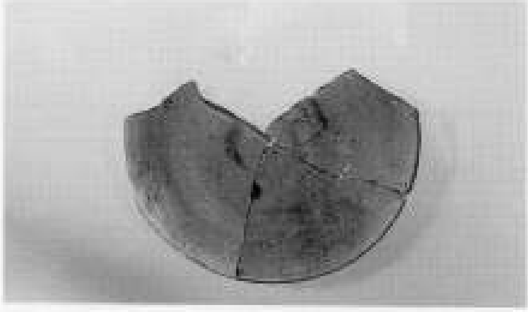

須恵器・高台付椀(第20図97)


須恵器・皿(第21図99)


須恵器・皿(第21図100)


須恵器・皿(第21図102)

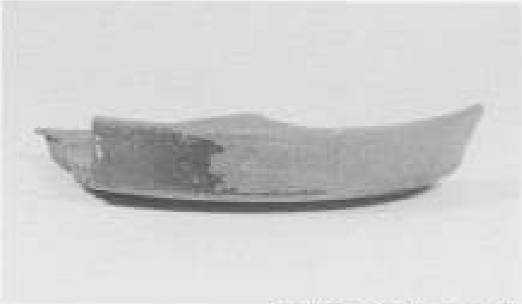

須恵器・皿(第21図101)


底部内面墨書(第21図102)

須恵器・高台付皿(第21図103)

須恵器・高台付皿(第21図104)

須恵器・椀（第21図106）


須恵器・盤（第21図107）

須恵器・ミニチュア（第21図108）

須恵器・円面硯（第21図109）

須恵器・壺（第21図110）

須恵器・甕（第21図114）

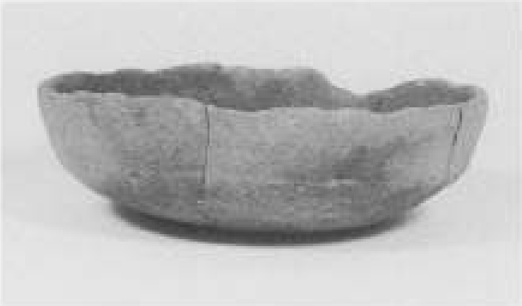
須恵器・甕（第21図117）

灰釉陶器・高台付皿（第22図134）

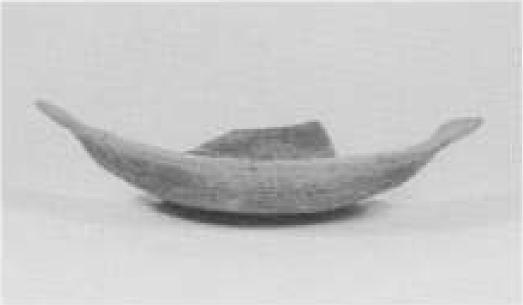
土師器・坏（第23図139）

土師器・坏（第23図141）

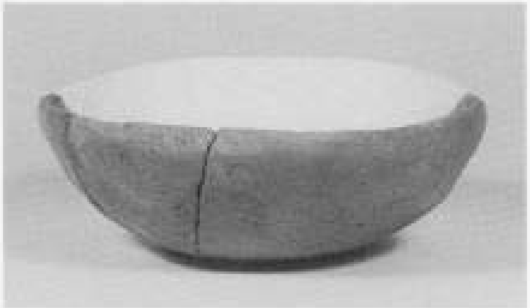
土師器・坏（第23図145）



土師器・坏（第23図151）



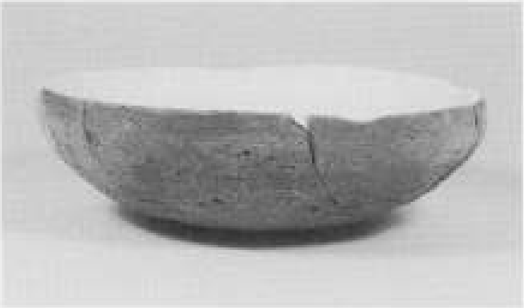
土師器・坏（第23図153）



土師器・坏（第23図155）

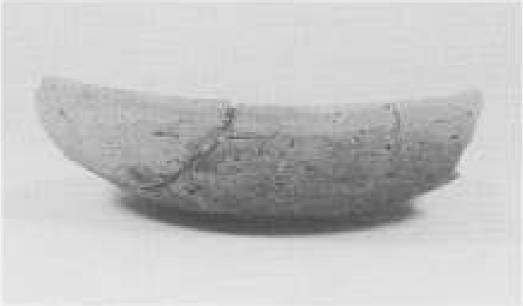
土師器・坏（第23図156）

土師器・坏（第23図158）

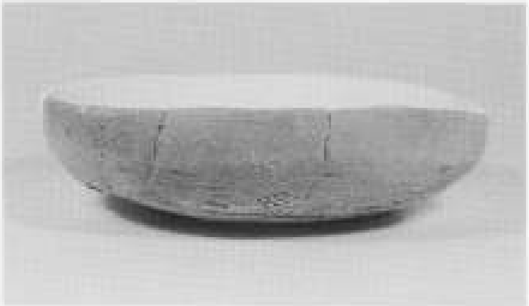


土師器・坏（第23図160）

土師器・坏（第23図167）



土師器・坏（第23図168）



土師器・坏（第23図170）

土師器・坏(第23図171)

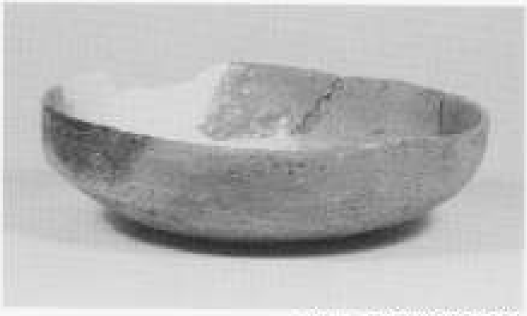
土師器・坏(第23図172)

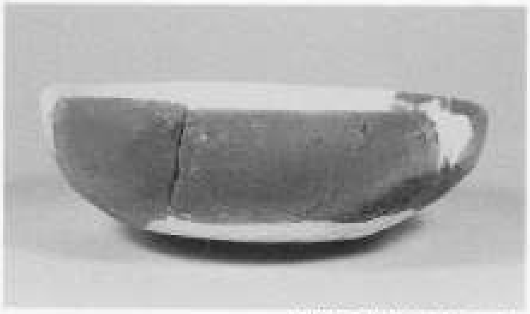
土師器・坏(第23図173)

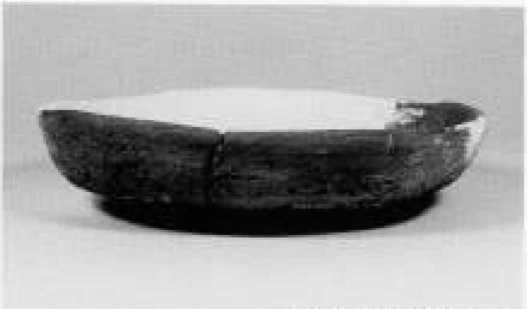
土師器・坏(第23図174)

土師器・坏(第23図176)

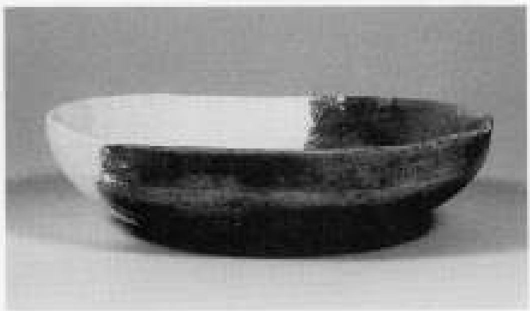
土師器・坏(第23図177)

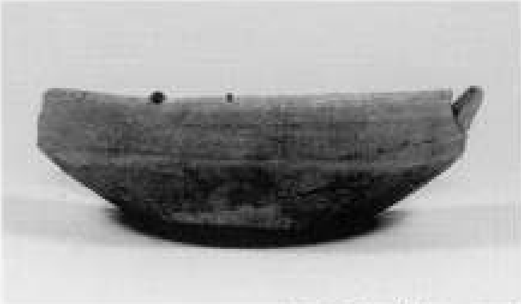

土師器・坏(第23図178)


土師器・坏(第23図179)


土師器・坏(第23図180)

土師器・坏(第23図181)


土師器・坏(第24図184)


土師器・坏(第24図187)

底部外面墨書(第24図188)

底部内面墨書(第24図189)

底部外面墨書(第24図190)

土師器・坏(第24図195)

土師器・坏(第24図199)

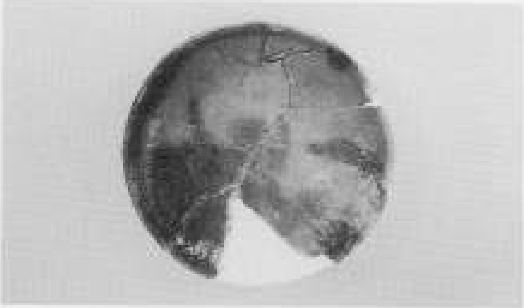
放射状暗文(第24図195)

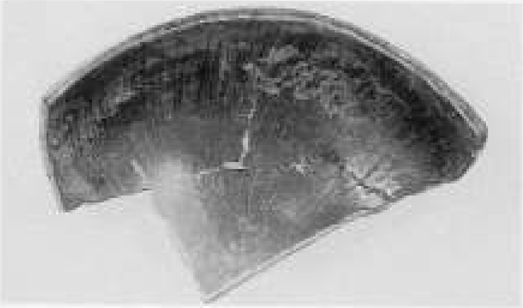
土師器・坏(第24図200)

放射状暗文(第24図200)

土師器・坏（第24図202）

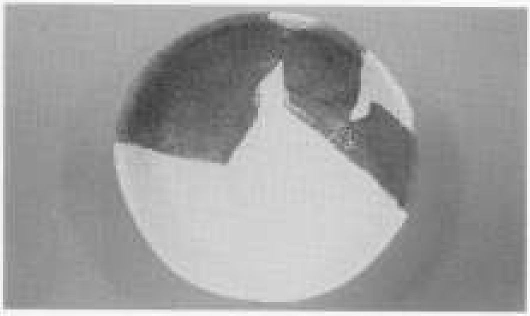
土師器・坏（第24図207）

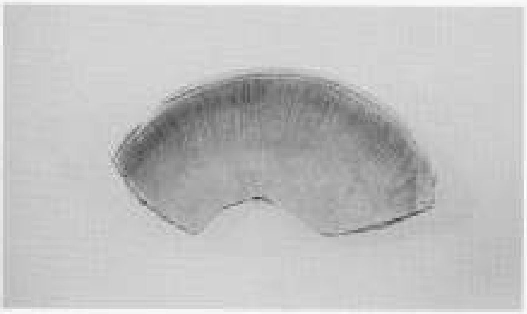

放射状暗文（第24図202）


放射状暗文（第24図207）

土師器・坏（第24図208）

土師器・坏（第24図209）


放射状暗文（第24図208）


放射状暗文（第24図209）

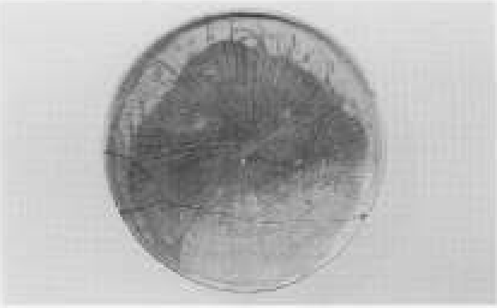
土師器・坏（第24図210）

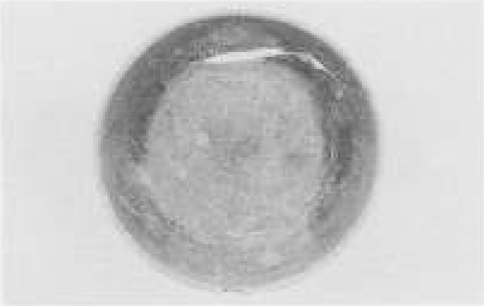
放射状暗文（第24図210）

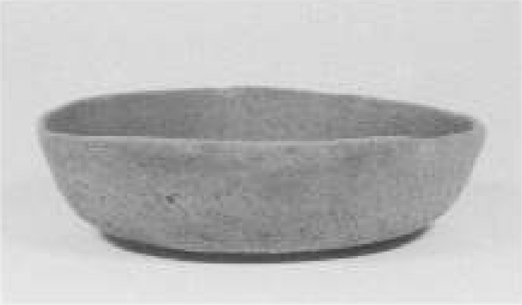
放射状暗文(第24図211)

土師器・皿(第24図214)

土師器・椀(第24図215)


放射状暗文(第24図214)


螺旋状暗文(第24図215)


土師器・坏(第25図216)

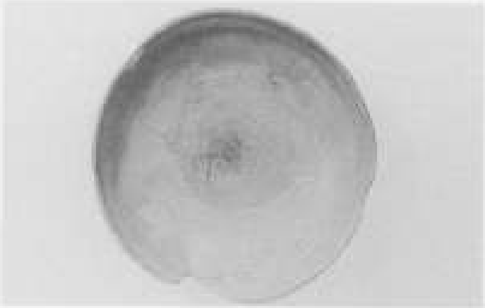
土師器・坏(第25図217)

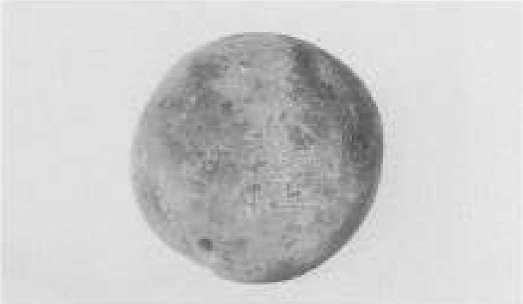
土師器・坏(第25図219)

土師器・坏(第25図220)

土師器・坏(第25図221)

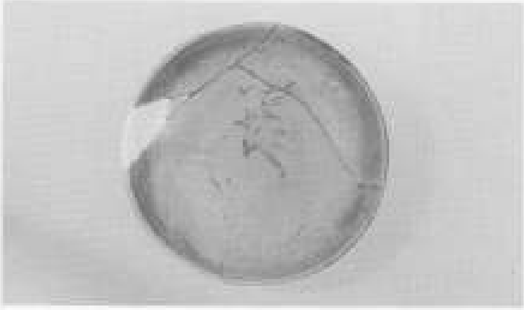
土師器・坏(第25図222)


内面(第25図222)


底部外面墨書(第25図222)

土師器・坏(第25図225)

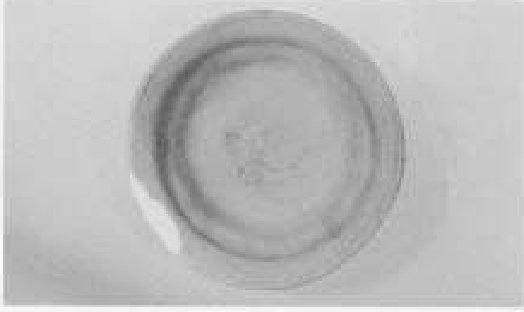
土師器・坏(第25図226)

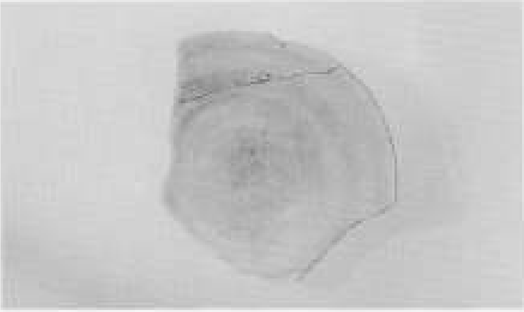

底部内面墨書(第25図225)

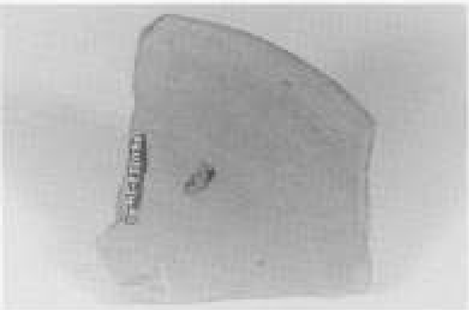
底部内面墨書(第25図226)

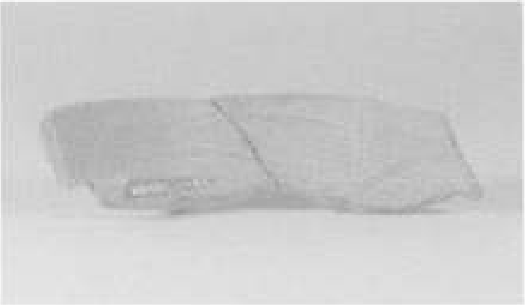
土師器・坏(第25図227)

土師器・坏(第25図230)


底部内面墨書(第25図227)

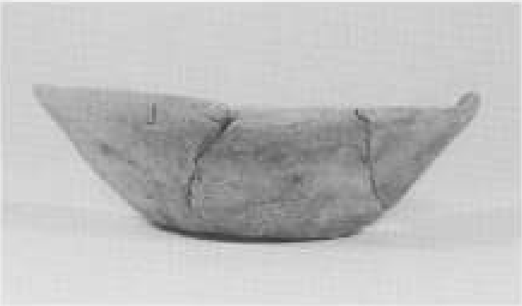

底部内面刻書（第25図230）


底部内面墨書（第25図231）

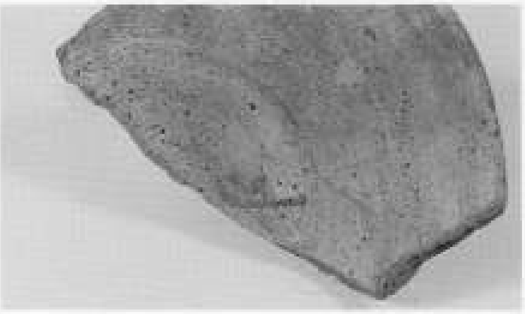

口縁部内面墨書（第25図232）

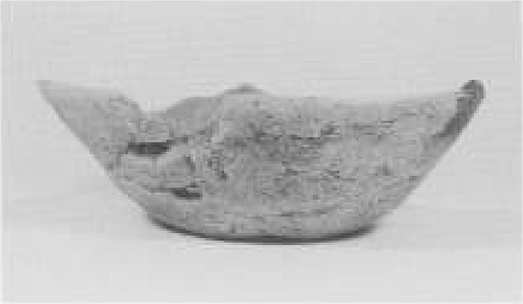
底部外面墨書（第25図231）

土師器・坏（第25図234）


土師器・坏（第25図235）

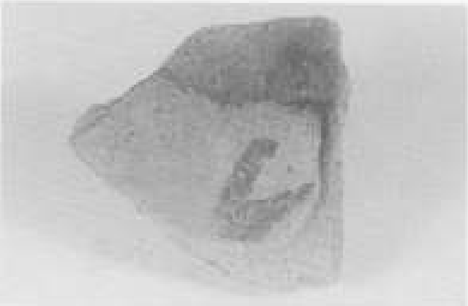
土師器・坏（第25図236）


底部内面墨書（第25図237）


土師器・坏（第25図238）

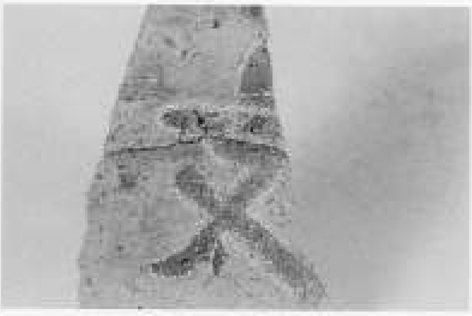
土師器・坏（第25図240）

口縁部外面墨書（第25図244）



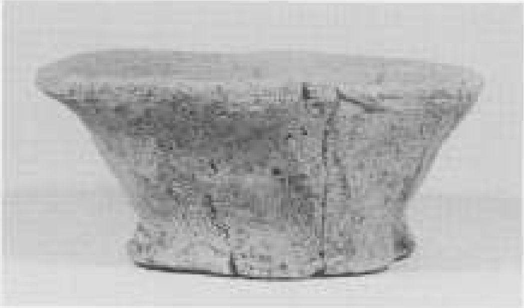
口縁部内面墨書（第25図245）

口縁部外面墨書（第25図246）



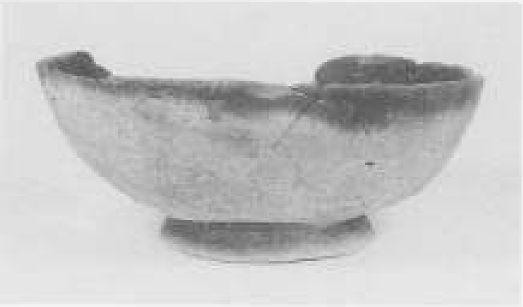
口縁部外面墨書（第25図247）

口縁部外面墨書（第25図248）



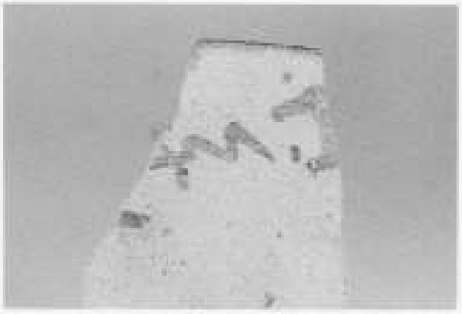
手捏ね土器（第25図249）

手捏ね土器（第25図250）



土師器・高台付椀（第25図251）

土師器・高台付椀（第26図253）

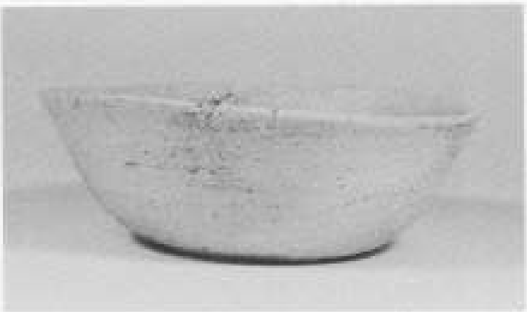


口縁部外面墨書（第26図264）

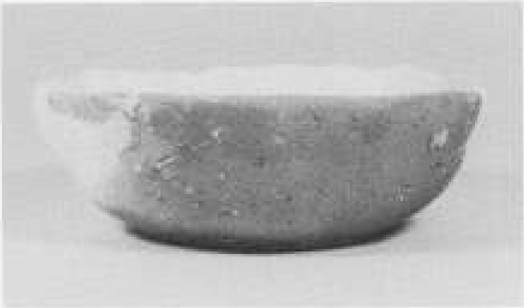
土師質土器・坏（第26図265）

土師質土器・坏（第26図266）

土師質土器・坏（第26図267）


土師質土器・坏（第26図268）

土師質土器・坏（第26図269）


土師質土器・坏（第26図271）

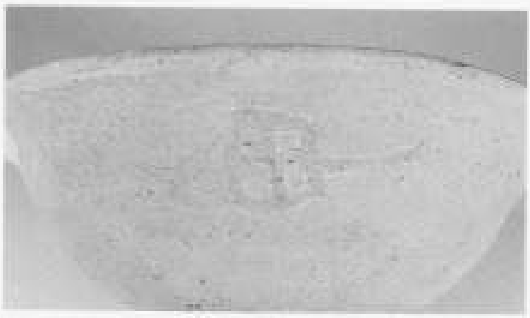
土師質土器・坏（第26図273）

土師質土器・坏（第26図274）

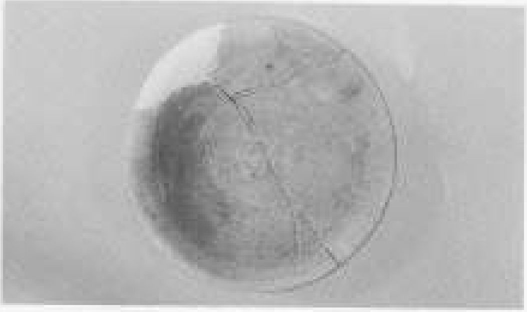
土師質土器・坏（第26図275）

土師質土器・坏（第26図279）

土師質土器・坏（第26図280）



口縁部外面墨書（第26図280）

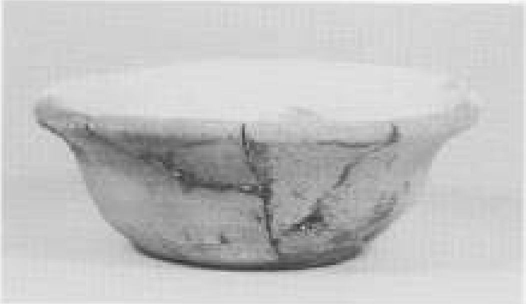


底部内面墨書（第26図280）

土師質土器・坏（第26図282）

土師質土器・坏（第26図283）

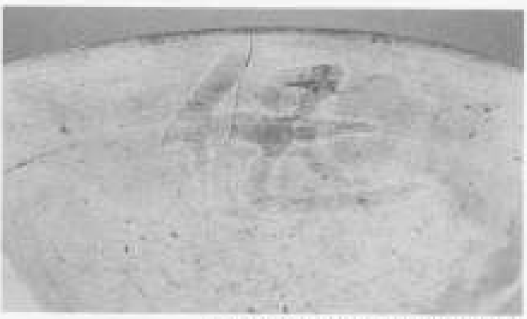
土師質土器・坏（第26図284）



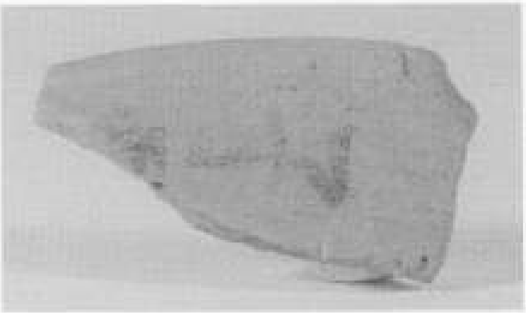
土師質土器・坏（第26図286）

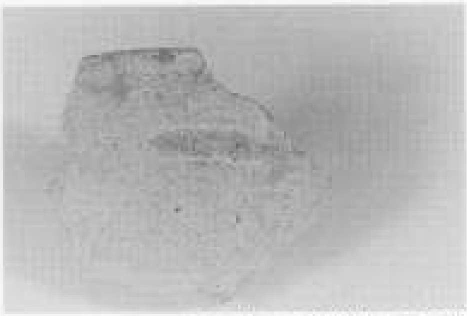
土師質土器・坏（第26図287）

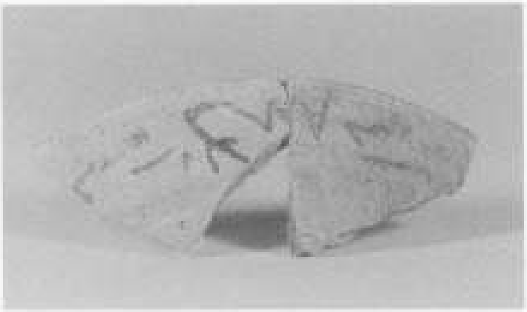
土師質土器・坏（第26図288）



口縁部外面墨書（第26図288）


口縁部外面墨書(第26図290)


口縁部外面墨書(第26図291)


口縁部外面墨書(第26図292)

底部外面墨書(第27図305)

土師質土器・高台付椀(第27図306)

土師質土器・高台付椀(第27図308)

土師質土器・高台付椀(第27図310)

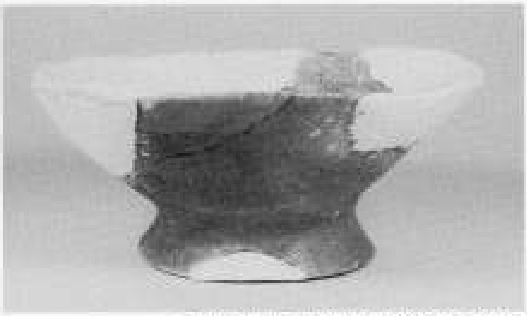
土師質土器・高台付椀(第27図311)

土師質土器・高台付椀(第27図313)

土師質土器・高台付椀(第27図316)

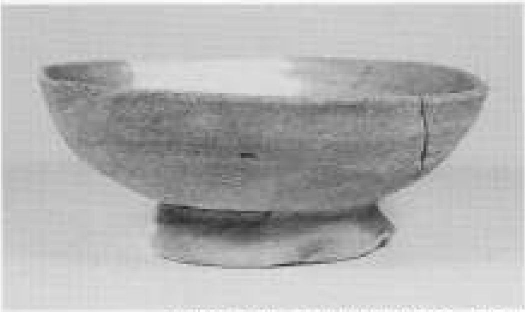
土師質土器・高台付椀（第27図323）

土師質土器・高台付椀（第28図329）



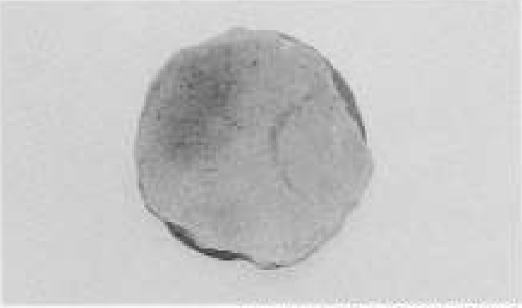
土師質土器・高台付椀（第28図330）

土師質土器・高台付椀（第28図332）

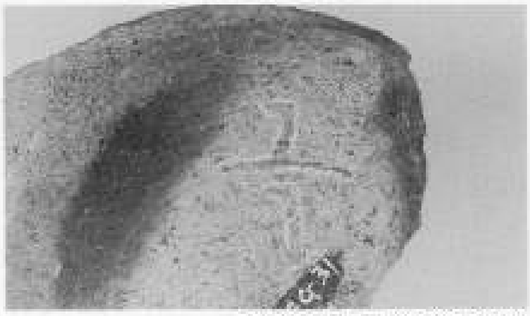


土師質土器・高台付椀（第28図334）

土師質土器・高台付椀（第28図336）



底部内面墨書（第28図339）



底部外面墨書（第28図341）

底部内面墨書（第29図368）

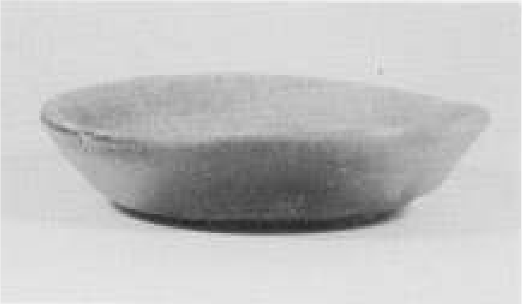
土師質土器・小皿（第29図370）

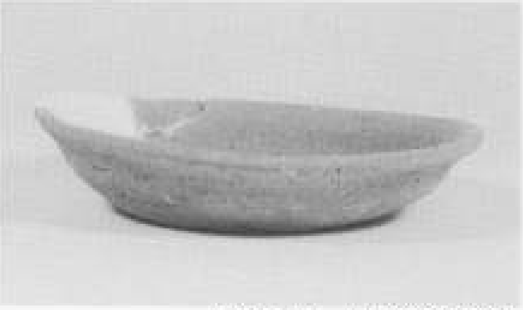
土師質土器・小皿（第29図371）

土師質土器・小皿（第29図379）

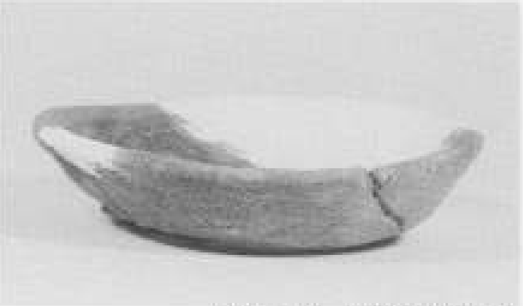
土師質土器・小皿（第29図380）

土師質土器・小皿（第29図381）

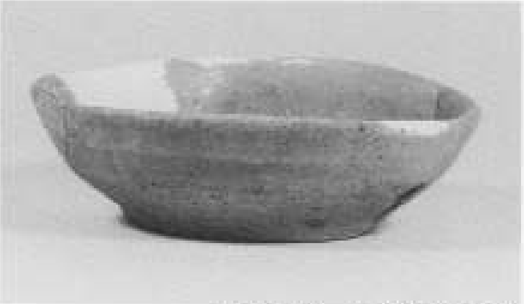

土師質土器・小皿（第29図383）

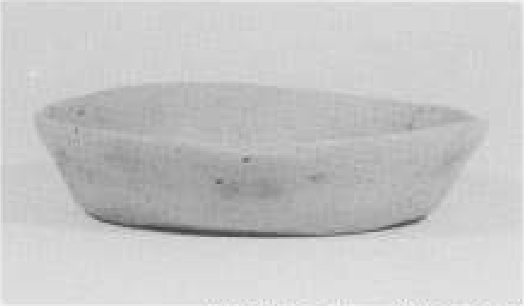

土師質土器・小皿（第29図385）

土師質土器・小皿（第29図386）

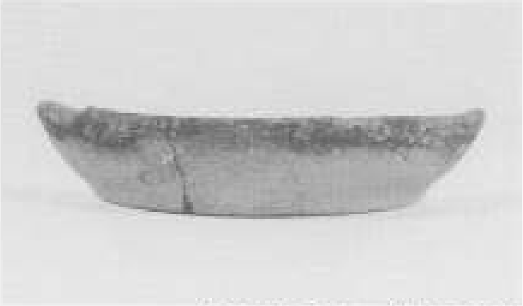

土師質土器・小皿（第29図387）

土師質土器・小皿（第29図391）

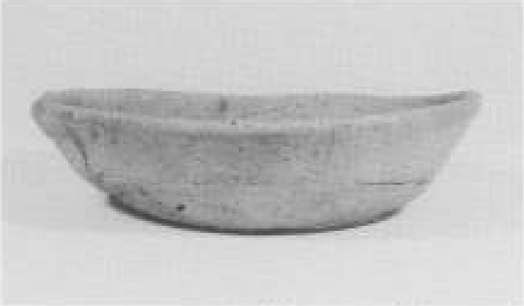

土師質土器・小皿（第29図393）



土師質土器・小皿（第29図395）



土師質土器・小皿（第29図396）



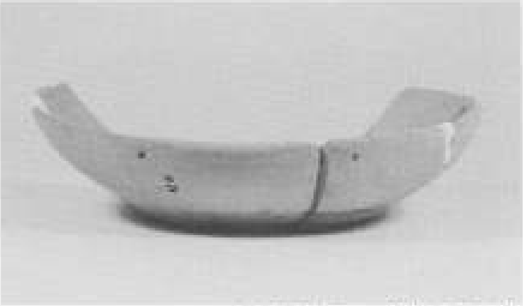
土師質土器・小皿（第29図397）

土師質土器・小皿（第29図399）

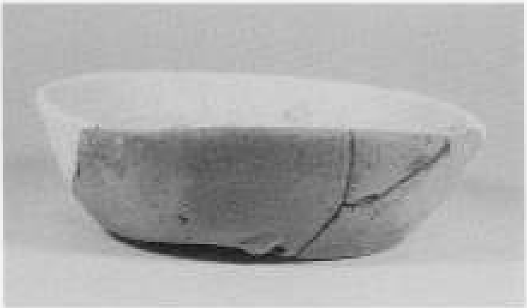
土師質土器・小皿（第29図400）

土師質土器・小皿（第29図401）

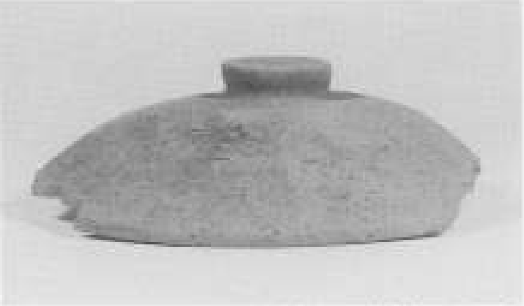
土師質土器・小皿（第29図402）



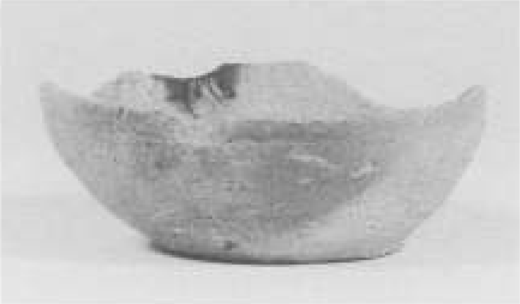
土師質土器・皿（第29図404）



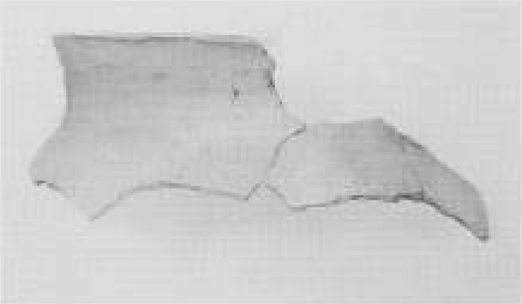
土師質土器・皿（第29図406）



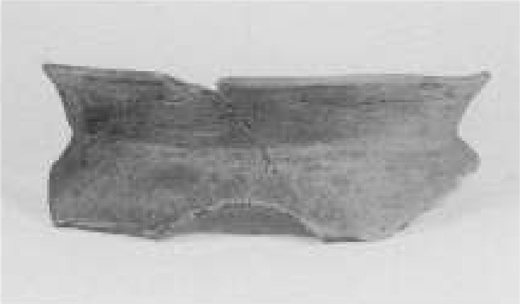
土師質土器・蓋（第29図407）



土師質土器・ミニチュア（第29図408）

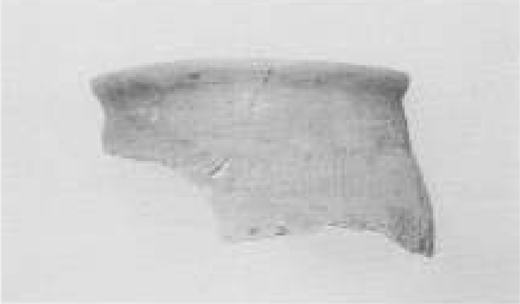


土師器・甕（第30図410）



土師器・甕（第30図411）

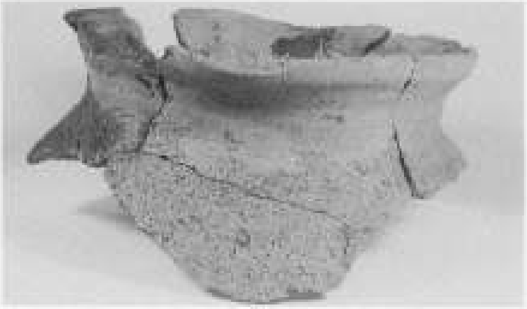
土師器・甕（第30図413）



土師器・甕（第30図414）

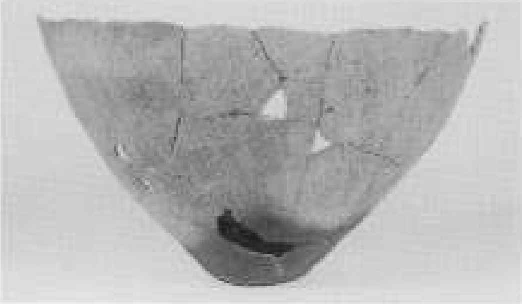
土師器・甕（第30図415）

土師器・壺（第30図419）

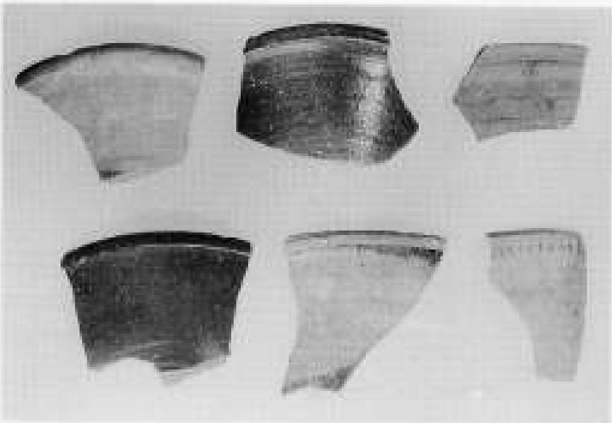


土師器・壺（第30図423）

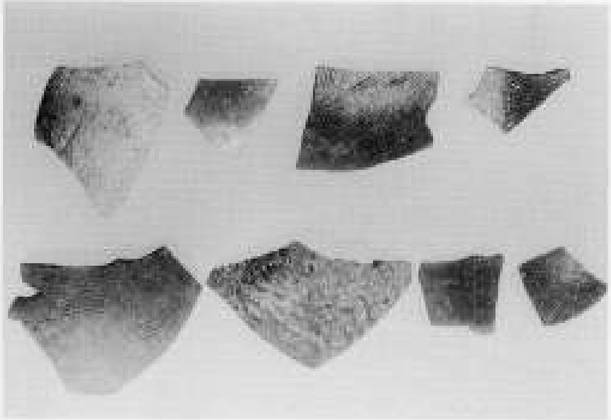
土師器・壺（第30図424）



土師器・甕（第30図428）



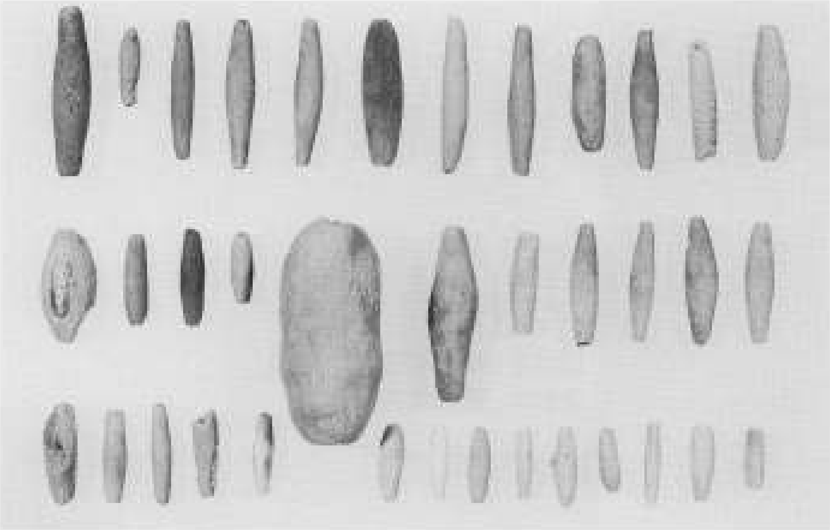
須恵器・甕(第22図120～124)
須恵器・壺(第22図125)



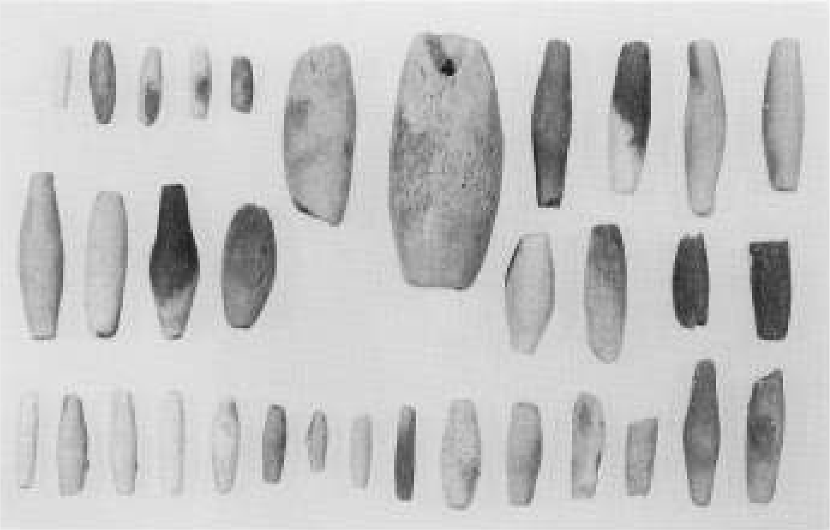
須恵器・甕(第22図126～133)

瓦・凸面(第31図432～438)

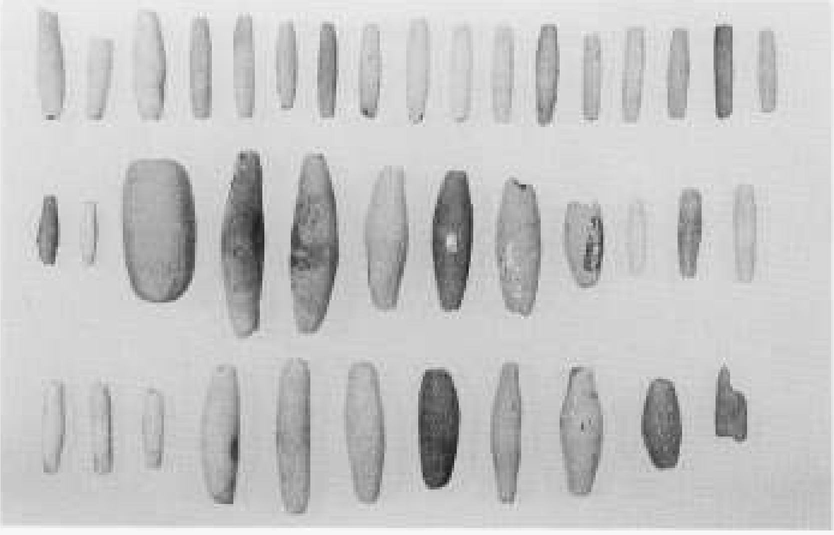
瓦・凹面(第31図432～438)



土錘（第32図１～37）

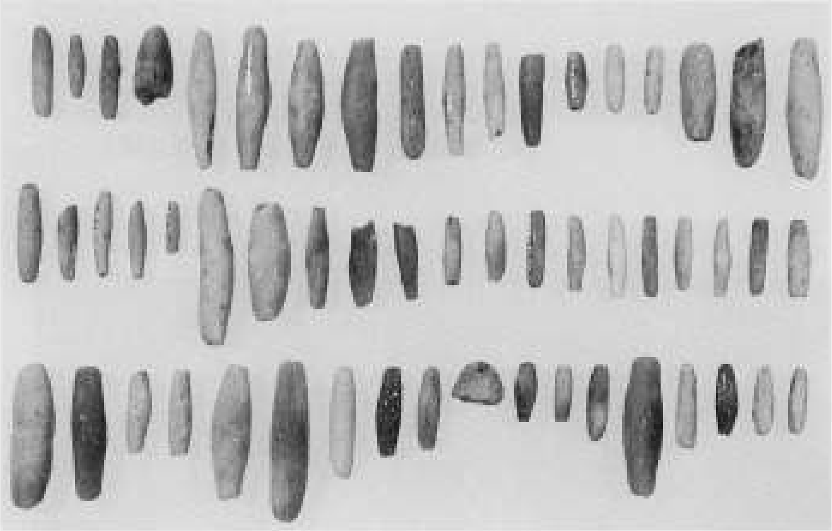


土錘（第33図38～71）



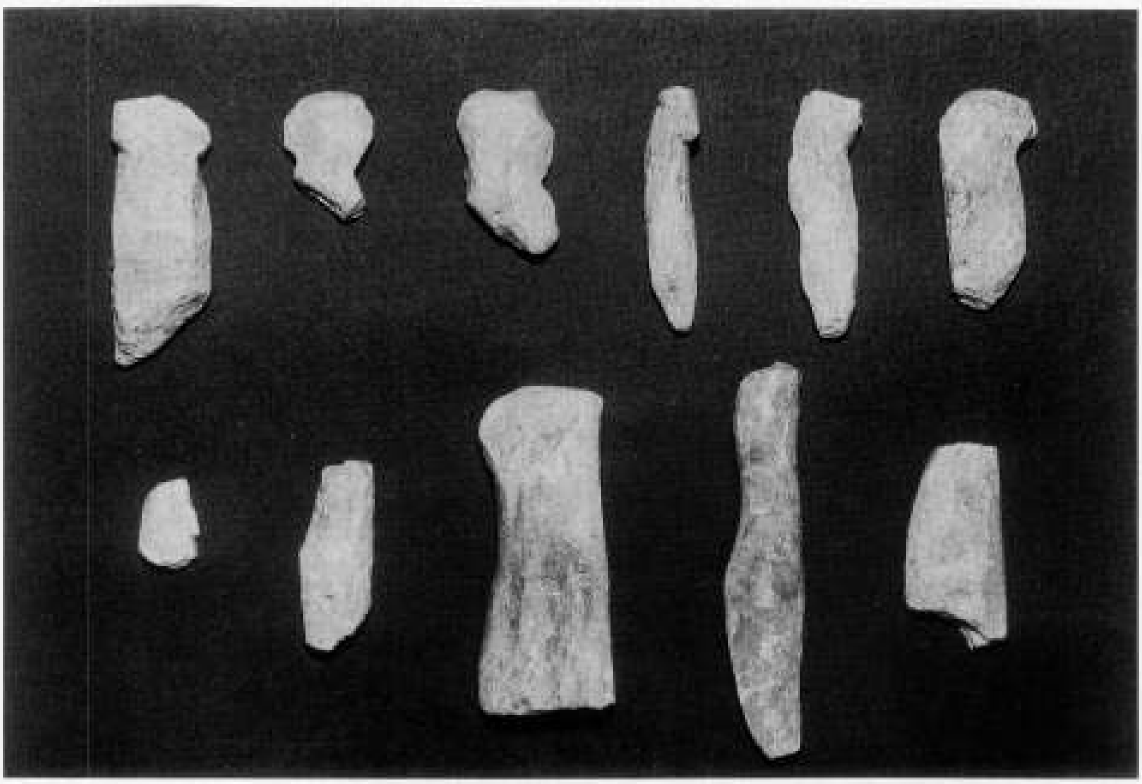
土錘（第34図72～111）

土錘（第35図112～152）

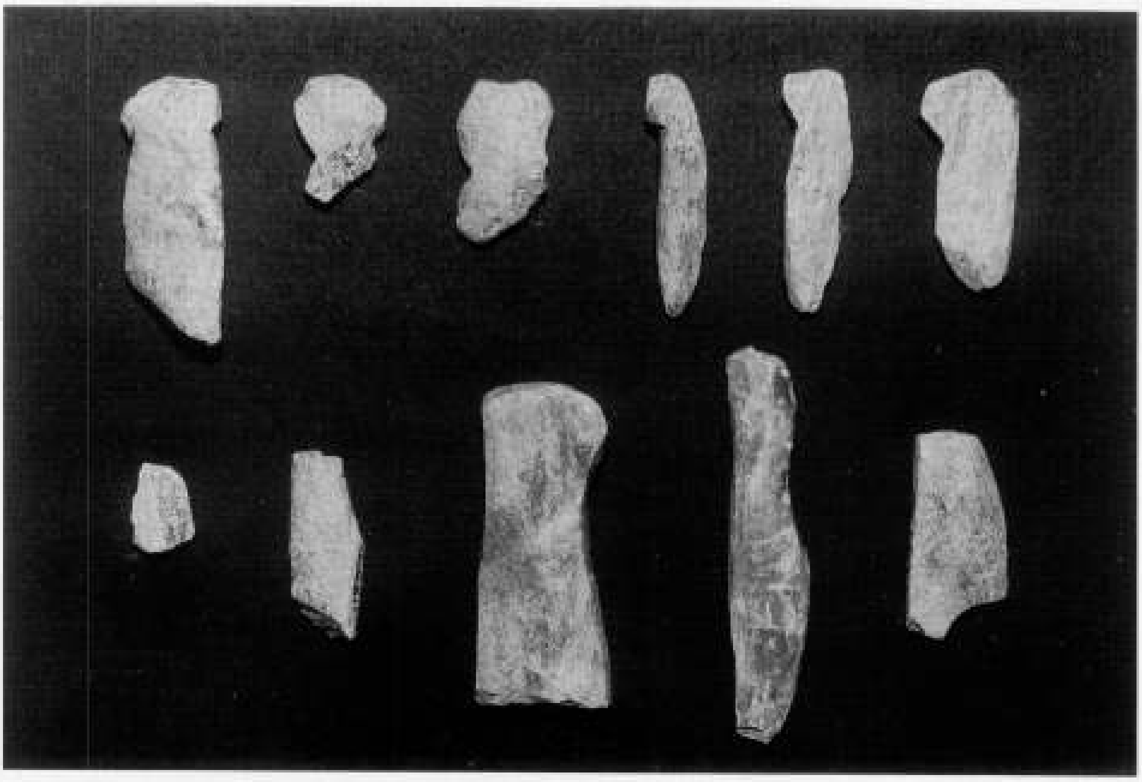


土錘（第36図153～191）
（第37図192～209）

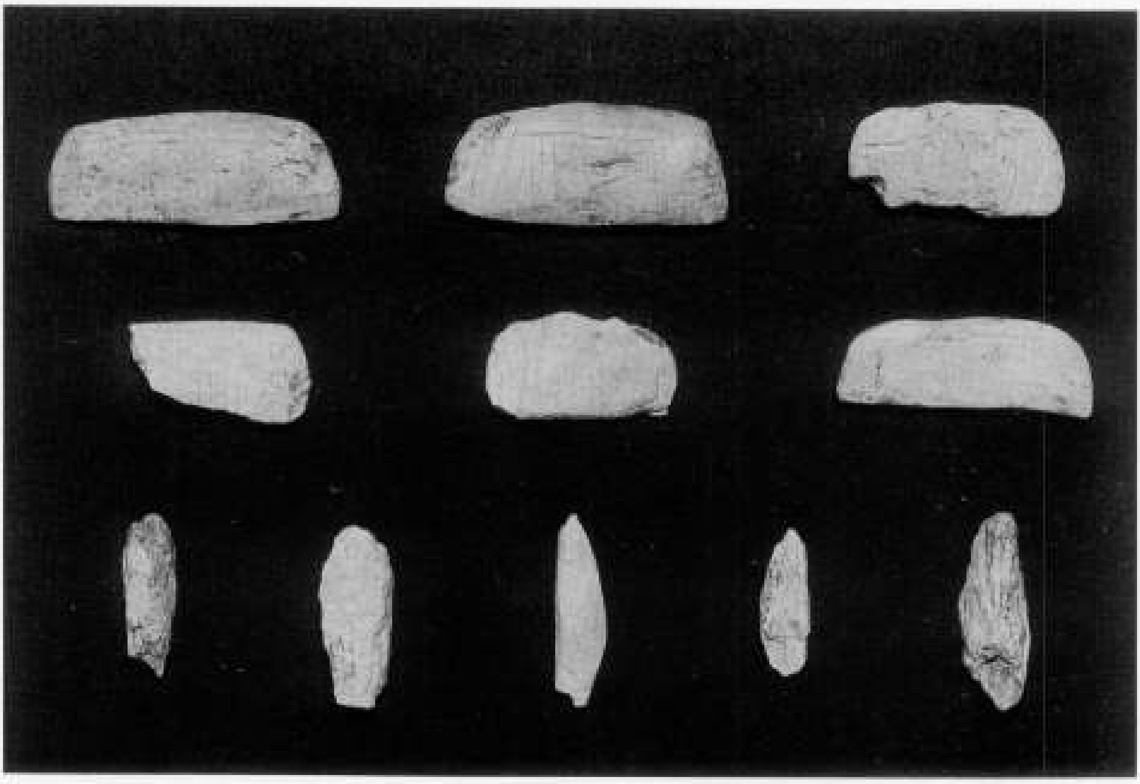
砥石（第37図１・２）



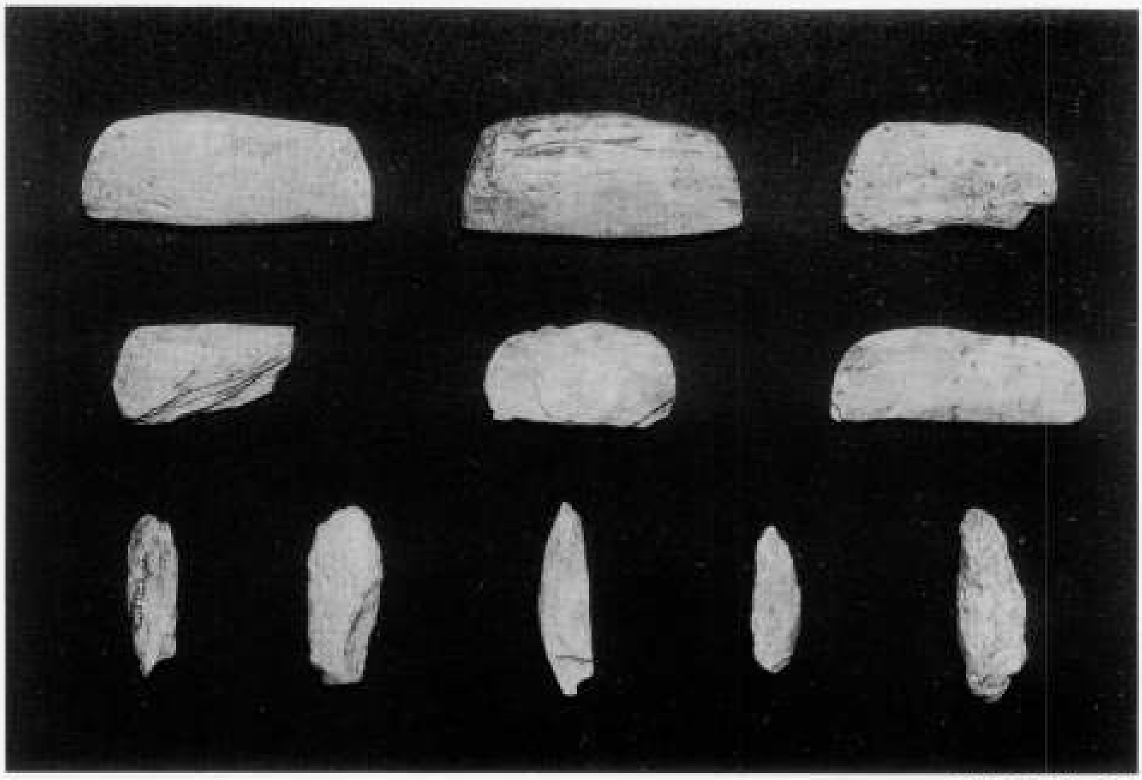
滑石製模造品　人形・馬形　表（第38図１～11）



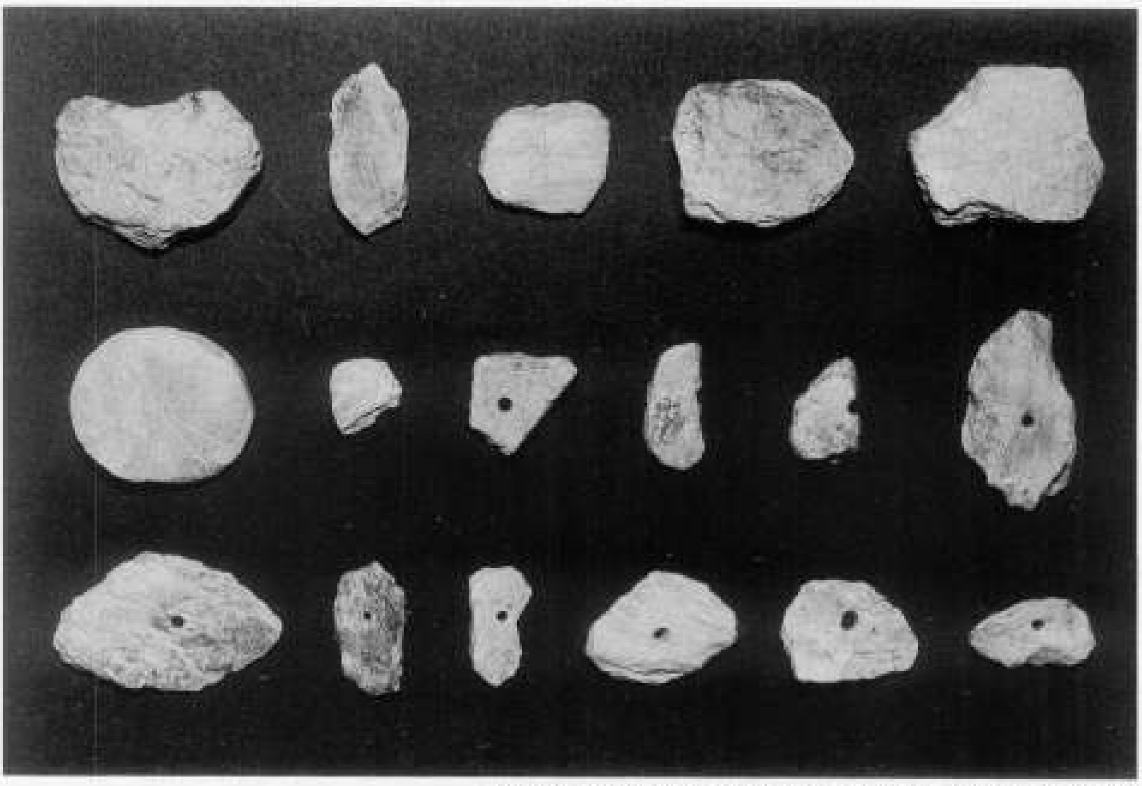
裏（第38図１～11）



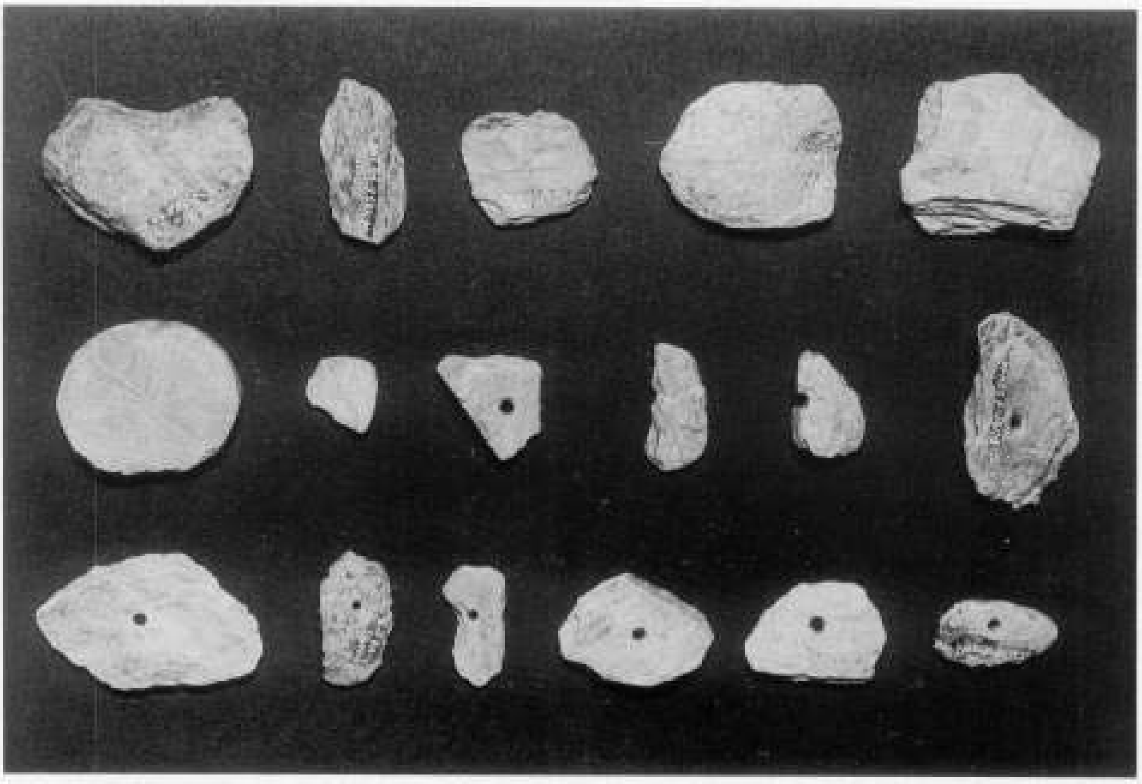
滑石製模造品　櫛形・剣形　表（第39図12～22）



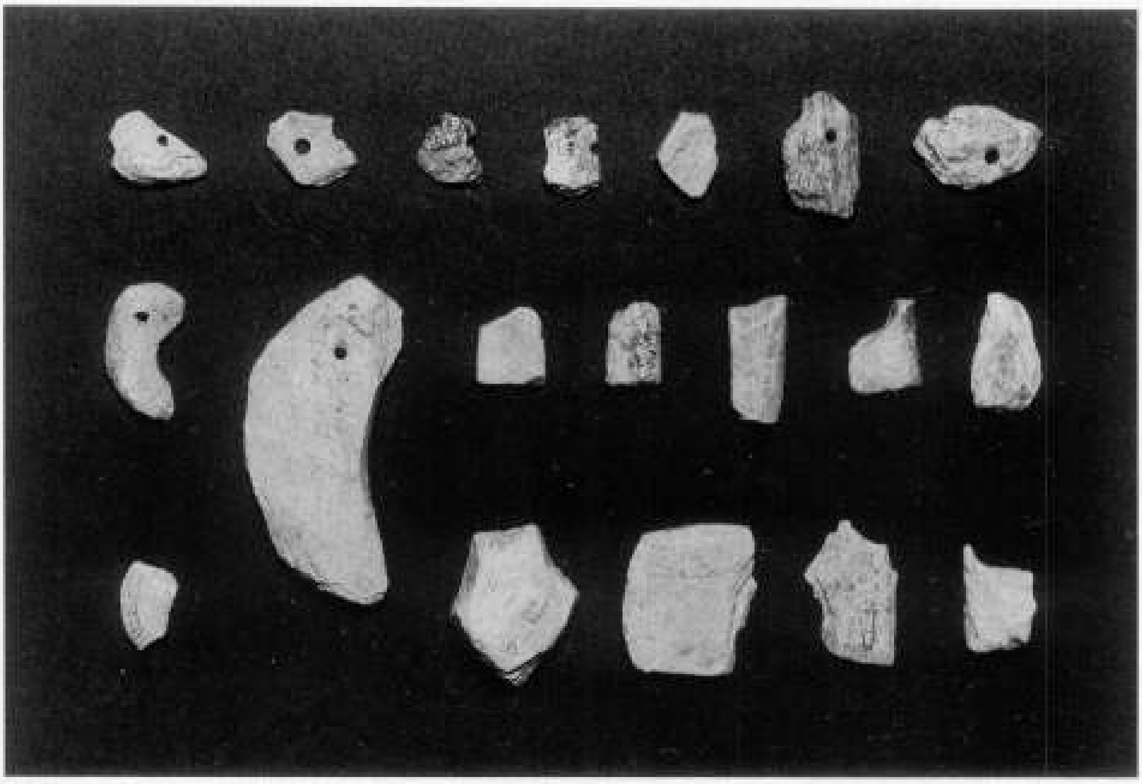
裏（第39図12～22）



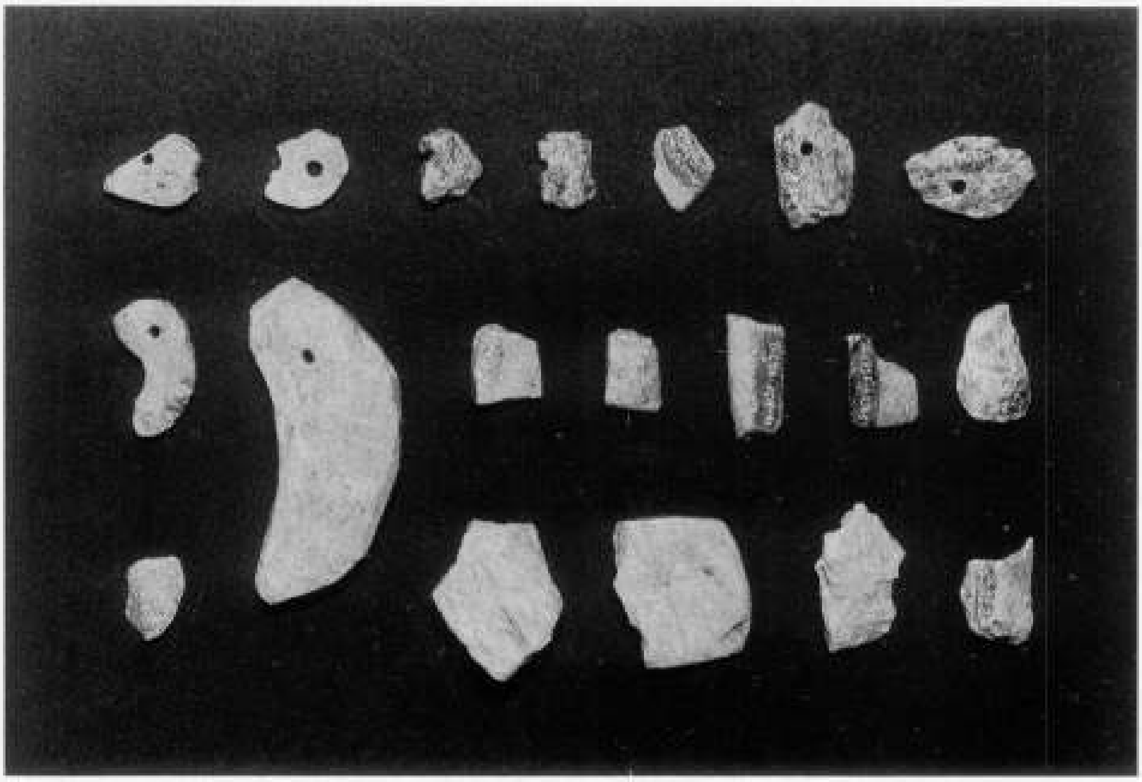
滑石製模造品　有線円板形・有孔円板形　表（第40図23～39）



裏（第40図23～39）



滑石製模造品　有孔円板形・勾玉形・不明　表（第41図40～58）



裏（第41図40～58）

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしべっぷさいしいせき
書名	西別府祭祀遺跡
副書名	平成11年度埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書
巻次	―
シリーズ名	―
シリーズ番号	―
編集者名	吉野　健　松田　哲
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会
所在地	〒360-8601 熊谷市宮町2-47-1　TEL048-524-1111
発行年月日	西暦2000（平成12）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°′″)	東緯 (°′″)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしべっぷさいし 西別府祭祀 いせき 遺跡	くまがやし おおあざにしべっぷ 熊谷市大字西別府 1566－1番地他	11202	1	36° 11′ 25″	139° 20′ 2″	19931119 〜 19940331	2,500	公園修景 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西別府祭祀遺跡	祭祀跡	縄文時代	遺物包含層	縄文土器	
		弥生時代	遺物包含層	弥生土器	
		古墳時代	遺物包含層	円筒埴輪	
		古墳時代末 〜 平安時代末	祭祀跡	土師器・須恵器・土錘・砥石・滑石製模造品・瓦	人形・馬形・櫛形などの滑石製模造品や坏を主体に多数の土器が出土した。
		中世	遺物包含層	古銭・板碑	
		近世	遺物包含層 堰状遺構	陶磁器・古銭・石臼	

平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

西別府祭祀遺跡

平成12年3月24日　印刷
平成12年3月31日　発行

発行／熊谷市教育委員会
印刷／関印刷株式会社

さくらのまち“熊谷”